

高齢期の経済生活に関する 意識調査

—広島県東広島市における標本調査の結果と分析—

2021年4月

広島大学総合科学部社会探究プログラム

「社会調査演習Ⅰ，同Ⅱ」実施報告書

はじめに

広島大学総合科学部社会探究プログラムでは毎年、社会調査士の資格取得に関係した実習的科目を2コマ（4単位）開講しています。「社会調査演習Ⅰ」と「社会調査演習Ⅱ」がそれです。この授業では毎年、担当者がテーマを設定し、それに関係した社会調査を実施することになっています。2020年度の授業では「高齢期の経済生活」をテーマとして社会調査を企画し、アンケート調査を実施しました。本書はその報告書です。

老後に必要なお金について国民の関心が高まっています。そのきっかけは、2019年6月に金融庁が公表した報告書です。同報告書は65歳の方が95歳まで生きるためには2000万円の資金が必要との試算結果を示し、大きな衝撃を社会に与えました。年金生活を送る無職の高齢夫婦世帯は毎月の家計収支が平均5万5千円の赤字になるためです。

しかし、無職の高齢夫婦世帯の毎月の家計収支が赤字になるのは実は20年前から続く傾向です。これは過去の総務省「家計調査」の結果から明らかになっています。それなのに家計収支の赤字は大きな問題になりませんでした。このことは高齢期の人々が家計収支の赤字に対して、何らかの対応策をもっていることを示唆します。

他方、高齢期の所得や貯蓄・資産の大きさは個人差が大きいです。経済力が違えば、生活上の課題に対処する能力が異なってきます。だから、金融庁の報告書のように家計収支の平均値だけでは高齢期の経済生活の実相を推し測ることはできません。

そこで私たちは高齢期の経済生活の実態をとらえる社会調査を企画しました。この調査によって、高齢期の人々はどのように日々の暮らしを送り、経済生活上の課題に対処しているかを計量的に明らかにするデータを得ようと考えました。

調査対象者は60代から80代前半の方々です。調査の手順としては、東広島市選挙管理委員会に赴き、選挙人名簿を用いて調査対象者の無作為抽出をおこないました。その後、「社会調査演習Ⅰ」の授業で作成した調査票を用い、2020年9月に郵送調査を実施しました。東広島市の調査では1645の調査票を配布し、このうち914の有効票を回収しました（回収率55.6%）。「社会調査演習Ⅱ」の授業では調査票に記された回答をエクセルに入力し、統計ソフトSPSSを用いて集計を行いました。

この報告書はクロス集計を中心とした調査項目の包括的な集計結果です。しかし、これらはあくまで第1段階の解析です。次の段階ではこの結果を踏まえて集計の仕方を見直し、学術的に意義のある分析と説明を組み立てていくことが大きな課題です。

報告書は基礎集計の段階ですが、興味深い結果が数多く出ています。その一部を紹介すると、最大の関心事である「公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているか」については、「多少足りない(30%)」と「かなり足りない(22%)」の合計が53%と「十分まかなえている(8%)」と「何とかまかなえている(40%)」の合計48%を上回っていました。しかし、現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計では、「家計が苦しく非常に心配だ」は、「多少足りない」で3%に過ぎず、「かなり足りない」でも12%でした。その一方で公的年金によって毎月の生活費をまかなえなくとも家計に心配はない者は、「多少足りない」で54%、「かなり足りない」で57%と過半を超えています。これは、不足を補う収入源が他にあること

を示唆します。さらにこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果では、満足している者(「かなり満足」と「まあまあ満足」の合計)は「多少足りない」で74%、「かなり足りない」で71%でした。公的年金で毎月の生活費をまかなえなくとも人生の満足度はかなり高いといえます。

もう一つは高齢者就業の拡大の可能性です。政府は2つの目的から高齢者の就業を促進しようとしています。一つは労働力人口の確保です。日本では少子化が進み、労働力人口が減少しています。その中で長く働く高齢者が増えることは労働力人口の減少を抑制する効果があります。もう一つは社会保障制度に対する現役世代の負担軽減と財源確保です。長く働く高齢者が増えることは社会保障制度の支え手を増やし、制度の持続可能性を高めることにつながります。2020年3月に70歳までの就業機会の各法を事業主の努力義務とした「高年齢者雇用安定法」の改正が成立しましたが、そこには労働力人口の確保と共に近い将来の年金受給開始年齢の引き上げの前提条件を作ることが意図されています。

しかし、大きな問題は高齢者に就業意思がどれだけあるかです。今回の調査では、仕事をしている者について何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかと尋ねました。その結果明らかになったことは、対象者の9割が70歳を超えて働きたいと考えていることです。「働けるうちはいつまでも」と答えた方も3割いました。年齢5区分とのクロス集計の結果では、現在働いている方は少なくとも次の年齢区分まで働きたいと考えている方が多い。一方でこの調査では、収入を伴う仕事をしていない人について、今後の就労希望を尋ねました。その結果、「仕事をしたいと思う」と答えた方は2割弱にとどまりました。以上の結果からいえることは、現在働いている人には今後の就業継続を大いに期待できるが、いったん仕事をやめた人には再就職を期待できる人は少ないということです。長く働く高齢者を増やすためには就業を中断させないことが重要であることがわかります。

近年、郵送によるアンケート調査は回収率が低下し、この方法での学術研究はますます困難になっています。とくに今回の調査は80代前半までの高齢者を対象としたため、どれだけの数の回答が返送されるのかを、当初大変不安に思いました。しかし、幸いにして多くの方々から協力が得られ、予想をはるかに超える有効票を確保できました。ご多用中の中で貴重な時間を割いていただき、質問に回答してくださった方々には心から感謝いたします。

この報告書は「社会調査演習Ⅰ」と「社会調査演習Ⅱ」の授業に参加した学生と教員の共同作業の成果です。実質1年に満たない授業期間の制約の中でおこなった調査と分析であるため、未熟な部分が多々あると思います。しかし、コロナ禍の困難な状況で精一杯、頑張った成果でもあります。今後のさらなる学習と研究の発展のために、皆様からご意見やご感想をいただければ幸いです。

なお以下の分析ではクロス集計のカイ二乗検定の値をPで示しています。その水準値は、 $P > 0.05$ (強い相関関係がない)、 $P \leq 0.05$ (強い相関関係がある)、 $P \leq 0.01$ (非常に強い相関関係がある)として記述しています。

2021年4月25日

広島大学大学院人間社会科学研究科 材木和雄

高齢期の経済生活に関する意識調査

－広島県東広島市における標本調査の結果と分析－

目次

はじめに

第1章	回答者の属性	1
第2章	経済的な暮らし向き	15
第3章	生活費と貯蓄状況	33
第4章	年金生活の状況	70
第5章	要介護状態になったときの考え	87
第6章	自己負担の介護費用に関する見通し	107
第7章	介護サービス利用の世話人に関する見通し	130
第8章	就業の状況	152
第9章	就業収入がなくなった場合の生活費充足の見通し	191
第10章	収入を伴う仕事をしていない理由	211
第11章	高齢期の生活の備えに関する考え	230
第12章	地域の社会活動への参加と近隣の人とのつきあい	245
第13章	生きがいを感じる程度、幸福度、人生の満足度	260
第14章	情報通信機器の所有状況と操作能力	293
	高齢期の経済生活に関する意識調査・調査票	313
	調査のメンバー	323

第1章 回答者の属性

1-1 調査対象者と有効標本の構成

調査対象地である東広島市は広島県南部にある都市である。2015年の国勢調査の結果によると、人口は192907人、広島市、福山市、呉市に次ぐ県内第4位の規模である。学園都市として人口が増加している都市であり、広島大学東広島キャンパスもこの地にある。

この調査では60歳から84歳の市民を調査対象とした。2020年6月末の住民基本台帳によると東広島市の65歳から84歳の人口は48515人である。私たちは東広島市選挙管理委員会の許可を得て選挙人名簿を閲覧し、1645人を無作為に抽出した。住民基本台帳の登録人口に対する標本の抽出率は3.4%である。調査対象者の性別・年齢別構成は表1-1-1の通りである。

表1-1-1 調査対象者（発送時）の構成

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	合計
男性	165	192	206	140	91	794
	49.4%	50.1%	46.4%	49.1%	45.7%	48.3%
女性	169	191	238	145	108	851
	50.6%	49.9%	53.6%	50.9%	54.3%	51.7%
合計	334	383	444	285	199	1645
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

調査票は2020年9月に広島大学から発送した。最終的な有効回答票は914であった。年齢・性別の有効回収率は表1-1-2の通りである。

表1-1-2 年齢・性別の有効回収率

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	合計
男性	85	105	117	91	51	449
	51.5%	54.7%	56.8%	65.0%	56.0%	56.5%
女性	93	106	127	77	62	465
	55.0%	55.5%	53.4%	53.1%	57.4%	54.6%
合計	178	211	244	168	113	914
	53.3%	55.1%	55.0%	58.9%	56.8%	55.6%

今回の調査は高齢者を対象としたため、どれだけの有効回答が得られるかが心配されたが、結果的には高い回収率を達成できた。性別・年齢別でもどの層でも50%を超える回収率を達成している。調査責

任者（材木）はこれまで東広島市の市民を対象に三度、社会調査演習の調査を実施している。一つは2010年に20歳代から60歳代の1350人を対象に実施した配偶者選択に関する意識調査であり、有効回収率は44.8%であった。もう一つは2014年に実施した40歳代から70歳代の1200人を対象とした高齢者介護に関する意識調査であり、有効回収率は40.3%であった。さらにもう一つは2018年に実施の65歳から84歳の1252人を対象とした外出行動に関する調査であり、有効回収率は61.1%であった。これらと比較すると、今回の調査は前回にはおよばないが、十分に高い回収率を達成できたといえる。

表1-1-3は年齢別にみた回答者の性別構成であり、表1-1-4は性別にみた回答者の年齢構成である。全体的には男女が半々に近い構成になっている。表1-1-5にみるように回答者の出生年代は1940年以前（1935年）から1960年に分布している。

表1-1-3 年齢別にみた回答者の性別構成

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	合計
男性	85	105	117	91	51	449
	47.8%	49.8%	48.0%	54.2%	45.1%	49.1%
女性	93	106	127	77	62	465
	52.2%	50.2%	52.0%	45.8%	54.9%	50.9%
合計	178	211	244	168	113	914
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表1-1-4 性別にみた回答者の年齢構成

	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	合計
男性	85	105	117	91	51	449
	18.9%	23.4%	26.1%	20.3%	11.4%	100.0%
女性	93	106	127	77	62	465
	20.0%	22.8%	27.3%	16.6%	13.3%	100.0%
合計	178	211	244	168	113	914
	19.5%	23.1%	26.7%	18.4%	12.4%	100.0%

表1-1-5 性別と出生年代のクロス表

	1956-60	1951-55	1946-50	1941-45	1940以前	合計
男性	85	100	123	88	53	449
	18.9%	22.3%	27.4%	19.6%	11.8%	100.0%
女性	92	107	127	76	63	465
	19.8%	23.0%	27.3%	16.3%	13.5%	100.0%
合計	177	207	250	164	116	914
	19.4%	22.6%	27.4%	17.9%	12.7%	100.0%

表 1-1-6 は性別と配偶者の有無のクロス表であり、表 1-1-7 は年齢 5 区分と配偶者の有無のクロス表である。それぞれ非常に強い相関関係があった。女性は男性に比べて無配偶の割合が高かった。年齢別では、80-84 歳で無配偶の割合が特に高かった。配偶者と死別した人が多くなるからであろう。

表1-1-6 性別と配偶者の有無

	有配偶	無配偶	合計
男性	397	52	449
	88.4%	11.6%	100.0%
女性	346	119	465
	74.4%	25.6%	100.0%
合計	743	171	914
	81.3%	18.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表1-1-7 年齢5区分と配偶者の有無

	有配偶	無配偶	合計
60-64	149	29	178
	83.7%	16.3%	100.0%
65-69	186	25	211
	88.2%	11.8%	100.0%
70-74	199	45	244
	81.6%	18.4%	100.0%
75-79	138	30	168
	82.1%	17.9%	100.0%
80-84	71	42	113
	62.8%	37.2%	100.0%
合計	743	171	914
	81.3%	18.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表1-1-8 性別と収入を伴う仕事の有無のクロス表

	仕事をしている	仕事をしていない	合計
男性	247	202	449
	55.0%	45.0%	100.0%
女性	188	277	465
	40.4%	59.6%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表1-1-9 年齢5区分と収入を伴う仕事の有無のクロス表

	仕事をしている	仕事をしていない	合計
60-64	133	45	178
	74.7%	25.3%	100.0%
65-69	119	92	211
	56.4%	43.6%	100.0%
70-74	106	138	244
	43.4%	56.6%	100.0%
75-79	48	120	168
	28.6%	71.4%	100.0%
80-84	29	84	113
	25.7%	74.3%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表 1-1-8 は性別と収入を伴う仕事の有無のクロス表であり、表 1-1-9 は年齢 5 区分と収入を伴う仕事の有無のクロス表である。それぞれ非常に強い相関関係があった。性別では、男性は女性に比べて収入を伴う仕事をしている者の割合が高い。年齢別では、年齢が高くなると収入を伴う仕事をしている者の割合は低くなる。特に後期高齢者（75 歳以上）になると収入を伴う仕事をしている者の割合は格段に低くなる。しかし、それでも後期高齢者の 4 分の 1 が収入を伴う仕事をしていることは就業意欲の高さとして注目される。

表 1-1-10 は性別と子の有無のクロス表であり、表 1-1-11 は年齢 5 区分と子の有無のクロス表である。それぞれ統計的に強い相関関係はない。回答者の中では、男女別にみても、年齢区分別にみても子がいる人は 9 割を超えている。ただし、男性は女性に比べて子がない者の比率がやや高い。年齢区分別では 70 代前半までの層では、70 代後半以降に比べて、子がない者の割合が若干高い。

表1-1-10 性別と子の有無

	あり	なし	合計
男性	414	35	449
	92.2%	7.8%	100.0%
女性	442	23	465
	95.1%	4.9%	100.0%
合計	856	58	914
	93.7%	6.3%	100.0%

$P=0.080>0.05$

表1-1-11 年齢5区分と子の有無

	あり	なし	合計
60-64	165	13	178
	92.7%	7.3%	100.0%
65-69	198	13	211
	93.8%	6.2%	100.0%
70-74	222	22	244
	91.0%	9.0%	100.0%
75-79	162	6	168
	96.4%	3.6%	100.0%
80-84	109	4	113
	96.5%	3.5%	100.0%
合計	856	58	914
	93.7%	6.3%	100.0%

$P=0.142>0.05$

表 1-1-12 は性別と世帯形態のクロス表であり、表 1-1-13 は年齢 5 区分と世帯形態のクロス表である。回答者の中では、性別と世帯形態の間には強い相関関係はなかったが、女性は男性に比べて一人暮らしの割合が高い。年齢 5 区分と世帯形態の間には非常に強い相関関係があった。80-84 歳層では一人暮らしの割合が 22% となり、70 代後半までの年齢層に比べて 2 倍の高さになる。

なおその他の同居人については複数回答でその続柄を尋ねた。その結果、最も多かったのは子であり、その他の同居人の 6 割 (59.5%) は子であった。回答者の選択率でいうと、その他の同居人がいると答えた回答者の 8 割超 (83.2%) は子と同居していた。

表1-1-12 性別と世帯形態のクロス表

	一人暮らし	夫婦のみ	他の同居人あり	無回答	合計
男性	41	243	164	1	449
	9.1%	54.1%	36.5%	0.2%	100%
女性	65	226	172	2	465
	14.0%	48.6%	37.0%	0.4%	100%
合計	106	469	336	3	914
	11.6%	51.3%	36.8%	0.3%	100%

P=0.098>0.05

表1-1-13 年齢5区分と世帯形態のクロス

	一人暮らし	夫婦のみ	他の同居人あり	無回答	合計
60-64	13	83	82	0	178
	7.3%	46.6%	46.1%	0.0%	100%
65-69	24	111	75	1	211
	11.4%	52.6%	35.5%	0.5%	100%
70-74	27	133	84	0	244
	11.1%	54.5%	34.4%	0.0%	100%
75-79	17	96	55	0	168
	10.1%	57.1%	32.7%	0.0%	100%
80-84	25	46	40	2	113
	22.1%	40.7%	35.4%	1.8%	100%
合計	106	469	336	3	914
	11.6%	51.3%	36.8%	0.3%	100%

P=0.001<0.01

1-2 要介護度と健康状態

表1-2-1 性別と要介護認定の有無のクロス表

	なし	あり	合計
男性	434	15	449
	96.7%	3.3%	100.0%
女性	451	14	465
	97.0%	3.0%	100.0%
合計	885	29	914
	96.8%	3.2%	100.0%

P=0.851>0.05

表1-2-2 年齢5区分と要介護認定の有無のクロス表

	なし	あり	合計
60-64	175	3	178
	98.3%	1.7%	100.0%
65-69	207	4	211
	98.1%	1.9%	100.0%
70-74	240	4	244
	98.4%	1.6%	100.0%
75-79	162	6	168
	96.4%	3.6%	100.0%
80-84	101	12	113
	89.4%	10.6%	100.0%
合計	885	29	914
	96.8%	3.2%	100.0%

P=0.000<0.01

回答者の健康状態については、上記の表が示すように、ほとんどの人は要介護認定を受けていなかった。要介護認定を受けている者は全体の3%に過ぎなかった。男女別ではほぼ同じ割合であったが、年齢5区分では非常に強い相関関係があった。すなわち、年齢が高くなると要介護認定を受けている者の

割合が高くなる。特に 80-84 歳層では 1 割が要介護認定を受けていた。

しかし、要介護度をみると、要介護 3 以上はわずかに 2 人であり、要介護 2 が 7 人、要介護 1 が 7 人、要支援 2 が 5 人、要支援 1 が 6 人であった。調査に回答した者は比較的軽度の要介護者であり、逆にいうと重度の要介護者は回答できなかつたとみられる。

次に健康状態については、客観的な健康状態と主観的な健康状態がある。客観的な意味での健康は医師の診断の結果として病的な症状や兆候がないことである。主観的な健康状態は当人の自己判断である。今回の調査ではこの二つを区別し、把握しようと試みた。

この調査では健康状態の客観的な指標を得るため、「医師から処方を受けて服用する薬があるか」を尋ねた。処方箋なしに購入できる市販薬ではなく、医師の診察を受け処方箋をもらって購入した薬を服用しているということは、何らかの病的状態があり、通院していることを意味する。

調査の結果では、70%の回答者は医師から処方を受けた薬を服用していた。これは 7 割の回答者が何らかの病的状態を抱えて病院に通っていることを示している。いいかえると大半の回答者は客観的には健康ではなく、何らかの病的状態ないし持病を抱えている。

表1-2-3 性別と服用する処方薬の有無のクロス表

	ある	ない	無回答	合計
男性	326	123	0	449
	72.6%	27.4%	0.0%	100.0%
女性	314	150	1	465
	67.5%	32.3%	0.2%	100.0%
合計	640	273	1	914
	70.0%	29.9%	0.1%	100.0%

$P=0.164>0.05$

表1-2-4 年齢5区分と服用する処方薬の有無のクロス表

	ある	ない	無回答	合計
60-64	91	86	1	178
	51.1%	48.3%	0.6%	100.0%
65-69	133	78	0	211
	63.0%	37.0%	0.0%	100.0%
70-74	176	68	0	244
	72.1%	27.9%	0.0%	100.0%
75-79	135	33	0	168
	80.4%	19.6%	0.0%	100.0%
80-84	105	8	0	113
	92.9%	7.1%	0.0%	100.0%
合計	640	273	1	914
	70.0%	29.9%	0.1%	100.0%

$P=0.000<0.01$

表 1-1-3 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。男性は女性に比べて、処方薬がある割合が若干高いが、検定の結果では服用する処方薬の有無と性別の間には強い相関関係がなかった。

表 1-2-4 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。年齢 5 区分と服用する処方薬の有無の間には非常に強い相関関係があり、年齢が高くなると処方薬「あり」の回答が多くなる。たとえば、60-64 歳では処方薬がある割合は 51%だが、80-84 歳ではそれは 93%に達していた。

表1-2-5 性別と服用する処方薬の数のクロス表

	1種類	2種類	3種類	4種以上	無回答	合計
男性	117	87	85	37	0	326
	35.9%	26.7%	26.1%	11.3%	0.0%	100.0%
女性	118	122	41	31	3	315
	37.5%	38.7%	13.0%	9.8%	1.0%	100.0%
合計	235	209	126	68	3	641
	36.7%	32.6%	19.7%	10.6%	0.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表1-2-6 年齢5区分と服用する処方薬の数のクロス表

	1種類	2種類	3種類	4種以上	無回答	合計
60-64	36	32	19	4	1	92
	39.1%	34.8%	20.7%	4.3%	1.1%	100.0%
65-69	60	42	23	7	1	133
	45.1%	31.6%	17.3%	5.3%	0.8%	100.0%
70-74	65	57	31	22	1	176
	36.9%	32.4%	17.6%	12.5%	0.6%	100.0%
75-79	49	45	28	13	0	135
	36.3%	33.3%	20.7%	9.6%	0.0%	100.0%
80-84	25	33	25	22	0	105
	23.8%	31.4%	23.8%	21.0%	0.0%	100.0%
合計	235	209	126	68	3	641
	36.7%	32.6%	19.7%	10.6%	0.5%	100.0%

P=0.018<0.05

表1-2-7 年齢2区分と処方薬の数のクロス表

	1種類	2種類	3種類	4種以上	無回答	合計
60-69	96	74	42	11	2	225
	42.7%	32.9%	18.7%	4.9%	0.9%	100.0%
70-84	139	135	84	57	1	416
	33.4%	32.5%	20.2%	13.7%	0.2%	100.0%
合計	235	209	126	68	3	641
	36.7%	32.6%	19.7%	10.6%	0.5%	100.0%

P=0.004<0.01

高齢になると多くの持病を抱え、多くの種類の薬を服用することがあることはよく知られている。そこで今回の調査では回答者に服用している処方薬をすべて列挙してもらった。これを基にして回答者が

何種類の処方薬を服用しているのかを集計した。表 1-2-5 は性別と服用する処方薬の数のクロス表である。検定の結果では性別と服用する処方薬の数の間には非常に強い相関関係があった。男性は女性に比べて、3種類以上の処方薬を服用する割合が高かった。

表 1-2-6 は年齢 5 区分と服用する処方薬の数のクロス表である。服用する処方薬の数は年齢 5 区分と強い相関関係があり、年齢が高くなると服用する処方薬の数も増える傾向がある。

表 1-2-7 は年齢 2 区分と服用する処方薬の数のクロス表である。検定の結果では年齢 2 区分と服用する処方薬の数の間には非常に強い相関関係があった。70 代以上では 3 種類以上の処方薬を服用する割合が顕著に高い。

表1-2-8 服用する処方薬の度数分布表（複数回答）

	回答数	割合	回答者の選択率
血圧を下げる薬	381	28.0%	59.9%
心臓病や不整脈の薬	93	6.8%	14.6%
血糖値を下げる薬	102	7.5%	16.0%
中性脂肪を下げる薬	263	19.3%	41.4%
尿酸値を下げる薬	84	6.2%	13.2%
貧血を改善する薬	5	0.4%	0.8%
骨粗しょう症の薬	62	4.6%	9.7%
脚・ひざ・腰の痛みの薬	97	7.1%	15.3%
肺や気管支の障害の薬	29	2.1%	4.6%
その他1	182	13.4%	28.6%
その他2	39	2.9%	6.1%
その他3	19	1.4%	3.0%
その他4	6	0.4%	0.9%
合計	1362	100.0%	214.2%

回答者の選択率は処方薬を服用する者(641)を母数とする割合

表 1-2-8 は服用する処方薬の度数分布表である。回答者の選択率が最も高い薬は「血圧を下げる薬」であり、処方薬を服用する者の 6 割がこの薬を服用していた。次いで選択率が高かった薬は「中性脂肪を下げる薬」(41.4%)、「血糖値を下げる薬」(16.0%)、「脚・ひざ・腰の痛みの薬」(15.3%)、「心臓病や不整脈の薬」(14.6%)、「尿酸値を下げる薬」(13.2%)であった。

表1-2-9 性別と処方薬の種類（複数回答）のクロス表

	血圧を下げる薬	心臓病や不整脈の薬	血糖値を下げる薬	中性脂肪を下げる薬	尿酸値を下げる薬	貧血を改善する薬	骨粗しょう症の薬	脚・ひざ・腰の痛みの薬	肺や気管支の障害の薬	その他1	合計
男性	225	54	63	128	74	4	7	42	19	86	325
	69.2%	16.6%	19.4%	39.4%	22.8%	1.2%	2.2%	12.9%	5.8%	26.5%	
女性	156	39	39	135	10	1	55	55	10	96	311
	50.2%	12.5%	12.5%	43.4%	3.2%	0.3%	17.7%	17.7%	3.2%	30.9%	
合計	381	93	102	263	84	5	62	97	29	182	636

表1-2-9は性別と処方薬の種類（複数回答）のクロス表である。これを見ると、男性では、「血圧を下げる薬」、「心臓病や不整脈の薬」、「尿酸値を下げる薬」の割合がやや高い。女性では、「中性脂肪を下げる薬」、「骨粗しょう症の薬」、「脚・ひざ・腰の痛みの薬」の割合がやや高い。

表1-2-10 年齢5区分と処方薬の種類（複数回答）のクロス表

	血圧を下げる薬	心臓病や不整脈の薬	血糖値を下げる薬	中性脂肪を下げる薬	尿酸値を下げる薬	貧血を改善する薬	骨粗しょう症の薬	脚・ひざ・腰の痛みの薬	肺や気管支の障害の薬	その他1	合計
60-64	48	3	15	43	20	0	8	6	2	25	91
	52.7%	3.3%	16.5%	47.3%	22.0%	0.0%	8.8%	6.6%	2.2%	27.5%	
65-69	74	14	20	53	16	1	6	5	1	46	132
	56.1%	10.6%	15.2%	40.2%	12.1%	0.8%	4.5%	3.8%	0.8%	34.8%	
70-74	111	29	32	72	21	1	19	29	12	42	174
	63.8%	16.7%	18.4%	41.4%	12.1%	0.6%	10.9%	16.7%	6.9%	24.1%	
75-79	80	20	20	49	14	1	16	29	10	36	134
	59.7%	14.9%	14.9%	36.6%	10.4%	0.7%	11.9%	21.6%	7.5%	26.9%	
80-84	68	27	15	46	13	2	13	28	4	33	105
	64.8%	25.7%	14.3%	43.8%	12.4%	1.9%	12.4%	26.7%	3.8%	31.4%	
合計	381	93	102	263	84	5	62	97	29	182	636

表1-2-10は年齢5区分と処方薬の種類（複数回答）のクロス表である。これを見ると、年齢が高くなると選択率が高くなる薬（「血圧を下げる薬」、「心臓病や不整脈の薬」、「脚・ひざ・腰の痛みの薬」）と年齢に関係なく比較的高い割合の率の薬（「血糖値を下げる薬」、「中性脂肪を下げる薬」）があることが分かる。

1-2-11 性別と現在の健康状態のクロス表

	よい	まあよい	普通	あまりよ くない	よくない	無回答	合計
男性	45	128	192	70	14	0	449
	10.0%	28.5%	42.8%	15.6%	3.1%	0.0%	100.0%
女性	62	115	192	86	8	2	465
	13.3%	24.7%	41.3%	18.5%	1.7%	0.4%	100.0%
合計	107	243	384	156	22	2	914
	11.7%	26.6%	42.0%	17.1%	2.4%	0.2%	100.0%

P=0.136>0.05

次に主観的な健康状態をみてみたい。調査では現在の健康状態を5つの選択肢で回答してもらった。上の表 1-2-11 は性別とのクロス集計結果である。現在の健康状態は男女によって大きな違いはみられなかった。

1-2-12 年齢5区分と現在の健康状態のクロス表

	よい	まあよい	普通	あまりよ くない	よくない	無回答	合計
60-64	22	48	79	23	4	2	178
	12.4%	27.0%	44.4%	12.9%	2.2%	1.1%	100.0%
65-69	23	61	105	22	0	0	211
	10.9%	28.9%	49.8%	10.4%	0.0%	0.0%	100.0%
70-74	32	59	100	46	7	0	244
	13.1%	24.2%	41.0%	18.9%	2.9%	0.0%	100.0%
75-79	21	45	61	35	6	0	168
	12.5%	26.8%	36.3%	20.8%	3.6%	0.0%	100.0%
80-84	9	30	39	30	5	0	113
	8.0%	26.5%	34.5%	26.5%	4.4%	0.0%	100.0%
合計	107	243	384	156	22	2	914
	11.7%	26.6%	42.0%	17.1%	2.4%	0.2%	100.0%

P=0.004<0.01

表 1-2-12 は年齢5区分とのクロス集計結果である。年齢5区分と現在の健康状態は非常に強い相関関係がある。年齢が高くなると健康状態は悪くなる傾向がある。これは次頁の年齢2区分と回答結果のクロス表(表 1-2-13)をみた方が分かりやすい。「あまりよくない」と「よくない」の合計の割合は60代では13%であるが、70代以上になると25%と約2倍の高さになる。

表1-2-13 年齢2区分と現在の健康状態のクロス表

	よい	まあよい	普通	あまりよ くない	よくない	無回答	合計
60-69	45	109	184	45	4	2	389
	11.6%	28.0%	47.3%	11.6%	1.0%	0.5%	100.0%
70-84	62	134	200	111	18	0	525
	11.8%	25.5%	38.1%	21.1%	3.4%	0.0%	100.0%
合計	107	243	384	156	22	2	914
	11.7%	26.6%	42.0%	17.1%	2.4%	0.2%	100.0%

P=0.000<0.01

下の表 1-2-14 は服用する処方薬の有無と現在の健康状態のクロス表である。服用する処方薬の有無と現在の健康状態の間には非常に強い相関関係がある。服用する処方薬がない者は、ある者に比べて主観的な健康状態がよいことは明らかである。しかし、服用する処方薬のある者の中で健康状態がよくない割合（「あまりよくない」と「よくない」の合計）は 25%程度である。逆にいうと、服用する処方薬がある場合でもその4分の3は普通以上の健康状態を表明している。何らかの持病を抱えていても3分の1は主観的には健康状態が「よい」「まあよい」と表明している。客観的な健康状態と主観的な健康状態の間にはズレがあることが示されているのは注目すべき点である。

表1-2-14 服用する処方薬の有無と現在の健康状態のクロス表

	よい	まあよい	普通	あまりよ くない	よくない	無回答	合計
あり	53	168	255	142	21	1	640
	8.3%	26.3%	39.8%	22.2%	3.3%	0.2%	100.0%
なし	54	75	129	14	1	0	273
	19.8%	27.5%	47.3%	5.1%	0.4%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	100.0%
合計	107	243	384	156	22	2	914
	11.7%	26.6%	42.0%	17.1%	2.4%	0.2%	100.0%

P=0.000<0.01

次頁の表 1-2-15 は処方薬の種類の数と現在の健康状態のクロス表である。服用する処方薬の数が増えると明らかに健康状態がよくない割合が増える。しかし、4種類以上の処方薬を服用する者の中でも過半数を超える者（55.9%）は普通以上の健康状態を表明している。ここでも客観的な健康状態と主観的な健康状態の不一致がみられることは注目すべきことである。

表1-2-15 処方薬の数と現在の健康状態のクロス表

	よい	まあよい	普通	あまりよ くない	よくない	無回答	合計
1種類	30	69	92	38	5	1	235
	12.8%	29.4%	39.1%	16.2%	2.1%	0.4%	100.0%
2種類	14	53	88	46	8	0	209
	6.7%	25.4%	42.1%	22.0%	3.8%	0.0%	100.0%
3種類	8	32	51	32	3	0	126
	6.3%	25.4%	40.5%	25.4%	2.4%	0.0%	100.0%
4種以上	1	14	23	25	5	0	68
	1.5%	20.6%	33.8%	36.8%	7.4%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	1	1	0	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	53	168	255	142	21	2	641
	8.3%	26.2%	39.8%	22.2%	3.3%	0.3%	100.0%

P=0.000<0.01

1-3 回答者の居住する住宅

表1-3-1 年齢5区分と居住する住宅のクロス表

	持ち家(住宅 ローンなし)	持ち家(ロー ン返済中)	賃貸住宅	公営住宅	その他	合計
60-64	142	24	11	0	1	178
	79.8%	13.5%	6.2%	0.0%	0.6%	100.0%
65-69	181	19	7	2	2	211
	85.8%	9.0%	3.3%	0.9%	0.9%	100.0%
70-74	213	12	15	2	2	244
	87.3%	4.9%	6.1%	0.8%	0.8%	100.0%
75-79	153	8	5	2	0	168
	91.1%	4.8%	3.0%	1.2%	0.0%	100.0%
80-84	102	3	4	2	2	113
	90.3%	2.7%	3.5%	1.8%	1.8%	100.0%
合計	791	66	42	8	7	914
	86.5%	7.2%	4.6%	0.9%	0.8%	100.0%

P=0.027<0.05

上の表にみられるように、回答者の圧倒的多数（94％）は持ち家に居住している。賃貸住宅は5％弱、

公営住宅は1%に過ぎない。居住する住宅は性別による違いはまったくみられなかった。表は省略するが各項目の割合は度数分布表（上の表の合計の部分）とほぼ同じであった。しかし、居住する住宅は年齢5区分と強い相関関係がある。これを示すのが表1-3-1である。60代では持ち家であっても住宅ローンを返済している割合が比較的高い（60代平均で11%）。70代以降では住宅ローンを返済している割合は4%程度にとどまる。

表1-3-2 配偶者の有無と居住する住宅のクロス表

	持ち家(住宅ローンなし)	持ち家(ローン返済中)	賃貸住宅	公営住宅	その他	合計
有配偶	658	53	23	6	3	743
	88.6%	7.1%	3.1%	0.8%	0.4%	100.0%
無配偶	133	13	19	2	4	171
	77.8%	7.6%	11.1%	1.2%	2.3%	100.0%
合計	791	66	42	8	7	914
	86.5%	7.2%	4.6%	0.9%	0.8%	100.0%

P=0<0.01

回答者の居住する住宅は配偶者の有無と有意な相関関係があった。これを示すのが上の表1-3-2である。配偶者がいない者は賃貸住宅に住む割合が比較的高い。

表1-3-3 収入を伴う仕事の有無と居住する住宅のクロス表

	持ち家(住宅ローンなし)	持ち家(ローン返済中)	賃貸住宅	公営住宅	その他	合計
仕事あり	365	44	21	3	2	435
	83.9%	10.1%	4.8%	0.7%	0.5%	100.0%
仕事なし	426	22	21	5	5	479
	88.9%	4.6%	4.4%	1.0%	1.0%	100.0%
合計	791	66	42	8	7	914
	86.5%	7.2%	4.6%	0.9%	0.8%	100.0%

P=0.019<0.05

回答者の居住する住宅は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係があった。これを示すのが上の表1-3-3である。収入を伴う仕事をしている者の中では仕事をしていない者に比べて、住宅ローンを返済中の持ち家に住む者が比較的多い。

次頁の表1-3-4は世帯形態と居住する住宅のクロス表である。回答者の居住する住宅は世帯形態と強い相関関係があった。全体的にはどの世帯形態でも持ち家の割合が非常に高いが、「一人暮らし」の世帯では賃貸住宅の割合が顕著に高い。

表1-3-4 世帯形態と居住する住宅のクロス表

	持ち家(住宅ローンなし)	持ち家(ローン返済中)	賃貸住宅	公営住宅	その他	合計
一人暮らし	80	4	17	2	3	106
	75.5%	3.8%	16.0%	1.9%	2.8%	100.0%
夫婦のみ	431	19	13	4	2	469
	91.9%	4.1%	2.8%	0.9%	0.4%	100.0%
その他の同居人あり	277	43	12	2	2	336
	82.4%	12.8%	3.6%	0.6%	0.6%	100.0%
無回答	3	0	0	0	0	3
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	791	66	42	8	7	914
	86.5%	7.2%	4.6%	0.9%	0.8%	100.0%

P=0<0.01

表1-3-5 現在の健康状態と居住する住宅のクロス表

	持ち家(住宅ローンなし)	持ち家(ローン返済中)	賃貸住宅	公営住宅	その他	合計
よい	97	7	3	0	0	107
	90.7%	6.5%	2.8%	0.0%	0.0%	100.0%
まあよい	211	20	10	2	0	243
	86.8%	8.2%	4.1%	0.8%	0.0%	100.0%
普通	331	28	18	3	4	384
	86.2%	7.3%	4.7%	0.8%	1.0%	100.0%
あまりよくない	132	9	10	3	2	156
	84.6%	5.8%	6.4%	1.9%	1.3%	100.0%
よくない	19	1	1	0	1	22
	86.4%	4.5%	4.5%	0.0%	4.5%	100.0%
無回答	1	1	0	0	0	2
	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	791	66	42	8	7	914
	86.5%	7.2%	4.6%	0.9%	0.8%	100.0%

P=0.476>0.05

表 1-3-5 は健康状態と居住する住宅のクロス表である。検定の結果では居住する住宅は健康状態と強い相関関係はなかった。表にみられるように健康状態で居住する住宅のタイプは大差なかった。クロス表は省略するが、居住する住宅は服用する処方薬の有無でも大差なかった。つまり、回答者の居住する住宅は主観的にも客観的にも健康状態と強い相関関係がなかった。

第2章 経済的な暮らし向き

2-1 現在の経済的な暮らし向き

表2-1-1 現在の経済的な暮らし向き

	回答数	割合
家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている	124	13.6%
家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている	499	54.6%
家計にゆとりがなく、多少心配である	249	27.2%
家計が苦しく、非常に心配である	37	4.0%
その他	5	0.5%
合計	914	100.0%

表 2-1-1 は回答者の現在の経済的な暮らし向きの度数分布表である。回答者の 3 分の 2 強 (68.2%) は経済的には心配なく暮らしている。その反面、3 分の 1 弱 (31.2%) は家計にゆとりがないか、家計が苦しく大きな心配を抱えている。

表2-1-2 年齢5区分と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく、多少心配である	家計が苦しく、非常に心配である	その他	合計
60-64	28	100	46	4	0	178
	15.7%	56.2%	25.8%	2.2%	0.0%	100.0%
65-69	23	118	60	8	2	211
	10.9%	55.9%	28.4%	3.8%	0.9%	100.0%
70-74	37	125	64	18	0	244
	15.2%	51.2%	26.2%	7.4%	0.0%	100.0%
75-79	23	86	51	5	3	168
	13.7%	51.2%	30.4%	3.0%	1.8%	100.0%
80-84	13	70	28	2	0	113
	11.5%	61.9%	24.8%	1.8%	0.0%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

$P=0.086 > 0.05$

上の表にみられるように、経済的な暮らし向きの分布は年齢5区分によって大差なかった。なおクロス集計表は省略するが経済的な暮らし向きは性別によっても大差なかった。

表2-1-3 収入を伴う仕事の有無と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく、多少心配である	家計が苦しく、非常に心配である	その他	合計
仕事あり	66	224	120	24	1	435
	15.2%	51.5%	27.6%	5.5%	0.2%	100.0%
仕事なし	58	275	129	13	4	479
	12.1%	57.4%	26.9%	2.7%	0.8%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

P=0.060 > 0.05

表2-1-4 1ヶ月の生活費と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
10万円未満	10	39	36	5	0	90
	11.1%	43.3%	40.0%	5.6%	0.0%	100.0%
10万円~15万円	15	96	60	11	4	186
	8.1%	51.6%	32.3%	5.9%	2.2%	100.0%
15万円~20万円	31	133	63	12	1	240
	12.9%	55.4%	26.3%	5.0%	0.4%	100.0%
20万円~25万円	19	125	57	0	0	201
	9.5%	62.2%	28.4%	0.0%	0.0%	100.0%
25万円~30万円	23	56	18	7	0	104
	22.1%	53.8%	17.3%	6.7%	0.0%	100.0%
30万円~35万円	11	31	11	1	0	54
	20.4%	57.4%	20.4%	1.9%	0.0%	100.0%
35万円~40万円	5	15	4	1	0	25
	20.0%	60.0%	16.0%	4.0%	0.0%	100.0%
40万円以上	10	4	0	0	0	14
	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

P=0.000 < 0.01

表 2-1-3 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなかった。実際にも仕事の有無で経済的な暮らし向きの分布は大きな差がなかった。これは注目すべき高齢期の経済生活の特徴である。

表 2-1-4 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは、回答者の1ヶ月

月の平均的な生活費と非常に強い相関関係があった。1ヶ月の生活費が少なくなると、家計に心配を抱える者の割合が高くなる。逆に1ヶ月の平均的な生活費が多くなると、家計に心配がない割合が大きくなる。たとえば、1ヶ月の生活費が10万円未満では、「家計にゆとりがなく多少心配(40%)」と「家計が苦しくて非常に心配(6%)」の合計は半数に近い(46%)。その反面、1ヶ月の生活費が40万円以上の者では7割(71%)が「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と回答している。一方で生活費が40万円以上では家計に心配を抱える者は皆無である。

表2-1-5 最大の収入源と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
仕事による収入	37 16.7%	119 53.6%	53 23.9%	12 5.4%	1 0.5%	222 100.0%
公的年金	68 10.8%	353 56.0%	187 29.7%	20 3.2%	2 0.3%	630 100.0%
家賃・地代など不動産	18 51.4%	16 45.7%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	35 100.0%
株式・債券の配当・利子	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
家族・親族からの援助	0 0.0%	4 44.4%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	9 100.0%
生活扶助費	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
その他	0 0.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100.0%
収入はない	1 11.1%	2 22.2%	4 44.4%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%
合計	124 13.6%	499 54.6%	249 27.2%	37 4.0%	5 0.5%	914 100.0%

P=0.000<0.001

表2-1-5は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは現在の最大の収入源と非常に強い相関関係がみられる。

まず注目されるのは、「家賃・地代など不動産収入」を最大の収入源とする者では、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が51%と非常に高いことである。「家計にあまりゆとりがないがそれほど心配なく暮らしている」も46%である。「不動産収入」を最大の収入源とする者のほとんどが家計に心配なく高齢期を暮らしている。

しかし、回答者の7割は公的年金を最大の収入源としている。その中では、3分の2(67%)が家計に心配なく暮らしている。その反面、3分の1は家計に不安を抱えている。公的年金で暮らしている人の中には大きな生活格差があることが分かる。仕事による収入を最大の収入源とする者では7割(70.3%)

が家計に心配なく暮らしている。

表2-1-6 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合にどう思うかと現在の経済的な暮らし向きクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
十分だと思う	71	52	1	0	1	125
	56.8%	41.6%	0.8%	0.0%	0.8%	100.0%
少し足りないと思う	32	213	53	0	1	299
	10.7%	71.2%	17.7%	0.0%	0.3%	100.0%
かなり足りないと思う	5	107	156	24	0	292
	1.7%	36.6%	53.4%	8.2%	0.0%	100.0%
わからない	14	105	15	1	2	137
	10.2%	76.6%	10.9%	0.7%	1.5%	100.0%
貯蓄はしていない	2	22	24	12	1	61
	3.3%	36.1%	39.3%	19.7%	1.6%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表2-1-7 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
十分まかなえている	33	26	2	0	0	61
	54.1%	42.6%	3.3%	0.0%	0.0%	100.0%
何とかまかなえている	35	220	65	3	3	326
	10.7%	67.5%	19.9%	0.9%	0.9%	100.0%
多少足りない	18	117	105	8	1	249
	7.2%	47.0%	42.2%	3.2%	0.4%	100.0%
かなり足りない	22	81	56	22	1	182
	12.1%	44.5%	30.8%	12.1%	0.5%	100.0%
合計	108	444	228	33	5	818
	13.2%	54.3%	27.9%	4.0%	0.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 2-1-6 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは現在の

貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を十分だと考えている者では、6割近く（57%）が「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」と答え、4割（42%）が「家計にあまりゆとりはないがそれほど心配なく暮らしている」と答えている。家計に心配がある者はほとんどいない。まさに「備えあれば憂いなし」の格言の通りである。これに対して、現在の貯蓄額を今後の備えとして「かなり足りない」とみている者では「家計にゆとりがなく多少心配」が53%、「家計が苦しく非常に心配」が8%となっている。

表2-1-7は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって明瞭な違いがみられる。毎月の生活費を公的年金で「十分まかなえている」では家計に心配を抱える者では「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が54%、「ゆとりはないがそれほど心配なく暮らしている」が43%である。「何とかまかなえている」では「家計にゆとりがある」は少ない（11%）が、3分の2（68%）は「それほど心配なく暮らしている」。これに対して、公的年金では毎月の生活費は「多少足りない」では、「家計にゆとりがなく多少心配」が42%、「かなり足りない」では「家計にゆとりがなく多少心配」が31%、「家計が苦しく非常に心配」が12%である。

表2-1-8 世帯形態と現在の経済的な暮らし向きのクロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
一人暮らし	16	48	33	8	1	106
	15.1%	45.3%	31.1%	7.5%	0.9%	100.0%
夫婦のみ	72	254	122	18	3	469
	15.4%	54.2%	26.0%	3.8%	0.6%	100.0%
その他の同居人あり	35	196	93	11	1	336
	10.4%	58.3%	27.7%	3.3%	0.3%	100.0%
無回答	1	1	1	0	0	3
	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

$P=0.371 > 0.05$

表2-1-8は世帯形態とのクロス集計結果である。現在の経済的な暮らし向きは世帯形態と強い相関関係はなかったが、「一人暮らし」では「多少心配」と「非常に心配」を合計した「家計に心配がある」者が4割近く（39%）であり、他の世帯形態に比べてやや多い。

次頁の表2-1-9は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。回答者の現在の経済的な暮らし向きは、服用する処方薬の有無と強い相関関係はなかった。しかし、処方薬を服用する者、つまり何らかの持病があり通院している者では「家計にゆとりがなく多少心配」の割合が若干高い。

表2-10は現在の健康状態とのクロス集計結果である。経済的な暮らし向きは健康状態によって大きく異なる。端的に言えば、健康状態がよいものほど経済的な暮らし向きはよい傾向がある。たとえば、

現在の健康状態が「よい」では「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が他の状態と比べ顕著に多い（29%）。それほど心配ない者を含めると85%が家計に心配なく暮らしている。これに対して、健康状態が「あまりよくない」では多少心配を含めて家計に心配がある者は44%であり、健康状態が「よくない」では家計に心配がある者は36%である。

表2-1-9 服用する処方薬の有無と現在の経済的な暮らし向きのカロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
ある	81	343	189	24	3	640
	12.7%	53.6%	29.5%	3.8%	0.5%	100.0%
ない	43	155	60	13	2	273
	15.8%	56.8%	22.0%	4.8%	0.7%	100.0%
無回答	0	1	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

P=0.507 > 0.05

表2-1-10 現在の健康状態と現在の経済的な暮らし向きのカロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
よい	31	60	15	1	0	107
	29.0%	56.1%	14.0%	0.9%	0.0%	100.0%
まあよい	42	139	53	7	2	243
	17.3%	57.2%	21.8%	2.9%	0.8%	100.0%
普通	37	212	115	18	2	384
	9.6%	55.2%	29.9%	4.7%	0.5%	100.0%
あまりよくない	13	74	60	9	0	156
	8.3%	47.4%	38.5%	5.8%	0.0%	100.0%
よくない	1	12	6	2	1	22
	4.5%	54.5%	27.3%	9.1%	4.5%	100.0%
無回答	0	2	0	0	0	2
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	124	499	249	37	5	914
	13.6%	54.6%	27.2%	4.0%	0.5%	100.0%

P=0.000 < 0.01

表2-1-11 居住する住宅と現在の経済的な暮らし向きのカロス表

	家計にゆとりがあり、まったく心配ない	家計にあまりゆとりはないがそれほど心配ない	家計にゆとりがなく多少心配	家計が苦しく、非常に心配	その他	合計
持ち家（住宅ローンなし）	116 14.7%	445 56.3%	205 25.9%	23 2.9%	2 0.3%	791 100.0%
持ち家（ローン返済中）	4 6.1%	36 54.5%	20 30.3%	5 7.6%	1 1.5%	66 100.0%
賃貸住宅	3 7.1%	14 33.3%	18 42.9%	6 14.3%	1 2.4%	42 100.0%
公営住宅	1 12.5%	1 12.5%	4 50.0%	2 25.0%	0 0.0%	8 100.0%
その他	0 0.0%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	7 100.0%
合計	124 13.6%	499 54.6%	249 27.2%	37 4.0%	5 0.5%	914 100.0%

P=0.000 < 0.01

表 2-1-11 は居住する住宅とのクロス集計結果である。経済的な暮らし向きは居住する住宅によって大きく異なる。持ち家で住宅ローンの返済を抱える者は「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」割合が最も低い。住宅ローンの返済が一定の経済的負担になっていることが示唆される。「賃貸住宅」と「公営住宅」に住む者は「家計にゆとりがなく多少心配（43%と50%）」ないし「家計が苦しく非常に心配（14%と25%）」の割合が非常に高い。居住する住宅のタイプは回答者の経済的な暮らし向きを左右する一つの重要な要因であることが分かる。

2-2 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化

表2-2-1 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化

	回答数	割合
良くなった	9	1.0%
どちらかといえば良くなった	70	7.7%
どちらかといえば悪くなった	252	27.6%
悪くなった	66	7.2%
変わらない	517	56.6%
合計	914	100.0%

今回の調査では経済的な暮らし向きが1年前と比べてどのように変わったかを尋ねた。表2-2-1はその度数分布表である。この調査が実施された2020年9月はコロナ禍の影響で世界的に経済活動が縮小していた時期に当たる。そのためか、3分の1強が「どちらかといえば悪くなった（28%）」ないし「悪

くなった (7%)」と回答している。しかし、回答者の大多数は年金生活者である。年金は不景気になっても支給額は変わらない。過半数を超える者 (57%) が「変わらない」と回答しているのはそのためであろう。

表2-2-2 年齢5区分と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化のクロス表

	良くなった	どちらかといえ ば良化	どちらかといえ ば悪化	悪くなった	変わらない	合計
60-64	3	15	41	18	101	178
	1.7%	8.4%	23.0%	10.1%	56.7%	100.0%
65-69	0	23	54	14	120	211
	0.0%	10.9%	25.6%	6.6%	56.9%	100.0%
70-74	1	17	73	18	135	244
	0.4%	7.0%	29.9%	7.4%	55.3%	100.0%
75-79	3	6	54	14	91	168
	1.8%	3.6%	32.1%	8.3%	54.2%	100.0%
80-84	2	9	30	2	70	113
	1.8%	8.0%	26.5%	1.8%	61.9%	100.0%
合計	9	70	252	66	517	914
	1.0%	7.7%	27.6%	7.2%	56.6%	100.0%

P=0.094>0.05

表2-2-3 収入を伴う仕事の有無と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化

	良くなった	どちらかといえ ば良化	どちらかといえ ば悪化	悪くなった	変わらない	合計
仕事あり	4	52	113	35	231	435
	0.9%	12.0%	26.0%	8.0%	53.1%	100.0%
仕事なし	5	18	139	31	286	479
	1.0%	3.8%	29.0%	6.5%	59.7%	100.0%
合計	9	70	252	66	517	914
	1.0%	7.7%	27.6%	7.2%	56.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 2-2-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は年齢 5 区分と強い相関関係はなかったが、60-64 歳層では「悪化した」がやや多く、75-79 歳層では「どちらかといえば悪くなった」がやや多い。

表 2-2-3 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は収入を伴う仕事の有無と非常に強い相関関係がある。全体的には「変わらない」が過半数超だが、収入を伴う仕事をしている者では「どちらかといえば良くなった」が比較的多い (12%)。仕事をしていない者では「どちらかといえば悪くなった」がやや多い (29%)。

表2-2-4 現在の経済的な暮らし向きと1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化のクロス表

	良くなっ た	どちらかと いえば良化	どちらかと いえば悪化	悪くなっ た	変わらない	合計
家計ゆとりあり全 く心配なく暮らす	4 3.2%	17 13.7%	11 8.9%	2 1.6%	90 72.6%	124 100.0%
家計にゆとりはな いが心配なく暮ら	4 0.8%	44 8.8%	105 21.0%	16 3.2%	330 66.1%	499 100.0%
家計にゆとりがな く多少心配	0 0.0%	9 3.6%	123 49.4%	31 12.4%	86 34.5%	249 100.0%
家計が苦しく非常 に心配	0 0.0%	0 0.0%	13 35.1%	16 43.2%	8 21.6%	37 100.0%
その他	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%	5 100.0%
合計	9 1.0%	70 7.7%	252 27.6%	66 7.2%	517 56.6%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表2-2-5 暮らし向きに対するコロナの影響の有無と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化のクロス表

	良くなっ た	どちらかと いえば良化	どちらかと いえば悪化	悪くなっ た	変わらない	合計
ある	4 0.8%	31 6.4%	150 30.9%	44 9.1%	256 52.8%	485 100.0%
ない	5 1.5%	32 9.5%	73 21.7%	13 3.9%	213 63.4%	336 100.0%
わからない	0 0.0%	7 7.5%	29 31.2%	9 9.7%	48 51.6%	93 100.0%
合計	9 1.0%	70 7.7%	252 27.6%	66 7.2%	517 56.6%	914 100.0%

P=0.003<0.05

表 2-2-4 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らす」者では、「変わらない」が非常に多い(73%)。一方「どちらかといえば悪くなった(9%)」や「悪くなった(2%)」は非常に少ない。これに対して、「家計にゆとりがなく多少心配」な者では、「どちらかといえば悪くなった(49%)」と「悪くなった(12%)」が比較的多い。さらに「家計が苦しく非常に心配」では8割近くが「どちらかといえば悪くなった(35%)」ないし「悪くなった(43%)」と答えている。要約すると、家計に心配がない者では多くが1年前と比べた暮らし向きに変わりはないか良くなっているが、家計に心配を抱える者では暮らし向きの悪化を感じている者が多い。

前頁の表 2-2-5 はコロナ禍の影響の有無とのクロス集計結果である。回答者の1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は、暮らし向きに対するコロナの影響の有無と非常に強い相関関係がある。コロナの影響がない者ではコロナの影響がある者に比べて、「変わらない」が6割超である。他方、コロナの影響がある者ではコロナの影響がない者に比べて、「どちらかといえば悪くなった」が高い。コロナの影響がある者では、1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は悪化の方向に強く作用している。

表2-2-6 1ヶ月の生活費と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化

	良くなっ た	どちらかと いえば良化	どちらかと いえば悪化	悪くなっ た	変わらな い	合計
10万円未満	1	5	23	11	50	90
	1.1%	5.6%	25.6%	12.2%	55.6%	100.0%
10万円~15万円	1	15	61	9	100	186
	0.5%	8.1%	32.8%	4.8%	53.8%	100.0%
15万円~20万円	2	19	68	20	131	240
	0.8%	7.9%	28.3%	8.3%	54.6%	100.0%
20万円~25万円	2	12	58	9	120	201
	1.0%	6.0%	28.9%	4.5%	59.7%	100.0%
25万円~30万円	0	11	21	9	63	104
	0.0%	10.6%	20.2%	8.7%	60.6%	100.0%
30万円~35万円	2	2	15	5	30	54
	3.7%	3.7%	27.8%	9.3%	55.6%	100.0%
35万円~40万円	0	4	4	3	14	25
	0.0%	16.0%	16.0%	12.0%	56.0%	100.0%
40万円以上	1	2	2	0	9	14
	7.1%	14.3%	14.3%	0.0%	64.3%	100.0%
合計	9	70	252	66	517	914
	1.0%	7.7%	27.6%	7.2%	56.6%	100.0%

P=0.174>0.05

表 2-2-6 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は1ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係はなく、生活費の金額の多少に関係なく暮らし向きは「変わらない」が過半を超えている。しかし、1ヶ月の生活費の金額が多い層では経済的な暮らし向きが良くなった者が比較的多い。たとえば、「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」の合計は、「35万円~40万円」で16%、「40万円以上」では21%である。一方で生活費の金額が少ない層では経済的な暮らし向きが悪くなった者が比較的多い。たとえば、「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」の合計は、1ヶ月の生活費が「10万円未満」では38%、「10万円~15万円」では37%である。これに対して、「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」の合計は、「35万円~40万円」で28%、「40万円以上」では14%である。

表2-2-7 現在の貯蓄額は今後の生活の備えとしてどう思うかと1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化のクロス表

	良くなった	どちらかといえば良化	どちらかといえば悪化	悪くなった	変わらない	合計
十分だと思う	5	10	16	0	94	125
	4.0%	8.0%	12.8%	0.0%	75.2%	100.0%
少し足りない	3	30	81	8	177	299
	1.0%	10.0%	27.1%	2.7%	59.2%	100.0%
かなり足りない	1	17	111	42	121	292
	0.3%	5.8%	38.0%	14.4%	41.4%	100.0%
わからない	0	6	26	8	97	137
	0.0%	4.4%	19.0%	5.8%	70.8%	100.0%
貯蓄はしていない	0	7	18	8	28	61
	0.0%	11.5%	29.5%	13.1%	45.9%	100.0%
合計	9	70	252	66	517	914
	1.0%	7.7%	27.6%	7.2%	56.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表2-2-8 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化のクロス表

	良くなった	どちらかといえば良化	どちらかといえば悪化	悪くなった	変わらない	合計
十分まかなえている	2	8	7	1	43	61
	3.3%	13.1%	11.5%	1.6%	70.5%	100.0%
何とかまかなえている	3	26	84	9	204	326
	0.9%	8.0%	25.8%	2.8%	62.6%	100.0%
多少足りない	0	16	88	18	127	249
	0.0%	6.4%	35.3%	7.2%	51.0%	100.0%
かなり足りない	2	11	47	26	96	182
	1.1%	6.0%	25.8%	14.3%	52.7%	100.0%
合計	7	61	226	54	470	818
	0.9%	7.5%	27.6%	6.6%	57.5%	100.0%

P=0.000<0.01

1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は、現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかによって大きな相違がある。これを示すのが表2-2-7である。現在の貯蓄額を今後の備えとして「十分だと思う」では暮らし向きが悪くなった者はゼロである。「変わらない」が4分の3(75%)を占め、「良くなった(4%)」と「どちらかといえば良くなった(8%)」の合計も比較的多い。これに対して、現在の貯蓄額を今後の備えとしては「かなり足りないと思う」では「変わらない」は比較的少なく(41%)、「どちらか

といえ悪くなった（38%）」と「悪くなった（14%）」が比較的多い。

表 2-2-8 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は、公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって大きく異なる。公的年金で毎月の生活費を十分まかなえている者では7割（71%）が「変わらない」と答えている。「良くなった」と「どちらかといえ良くなった」も比較的多い。これに対して、「多少足りない」では「どちらかといえ悪くなった（35%）」が比較的多く、「かなり足りない」では「悪くなった（14%）」が比較的多い。

表2-2-9 現在の最大の収入源と1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化

	良くなっ た	どちらか といえ良化	どちらか といえ悪化	悪くなっ た	変わら ない	合計
仕事による収入	2	24	51	21	124	222
	0.9%	10.8%	23.0%	9.5%	55.9%	100.0%
公的年金	5	42	186	42	355	630
	0.8%	6.7%	29.5%	6.7%	56.3%	100.0%
家賃・地代など の不動産収入	2	4	7	0	22	35
	5.7%	11.4%	20.0%	0.0%	62.9%	100.0%
株式・債券の配 当・利子・売却益	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
家族・親族から の援助	0	0	2	0	7	9
	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	77.8%	100.0%
生活扶助費	0	0	1	0	2	3
	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
その他	0	0	2	1	2	5
	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	40.0%	100.0%
収入はない	0	0	3	2	4	9
	0.0%	0.0%	33.3%	22.2%	44.4%	100.0%
合計	9	70	252	66	517	914
	1.0%	7.7%	27.6%	7.2%	56.6%	100.0%

P=0.362>0.05

表 2-2-9 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化は現在の最大の収入源と強い相関関係はなかった。しかし、家賃・地代などの不動産収入を最大の収入源とする者では1年前と比べた経済的な暮らし向きが良くなった者が比較的多く、悪くなった者は比較的小さい。また仕事による収入を最大の収入源とする者でも1年前と比べた経済的な暮らし向きが良くなった者がやや多い。

2-3 暮らし向きに対するコロナ禍の影響

表2-3-1 性別と暮らし向きに対するコロナの影響の有無のクロス表

	ある	ない	わからない	合計
男性	249	161	39	449
	55.5%	35.9%	8.7%	100.0%
女性	236	175	54	465
	50.8%	37.6%	11.6%	100.0%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100.0%

P=0.215>0.05

表2-3-2 年齢5区分と暮らし向きに対するコロナの影響の有無のクロス表

	ある	ない	わからない	合計
60-64	114	49	15	178
	64.0%	27.5%	8.4%	100.0%
65-69	118	80	13	211
	55.9%	37.9%	6.2%	100.0%
70-74	129	90	25	244
	52.9%	36.9%	10.2%	100.0%
75-79	69	72	27	168
	41.1%	42.9%	16.1%	100.0%
80-84	55	45	13	113
	48.7%	39.8%	11.5%	100.0%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100.0%

P=0.001<0.01

表2-3-3 現在の経済的な暮らし向きとコロナの影響の有無のクロス表

	ある	ない	不明	合計
ゆとりあり全く心配ない	63	52	9	124
	50.8%	41.9%	7.3%	100%
ゆとりはないが心配ない	257	203	39	499
	51.5%	40.7%	7.8%	100%
ゆとりがなく多少心配	147	65	37	249
	59.0%	26.1%	14.9%	100%
家計が苦しく非常に心配	17	13	7	37
	45.9%	35.1%	18.9%	100%
その他	1	3	1	5
	20.0%	60.0%	20.0%	100%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100%

P=0.001<0.01、「不明」=「わからない」

表2-3-4 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と影響の有無のクロス表

	ある	ない	不明	合計
良くなった	4	5	0	9
	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
どちらかといえば良化	31	32	7	70
	44.3%	45.7%	10.0%	100.0%
どちらかといえば悪化	150	73	29	252
	59.5%	29.0%	11.5%	100.0%
悪くなった	44	13	9	66
	66.7%	19.7%	13.6%	100.0%
変わらない	256	213	48	517
	49.5%	41.2%	9.3%	100.0%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100.0%

P=0.003<0.01、「不明」=「わからない」

今回の調査では新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて、それが暮らし向きにどのように影響しているかを尋ねた。その結果、影響が「ある」は53%、「ない」は37%、「わからない」は10%だった。

表2-3-1は性別とのクロス集計結果である。暮らし向きに対するコロナの影響の有無は性別と強い相

関関係はなかったが、男性は女性に比べて「ある」がやや多い。

表 2-3-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。コロナの影響の有無は年齢 5 区分と非常に強い相関関係がある。表にみられるように、年齢区分が高くなると、影響が「ある」は少なくなり、「ない」が多くなる傾向がある。

表 2-3-3 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。暮らし向きに対するコロナの影響は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。ゆとりがない者を含めて家計に心配なく暮らしている者ではコロナの影響が「ない」が 4 割と相対的に多い。これに対して、家計に不安を抱える者では影響が「ない」が相対的に少ない。「家計にゆとりがなく多少心配」では影響が「ない」は 26% と最も少ない。「家計にゆとりがなく多少心配」ではコロナの影響を最も強く認識しており、6 割近く (59%) がコロナの影響が「ある」と回答している。

表 2-3-4 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。コロナの影響の有無は経済的な暮らし向きの変化によって大きく異なる。1 年前と比べて暮らし向きが「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」では、影響は「ない」が多い。暮らし向きの向上がコロナの影響を打ち消すように作用しているとみられる。これに対して、1 年前と比べて暮らし向きが「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」ではコロナの影響が「ある」はかなり多い。暮らし向きが「悪くなった」では 3 分の 2 (67%) がコロナの影響が「ある」と回答している。

表2-3-5 1ヶ月の生活費と暮らし向きに対するコロナの影響の有無のクロス表

	ある	ない	不明	合計
10万円未満	41	39	10	90
	45.6%	43.3%	11.1%	100%
10万円～15万円	81	78	27	186
	43.5%	41.9%	14.5%	100%
15万円～20万円	139	77	24	240
	57.9%	32.1%	10.0%	100%
20万円～25万円	113	72	16	201
	56.2%	35.8%	8.0%	100%
25万円～30万円	55	36	13	104
	52.9%	34.6%	12.5%	100%
20万円～35万円	31	23	0	54
	57.4%	42.6%	0.0%	100%
35万円～40万円	18	5	2	25
	72.0%	20.0%	8.0%	100%
40万円以上	7	6	1	14
	50.0%	42.9%	7.1%	100%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100%

P=0.036<0.05、「不明」=「わからない」

表2-3-6 現在の最大の収入源とコロナの影響の有無のクロス表

	ある	ない	不明	合計
仕事収入	127	76	19	222
	57.2%	34.2%	8.6%	100%
公的年金	327	234	69	630
	51.9%	37.1%	11.0%	100%
不動産収入	15	17	3	35
	42.9%	48.6%	8.6%	100%
株式・債券	0	1	0	1
	0.0%	100%	0.0%	100%
家族・親族からの援助	5	3	1	9
	55.6%	33.3%	11.1%	100%
生活扶助費	2	0	1	3
	66.7%	0.0%	33.3%	100%
その他	4	1	0	5
	80.0%	20.0%	0.0%	100%
収入はない	5	4	0	9
	55.6%	44.4%	0.0%	100%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100%

P=0.643>0.05、「不明」=「わからない」

表 2-3-5 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。暮らし向きに対するコロナの影響の有無は 1 ヶ月の生活費と強い相関関係がある。1 ヶ月の生活費が少ない層ではコロナの影響がある者は比較的少なく、1 ヶ月の生活費が多い層ではコロナの影響がある者が比較的多い。たとえば、コロナの影響が「ある」は 1 ヶ月の生活費が「10 万円未満」で 46%、「10 万円～15 万円」では 44%だが、「20 万円～35 万円～40 万円」で 57%、「35 万円～40 万円」で 72%、「40 万円以上」で 50%を占める。

表 2-3-6 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。経済的な暮らし向きの変化に対するコロナの影響の有無は現在の最大の収入源と強い相関関係はなかったが、「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者で影響が「ある」は最も少なく、「ない」が最も多い。仕事収入を最大の収入源とする者では、公的年金を最大の収入源とする者よりも影響が「ある」がやや多い。

表2-3-7 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	ある	ない	不明	合計
十分だと思う	63	56	6	125
	50.4%	44.8%	4.8%	100%
少し足りないと思う	167	115	17	299
	55.9%	38.5%	5.7%	100%
かなり足りないと思う	168	88	36	292
	57.5%	30.1%	12.3%	100%
わからない	63	51	23	137
	46.0%	37.2%	16.8%	100%
貯蓄はしていない	24	26	11	61
	39.3%	42.6%	18.0%	100%
合計	485	336	93	914
	53.1%	36.8%	10.2%	100%

P=0.000<0.01, 「不明」 = 「わからない」

表 2-3-7 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。暮らし向きに対するコロナの影響の有無は、現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」では影響が「ある」は相対的に少なく、「ない」が相対的に多い。今後の備えとして十分な貯蓄があることはコロナ禍の負の影響をある程度打ち消す作用があることがみてとれる。これに対して、現在の貯蓄額を今後の備えとして「少し足りないと思う」と「かなり足りないと思う」では、影響が「ある」は過半を超え、かなり多い。

表 2-3-8 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。暮らし向きに対するコロナの影響の有無は、公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって明瞭な相違がある。公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」では影響がある者は最も少なく、影響が「ない」が過半を超える。「何とかまかなえている」では影響が「ある」が「ない」を若干上回る程度である。これに対して、公的年金では毎月の生活費が「多少足りない」と「かなり足りない」では影響が「ある」が「過半を超え、「ない」を大きく上回っている。

表2-3-8 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	ある	ない	不明	合計
十分まかなえている	22	33	6	61
	36.1%	54.1%	9.8%	100%
何とかまかなえている	147	141	38	326
	45.1%	43.3%	11.7%	100%
多少足りない	152	75	22	249
	61.0%	30.1%	8.8%	100%
かなり足りない	103	59	20	182
	56.6%	32.4%	11.0%	100%
合計	424	308	86	818
	51.8%	37.7%	10.5%	100%

P=0.001<0.01, 「不明」 = 「わからない」

2-4 コロナは暮らしのどの側面に影響を与えているか

この調査では、コロナ禍が暮らしのどの側面に影響を与えているかを複数回答可で尋ねる質問を設定した。表 2-4-1 は性別とのクロス集計結果である。複数回答で回答が最も多かったのは「外出行動」(83%)であり、次いで「人との接触・交流」(79%)であった。これは感染拡大防止のため、不要不急の外出の自粛が求められたからであろう。性別ではいずれの項目もほぼ同程度の割合だった。

表2-4-1 性別とコロナは暮らしのどの側面に影響を与えているか（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
男性	52	51	376	355	135	160	15	15	449
	11.6%	11.4%	83.7%	79.1%	30.1%	35.6%	3.3%	3.3%	
女性	61	53	378	364	137	160	16	21	465
	13.1%	11.4%	81.3%	78.3%	29.5%	34.4%	3.4%	4.5%	
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914
	12.4%	11.4%	82.5%	78.7%	29.8%	35.0%	3.4%	3.9%	

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

表2-4-2 年齢5区分とコロナは暮らしのどの側面に影響を与えているか（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
60-64	35	18	157	153	56	92	4	1	178
	19.7%	10.1%	88.2%	86.0%	31.5%	51.7%	2.2%	0.6%	
65-69	31	31	184	174	65	69	7	6	211
	14.7%	14.7%	87.2%	82.5%	30.8%	32.7%	3.3%	2.8%	
70-74	28	19	197	185	67	73	7	15	244
	11.5%	7.8%	80.7%	75.8%	27.5%	29.9%	2.9%	6.1%	
75-79	13	24	129	128	53	55	7	9	168
	7.7%	14.3%	76.8%	76.2%	31.5%	32.7%	4.2%	5.4%	
80-84	6	12	87	79	31	31	6	5	113
	5.3%	10.6%	77.0%	69.9%	27.4%	27.4%	5.3%	4.4%	
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914

表 2-4-2 は年齢 5 区分とのクロス表である。これをみると、年齢区分が高くなるにつれて、どの側面についても影響がある割合は低下する傾向がある。特に「収入面」は 60 代では比較的多いが、70 代後半以降では少ない。一方で「食生活」と「健康面」は年齢区分に関係なくほぼ同程度である。

次頁の表 2-4-3 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている者では「収入面」の影響を挙げる者が比較的多い。とはいえ、収入面を挙げる者は 2 割であり、仕事をしている者の 8 割は収入面での影響を挙げていないことは注目しておきたい。

表2-4-3 収入を伴う仕事の有無とコロナが影響を与えている側面（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
仕事あり	87	46	355	338	121	147	13	18	435
	20.0%	10.6%	81.6%	77.7%	27.8%	33.8%	3.0%	4.1%	
仕事なし	26	58	399	381	151	173	18	18	479
	5.4%	12.1%	83.3%	79.5%	31.5%	36.1%	3.8%	3.8%	
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914

表2-4-4 現在の経済的な暮らし向きとコロナが影響を与えている側面（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
ゆとりあり全く心配ない	11	14	108	89	38	34	6	6	124
	8.9%	11.3%	87.1%	71.8%	30.6%	27.4%	4.8%	4.8%	
ゆとりないが心配ない	37	49	418	404	136	172	17	19	499
	7.4%	9.8%	83.8%	81.0%	27.3%	34.5%	3.4%	3.8%	
ゆとりなく多少心配	50	33	198	194	83	100	6	9	249
	20.1%	13.3%	79.5%	77.9%	33.3%	40.2%	2.4%	3.6%	
家計が苦しく非常に心配	15	6	26	28	14	14	1	2	37
	40.5%	16.2%	70.3%	75.7%	37.8%	37.8%	2.7%	5.4%	
その他	0	2	4	4	1	0	1	0	5
	0.0%	40.0%	80.0%	80.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914

表2-4-5 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とコロナ影響の側面（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
良くなった	0	3	7	5	1	1	0	2	9
	0.0%	33.3%	77.8%	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	22.2%	
どちらかといえば良化	4	10	59	53	21	23	3	2	70
	5.7%	14.3%	84.3%	75.7%	30.0%	32.9%	4.3%	2.9%	
どちらかといえば悪化	49	30	217	200	94	99	8	4	252
	19.4%	11.9%	86.1%	79.4%	37.3%	39.3%	3.2%	1.6%	
悪くなった	27	21	49	55	29	28	4	3	66
	40.9%	31.8%	74.2%	83.3%	43.9%	42.4%	6.1%	4.5%	
変わらない	33	40	422	406	127	169	16	25	517
	6.4%	7.7%	81.6%	78.5%	24.6%	32.7%	3.1%	4.8%	
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914

表2-4-4は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。コロナが影響を与えている側面に

は現在の経済的な暮らし向きによって大きく異なるものがある。特に収入面がそうである。「家計にゆとりがあり全く心配ない」と「ゆとりはないが心配はない」では影響が「ある」は少ないが、「家計が苦しく非常に心配」では影響が「ある」は41%と比較的多い。

表2-4-5は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。ここでも「収入面」での影響が1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化によって大きく異なる。1年前と比べて経済的な暮らし向きが良くなった者では収入面の影響を挙げる者はゼロであり、どちらかといえば良くなった者でも6%と少ない。これに対して、1年前と比べて経済的な暮らし向きが悪化した者では収入面の影響を指摘する者は41%と相対的に多い。また暮らし向きが良くなった者では「健康面」での影響を挙げる者は11%だが、暮らし向きが悪くなった者では44%と相対的に多い。

表2-4-6 公的年金の受給の有無とコロナが影響を与えている側面（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
受給している	92 11.2%	93 11.4%	671 82.0%	640 78.2%	241 29.5%	274 33.5%	28 3.4%	35 4.3%	818
受給していない	21 21.9%	11 11.5%	83 86.5%	79 82.3%	31 32.3%	46 47.9%	3 3.1%	1 1.0%	96
合計	113	104	754	719	272	320	31	36	914

表2-4-7 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と影響の側面（複数回答）

	収入面	食生活	外出行動	人との接触・交流	健康面	精神面	その他	影響はない	合計
十分まかなえている	3 4.9%	6 9.8%	47 77.0%	48 78.7%	17 27.9%	12 19.7%	3 4.9%	2 3.3%	61
何とかまかなえている	12 3.7%	31 9.5%	261 80.1%	248 76.1%	92 28.2%	104 31.9%	12 3.7%	21 6.4%	326
多少足りない	35 14.1%	36 14.5%	216 86.7%	204 81.9%	77 30.9%	91 36.5%	7 2.8%	2 0.8%	249
かなり足りない	42 23.1%	20 11.0%	147 80.8%	140 76.9%	55 30.2%	67 36.8%	6 3.3%	10 5.5%	182
合計	92	93	671	640	241	274	28	35	818

表2-4-6は公的年金の受給の有無とのクロス表である。公的年金を受給している者では「収入面」での影響を挙げる者は少ないが、受給していない者では「収入面」の影響を挙げる者が相対的に多い。

表2-4-7は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。公的年金の受給者については、年金で毎月の生活費をまかなえている程度によって収入面への影響は異なる。「公的年金で毎月の生活費を十分まかなえている」と「何とかまかなえている」では収入面の影響を指摘する者は共に5%以下と少ないが、「かなり足りない」では収入面の影響を挙げる者は23%と比較的多い。コロナ禍による減収があった者が比較的多いのではないかと考えられる。

第3章 生活費と貯蓄状況

3-1 回答者の生活費

表3-1-1 日常の支出の中で負担が大きいと感じるもの（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
食費・水道光熱費	460	18.3%	50.4%
通信・放送受信費	232	9.2%	25.4%
住宅の増改築、設備の修繕の費用	355	14.1%	38.9%
交通費・自動車等関係の費用	276	11.0%	30.2%
医療費	309	12.3%	33.8%
健康維持のための費用	134	5.3%	14.7%
交際費	84	3.3%	9.2%
子や孫のための支出	180	7.2%	19.7%
趣味やレジャーの費用	38	1.5%	4.2%
生命保険や損害保険などの保険料	227	9.0%	24.9%
家具・家電の購入費	99	3.9%	10.8%
その他	48	1.9%	5.3%
特になし	68	2.7%	7.4%
合計	2510	100.0%	

回答者の選択率は全回答者数（914）を母数とする各項目の選択数の割合

この調査では日常の支出の中で負担が大きいと感じる項目は何かを複数回答可で尋ねた。表3-1-1はその度数分布表である。最も多かったのは「食費・水道光熱費」であり、回答者の半数の者が選択している。次いで選択率が高かった項目は「住宅の増改築、設備の修繕の費用」（39%）であり、3番目が「医療費」（34%）であった。

表3-1-2 年齢5区分と日常の支出の中で負担が大きいと感じるもの（複数回答）

	食費、水道 光熱費	通信・放 送受信費	住宅増改築、 設備の修繕費	交通費、自 動車関係費	医療費	健康維持 の費用	交際費
60-64	97	56	72	56	62	16	11
	54.5%	31.5%	40.4%	31.5%	34.8%	9.0%	6.2%
65-69	110	61	80	56	67	21	20
	52.1%	28.9%	37.9%	26.5%	31.8%	10.0%	9.5%
70-74	117	65	106	77	92	28	21
	48.0%	26.6%	43.4%	31.6%	37.7%	11.5%	8.6%
75-79	87	33	53	48	44	36	17
	52.1%	19.8%	31.7%	28.7%	26.3%	21.6%	10.2%
80-84	49	17	44	39	44	33	15
	43.4%	15.0%	38.9%	34.5%	38.9%	29.2%	13.3%
合計	460	232	355	276	309	134	84
	50.4%	25.4%	38.9%	30.2%	33.8%	14.7%	9.2%

	子や孫のた めの支出	趣味やレ ジャー費	生命保険や損 害保険料	家具・家電 の購入費	その他	特にな い	合計
60-64	34	6	61	15	15	11	178
	19.1%	3.4%	34.3%	8.4%	8.4%	6.2%	
65-69	42	8	63	22	11	17	211
	19.9%	3.8%	29.9%	10.4%	5.2%	8.1%	
70-74	50	15	59	27	13	16	244
	20.5%	6.1%	24.2%	11.1%	5.3%	6.6%	
75-79	34	4	32	24	5	12	167
	20.4%	2.4%	19.2%	14.4%	3.0%	7.2%	
80-84	20	5	12	11	4	12	113
	17.7%	4.4%	10.6%	9.7%	3.5%	10.6%	
合計	180	38	227	99	48	68	913
	19.7%	4.2%	24.9%	10.8%	5.3%	7.4%	

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合

表 3-1-2 は日常の支出の中で負担が大きいと感じる項目を年齢 5 区分でクロス集計した結果である。これをみると、日常の支出の中で負担が大きいと感じる項目には次の 3 つのタイプがあることが分かる。一つは年齢区分に関係なく一定の割合の傾向の項目である。これは、「住宅の増改築、設備の修繕の費用」、「交通費、自動車等関係の費用」、「子や孫のための支出」、「趣味やレジャーの費用」、「家具・家電の購入費」が該当する。生活必需項目の購入費や維持費は固定費といえる。二番目は年齢区分が上ると割合が低下する傾向の項目である。これは、「食費、水道光熱費」、「通信・放送受信費」、「生命保険や損害保険などの保険料」が該当する。三番目に年齢区分が上ると割合が増加する傾向の項目である。これは「医療費」、「健康維持のための費用」が該当する。

表3-1-3 性別と1ヶ月の生活費のクロス表

	10万円 未満	10万円 ~15万	15万円 ~20万	20万円 ~25万	25万円 ~30万	30万円 ~35万	35万円 ~40万	40万円 以上	合計
男性	26	72	121	110	60	33	17	10	449
	5.8%	16.0%	26.9%	24.5%	13.4%	7.3%	3.8%	2.2%	100.0%
女性	64	114	119	91	44	21	8	4	465
	13.8%	24.5%	25.6%	19.6%	9.5%	4.5%	1.7%	0.9%	100.0%
合計	90	186	240	201	104	54	25	14	914
	9.8%	20.4%	26.3%	22.0%	11.4%	5.9%	2.7%	1.5%	100.0%

P=0.000 < 0.01

回答者の1ヶ月の生活費については、7割が10万円から25万円の範囲にある。割合が最も大きい金額帯は「15万円~20万円」(26%)である。

表3-1-3は性別と1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費は性別と非常に強い相関関係があり、女性では男性に比べて1ヶ月の生活費が少ない者が多い。

表3-1-4 年齢5区分と1ヶ月の生活費のクロス表

	10万円 未満	10万円 ~15万	15万円 ~20万	20万円 ~25万	25万円 ~30万	30万円 ~35万	35万円 ~40万	40万円 以上	合計
60-64	14	35	34	39	22	16	13	5	178
	7.9%	19.7%	19.1%	21.9%	12.4%	9.0%	7.3%	2.8%	100.0%
65-69	19	41	54	54	28	11	3	1	211
	9.0%	19.4%	25.6%	25.6%	13.3%	5.2%	1.4%	0.5%	100.0%
70-74	21	45	66	60	27	14	5	6	244
	8.6%	18.4%	27.0%	24.6%	11.1%	5.7%	2.0%	2.5%	100.0%
75-79	17	36	53	35	16	6	3	2	168
	10.1%	21.4%	31.5%	20.8%	9.5%	3.6%	1.8%	1.2%	100.0%
80-84	19	29	33	13	11	7	1	0	113
	16.8%	25.7%	29.2%	11.5%	9.7%	6.2%	0.9%	0.0%	100.0%
合計	90	186	240	201	104	54	25	14	914
	9.8%	20.4%	26.3%	22.0%	11.4%	5.9%	2.7%	1.5%	100.0%

P=0.003 < 0.01

表3-1-4は年齢5区分とのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。60代前半では生活費は比較的多いが、年齢区分が上がると生活費は少なくなる傾向がある。たとえば、60代前半では25万円以上が3割強(32%)と相対的に多い。これに対して、60代後半以降では「10万円未満」と「10万円~15万円」が相対的に多い。特に80代前半では「10万円未満」と「10万円~15万円」の合計は4割強(43%)である。

表3-1-5 世帯形態と1ヶ月の生活費のクロス表

	10万円 未満	10万円 ~15万	15万円 ~20万	20万円 ~25万	25万円 ~30万	30万円 ~35万	35万円 ~40万	40万円 以上	合計
一人暮らし	34	34	24	8	4	2	0	0	106
	32.1%	32.1%	22.6%	7.5%	3.8%	1.9%	0.0%	0.0%	100.0%
夫婦のみ	28	69	136	120	68	27	9	12	469
	6.0%	14.7%	29.0%	25.6%	14.5%	5.8%	1.9%	2.6%	100.0%
その他の同 居人あり	27	82	80	73	32	24	16	2	336
	8.0%	24.4%	23.8%	21.7%	9.5%	7.1%	4.8%	0.6%	100.0%
無回答	1	1	0	0	0	1	0	0	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	90	186	240	201	104	54	25	14	914
	9.8%	20.4%	26.3%	22.0%	11.4%	5.9%	2.7%	1.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表3-1-6 現在の経済的な暮らし向きと1ヶ月の生活費のクロス表

	10万円 未満	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
ゆとりがあ り心配ない	10	15	31	19	23	11	5	10	124
	8.1%	12.1%	25.0%	15.3%	18.5%	8.9%	4.0%	8.1%	100.0%
ゆとりない が心配ない	39	96	133	125	56	31	15	4	499
	7.8%	19.2%	26.7%	25.1%	11.2%	6.2%	3.0%	0.8%	100.0%
ゆとりがな く多少心配	36	60	63	57	18	11	4	0	249
	14.5%	24.1%	25.3%	22.9%	7.2%	4.4%	1.6%	0.0%	100.0%
家計苦しく 非常に心配	5	11	12	0	7	1	1	0	37
	13.5%	29.7%	32.4%	0.0%	18.9%	2.7%	2.7%	0.0%	100.0%
その他	0	4	1	0	0	0	0	0	5
	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	90	186	240	201	104	54	25	14	914
	9.8%	20.4%	26.3%	22.0%	11.4%	5.9%	2.7%	1.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表3-1-5は世帯形態とのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費は世帯形態によって分布が大きく異なる。「一人暮らし」では生活費の少ない者が多い。3分の1近く（32%）は10万円未満であり、また9割近く（87%）は20万円未満である。「その他の同居人あり」では生活費が多い者も比較的多い。

表3-1-6は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費は現在の経済的な暮らし向きによって分布が大きく異なる。家計に心配がある者では1ヶ月の生活費が少ない者が多い。たとえば、「家計にゆとりがなく多少心配」では20万円未満の金額帯は64%、「家計が苦しく非常に心配」では20万円未満の金額帯が76%を占める。これに対し、家計に心配がない者では1ヶ月の生活費が多い金額帯の割合が比較的大きい。

3-2 現在の最大の収入源

表3-2-1 年齢5区分と現在の最大の収入源のクロス表

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代 など不動産収入	株式・債券 の配当・利 子・売却益	家族・親 族からの 援助	生活扶 助費	その他	収入は ない	合計
60-64	124	41	5	0	3	0	2	3	178
	69.7%	23.0%	2.8%	0.0%	1.7%	0.0%	1.1%	1.7%	100.0%
65-70	53	147	8	0	2	0	0	1	211
	25.1%	69.7%	3.8%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
70-74	35	191	10	0	0	1	2	5	244
	14.3%	78.3%	4.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	2.0%	100.0%
75-80	8	150	6	1	2	1	0	0	168
	4.8%	89.3%	3.6%	0.6%	1.2%	0.6%	0.0%	0.0%	100.0%
80-84	2	101	6	0	2	1	1	0	113
	1.8%	89.4%	5.3%	0.0%	1.8%	0.9%	0.9%	0.0%	100.0%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100.0%

P=0.000<0.01

表3-2-2 収入を伴う仕事の有無と現在の最大の収入源のクロス表

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代 などの不 動産収入	株式・債券 の配当・利 子・売却益	家族・親 族からの 援助	生活扶 助費	その他	収入は ない	合計
仕事あり	214	193	22	0	3	0	2	1	435
	49.2%	44.4%	5.1%	0.0%	0.7%	0.0%	0.5%	0.2%	100.0%
仕事なし	8	437	13	1	6	3	3	8	479
	1.7%	91.2%	2.7%	0.2%	1.3%	0.6%	0.6%	1.7%	100.0%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100.0%

P=0.000<0.01

表3-2-1は年齢5区分とのクロス集計結果である。現在の最大の収入源は年齢5区分によって大きく異なる。60代前半では「仕事による収入」が7割を占めるが、60代後半以降では「公的年金」が大半である。さらに70代後半以降では9割が公的年金を最大の収入源とする。

表3-2-2は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている者では半数近く（49%）が「仕事による収入」を最大の収入源とするが、仕事をしていない者では9割超が「公的年金」を最大の収入源とする。

表3-2-3 現在の経済的な暮らし向きと現在の最大の収入源のクロス表

	仕事収入	公的年金	家賃・地代などの不動産収入	株式・債券の配当・利子・売却益	家族・親族からの援助	生活扶助費	その他	収入はない	合計
ゆとりあり全く心配なく暮らす	37	68	18	0	0	0	0	1	124
	29.8%	54.8%	14.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	100%
ゆとりはないが心配なく暮らす	119	353	16	1	4	1	3	2	499
	23.8%	70.7%	3.2%	0.2%	0.8%	0.2%	0.6%	0.4%	100%
家計にゆとりがなく多少心配	53	187	1	0	1	1	2	4	249
	21.3%	75.1%	0.4%	0.0%	0.4%	0.4%	0.8%	1.6%	100%
家計が苦しく非常に心配	12	20	0	0	3	0	0	2	37
	32.4%	54.1%	0.0%	0.0%	8.1%	0.0%	0.0%	5.4%	100%
その他	1	2	0	0	1	1	0	0	5
	20%	40%	0%	0%	20%	20%	0%	0%	100%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100%

P=0.000<0.01

表3-2-4 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と現在の最大の収入源のクロス表

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代などの不動産収入	株式・債券の配当・利子・売却益	家族・親族からの援助	生活扶助費	その他	収入はない	合計
良くなった	2	5	2	0	0	0	0	0	9
	22.2%	55.6%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
どちらかといえば良化	24	42	4	0	0	0	0	0	70
	34.3%	60.0%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
どちらかといえば悪化	51	186	7	0	2	1	2	3	252
	20.2%	73.8%	2.8%	0.0%	0.8%	0.4%	0.8%	1.2%	100%
悪くなった	21	42	0	0	0	0	1	2	66
	31.8%	63.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	3.0%	100%
変わらない	124	355	22	1	7	2	2	4	517
	24.0%	68.7%	4.3%	0.2%	1.4%	0.4%	0.4%	0.8%	100%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100%

P=0.362>0.05

表3-2-3は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。回答者の最大の収入源は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らしている」では「公的年金」を最大の収入源とする者は相対的に少なく、「仕事収入」ないし「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者が多い。「家計にゆとりはないがそれほど心配なく暮らしている」と

「家計が多少心配」では「公的年金」を最大の収入源とする者が相対的に多い。「家計が苦しく非常に心配」では「仕事収入」を最大の収入源とする者が相対的に多い。

表 3-2-4 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。検定の結果では最大の収入源は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係はなかった。しかし、経済的な暮らし向きが「良くなった」では「公的年金」を最大の収入源とする者は相対的に少なく、「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者が比較的多いことが注目される。「仕事による収入」を最大の収入源とする者は経済的な暮らし向きが良くなった者にも悪くなった者にも同程度存在する。

表3-2-5 1ヶ月の生活費と現在の最大の収入源のクロス表

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代などの不動産収入	株式・債券の配当・利子・売却益	家族・親族からの援助	生活扶助費	その他	収入はない	合計
10万円未満	17	68	2	1	0	1	0	1	90
	18.9%	75.6%	2.2%	1.1%	0.0%	1.1%	0.0%	1.1%	100%
10万円～15万円	43	129	4	0	4	1	3	2	186
	23.1%	69.4%	2.2%	0.0%	2.2%	0.5%	1.6%	1.1%	100%
15万円～20万円	51	178	7	0	1	0	0	3	240
	21.3%	74.2%	2.9%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.3%	100%
20万円～25万円	48	144	6	0	1	0	1	1	201
	23.9%	71.6%	3.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%	0.5%	100%
25万円～30万円	25	70	4	0	2	0	1	2	104
	24.0%	67.3%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%	1.0%	1.9%	100%
30万円～35万円	18	29	5	0	1	1	0	0	54
	33.3%	53.7%	9.3%	0.0%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	100%
35万円～40万円	14	9	2	0	0	0	0	0	25
	56.0%	36.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
40万円以上	6	3	5	0	0	0	0	0	14
	42.9%	21.4%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100%

P=0.000<0.01

表 3-2-5 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。現在の最大の収入源は 1 ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。生活費の金額が比較的少ない層（「25 万円～30 万円」以下の金額帯）では「公的年金」を最大の収入源とする者が 7 割前後と非常に多い。しかし、1 ヶ月の生活費が高額（「30 万円～35 万円」以上の金額帯）になると「公的年金」を最大の収入源とする者は減少し、「仕事による収入」や「家賃・地代などの不動産収入」が多くなる。特に「公的年金」を最大の収入源とする者は「35 万円～40 万円」で 36%、「40 万円以上」で 21%とかなり少ない。

表3-2-6 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと現在の最大の収入源

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代などの不動産収入	株式・債券の配当・利子・売却益	家族・親族からの援助	生活扶助費	その他	収入はない	合計
十分だと思う	21	88	14	1	0	0	0	1	125
	16.8%	70.4%	11.2%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	100%
少し足りないと思う	72	209	15	0	0	0	1	2	299
	24.1%	69.9%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.7%	100%
かなり足りないと思う	98	183	1	0	2	1	3	4	292
	33.6%	62.7%	0.3%	0.0%	0.7%	0.3%	1.0%	1.4%	100%
わからない	20	108	4	0	2	1	1	1	137
	14.6%	78.8%	2.9%	0.0%	1.5%	0.7%	0.7%	0.7%	100%
貯蓄はしていない	11	42	1	0	5	1	0	1	61
	18.0%	68.9%	1.6%	0.0%	8.2%	1.6%	0.0%	1.6%	100%
合計	222	630	35	1	9	3	5	9	914
	24.3%	68.9%	3.8%	0.1%	1.0%	0.3%	0.5%	1.0%	100%

P=0.000<0.01

表3-2-7 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と現在の最大の収入源

	仕事による収入	公的年金	家賃・地代などの不動産収入	株式・債券の配当・利子・売却益	家族・親族からの援助	生活扶助費	その他	収入はない	合計
十分まかなえている	5	53	3	0	0	0	0	0	61
	8.2%	86.9%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
何とかまかなえている	21	297	5	1	1	1	0	0	326
	6.4%	91.1%	1.5%	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	100%
多少足りない	30	206	10	0	2	0	1	0	249
	12.0%	82.7%	4.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.4%	0.0%	100%
かなり足りない	83	71	16	0	3	2	2	5	182
	45.6%	39.0%	8.8%	0.0%	1.6%	1.1%	1.1%	2.7%	100%
合計	139	627	34	1	6	3	3	5	818
	17.0%	76.7%	4.2%	0.1%	0.7%	0.4%	0.4%	0.6%	100%

P=0.000<0.01

表3-2-6は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。最大の収入源は現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」では「仕事による収入」は相対的に少なく、「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者が比較的多い。これに対して、「かなり足りないと思う」では、「公的年金」はやや少なく、「仕事による収入」を最大の収入源とする者が比較的多い。「貯蓄はしていない」では「仕事による収入」を最大の収入源とする者は相対的に少なく、「公的年金」を最大の収入源とする者が6割超である。

表 3-2-7 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。最大の収入源は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と非常に強い相関関係がある。「十分まかなえている」と「何とかまかなえている」では「公的年金」が9割前後を占める。その反面、公的年金では毎月の生活費が「かなり足りない」では「公的年金」を最大の収入源とする者が4割近くいることも注目される。恐らくは公的年金の金額が低い層だと考えられる。一方で公的年金では「かなり足りない」では「仕事による収入(46%)」や「家賃・地代などの不動産収入(9%)」を最大の収入源とする者が相対的に多い。公的年金では足りない部分を他の収入源で補っているためと考えられる。

3-3 貯蓄の有無と目的

表3-3-1 性別と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
男性	141	7	23	214	14	7	4	39	449
	31.4%	1.6%	5.1%	47.7%	3.1%	1.6%	0.9%	8.7%	100.0%
女性	122	7	16	274	6	5	4	31	465
	26.2%	1.5%	3.4%	58.9%	1.3%	1.1%	0.9%	6.7%	100.0%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100.0%

P=0.048<0.05

表3-3-2 年齢5区分と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
60-64	68	5	10	82	2	4	0	7	178
	38.2%	2.8%	5.6%	46.1%	1.1%	2.2%	0.0%	3.9%	100.0%
65-69	67	0	10	114	4	2	1	13	211
	31.8%	0.0%	4.7%	54.0%	1.9%	0.9%	0.5%	6.2%	100.0%
70-74	52	5	14	130	8	5	3	27	244
	21.3%	2.0%	5.7%	53.3%	3.3%	2.0%	1.2%	11.1%	100.0%
75-79	50	2	4	97	4	0	0	11	168
	29.8%	1.2%	2.4%	57.7%	2.4%	0.0%	0.0%	6.5%	100.0%
80-84	26	2	1	65	2	1	4	12	113
	23.0%	1.8%	0.9%	57.5%	1.8%	0.9%	3.5%	10.6%	100.0%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100.0%

P=0.001<0.01

回答者の大多数は貯蓄を行っていた。「貯蓄はしていない」は8%に過ぎなかった。表 3-3-1 に示されるように、貯蓄目的としては「病気や介護に備える」が53%と最も多く、次いで「普通の生活を維持す

る」の29%であった。その他の理由は非常に少なかった。

貯蓄目的は性別と強い相関関係がある。男性では「普段の生活を維持する」が比較的多い。これに対して、女性では「病気や介護に備える」が比較的多い。

表3-3-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。貯蓄目的は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。「普段の生活を維持する」は60代前半で最も多く、年齢区分が高くなると少なくなる。これに対して、「病気や介護に備える」は60代前半では46%だが、60代後半以降では過半を超える。

表3-3-3 世帯形態と貯蓄目的のクロス表

	普段の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
一人暮らし	28	0	6	54	1	1	1	15	106
	26.4%	0.0%	5.7%	50.9%	0.9%	0.9%	0.9%	14.2%	100%
夫婦のみ	142	7	19	262	7	7	3	22	469
	30.3%	1.5%	4.1%	55.9%	1.5%	1.5%	0.6%	4.7%	100%
その他の同居人あり	93	7	14	170	11	4	4	33	336
	27.7%	2.1%	4.2%	50.6%	3.3%	1.2%	1.2%	9.8%	100%
無回答	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0.016<0.05

表3-3-4 現在の経済的な暮らし向きと貯蓄目的のクロス表

	普段の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
ゆとりがあり心配ない	15	3	18	71	8	4	1	4	124
	12.1%	2.4%	14.5%	57.3%	6.5%	3.2%	0.8%	3.2%	100%
ゆとりがないが心配ない	151	8	16	279	11	5	5	24	499
	30.3%	1.6%	3.2%	55.9%	2.2%	1.0%	1.0%	4.8%	100%
ゆとりがなく多少心配	86	3	5	121	0	3	2	29	249
	34.5%	1.2%	2.0%	48.6%	0.0%	1.2%	0.8%	11.6%	100%
家計苦しく非常に心配	9	0	0	15	1	0	0	12	37
	24.3%	0.0%	0.0%	40.5%	2.7%	0.0%	0.0%	32.4%	100%
その他	2	0	0	2	0	0	0	1	5
	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0<0.01

前頁の表 3-3-3 は世帯形態とのクロス集計結果である。貯蓄の有無と目的は世帯形態によって異なり、「一人暮らし」では貯蓄をしていない者が 14%と比較的多い。「夫婦のみ」では貯蓄をしていない者は 5%と少ない。貯蓄目的では「夫婦のみ」では「病気や介護に備える」が比較的多い。

表 3-3-4 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。貯蓄目的は現在の経済的な暮らし向きによって大きく異なる。「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らしている」では貯蓄をしていない者は極めて少ない。貯蓄目的では「普段の生活の維持」は少なく、「より豊かな生活」と「病気や介護に備える」が比較的多い。「家計にゆとりはないが心配なく暮らしている」では「病気や介護に備える」が比較的多い。「家計にゆとりがなく多少心配」では「普段の生活の維持」が比較的多い。「家計が苦しく非常に心配」では貯蓄をしていない者が 3分の1 近く（32%）を占める。

表3-3-5 1ヶ月の生活費と貯蓄目的のクロス表

	普段の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
10万円未満	13	0	2	55	2	1	1	16	90
	14.4%	0.0%	2.2%	61.1%	2.2%	1.1%	1.1%	17.8%	100%
10万円～15万円	58	1	4	99	4	1	4	15	186
	31.2%	0.5%	2.2%	53.2%	2.2%	0.5%	2.2%	8.1%	100%
15万円～20万円	68	4	10	134	2	3	0	19	240
	28.3%	1.7%	4.2%	55.8%	0.8%	1.3%	0.0%	7.9%	100%
20万円～25万円	72	3	10	102	4	2	1	7	201
	35.8%	1.5%	5.0%	50.7%	2.0%	1.0%	0.5%	3.5%	100%
25万円～30万円	32	3	4	56	3	0	0	6	104
	30.8%	2.9%	3.8%	53.8%	2.9%	0.0%	0.0%	5.8%	100%
30万円～35万円	12	2	5	25	4	1	2	3	54
	22.2%	3.7%	9.3%	46.3%	7.4%	1.9%	3.7%	5.6%	100%
35万円～40万円	7	0	1	10	1	3	0	3	25
	28.0%	0.0%	4.0%	40.0%	4.0%	12.0%	0.0%	12.0%	100%
40万円以上	1	1	3	7	0	1	0	1	14
	7.1%	7.1%	21.4%	50.0%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0<0.01

表 3-3-5 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。貯蓄目的は1ヶ月の生活費の大きさによって大きく異なる。1ヶ月の生活費が「10万円未満」では貯蓄をしていない者が 18%と他の層と比べて最も多く、貯蓄目的では「病気や介護に備える」が 6割を占める。1ヶ月の生活費が 10万円から 30万円の層では大多数が貯蓄をしており、貯蓄目的では「普段の生活の維持」と「病気や介護に備える」の合計が 8割を超える。生活費が 30万円以上の層では「普段の生活の維持」と「病気や介護に備える」はやや少なくなり、その他の目的が多くなる。特に生活費が 40万円以上では「より豊かな生活のため」が 21%と他の層に比べて顕著に多い。

表3-3-6 居住する住宅と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
持ち家	221	11	36	439	18	8	8	50	791
(ローン	27.9%	1.4%	4.6%	55.5%	2.3%	1.0%	1.0%	6.3%	100%
持ち家	25	3	2	26	1	2	0	7	66
(ローン有)	37.9%	4.5%	3.0%	39.4%	1.5%	3.0%	0.0%	10.6%	100%
賃貸住宅	15	0	1	17	0	1	0	8	42
	35.7%	0.0%	2.4%	40.5%	0.0%	2.4%	0.0%	19.0%	100%
公営住宅	0	0	0	2	1	0	0	5	8
	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	62.5%	100%
その他	2	0	0	4	0	1	0	0	7
	28.6%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0.00<0.01

表3-3-7 現在の最大の収入源と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
仕事収入	84	5	11	101	3	6	0	12	222
	37.8%	2.3%	5.0%	45.5%	1.4%	2.7%	0.0%	5.4%	100%
公的年金	162	8	21	362	14	6	7	50	630
	25.7%	1.3%	3.3%	57.5%	2.2%	1.0%	1.1%	7.9%	100%
家賃・地代	11	1	5	15	2	0	0	1	35
	31.4%	2.9%	14.3%	42.9%	5.7%	0.0%	0.0%	2.9%	100%
株式・債券	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
家族・親族の援助	1	0	0	3	0	0	0	5	9
	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	100%
生活扶助費	0	0	1	1	0	0	0	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100%
その他	2	0	0	3	0	0	0	0	5
	40.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
収入はない	3	0	1	2	1	0	1	1	9
	33.3%	0.0%	11.1%	22.2%	11.1%	0.0%	11.1%	11.1%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0<0.01

前頁の表 3-3-6 は居住する住宅とのクロス集計結果である。貯蓄の有無と目的は居住する住宅によって分布が大きく異なる。貯蓄の有無では、借家に住む者では持ち家に住む者に比べて貯蓄をしていない者が多い。とくに「公営住宅」では貯蓄をしていない者は63%と顕著に多い。貯蓄の目的では「住宅ローンを返済中の持ち家」と「賃貸住宅」に住む者では「普段の生活の維持」が比較的多く、「病気や介護の備え」は比較的小さい。

表 3-3-7 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。貯蓄の有無と目的は現在の最大の収入源によって分布が大きく異なる。貯蓄の有無では、「家族・親族の援助」を最大の収入源とする者では貯蓄をしていない者が過半を超える。貯蓄目的では「仕事収入」を最大の収入源とする者では「病気や介護の備え」はやや少なく、「普段の生活の維持」が比較的多い。また「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者では「病気や介護の備え」はやや少なく、「より豊かな生活」が比較的多い。

表3-3-8 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと貯蓄目的のクロス表

	普段の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
十分だと思う	30	4	15	63	7	3	1	2	125
	24.0%	3.2%	12.0%	50.4%	5.6%	2.4%	0.8%	1.6%	100%
少し足りない	89	1	16	174	7	4	2	6	299
	29.8%	0.3%	5.4%	58.2%	2.3%	1.3%	0.7%	2.0%	100%
かなり足りない	102	8	2	166	1	5	3	5	292
	34.9%	2.7%	0.7%	56.8%	0.3%	1.7%	1.0%	1.7%	100%
わからない	39	1	6	81	4	0	2	4	137
	28.5%	0.7%	4.4%	59.1%	2.9%	0.0%	1.5%	2.9%	100%
貯蓄はしていない	3	0	0	4	1	0	0	53	61
	4.9%	0.0%	0.0%	6.6%	1.6%	0.0%	0.0%	86.9%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0<0.01

表 3-3-8 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。貯蓄目的は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって異なる。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者では「より豊かな生活のため」が比較的多く、「家族に財産を残す」もやや多い。「少し足りないと思う」者と「わからない」者では「病気や介護の備え」が比較的多く、「かなり足りないと思う」者では「普段の生活を維持する」が比較的多い。なお現在の貯蓄額の評価で「貯蓄はしていない」と答えた者で貯蓄目的を回答している者が8名いることは矛盾だがそのまま集計した。

次頁の表 3-3-9 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。貯蓄目的は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって明瞭な差がある。とくに「普段の生活の維持」は「十分まかなえている」では少なく、まかなえている程度が低くなると比較的多くなる。また「十分まかなえている」では「病気や介護の備え」と「家族に財産を残す」が比較的多い。「何とかまかなえている」では「病気や介護の備え」が比較的多い。「かなり足りない」では「普段の生活の維持」が比較的多いが、その一方で貯蓄をしていない者も比較的多い。

表3-3-9 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
十分まかなえている	9 14.8%	1 1.6%	3 4.9%	36 59.0%	5 8.2%	4 6.6%	0 0.0%	3 4.9%	61 100%
何とかまかなえている	82 25.2%	3 0.9%	11 3.4%	197 60.4%	10 3.1%	1 0.3%	5 1.5%	17 5.2%	326 100%
多少足りない	75 30.1%	3 1.2%	12 4.8%	132 53.0%	0 0.0%	3 1.2%	1 0.4%	23 9.2%	249 100%
かなり足りない	64 35.2%	4 2.2%	7 3.8%	79 43.4%	4 2.2%	1 0.5%	2 1.1%	21 11.5%	182 100%
合計	230 28.1%	11 1.3%	33 4.0%	444 54.3%	19 2.3%	9 1.1%	8 1.0%	64 7.8%	818 100%

P=0<0.01

表3-3-10 自己負担の介護費用をまかなえそうな程度と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
大体まかなえる	23 19.5%	2 1.7%	13 11.0%	66 55.9%	7 5.9%	3 2.5%	0 0.0%	4 3.4%	118 100%
何とかまかなえる	83 26.9%	2 0.6%	18 5.8%	179 58.1%	7 2.3%	4 1.3%	4 1.3%	11 3.6%	308 100%
多少足りない	53 28.0%	4 2.1%	4 2.1%	107 56.6%	5 2.6%	2 1.1%	3 1.6%	11 5.8%	189 100%
かなり足りない	62 35.0%	3 1.7%	1 0.6%	87 49.2%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	23 13.0%	177 100%
わからない	42 34.4%	3 2.5%	3 2.5%	49 40.2%	1 0.8%	2 1.6%	1 0.8%	21 17.2%	122 100%
合計	263 28.8%	14 1.5%	39 4.3%	488 53.4%	20 2.2%	12 1.3%	8 0.9%	70 7.7%	914 100%

P=0.00<0.01

表 3-3-10 は自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用とは介護保険給付でカバーされない部分の費用を指す。貯蓄目的は自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうだと思うかによって大きな違いがある。特に「普通の生活の維持」は「大体まかなえると思う」では少ないが、まかなえそうな程度が低下すると多くなる。「かなり足りないと思う」と「わからない」では「普通の生活の維持」が比較的多い。一方で「大体まかなえると思う」では「より豊かな生活」と「家族に財産を残す」も比較的多い。また「かなり足りないと思う」と「わからない」で貯蓄をしていない者が比較的多い。

表3-3-11 地域の社会活動への参加の有無と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
参加している	66 21.7%	5 1.6%	17 5.6%	184 60.5%	11 3.6%	5 1.6%	0 0.0%	16 5.3%	304 100%
参加していない	197 32.3%	9 1.5%	22 3.6%	304 49.8%	9 1.5%	7 1.1%	8 1.3%	54 8.9%	610 100%
合計	263 28.8%	14 1.5%	39 4.3%	488 53.4%	20 2.2%	12 1.3%	8 0.9%	70 7.7%	914 100%

P=0.00<0.01

表3-3-12 近隣の人とのつきあいの有無と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
ある	217 27.8%	8 1.0%	33 4.2%	433 55.5%	17 2.2%	9 1.2%	6 0.8%	57 7.3%	780 100%
ない	46 34.3%	6 4.5%	6 4.5%	55 41.0%	3 2.2%	3 2.2%	2 1.5%	13 9.7%	134 100%
合計	263 28.8%	14 1.5%	39 4.3%	488 53.4%	20 2.2%	12 1.3%	8 0.9%	70 7.7%	914 100%

P=0.014<0.05

表3-3-13 現在の健康状態と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
よい	21 19.6%	1 0.9%	9 8.4%	63 58.9%	6 5.6%	3 2.8%	0 0.0%	4 3.7%	107 100%
まあよい	66 27.2%	4 1.6%	12 4.9%	133 54.7%	7 2.9%	3 1.2%	2 0.8%	16 6.6%	243 100%
普通	128 33.3%	6 1.6%	13 3.4%	198 51.6%	4 1.0%	3 0.8%	2 0.5%	30 7.8%	384 100%
あまりよくない	39 25.0%	3 1.9%	5 3.2%	85 54.5%	3 1.9%	2 1.3%	4 2.6%	15 9.6%	156 100%
よくない	8 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	9 40.9%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	4 18.2%	22 100%
合計	263 28.8%	14 1.5%	39 4.3%	488 53.4%	20 2.2%	12 1.3%	8 0.9%	70 7.7%	914 100%

P=0.055>0.05

表 3-3-1 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。貯蓄目的は地域の社会活動へ

の参加の有無と強い相関関係があり、地域の社会活動に参加している者では参加していない者に比べると「普段の生活の維持」が少なく、「病気や介護の備え」が多い。

表 3-3-12 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。貯蓄目的は近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係があり、近隣の人とのつきあいがある者ではない者と比べると「普段の生活の維持」が少なく、「病気や介護の備え」が多い。

表 3-3-13 は健康状態とのクロス集計結果である。検定の結果では貯蓄目的は健康状態と強い相関関係はなかったが、健康状態の良し悪しで対照的な結果が出ている。健康状態が「よい」者では「普段の生活の維持」が比較的少なく、「病気や介護の備え」が比較的多い。これに対して、健康状態が「よくない」者では「普段の生活の維持」が比較的多く、「病気や介護の備え」が比較的少ない。

表3-3-14 生きがいを感じる程度と貯蓄目的のクロス表

	普段の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
十分に感じている	61	6	16	133	7	5	1	12	241
	25.3%	2.5%	6.6%	55.2%	2.9%	2.1%	0.4%	5.0%	100%
多少は感じている	145	5	20	262	9	4	3	31	479
	30.3%	1.0%	4.2%	54.7%	1.9%	0.8%	0.6%	6.5%	100%
あまり感じてない	45	3	3	73	3	2	2	17	148
	30.4%	2.0%	2.0%	49.3%	2.0%	1.4%	1.4%	11.5%	100%
まったく感じない	3	0	0	5	0	0	0	5	13
	23.1%	0.0%	0.0%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	100%
わからない	9	0	0	15	1	1	2	5	33
	27.3%	0.0%	0.0%	45.5%	3.0%	3.0%	6.1%	15.2%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

$P=0.003<0.01$

表 3-3-14 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。貯蓄目的は普段の生活や仕事に生きがいをどの程度感じているかと非常に強い相関関係がある。生きがいを「十分に感じている」では「普段の生活の維持」がやや少なく、「旅行や大きな買物」、「より豊かな生活」、「病気や介護の備え」がやや多い。これに対して、生きがいを「まったく感じていない」では貯蓄をしていない者が 39%と相対的にかなり多く、「普段の生活の維持」と「病気や介護の備え」は共に比較的少ない。また生きがいをどの程度感じるか「わからない」と答える者でも「普段の生活の維持」と「病気や介護の備え」は共に比較的少ない。

次頁の表 3-3-15 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。貯蓄目的とこれまでの人生の満足度は非常に強い相関関係がある。これまでの人生に「かなり満足している」では、「病気や介護の備え」はやや少なく、「普段の生活の維持」、「旅行や大きな買物」、「より豊かな生活」が比較的多い。これに対して、「大いに不満」では「普段の生活の維持」は少なく、「病気や介護の備え」が比較的多い一方で、貯蓄をしていない者も比較的多い。

表3-3-15 これまでの人生の満足度と貯蓄目的のクロス表

	普通の生活の維持	旅行や大きな買物	より豊かな生活	病気や介護の備え	家族に財産を残す	その他	わからない	貯蓄していない	合計
かなり満足	32	4	9	48	1	5	0	2	101
	31.7%	4.0%	8.9%	47.5%	1.0%	5.0%	0.0%	2.0%	100%
まあまあ満足	167	8	26	328	17	4	6	33	589
	28.4%	1.4%	4.4%	55.7%	2.9%	0.7%	1.0%	5.6%	100%
やや不満	38	0	1	63	1	2	1	12	118
	32.2%	0.0%	0.8%	53.4%	0.8%	1.7%	0.8%	10.2%	100%
大いに不満	4	0	0	13	0	0	0	5	22
	18.2%	0.0%	0.0%	59.1%	0.0%	0.0%	0.0%	22.7%	100%
どちらともいえず	22	2	3	36	1	1	1	17	83
	26.5%	2.4%	3.6%	43.4%	1.2%	1.2%	1.2%	20.5%	100%
合計	263	14	39	488	20	12	8	70	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	2.2%	1.3%	0.9%	7.7%	100%

P=0.00<0.01

3-4 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合にどう思うか

今回の調査では、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合にどのように思うかを尋ねた。単純集計結果は、「十分だと思う」が14%、「少し足りないと思う」が33%、「かなり足りないと思う」が32%、「わからない」が15%、「貯蓄はしていない」が7%だった。

表3-4-1 性別と現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うか

	十分だと思う	少し足りない	かなり足りない	わからない	貯蓄していない	合計
男性	57	156	147	59	30	449
	12.7%	34.7%	32.7%	13.1%	6.7%	100%
女性	68	143	145	78	31	465
	14.6%	30.8%	31.2%	16.8%	6.7%	100%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100%

P=0.417>0.05

表3-4-1は性別とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは性別と強い相関関係はなく、回答分布は性別で大差はなかった。

次頁の表3-4-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは年齢5区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が上がると、現在の貯蓄額を今後の備えとして足りないと思う者が少なくなり、十分だと思う者が多くなる。このことは興味深い傾向である。

表3-4-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは配偶者の有無と非常に強い相関関係がある。無配偶者では有配偶者と比べて足りないと思う者が少ない一方で、貯蓄をしていない者がかなり多い。

表3-4-2 年齢5区分と現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うか

	十分だと思う	少し足りない	かなり足りない	わからない	貯蓄してない	合計
60-64	12	65	77	18	6	178
	6.7%	36.5%	43.3%	10.1%	3.4%	100.0%
65-69	29	70	70	29	13	211
	13.7%	33.2%	33.2%	13.7%	6.2%	100.0%
70-74	34	82	74	35	19	244
	13.9%	33.6%	30.3%	14.3%	7.8%	100.0%
75-79	27	47	50	31	13	168
	16.1%	28.0%	29.8%	18.5%	7.7%	100.0%
80-84	23	35	21	24	10	113
	20.4%	31.0%	18.6%	21.2%	8.8%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P=0.001<0.01

表3-4-3 配偶者の有無と現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うか

	十分だと思う	少し足りない	かなり足りない	わからない	貯蓄してない	合計
有配偶	102	252	245	109	35	743
	13.7%	33.9%	33.0%	14.7%	4.7%	100.0%
無配偶	23	47	47	28	26	171
	13.5%	27.5%	27.5%	16.4%	15.2%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-4 収入を伴う仕事の有無と貯蓄額を今後の備えとしてどう思うか

	十分だと思う	少し足りない	かなり足りない	わからない	貯蓄してない	合計
仕事あり	47	141	165	48	34	435
	10.8%	32.4%	37.9%	11.0%	7.8%	100%
仕事なし	78	158	127	89	27	479
	16.3%	33.0%	26.5%	18.6%	5.6%	100%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-4は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは収入を伴う仕事の有無と非常に強い相関関係がある。収入を伴う仕事をしている者では仕事をしていない者に比べて「かなり足りないと思う」が多い。

表3-4-5 現在の経済的な暮らし向きと現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うか

	十分だと思 う	少し足り ない	かなり足 りない	わから ない	貯蓄はし ていない	合計
家計にゆとりがあり全く心 配なく暮らしている	71	32	5	14	2	124
	57.3%	25.8%	4.0%	11.3%	1.6%	100.0%
家計にあまりゆとりはない がそれほど心配なく暮らす	52	213	107	105	22	499
	10.4%	42.7%	21.4%	21.0%	4.4%	100.0%
家計にゆとりがなく多少心 配	1	53	156	15	24	249
	0.4%	21.3%	62.7%	6.0%	9.6%	100.0%
家計が苦しく非常に心配	0	0	24	1	12	37
	0.0%	0.0%	64.9%	2.7%	32.4%	100.0%
その他	1	1	0	2	1	5
	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	20.0%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-6 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス表

	十分だと思 う	少し足り ないと思 う	かなり足 りないと思 う	わから ない	貯蓄はし ていない	合計
良くなった	5	3	1	0	0	9
	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえ ば良くなった	10	30	17	6	7	70
	14.3%	42.9%	24.3%	8.6%	10.0%	100.0%
どちらかといえ ば悪くなった	16	81	111	26	18	252
	6.3%	32.1%	44.0%	10.3%	7.1%	100.0%
悪くなった	0	8	42	8	8	66
	0.0%	12.1%	63.6%	12.1%	12.1%	100.0%
変わらない	94	177	121	97	28	517
	18.2%	34.2%	23.4%	18.8%	5.4%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 3-4-5 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは経済的な暮らし向きによって明瞭な相違がある。現在の貯蓄額を十分だと思者は家計にゆとりがある者では 57%だが、あまりゆとりがないがそれほど心配ない者では 10%、「家計にゆとりがなく多少心配」では 0.4%、「家計が苦しく非常に心配」ではゼロである。これに対して、現在の貯蓄額をかなり足りないと思者は、家計にゆとりがある者で 11%、ゆとりはないが心配はない者で 21%だが、ゆとりがなく多少心配がある者で 63%、家計が苦しく非常に心配な者では 65%である。家

計が苦しく非常に心配な者では貯蓄をしていない者が32%とかなり大きな割合を占める。

表3-4-6は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは経済的な暮らし向きの変化によって大きく異なる。特に暮らし向きがよくなった者と悪くなった者では大きな差がある。具体的には、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者の割合は、1年前と比べた経済的な暮らし向きが「良くなった」で56%と半分を大きく超えるが、「変わらない」で18%、「どちらかといえば良くなった」で14%、「どちらかといえば悪くなった」で6%、「悪くなった」ではゼロである。これに対して、現在の貯蓄額を「かなり足りないと思う」の割合は、「良くなった」では11%だが、「変わらない」で18%、「どちらかといえば良くなった」で24%、「どちらかといえば悪くなった」で44%、「悪くなった」では64%を占める。

表3-4-7 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス表

	十分だと思う	少し足りないと思う	かなり足りないと思う	わからない	貯蓄はしていない	合計
ある	63	167	168	63	24	485
	13.0%	34.4%	34.6%	13.0%	4.9%	100.0%
ない	56	115	88	51	26	336
	16.7%	34.2%	26.2%	15.2%	7.7%	100.0%
わからない	6	17	36	23	11	93
	6.5%	18.3%	38.7%	24.7%	11.8%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-7は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計表である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは暮らし向きに対するコロナの影響の有無と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者はコロナの影響がない者に比較的多く、現在の貯蓄額を「かなり足りないと思う」者はコロナの影響がある者と「わからない」者に比較的多い。

表3-4-8 1ヶ月の生活費と貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思 う	かなり足り ないと思 う	わから ない	貯蓄はし ていない	合計
10万円未満	8	19	33	16	14	90
	8.9%	21.1%	36.7%	17.8%	15.6%	100.0%
10万円～15万円	18	59	67	28	14	186
	9.7%	31.7%	36.0%	15.1%	7.5%	100.0%
15万円～20万円	32	83	73	35	17	240
	13.3%	34.6%	30.4%	14.6%	7.1%	100.0%
20万円～25万円	30	76	61	28	6	201
	14.9%	37.8%	30.3%	13.9%	3.0%	100.0%
25万円～30万円	14	39	31	15	5	104
	13.5%	37.5%	29.8%	14.4%	4.8%	100.0%
30万円～35万円	12	12	20	8	2	54
	22.2%	22.2%	37.0%	14.8%	3.7%	100.0%
35万円～40万円	4	8	7	4	2	25
	16.0%	32.0%	28.0%	16.0%	8.0%	100.0%
40万円以上	7	3	0	3	1	14
	50.0%	21.4%	0.0%	21.4%	7.1%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.002 < 0.01

表3-4-8は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは1ヶ月の生活費の大きさによって大きな相違がある。生活費の金額が多い者では十分だと思
う者が比較的多いが、生活費の金額が少ない者では十分だと思
う者は少なく、足りないと思
う者が多い。たとえば、現在の貯蓄額を「十分だと思
う」は「40万円以上」では50%だが、「10万円～15万円」で10%、「10万円未満」では9%である。これに対して、「かなり足りないと思
う」は「40万円以上」では皆無だが、「10万円～15万円」で36%、「10万円未満」で37%である。「10万円未満」ではそもそも貯蓄をしていない者が16%と比較的多い。

次頁の表3-4-9は今後の生活の備えとして必要だと思
う貯蓄額とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは必要だと思
う貯蓄額と非常に強い相関関係がある。今後の生活の備えとして必要だと思
う貯蓄額が多い者では現在の貯蓄額を十分だと思
う者が比較的多い。逆に必要だと思
う貯蓄額が少ない者では十分だと思
う者は少なく、かなり足りないと思
う者が比較的多い。たとえば、「十分だと思
う」は今後の生活の備えとして必要だと思
う貯蓄額が「4000万円～5000万円」で34%、「5000万円以上」で29%だが、「100万円～500万円」で5%、「500万円～1000万円」では7%である。これに対して、「かなり足りないと思
う」は「4000万円～5000万円」で25%、「5000万円以上」で27%だが、「100万円～500万円」で33%、「500万円～1000万円」で42%である。必要だと思
う貯蓄額が「100万円～500万円」ではそもそも貯蓄をしていない者が27%とかなり多い。なお必要だと思
う貯蓄額が「1500万円～2000万円」では「十分だと思
う」は6%であり、「少し足りないと思
う」が40%、

「かなり足りないと思う」が39%だった。

表3-4-9 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思 う	かなり足り ないと思 う	わからな い	貯蓄はし ていない	合計
100万円～500万円	2	13	13	1	11	40
	5.0%	32.5%	32.5%	2.5%	27.5%	100.0%
500万円～1000万円	8	36	48	12	10	114
	7.0%	31.6%	42.1%	10.5%	8.8%	100.0%
1000万円～1500万円	9	51	62	16	4	142
	6.3%	35.9%	43.7%	11.3%	2.8%	100.0%
1500万円～2000万円	9	66	64	22	3	164
	5.5%	40.2%	39.0%	13.4%	1.8%	100.0%
2000万円～3000万円	45	76	58	28	2	209
	21.5%	36.4%	27.8%	13.4%	1.0%	100.0%
3000万円～4000万円	22	28	15	11	2	78
	28.2%	35.9%	19.2%	14.1%	2.6%	100.0%
4000万円～5000万円	11	9	8	4	0	32
	34.4%	28.1%	25.0%	12.5%	0.0%	100.0%
5000万円以上	12	12	11	5	1	41
	29.3%	29.3%	26.8%	12.2%	2.4%	100.0%
わからない	7	8	13	38	28	94
	7.4%	8.5%	13.8%	40.4%	29.8%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-10 地域の社会活動への参加の有無とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな い	かなり足り ない	わからな い	貯蓄して ない	合計
参加して いる	44	113	78	55	14	304
	14.5%	37.2%	25.7%	18.1%	4.6%	100.0%
参加して いない	81	186	214	82	47	610
	13.3%	30.5%	35.1%	13.4%	7.7%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.006 < 0.01

表 3-4-10 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは地域の社会活動への参加の有無と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を十分だと思う者は地域の社会活動に参加している者にやや多く、かなり足りないと思う者は地域の社会活動に参加していない者に多い。

表3-4-11 近隣の人とのつきあいの有無とのクロス表

	十分だと思う	少し足りない	かなり足りない	わからない	貯蓄してない	合計
ある	115	251	235	127	52	780
	14.7%	32.2%	30.1%	16.3%	6.7%	100.0%
ない	10	48	57	10	9	134
	7.5%	35.8%	42.5%	7.5%	6.7%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.003 < 0.01

表3-4-12 現在の健康状態とのクロス表

	十分だと思う	少し足りないと思う	かなり足りないと思う	わからない	貯蓄はしていない	合計
よい	23	40	26	16	2	107
	21.5%	37.4%	24.3%	15.0%	1.9%	100.0%
まあよい	43	88	61	39	12	243
	17.7%	36.2%	25.1%	16.0%	4.9%	100.0%
普通	43	122	135	55	29	384
	11.2%	31.8%	35.2%	14.3%	7.6%	100.0%
あまりよくない	15	41	63	23	14	156
	9.6%	26.3%	40.4%	14.7%	9.0%	100.0%
よくない	1	8	6	4	3	22
	4.5%	36.4%	27.3%	18.2%	13.6%	100.0%
無回答	0	0	1	0	1	2
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.002 < 0.01

表 3-4-11 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは近隣の人とのつきあいの有無と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を「十分だと思う」は近隣の人とのつきあいがある者に多く、「かなり足りないと思う」はつきあいのない者に多い。

表 3-4-12 は健康状態とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは現在の健康状態と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を「十分だと思う」者は健康状態が「よい」と「まあよい」に比較的多く、「あまりよくない」と「よくない」では少ない。現在の貯蓄額を「かなり足りないと思う」者は健康状態が「あまりよくない」に比較的多い。また貯蓄をしていない者は健康状態が「よくない」者にやや多い。

表3-4-13 居住する住宅とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思 う	かなり足り ないと思 う	わからな い	貯蓄はし ていない	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	123 15.5%	261 33.0%	240 30.3%	125 15.8%	42 5.3%	791 100.0%
持ち家（住宅 ローン返済中）	1 1.5%	19 28.8%	33 50.0%	5 7.6%	8 12.1%	66 100.0%
賃貸住宅	1 2.4%	16 38.1%	15 35.7%	3 7.1%	7 16.7%	42 100.0%
公営住宅	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	4 50.0%	8 100.0%
その他	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%	0 0.0%	7 100.0%
合計	125 13.7%	299 32.7%	292 31.9%	137 15.0%	61 6.7%	914 100.0%

P = 0.000 < 0.01

表3-4-14 生きがいを感じる程度とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思 う	かなり足り ないと思 う	わからな い	貯蓄はし ていない	合計
十分に感じている	61 25.3%	80 33.2%	55 22.8%	39 16.2%	6 2.5%	241 100.0%
多少は感じている	48 10.0%	174 36.3%	164 34.2%	63 13.2%	30 6.3%	479 100.0%
あまり感じていな い	14 9.5%	38 25.7%	60 40.5%	20 13.5%	16 10.8%	148 100.0%
まったく感じてい ない	0 0.0%	2 15.4%	5 38.5%	1 7.7%	5 38.5%	13 100.0%
わからない	2 6.1%	5 15.2%	8 24.2%	14 42.4%	4 12.1%	33 100.0%
合計	125 13.7%	299 32.7%	292 31.9%	137 15.0%	61 6.7%	914 100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 3-4-13 は居住する住宅とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは居住する住宅と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を「十分だと思」者は住宅ローンの返済がない持ち家に住む者に多く、その他の住宅にはほとんどいない。「かなり足りないと思」は住宅ローンを返済中の持ち家に住む者でかなり多く、半数を占める。貯蓄をしていない者は「公営住宅」に住む者にかなり多く、これも半数を占める。

表 3-4-14 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えと

してどう思うかは普段の生活や仕事にどの程度生きがいを感じているかによって異なる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」と「少し足りないと思う」は何らかの程度で生きがいを感じている者に比較的多く、何らかの程度生きがいを感じていない者に少ない。逆に「かなり足りないと思う」は生きがいを感じていない者に比較的多く、生きがいを感じている者には比較的少ない。貯蓄をしていない者は生きがいを「まったく感じていない」者でかなり多く、39%を占めている。

表3-4-15 これまでの人生の満足度とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思 う	かなり足り ないと思 う	わからな い	貯蓄はし ていない	合計
かなり満足	31	29	21	19	1	101
	30.7%	28.7%	20.8%	18.8%	1.0%	100.0%
まあまあ満足	80	210	183	88	28	589
	13.6%	35.7%	31.1%	14.9%	4.8%	100.0%
やや不満	8	38	50	10	12	118
	6.8%	32.2%	42.4%	8.5%	10.2%	100.0%
大いに不満	0	7	10	1	4	22
	0.0%	31.8%	45.5%	4.5%	18.2%	100.0%
どちらともい えない	6	15	28	19	15	83
	7.2%	18.1%	33.7%	22.9%	18.1%	100.0%
無回答	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 3-4-15 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかはこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を「十分だと思う」はこれまでの人生に「満足している」者に顕著に多く、「かなり足りないと思う」は「やや不満」と「大いに不満」である者に比較的多い。貯蓄をしていない者は「大いに不満」と「わからない」に比較的多い。

次頁の表 3-4-6 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかは現在の幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者では「十分だと思う」が比較的多く「かなり足りないと思う」は比較的少ない。幸福度の点数が低い者では「十分だと思う」は少なく、貯蓄をしていない者が比較的多い。

表3-4-16 現在の幸福度とのクロス表

	十分だと思 う	少し足りな いと思う	かなり足り ないと思う	わからな い	貯蓄はし ていない	合計
10点	25	31	23	17	1	97
	25.8%	32.0%	23.7%	17.5%	1.0%	100.0%
9点	18	27	19	15	5	84
	21.4%	32.1%	22.6%	17.9%	6.0%	100.0%
8点	39	110	71	41	10	271
	14.4%	40.6%	26.2%	15.1%	3.7%	100.0%
7点	22	61	62	25	11	181
	12.2%	33.7%	34.3%	13.8%	6.1%	100.0%
6点	8	36	46	16	10	116
	6.9%	31.0%	39.7%	13.8%	8.6%	100.0%
5点	11	25	56	21	15	128
	8.6%	19.5%	43.8%	16.4%	11.7%	100.0%
4点	1	3	9	2	4	19
	5.3%	15.8%	47.4%	10.5%	21.1%	100.0%
3点	1	3	2	0	2	8
	12.5%	37.5%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
2点	0	1	1	0	1	3
	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
1点	0	1	1	0	1	3
	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
0点	0	1	1	0	0	2
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	1	0	1	2
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	125	299	292	137	61	914
	13.7%	32.7%	31.9%	15.0%	6.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

3-5 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額

この調査では今後の生活の備えとしてどれくらいの貯蓄が必要だと考えているかを尋ねた。次頁の表3-5-1はその集計結果である。最も多い金額帯は「2000万円～3000万円」(23%)だった。次いで「1500万円～2000万円」(18%)、「1000万円～1500万円」(16%)、「500万円～1000万円」(13%)、「3000万円～4000万円」(9%)と続いた。なお今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は性別とは強い相関関係はなく、その分布は性別で大差なかった

表3-5-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。検定の結果では、年齢5区分と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額の間には有意な相関関係がなかったが、年齢区分が高くなると今後の生活の

備えとして必要だと考える貯蓄額は少なくなる傾向がある。たとえば、「60～64」歳層では、「1500万円～2000万円」と「2000万円～3000万円」が中心の金額帯だが、「80～84」歳層では、「500万円～1000万円」と「1000万円～1500万円」が中心の金額帯になっている。

表3-5-1 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額

	回答数	割合
100万円～500万円	40	4.4%
500万円～1000万円	114	12.5%
1000万円～1500万円	142	15.5%
1500万円～2000万円	164	17.9%
2000万円～3000万円	209	22.9%
3000万円～4000万円	78	8.5%
4000万円～5000万円	32	3.5%
5000万円以上	41	4.5%
わからない	94	10.3%
合計	914	100.0%

3-5-2 年齢5区分と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
60-64	8	13	19	33	50	19	10	10	16	178
	4.5%	7.3%	10.7%	18.5%	28.1%	10.7%	5.6%	5.6%	9.0%	100%
65-69	8	21	28	46	44	19	9	14	22	211
	3.8%	10.0%	13.3%	21.8%	20.9%	9.0%	4.3%	6.6%	10.4%	100%
70-74	11	30	46	37	61	20	7	9	23	244
	4.5%	12.3%	18.9%	15.2%	25.0%	8.2%	2.9%	3.7%	9.4%	100%
75-79	6	25	27	33	34	12	5	5	21	168
	3.6%	14.9%	16.1%	19.6%	20.2%	7.1%	3.0%	3.0%	12.5%	100%
80-84	7	25	22	15	20	8	1	3	12	113
	6.2%	22.1%	19.5%	13.3%	17.7%	7.1%	0.9%	2.7%	10.6%	100%
合計	40	114	142	164	209	78	32	41	94	914
	4.4%	12.5%	15.5%	17.9%	22.9%	8.5%	3.5%	4.5%	10.3%	100%

$P=0.078 > 0.05$

次頁の表 3-5-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は配偶者の有無と非常に強い相関関係がある。配偶者がいない者では必要だと思う貯蓄額は配偶者がいる者に比べて少ない金額帯に分布が多く、「わからない」も比較的多い。

表3-5-3 配偶者の有無と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
有配偶	25	88	117	135	171	72	30	38	67	743
	3.4%	11.8%	15.7%	18.2%	23.0%	9.7%	4.0%	5.1%	9.0%	100%
無配偶	15	26	25	29	38	6	2	3	27	171
	8.8%	15.2%	14.6%	17.0%	22.2%	3.5%	1.2%	1.8%	15.8%	100%
合計	40	114	142	164	209	78	32	41	94	914
	4.4%	12.5%	15.5%	17.9%	22.9%	8.5%	3.5%	4.5%	10.3%	100%

P=0.000<0.01

表3-5-4 子の有無と今後の生活の備えとして必要な貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
いる	37	110	137	150	190	72	30	40	90	856
	4.3%	12.9%	16.0%	17.5%	22.2%	8.4%	3.5%	4.7%	10.5%	100%
いない	3	4	5	14	19	6	2	1	4	58
	5.2%	6.9%	8.6%	24.1%	32.8%	10.3%	3.4%	1.7%	6.9%	100%
合計	40	114	142	164	209	78	32	41	94	914
	4.4%	12.5%	15.5%	17.9%	22.9%	8.5%	3.5%	4.5%	10.3%	100%

P=0.302>0.05

表3-5-5 世帯形態と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
一人暮らし	10	16	18	14	25	3	2	3	15	106
	9.4%	15.1%	17.0%	13.2%	23.6%	2.8%	1.9%	2.8%	14.2%	100%
夫婦のみ	12	49	81	82	122	42	19	28	34	469
	2.6%	10.4%	17.3%	17.5%	26.0%	9.0%	4.1%	6.0%	7.2%	100%
他の同居 人あり	18	48	43	68	61	32	11	10	45	336
	5.4%	14.3%	12.8%	20.2%	18.2%	9.5%	3.3%	3.0%	13.4%	100%
無回答	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3
	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	40	114	142	164	209	78	32	41	94	914
	4.4%	12.5%	15.5%	17.9%	22.9%	8.5%	3.5%	4.5%	10.3%	100%

P=0.002<0.05

表3-5-4は子の有無とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は子の有無と強い相関関係はなかったが、子がいる者ではない者に比べて必要だと思う貯蓄額が少ない金額帯に分布が比較的多い。

表3-5-5は世帯形態とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は世帯

形態と強い相関関係がある。「一人暮らし」では必要だと思う貯蓄額は少ない金額帯（1000万円未満）に比較的多く分布し、「夫婦のみ」ではやや多い金額帯（2000万円以上）に分布が比較的多い。

表3-5-6 現在の経済的な暮らし向きと今後の生活の備えとして必要な貯蓄額のクロス

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 以上	わから ない	合計
ゆとりがあ り心配ない	2 1.6%	5 4.0%	11 8.9%	9 7.3%	39 31.5%	18 14.5%	13 10.5%	18 14.5%	9 7.3%	124 100%
ゆとりない が心配ない	14 2.8%	59 11.8%	79 15.8%	86 17.2%	129 25.9%	52 10.4%	15 3.0%	17 3.4%	48 9.6%	499 100%
ゆとりがな く多少心配	23 9.2%	42 16.9%	44 17.7%	62 24.9%	33 13.3%	7 2.8%	4 1.6%	6 2.4%	28 11.2%	249 100%
家計苦しく 非常に心配	1 2.7%	8 21.6%	8 21.6%	6 16.2%	7 18.9%	1 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 16.2%	37 100%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	5 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000<0.01

表3-5-7 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 以上	わから ない	合計
良くなった	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	9 100%
どちらかと いえば良化	3 4.3%	13 18.6%	18 25.7%	10 14.3%	10 14.3%	4 5.7%	5 7.1%	2 2.9%	5 7.1%	70 100%
どちらかと いえば悪化	16 6.3%	34 13.5%	37 14.7%	58 23.0%	48 19.0%	22 8.7%	4 1.6%	11 4.4%	22 8.7%	252 100%
悪くなった	2 3.0%	7 10.6%	14 21.2%	8 12.1%	21 31.8%	1 1.5%	3 4.5%	2 3.0%	8 12.1%	66 100%
変わらない	18 3.5%	58 11.2%	73 14.1%	87 16.8%	129 25.0%	50 9.7%	20 3.9%	24 4.6%	58 11.2%	517 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.020<0.05

表3-5-6は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配がない者では必要だと思う貯蓄額は比較的高い金額帯に分布が多い。たとえば、家計にゆとりがあり全く心配なく暮らして

いる者では3000万円以上が4割を占め、2000万円以上では7割を超える。これに対し、家計に心配がある者では必要だと思う貯蓄額は比較的少ない金額帯により多く分布する。たとえば、家計にゆとりがなく多少心配な者では2000万円未満が7割弱(69%)、家計が苦しく非常に心配な者では2000万円未満は62%で、「わからない」が16%と比較的多い。

表3-5-7は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係がある。1年前と比べて経済的な暮らし向きが「良くなった」者では必要だと思う貯蓄額は1000万円未満が比較的多いが、5000万円以上も比較的多い。「どちらかといえば良くなった」では「500万円～1000万円」と「1000万円～1500万円」が比較的多い。「どちらかといえば悪くなった」では「1500万円～2000万円」が比較的多い。「悪くなった」では「2000万円～3000万円」が比較的多い。

表3-5-8 1ヶ月の生活費と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 以上	わから ない	合計
10万円 未満	8 8.9%	22 24.4%	17 18.9%	15 16.7%	10 11.1%	2 2.2%	2 2.2%	2 2.2%	12 13.3%	90 100%
10万円 ～15万	8 4.3%	25 13.4%	35 18.8%	43 23.1%	36 19.4%	9 4.8%	1 0.5%	3 1.6%	26 14.0%	186 100%
15万円 ～20万	15 6.3%	31 12.9%	36 15.0%	46 19.2%	56 23.3%	20 8.3%	6 2.5%	7 2.9%	23 9.6%	240 100%
20万円 ～25万	5 2.5%	22 10.9%	30 14.9%	34 16.9%	54 26.9%	23 11.4%	5 2.5%	12 6.0%	16 8.0%	201 100%
25万円 ～30万	2 1.9%	6 5.8%	18 17.3%	17 16.3%	28 26.9%	8 7.7%	10 9.6%	4 3.8%	11 10.6%	104 100%
30万円 ～35万	1 1.9%	6 11.1%	2 3.7%	7 13.0%	17 31.5%	9 16.7%	3 5.6%	4 7.4%	5 9.3%	54 100%
35万円 ～40万	0 0.0%	2 8.0%	4 16.0%	1 4.0%	7 28.0%	5 20.0%	4 16.0%	2 8.0%	0 0.0%	25 100%
40万円 以上	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	2 14.3%	1 7.1%	7 50.0%	1 7.1%	14 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000<0.01

表3-5-8は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は1ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。傾向としては、今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額の中心の金額帯は生活費が少ない者では少なく、生活費が多い多い者では多い。たとえば、1ヶ月の生活費が10万円未満の者では、中心の金額帯は「500万円～1000万円(24%)」「1000万円～1500万円(19%)」「1500万円～2000万円(17%)」であり、1ヶ月の生活費が「10万円～15万円」「15万円～20万円」「20万円～25万円」「25万円～30万円」では、中心の金額帯は「1000万円～1500

万円」「1500万円～2000万円」「2000万円～3000万円」である。さらに1ヶ月の生活費が「30万円～35万円」では中心の金額帯は「1500万円～2000万円」「2000万円～3000万円」「3000万円～4000万円」になり、「35万円～40万円」では中心の金額帯は「2000万円～3000万円」「3000万円～4000万円」「4000万円～5000万円」となっている。1ヶ月の生活費が40万円以上の者では、半数が「5000万円以上」と答えている。

表3-5-9 現在の最大の収入源と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額

	100万～ 500万円	500万 ～1000	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
仕事収入	6	25	29	42	58	22	10	14	16	222
	2.7%	11.3%	13.1%	18.9%	26.1%	9.9%	4.5%	6.3%	7.2%	100%
公的年金	32	87	105	111	140	49	17	20	69	630
	5.1%	13.8%	16.7%	17.6%	22.2%	7.8%	2.7%	3.2%	11.0%	100%
家賃地代	1	0	5	6	5	6	3	7	2	35
	2.9%	0.0%	14.3%	17.1%	14.3%	17.1%	8.6%	20.0%	5.7%	100%
株式債券	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
家族親族 の援助	0	1	0	3	1	0	0	0	4	9
	0.0%	11.1%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	44.4%	100%
生活扶助 費	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	100%
その他	0	0	1	2	1	0	1	0	0	5
	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100%
収入はな い	0	1	1	0	4	1	1	0	1	9
	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	44.4%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	100%
合計	40	114	142	164	209	78	32	41	94	914
	4.4%	12.5%	15.5%	17.9%	22.9%	8.5%	3.5%	4.5%	10.3%	100%

P=0.001<0.01

表3-5-9は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は現在の最大の収入源と非常に強い相関関係がある。「仕事収入」を最大の収入源とする者と「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者では「2000万円～3000万円」以上の金額帯に分布が比較的多い。特に「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者では「3000万円～4000万円」以上に分布が多い。

次頁の表3-5-10は貯蓄目的とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は貯蓄目的と非常に強い相関関係がある。貯蓄目的が「より豊かな生活を送る」と「子や家族に財産を残す」では今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は「3000万円～4000万円」以上の金額帯に分布が比較的多い。特に必要だと思う貯蓄額が「4000万円～5000万円」以上は「より豊かな生活を送る」で18%、「子や家族に財産を残す」で25%である。

表3-5-10 貯蓄目的と今後の生活の備えとして必要な貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 以上	わから ない	合計
普段の生活 を維持する	11 4.2%	38 14.4%	44 16.7%	53 20.2%	61 23.2%	22 8.4%	6 2.3%	7 2.7%	21 8.0%	263 100%
旅行や大き な買い物	0 0.0%	3 21.4%	1 7.1%	4 28.6%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	14 100%
より豊かな 生活を送る	1 2.6%	2 5.1%	4 10.3%	2 5.1%	14 35.9%	7 17.9%	2 5.1%	5 12.8%	2 5.1%	39 100%
病気や介護 に備える	18 3.7%	52 10.7%	84 17.2%	95 19.5%	122 25.0%	44 9.0%	18 3.7%	21 4.3%	34 7.0%	488 100%
子や家族に 財産を残す	1 5.0%	3 15.0%	1 5.0%	2 10.0%	4 20.0%	1 5.0%	2 10.0%	3 15.0%	3 15.0%	20 100%
その他	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	4 33.3%	1 8.3%	12 100%
わからない	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	8 100%
貯蓄はして いない	8 11.4%	13 18.6%	6 8.6%	5 7.1%	4 5.7%	2 2.9%	1 1.4%	1 1.4%	30 42.9%	70 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000 < 0.01

表3-5-11 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかのクロス表

	100万～ 500万円	500万～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
十分だと 思う	2 1.6%	8 6.4%	9 7.2%	9 7.2%	45 36.0%	22 17.6%	11 8.8%	12 9.6%	7 5.6%	125 100%
少し足り ない	13 4.3%	36 12.0%	51 17.1%	66 22.1%	76 25.4%	28 9.4%	9 3.0%	12 4.0%	8 2.7%	299 100%
かなり足 りない	13 4.5%	48 16.4%	62 21.2%	64 21.9%	58 19.9%	15 5.1%	8 2.7%	11 3.8%	13 4.5%	292 100%
わからな い	1 0.7%	12 8.8%	16 11.7%	22 16.1%	28 20.4%	11 8.0%	4 2.9%	5 3.6%	38 27.7%	137 100%
貯蓄はし ていない	11 18.0%	10 16.4%	4 6.6%	3 4.9%	2 3.3%	2 3.3%	0 0.0%	1 1.6%	28 45.9%	61 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000 < 0.01

表 3-5-11 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと

思う貯蓄額は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を「十分だと思う」者では必要だと思う貯蓄額が「2000万円～3000万円」以上の金額帯に分布が比較的多い。これに対して、現在の貯蓄額を「かなり足りないと思う」では必要だと思う貯蓄額は「2000万円～3000万円」以下の金額帯に分布が比較的多い。

表3-5-12 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	100万～ 500万円	500万～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
十分まかな えている	3 4.9%	7 11.5%	9 14.8%	5 8.2%	12 19.7%	11 18.0%	3 4.9%	6 9.8%	5 8.2%	61 100%
何とかまか なえている	17 5.2%	48 14.7%	54 16.6%	58 17.8%	74 22.7%	21 6.4%	9 2.8%	9 2.8%	36 11.0%	326 100%
多少足りな い	9 3.6%	34 13.7%	41 16.5%	53 21.3%	56 22.5%	14 5.6%	8 3.2%	11 4.4%	23 9.2%	249 100%
かなり足り ない	10 5.5%	20 11.0%	28 15.4%	27 14.8%	39 21.4%	19 10.4%	7 3.8%	8 4.4%	24 13.2%	182 100%
合計	39 4.8%	109 13.3%	132 16.1%	143 17.5%	181 22.1%	65 7.9%	27 3.3%	34 4.2%	88 10.8%	818 100%

P=0.193 > 0.05

表3-5-13 現在の健康状態と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
よい	5 4.7%	13 12.1%	18 16.8%	14 13.1%	30 28.0%	13 12.1%	2 1.9%	9 8.4%	3 2.8%	107 100%
まあよい	12 4.9%	34 14.0%	32 13.2%	41 16.9%	56 23.0%	24 9.9%	11 4.5%	11 4.5%	22 9.1%	243 100%
普通	17 4.4%	40 10.4%	61 15.9%	79 20.6%	88 22.9%	30 7.8%	9 2.3%	16 4.2%	44 11.5%	384 100%
あまりよ くない	6 3.8%	24 15.4%	26 16.7%	28 17.9%	31 19.9%	8 5.1%	9 5.8%	3 1.9%	21 13.5%	156 100%
よくない	0 0.0%	2 9.1%	4 18.2%	2 9.1%	4 18.2%	3 13.6%	1 4.5%	2 9.1%	4 18.2%	22 100%
無回答	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.305 > 0.05

表 3-5-12 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。今後の生活

の備えとして必要だと思う貯蓄額は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと強い相関関係はないが、公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」では「3000万円～4000万円」以上の金額帯に分布が比較的多い。これに対して、「何とかまかなえている」、「多少足りない」、「かなり足りない」では「1500万円～2000万円」以下の金額帯に分布が比較的多い。

表 3-5-13 は健康状態とのクロス集計結果である。検定の結果では、今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は健康状態と強い相関関係はなかった。健康状態が「よくない」者で「3000万円～4000万円」以上の金額帯に分布が比較的多いことが注目されるが、それ以外では目立った差異はなかった。

表3-5-14 居住する住宅と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額のクロス表

	100～ 500万円	500～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
持ち家 (ローン無)	30 3.8%	90 11.4%	125 15.8%	141 17.8%	194 24.5%	72 9.1%	31 3.9%	36 4.6%	72 9.1%	791 100%
持ち家 (ローン有)	5 7.6%	16 24.2%	11 16.7%	15 22.7%	8 12.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.5%	10 15.2%	66 100%
賃貸住宅	3 7.1%	7 16.7%	6 14.3%	7 16.7%	7 16.7%	3 7.1%	1 2.4%	3 7.1%	5 11.9%	42 100%
公営住宅	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	8 100%
その他	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	3 42.9%	7 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000<0.01

表3-5-15 生きがいを感じる程度と今後の生活の備えとして必要な貯蓄額のクロス表

	100万～ 500万円	500万～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
十分に感 じている	11 4.6%	32 13.3%	37 15.4%	30 12.4%	58 24.1%	30 12.4%	12 5.0%	15 6.2%	16 6.6%	241 100%
多少は感 じている	18 3.8%	61 12.7%	70 14.6%	97 20.3%	112 23.4%	36 7.5%	17 3.5%	20 4.2%	48 10.0%	479 100%
あまり感 じない	8 5.4%	14 9.5%	27 18.2%	27 18.2%	36 24.3%	10 6.8%	3 2.0%	3 2.0%	20 13.5%	148 100%
まったく 感じない	0 0.0%	4 30.8%	2 15.4%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%	2 15.4%	13 100%
わからな い	3 9.1%	3 9.1%	6 18.2%	6 18.2%	3 9.1%	2 6.1%	0 0.0%	2 6.1%	8 24.2%	33 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.033<0.05

前頁の表 3-5-14 は居住する住宅とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「住宅ローンの返済がない持ち家」に住む者では必要だと思う貯蓄額は比較的高額で、「2000 万円～3000 万円」以上が比較的多い。これに比べて、「住宅ローンを返済中の持ち家」と「賃貸住宅」に住む者では必要だと思う貯蓄額はやや低額で、「1500 万円～2000 万円」以下が比較的多い。「公営住宅」の居住者では「わからない」が半数である。

表 3-5-15 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度と強い相関関係がある。生きがいを「十分に感じている」では今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は「3000 万円～4000 万円」以上が比較的多い。これに対して、生きがいを「まったく感じていない」では「1500 万円～2000 万円」以下が非常に多く（77%）であり、「わからない」も比較的多い。

表3-5-16 これまでの人生の満足度と今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額

	100～ 500万円	500～ 1000万	1000～ 1500万	1500～ 2000万	2000～ 3000万	3000～ 4000万	4000～ 5000万	5000万 円以上	わから ない	合計
かなり満 足	5 5.0%	11 10.9%	12 11.9%	11 10.9%	24 23.8%	10 9.9%	7 6.9%	12 11.9%	9 8.9%	101 100%
まあまあ 満足	25 4.2%	75 12.7%	91 15.4%	107 18.2%	144 24.4%	59 10.0%	19 3.2%	19 3.2%	50 8.5%	589 100%
やや不満	4 3.4%	19 16.1%	21 17.8%	25 21.2%	28 23.7%	4 3.4%	4 3.4%	4 3.4%	9 7.6%	118 100%
大いに不 満	1 4.5%	3 13.6%	4 18.2%	4 18.2%	5 22.7%	1 4.5%	0 0.0%	3 13.6%	1 4.5%	22 100%
どちらで もない	5 6.0%	6 7.2%	13 15.7%	17 20.5%	8 9.6%	4 4.8%	2 2.4%	3 3.6%	25 30.1%	83 100%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100%
合計	40 4.4%	114 12.5%	142 15.5%	164 17.9%	209 22.9%	78 8.5%	32 3.5%	41 4.5%	94 10.3%	914 100%

P=0.000<0.01

表 3-5-16 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額はこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。これまでの人生に「かなり満足している」では今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額は「3000 万円～4000 万円」以上が比較的多い。これに対して、これまでの人生に「やや不満」と「大いに不満」では「1500 万円～2000 万円」以下が比較的多い。「どちらでもない」でも「1500 万円～2000 万円」が比較的多いが、「わからない」も 30% とかなり多い。

3-6 18歳以上の学卒の子や孫がいる場合に生活費をまかなっているか

近年、様々な理由によって経済的に自立できていない成人が増えていることが指摘されている。そのため、高齢期になっても成人の子の扶養を続けている人も一定程度いるのではないかと想定される。そこで今回の調査では18歳以上の学卒の子や孫がいる場合に生活費をまかなっている高齢者がどれだけいるか、またどのような理由でまかなっているのかを調べようと試みた。

まず満18歳以上で学校を卒業した子や孫がいるかと尋ねた。その結果は、「いる」は81%、「いない」は19%であった。

次に「いる」と回答した者にその子や孫の生活費をまかなっているかと尋ねた。その際に一部でもまかなっている場合には「まかなっている」ことにした。性別と年齢5区分のクロス表は次の通りである。

表3-6-1 性別と18歳以上の学卒の子や孫がいる場合に生活費をまかなっているかのクロス表

	まかなっている	まかなっていない	合計
男性	119	238	357
	33.3%	66.7%	100.0%
女性	99	282	381
	26.0%	74.0%	100.0%
合計	218	520	738
	29.5%	70.5%	100.0%

P=0.029<0.05

表3-6-2 年齢5区分と18歳以上の学卒の子や孫がいる場合に生活費をまかなっているかのクロス表

	まかなっている	まかなっていない	合計
60-64	52	95	147
	35.4%	64.6%	100.0%
65-69	47	120	167
	28.1%	71.9%	100.0%
70-74	54	132	186
	29.0%	71.0%	100.0%
75-79	41	99	140
	29.3%	70.7%	100.0%
80-84	24	74	98
	24.5%	75.5%	100.0%
合計	218	520	738
	29.5%	70.5%	100.0%

単純集計の結果では、「まかなっている」が3割、「まかなっていない」が7割であった。まかなっているかどうかは性別と強い相関関係があった。表3-6-1に示されるように、男性は女性に比べて「まかなっている」割合が高い。

表3-6-2をみると、「まかなっている」割合は年齢5区分が高くなると低下するように見える。60-64歳層では「まかなっている」は36%だが、80-84歳層では「まかなっている」は25%である。しかし、検定の結果では、年齢5区分とまかなっているかどうかは強い相関関係がなかった。

表3-6-3 18歳以上の学卒の子や孫の生活費をまかなっている理由

	回答数	割合
進学し就学中で収入がない	29	13.3%
就学中ではないが無職で収入がない	15	6.9%
働いているが低収入で自活できない	99	45.4%
仕事ができない状態にある	21	9.6%
その他	54	24.8%
合計	218	100.0%

表3-6-4 年齢5区分と18歳以上の学卒の子や孫の生活費をまかなっている理由

	進学し就学中で収入がない	就学中ではないが無職無収入	働いているが低収入	仕事ができない状態	その他	合計
60-64	6	2	24	3	17	52
	11.5%	3.8%	46.2%	5.8%	32.7%	100.0%
65-69	2	5	20	7	13	47
	4.3%	10.6%	42.6%	14.9%	27.7%	100.0%
70-74	7	3	27	6	11	54
	13.0%	5.6%	50.0%	11.1%	20.4%	100.0%
75-79	8	4	17	2	10	41
	19.5%	9.8%	41.5%	4.9%	24.4%	100.0%
80-84	6	1	11	3	3	24
	25.0%	4.2%	45.8%	12.5%	12.5%	100.0%
合計	29	15	99	21	54	218
	13.3%	6.9%	45.4%	9.6%	24.8%	100.0%

P=0.418>0.05

表3-6-3はまかなっている理由の度数分布表である。まかなっている理由は「働いているが低収入で自活できない」が46%と最も多い。「無職で収入がない」と「仕事ができない状態にある」と合わせると就学中以外の理由で経済的に自立できない状況は62%を占める。

表3-6-4は年齢5区分とのクロス集計結果である。検定の結果では、まかなっている理由は年齢5区分と強い相関関係はなかった。しかし、どの年齢層でも「働いているが低収入で自活できない」ために子や孫の生活費をまかなっている者が相対的に多く、ほぼ同程度（45%前後）の割合で存在することは注目すべき結果である。

第4章 年金生活の状況

4-1 公的年金の受給の有無と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

表4-1-1 性別と公的年金の受給の有無のクロス表

	受給している	受給していない	合計
男性	385	64	449
	85.7%	14.3%	100.0%
女性	433	32	465
	93.1%	6.9%	100.0%
合計	818	96	914
	89.5%	10.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-4-2 年齢5区分と公的年金の受給の有無のクロス表

	受給している	受給していない	合計
60-64	90	88	178
	50.6%	49.4%	100.0%
65-69	208	3	211
	98.6%	1.4%	100.0%
70-74	241	3	244
	98.8%	1.2%	100.0%
75-79	167	1	168
	99.4%	0.6%	100.0%
80-84	112	1	113
	99.1%	0.9%	100.0%
合計	818	96	914
	89.5%	10.5%	100.0%

P=0.000<0.01

日本の公的年金は一階部分（基礎年金）と二階部分（報酬比例部分）の二階建てになっている。年金の支給開始年齢は現在、65歳への引き上げの途上にある。一階部分の基礎年金は支給開始年齢の引き上げは完了し、男女ともに65歳となっている。二階部分の報酬比例部分の支給開始年齢は経過措置として段階的に引き上げられているので、生まれた年によって支給開始年齢は異なるが、60歳代前半の年齢で支給されている。そのため、調査の実施時（2020年9月）では60歳代前半の対象者の中に年金支給開始年齢に達している人と達していない人が混在している。

表4-1-1は性別と公的年金の受給の有無のクロス表である。女性は男性に比べて受給している割合が高い。これは女性の二階部分の支給開始年齢の引き上げは男性よりも5年遅いのでこの調査の実施時点では60歳代前半で大半の女性が支給開始年齢に達しているためである。

表4-1-2は年齢5区分との有無のクロス表である。60歳代前半では受給している割合が顕著に低く、ほぼ半数が受給していない。これは60歳代前半では支給開始年齢に達していない人が多いためである。特に調査の実施時点では男性の二階部分の支給開始年齢は63歳なので、60歳代前半では男性のかなりの部分は支給開始年齢に達していないとみられる。しかし、65歳になると男女ともに完全受給の年齢に入る。そのため、65-69歳から上の年齢層では99%前後が公的年金を受給していると回答している。

表4-1-3 性別と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
男性	20	148	137	80	385
	5.2%	38.4%	35.6%	20.8%	100.0%
女性	41	178	112	102	433
	9.5%	41.1%	25.9%	23.6%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.006<0.01

表4-1-4 年齢5区分と公的年金で毎月の生活費をまかなえる程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
60-64	4	9	25	52	90
	4.4%	10.0%	27.8%	57.8%	100.0%
65-69	13	72	80	43	208
	6.3%	34.6%	38.5%	20.7%	100.0%
70-74	15	88	83	55	241
	6.2%	36.5%	34.4%	22.8%	100.0%
75-79	13	91	40	23	167
	7.8%	54.5%	24.0%	13.8%	100.0%
80-84	16	66	21	9	112
	14.3%	58.9%	18.8%	8.0%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

公的年金制度について、国民の大きな関心事は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえるのかということであろう。そこで調査では実際に年金を受給している人にこの問題に答えてもらった。

表4-1-3は性別の集計結果である。全体では「十分まかなえている」は8%、「何とかまかなえている」は40%、「多少足りない」は30%、「かなり足りない」は22%である。なお以下では「十分まかなえている」と「何とかまかなえている」の合計を「まかなえている」とし、「多少足りない」と「かなり足りない」の合計を「まかなえていない」ないし「足りない」として記述を進める。

全体では「足りない」(53%)が「まかなえている」(47%)を上回っている。性別で見ると、女性では「足りない」(49%)よりも「まかなえている」(51%)が多く、男性では「まかなえている」(44%)よりも「足りない」(56%)が多い。

表4-1-4は年齢5区分別の集計結果である。60代前半では「かなり足りない」が58%と顕著に多い。60代前半では基礎年金の受給はない。このことが回答結果に影響しているとみられる。

次頁の表4-1-5は配偶者の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まか

なえるかは配偶者の有無と強い相関関係はなかったが、配偶者がいない者では「かなり足りない」がやや多い。

表4-1-5 配偶者の有無と公的年金で毎月の生活費をまかなえる程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
有配偶	50	270	202	142	664
	7.5%	40.7%	30.4%	21.4%	100.0%
無配偶	11	56	47	40	154
	7.1%	36.4%	30.5%	26.0%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.618>0.05

表4-1-6 子の有無と公的年金で毎月の生活費をまかなえる程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
子がいる	61	311	236	164	772
	7.9%	40.3%	30.6%	21.2%	100.0%
子はない	0	15	13	18	46
	0.0%	32.6%	28.3%	39.1%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.014<0.05

表4-1-7 仕事の有無と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
仕事あり	19	104	112	117	352
	5.4%	29.5%	31.8%	33.2%	100.0%
仕事なし	42	222	137	65	466
	9.0%	47.6%	29.4%	13.9%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-6は子の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは子の有無と強い相関関係がある。子がない者では「十分まかなえている」は皆無だった。子がないものでは子がいる者に比べて「かなり足りない」が顕著に多い。

表4-1-7は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは収入を伴う仕事の有無と非常に強い相関関係がある。仕事をしている者では公的年金で毎月の生活費をまかなえていない者が65%を占める。特に「かなり足りない」は3分の1であり、顕

著に多い。仕事をしているのは生活費を公的年金でまかなえないことが大きく影響しているとみられる。

表4-1-8 世帯形態と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
一人暮らし	5	41	26	24	96
	5.2%	42.7%	27.1%	25.0%	100%
夫婦のみ	34	180	125	87	426
	8.0%	42.3%	29.3%	20.4%	100%
その他の同居人あり	21	105	97	70	293
	7.2%	35.8%	33.1%	23.9%	100%
無回答	1	0	1	1	3
	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.398>0.05

表4-1-9 処方薬の有無と公的年金で生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
ある	170	11	23	345	640
	26.6%	1.7%	3.6%	53.9%	100.0%
ない	92	3	16	143	273
	33.7%	1.1%	5.9%	52.4%	100.0%
無回答	1	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	263	14	39	488	914
	28.8%	1.5%	4.3%	53.4%	100.0%

P=0.158>0.05

表 4-1-8 は世帯形態とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは世帯形態と強い相関関係はなく、回答の分布も世帯形態で目立った差はなかった。

表 4-1-9 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは服用する処方薬の有無と強い相関関係はなかったが、「十分まかなえている」は処方薬のない者に比較的多い。

次頁の表 4-1-10 は健康状態とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは健康状態と強い相関関係はなかった。しかし、健康状態が「よい」ではまかなえている者が比較的多く、「あまりよくない」と「よくない」ではまかなえていない者が比較的多い。

表 4-1-11 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは現在の経済的な暮らし向きによって大きく異なる。家計に心配がない者ではまかなえている者が多く、家計に心配がある者ではまかなえていない者が多い。特に「家計にゆとりがあ

る」者では「十分まかなえている」が3割とかなり多い。これに対して、「家計が苦しく非常に心配な」者では「何とかまかなえている」は9%であり、「かなり足りない」が3分の2を占める。家計にゆとりがある者では公的年金で毎月の生活費をまかなえない者がいることを考えると、家計が苦しく非常に心配な者では公的年金の他に家計を補う収入源をもっていないことが示唆される。

表4-1-10 現在の健康状態と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
よい	13	38	22	21	94
	13.8%	40.4%	23.4%	22.3%	100%
まあよい	15	92	62	48	217
	6.9%	42.4%	28.6%	22.1%	100%
普通	24	132	111	73	340
	7.1%	38.8%	32.6%	21.5%	100%
あまりよくない	9	56	47	35	147
	6.1%	38.1%	32.0%	23.8%	100%
よくない	0	8	7	4	19
	0.0%	42.1%	36.8%	21.1%	100%
無回答	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.519>0.05

表4-1-11 現在の経済的な暮らし向きと公的年金で生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らす	33	35	18	22	108
	30.6%	32.4%	16.7%	20.4%	100.0%
家計にあまりゆとりはないがそれほど心配なく暮らす	26	220	117	81	444
	5.9%	49.5%	26.4%	18.2%	100.0%
家計ゆとりがなく多少心配	2	65	105	56	228
	0.9%	28.5%	46.1%	24.6%	100.0%
家計が苦しく、非常に心配	0	3	8	22	33
	0.0%	9.1%	24.2%	66.7%	100.0%
その他	0	3	1	1	5
	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-12 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
良くなった	2	3	0	2	7
	28.6%	42.9%	0.0%	28.6%	100.0%
どちらかといえば良くなった	8	26	16	11	61
	13.1%	42.6%	26.2%	18.0%	100.0%
どちらかといえば悪くなった	7	84	88	47	226
	3.1%	37.2%	38.9%	20.8%	100.0%
悪くなった	1	9	18	26	54
	1.9%	16.7%	33.3%	48.1%	100.0%
変わらない	43	204	127	96	470
	9.1%	43.4%	27.0%	20.4%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-13 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
影響がある	22	147	152	103	424
	5.2%	34.7%	35.8%	24.3%	100.0%
影響はない	33	141	75	59	308
	10.7%	45.8%	24.4%	19.2%	100.0%
わからない	6	38	22	20	86
	7.0%	44.2%	25.6%	23.3%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.001<0.01

表 4-1-12 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかはこの 1 年の経済的な暮らし向きの変化によって大きく異なる。「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」者では公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が過半を超える。特に「良くなった」ではまかなえている者は 72%を占める。これに対して、「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」ではまかなえている者は半数以下である。特に「悪くなった」ではまかなえている者は 2 割弱（19%）である。

表 4-1-13 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかはコロナの影響の有無と非常に強い相関関係がある。暮らし向きに対するコロナの影響がない者では公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が過半を超え（57%）、コロナの影響がある者に比べてまかなえている者がかなり多い。

表4-1-14 居住する住宅とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
持ち家(住宅ローン無)	55 7.7%	305 42.8%	218 30.6%	135 18.9%	713 100%
持ち家(住宅ローン有)	2 3.6%	10 17.9%	15 26.8%	29 51.8%	56 100%
賃貸住宅	3 8.6%	7 20.0%	13 37.1%	12 34.3%	35 100%
公営住宅	1 14.3%	2 28.6%	1 14.3%	3 42.9%	7 100%
その他	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%	7 100%
合計	61 7.5%	326 39.9%	249 30.4%	182 22.2%	818 100%

P=0.000<0.01

表4-1-15 1ヶ月の生活費と公的年金で生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
10万円未満	9 11.0%	33 40.2%	25 30.5%	15 18.3%	82 100.0%
10万円~15万円	16 9.6%	78 47.0%	41 24.7%	31 18.7%	166 100.0%
15万円~20万円	13 5.9%	103 46.4%	71 32.0%	35 15.8%	222 100.0%
20万円~25万円	9 5.0%	72 39.8%	65 35.9%	35 19.3%	181 100.0%
25万円~30万円	6 6.5%	25 27.2%	27 29.3%	34 37.0%	92 100.0%
30万円~35万円	5 10.4%	10 20.8%	15 31.3%	18 37.5%	48 100.0%
35万円~40万円	2 12.5%	3 18.8%	3 18.8%	8 50.0%	16 100.0%
40万円以上	1 9.1%	2 18.2%	2 18.2%	6 54.5%	11 100.0%
合計	61 7.5%	326 39.9%	249 30.4%	182 22.2%	818 100.0%

P=0.000<0.01

表 4-1-14 は居住する住宅とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかは居住する住宅によって顕著な相違がある。住宅ローンの返済がない持ち家に住む者では公的

年金で毎月の生活費をまかなえている者が半数を占めるが、住宅ローンを返済中の持ち家に住む者ではまかなえている者は2割（22%）に過ぎない。まかなえている者は「賃貸住宅」で29%、「公営住宅」では43%である。他方で住宅ローンを返済中の持ち家に住む者「かなり足りない」が過半を超える。ローンの返済が大きな家計負担になっていることが明らかである。

表4-1-15は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえるかは毎月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。1ヶ月の生活費が20万円未満の層では、公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が過半を超える。しかし、1ヶ月の生活費が20万円以上の層では、公的年金では生活費をまかなえていない者が過半を超えている。

表4-1-16 最大の収入源と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
仕事による収入	5	21	30	83	139
	3.6%	15.1%	21.6%	59.7%	100.0%
公的年金	53	297	206	71	627
	8.5%	47.4%	32.9%	11.3%	100.0%
家賃・地代などの不動産収入	3	5	10	16	34
	8.8%	14.7%	29.4%	47.1%	100.0%
株式・債券の配当・利子・売却益	0	1	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
家族・親族からの援助	0	1	2	3	6
	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%	100.0%
生活扶助費	0	1	0	2	3
	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%
その他	0	0	1	2	3
	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	100.0%
収入はない	0	0	0	5	5
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-16は最大の収入源とのクロス集計結果である。公的年金を最大の収入源とする者では、公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が過半を超える（56%）。しかし、「株式・債券の配当・利子・売却益」を除くと、それ以外の収入を最大の収入源とする者では公的年金で毎月の生活費をまかなえている者は少ない。たとえば、「仕事による収入」を最大の収入源とする者ではまかなえている者は19%に過ぎず、「多少足りない」と「かなり足りない」を合わせると81%であり、まかなえていない者は非常に多い。

次頁の表4-1-17は貯蓄目的とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は貯蓄目的と非常に強い相関関係がある。貯蓄の目的が「病気や介護に備える」と「子や家族に財産を残す」では公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が過半を超えている。とくに「子や家族に

財産を残す」ではまかなえている者が79%と非常に多い。

表4-1-17 貯蓄目的と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度のクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
普段の生活を維持する	9	82	75	64	230
	3.9%	35.7%	32.6%	27.8%	100.0%
旅行や大きな買い物	1	3	3	4	11
	9.1%	27.3%	27.3%	36.4%	100.0%
より豊かな生活や趣味にあった暮らしを送る	3	11	12	7	33
	9.1%	33.3%	36.4%	21.2%	100.0%
病気や介護に備える	36	197	132	79	444
	8.1%	44.4%	29.7%	17.8%	100.0%
子や家族に財産を残す	5	10	0	4	19
	26.3%	52.6%	0.0%	21.1%	100.0%
その他	4	1	3	1	9
	44.4%	11.1%	33.3%	11.1%	100.0%
わからない	0	5	1	2	8
	0.0%	62.5%	12.5%	25.0%	100.0%
貯蓄はしていない	3	17	23	21	64
	4.7%	26.6%	35.9%	32.8%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-18 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
十分だと思う	26	49	24	20	119
	21.8%	41.2%	20.2%	16.8%	100.0%
少し足りない	16	125	86	38	265
	6.0%	47.2%	32.5%	14.3%	100.0%
かなり足りない	4	69	93	83	249
	1.6%	27.7%	37.3%	33.3%	100.0%
わからない	11	66	30	23	130
	8.5%	50.8%	23.1%	17.7%	100.0%
貯蓄はしていない	4	17	16	18	55
	7.3%	30.9%	29.1%	32.7%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.000<0.01

前頁の表 4-1-18 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって明瞭な相違がある。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者は現在の貯蓄額を「十分だと思う」で 63%、「少し足りない」で 53%、「わからない」で 59%と過半を超えるが、「かなり足りない」では 29%にとどまる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」では「十分まかなえている」が 22%と比較的高い。これとは対照的に「かなり足りない」では公的年金では毎月の生活費が「かなり足りない」が 33%と多い。

表4-1-19 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
100万円～500万円	3	17	9	10	39
	7.7%	43.6%	23.1%	25.6%	100.0%
500万円～1000万円	7	48	34	20	109
	6.4%	44.0%	31.2%	18.3%	100.0%
1000万円～1500万円	9	54	41	28	132
	6.8%	40.9%	31.1%	21.2%	100.0%
1500万円～2000万円	5	58	53	27	143
	3.5%	40.6%	37.1%	18.9%	100.0%
2000万円～3000万円	12	74	56	39	181
	6.6%	40.9%	30.9%	21.5%	100.0%
3000万円～4000万円	11	21	14	19	65
	16.9%	32.3%	21.5%	29.2%	100.0%
4000万円～5000万円	3	9	8	7	27
	11.1%	33.3%	29.6%	25.9%	100.0%
5000万円以上	6	9	11	8	34
	17.6%	26.5%	32.4%	23.5%	100.0%
わからない	5	36	23	24	88
	5.7%	40.9%	26.1%	27.3%	100.0%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100.0%

P=0.193>0.05

表 4-1-19 は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と強い相関関係はなかった。表でも公的年金で毎月の生活費をまかなえている者の割合は今後に必要なと思う貯蓄額によって大きな差はない。ただし、必要だと思う貯蓄額が多額（「3000万円～4000万円」以上）になると、「十分まかなえている」が比較的多くなる。

次頁の表 4-1-20 は自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は自己負担の介護費用をどの程度まかなえると見込むかと非常に強い相関関係がある。「大体まかなえる」では「十分まかなえている」が非常に多く（75%）、「何とか

まかなえる」では生活費が「何とかまかなえている」が多い(60%)。これに対して、自己負担の介護費用がかなり足りないと思う者では公的年金では毎月の生活費が「かなり足りない」が66%と非常に多い。

表4-1-20 自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
大体まかなえる	6	0	0	2	8
	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
何とかまかなえる	8	63	26	8	105
	7.6%	60.0%	24.8%	7.6%	100.0%
多少足りない	1	21	59	22	103
	1.0%	20.4%	57.3%	21.4%	100.0%
かなり足りない	2	14	26	83	125
	1.6%	11.2%	20.8%	66.4%	100.0%
わからない	2	6	1	2	11
	18.2%	54.5%	9.1%	18.2%	100.0%
合計	19	104	112	117	352
	5.4%	29.5%	31.8%	33.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-1-21 地域の社会活動への参加の有無とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
参加している	26	122	87	53	288
	9.0%	42.4%	30.2%	18.4%	100%
参加していない	35	204	162	129	530
	6.6%	38.5%	30.6%	24.3%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.162>0.05

表4-1-22 近隣の人とのつきあいの有無とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
つきあいがある	54	299	218	146	717
	7.5%	41.7%	30.4%	20.4%	100%
つきあいはない	7	27	31	36	101
	6.9%	26.7%	30.7%	35.6%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.003<0.01

前頁の表 4-1-21 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は地域の社会活動への参加の有無と強い相関関係はなかったが、参加している者では公的年金で毎月の生活費をまかなえている者がやや多い。

表 4-1-22 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は近隣の人とのつきあいの有無と非常に強い相関関係がある。近隣の人とのつきあいがある者はつきあいが無い者に比べて、公的年金で毎月の生活費をまかなえている者が多い。

表4-1-23 生きがいを感じる程度とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
十分に感じている	30	93	50	47	220
	13.6%	42.3%	22.7%	21.4%	100%
多少は感じている	22	170	146	86	424
	5.2%	40.1%	34.4%	20.3%	100%
あまり感じていない	7	47	40	37	131
	5.3%	35.9%	30.5%	28.2%	100%
まったく感じない	1	2	10	0	13
	7.7%	15.4%	76.9%	0.0%	100%
わからない	1	14	3	12	30
	3.3%	46.7%	10.0%	40.0%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.000<0.01

表4-1-24 これまでの人生の満足度とのクロス表

	十分まかなえている	何とかまかなえている	多少足りない	かなり足りない	合計
かなり満足	21	37	24	12	94
	22.3%	39.4%	25.5%	12.8%	100%
まあまあ満足	29	222	160	117	528
	5.5%	42.0%	30.3%	22.2%	100%
やや不満	6	35	38	24	103
	5.8%	34.0%	36.9%	23.3%	100%
大いに不満	1	6	5	5	17
	5.9%	35.3%	29.4%	29.4%	100%
どちらともいえない	4	26	22	23	75
	5.3%	34.7%	29.3%	30.7%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.000<0.01

表 4-1-23 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は普段の生活や仕事にどの程度生きがいを感じているかと非常に強い相関関係がある。生きがいを感じている度合いが高いとまかなえている割合は高く、低くなるとまかなえている割合は低下する。たとえば、まかなえている割合は「十分に感じている」では56%だが、「多少は感じている」で45%、「あまり感じていない」で41%、「まったく感じていない」では23%にとどまる。

表 4-1-24 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度はこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。満足度が高いとまかなえている割合は高く、満足度が低くなると少なくなる。たとえば、まかなえている割合は「かなり満足」では63%だが、「まあまあ満足」で47%、「やや不満」で40%、「大いに不満」では41%である。

下の表 4-1-25 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度は現在の幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い（9点以上）とまかなえている割合が過半を超えるが、点数が低くなるとまかなえていない割合の方が多くなる。たとえば、まかなえているは幸福度の点数が10点で62%、9点では60%だが、8点では48%、7点で43%、6点で43%、5点では39%と低下する。

表4-1-25 現在の幸福度と公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度

	十分賄えている	何とか賄えている	多少足りない	かなり足りない	合計
10点	19	36	22	12	89
	21.3%	40.4%	24.7%	13.5%	100%
9点	10	35	15	15	75
	13.3%	46.7%	20.0%	20.0%	100%
8点	17	97	75	51	240
	7.1%	40.4%	31.3%	21.3%	100%
7点	4	67	49	44	164
	2.4%	40.9%	29.9%	26.8%	100%
6点	5	41	37	23	106
	4.7%	38.7%	34.9%	21.7%	100%
5点	4	39	43	27	113
	3.5%	34.5%	38.1%	23.9%	100%
4点	1	5	4	5	15
	6.7%	33.3%	26.7%	33.3%	100%
3点	1	1	2	3	7
	14.3%	14.3%	28.6%	42.9%	100%
2点	0	2	0	0	2
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
1点	0	1	1	1	3
	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100%
0点	0	1	1	0	2
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%
合計	61	326	249	182	818
	7.5%	39.9%	30.4%	22.2%	100%

P=0.004<0.01

4-2 公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の対処法

回答者は公的年金で毎月の生活費をまかなえていない場合、どのような収入源や対応策で不足を補っているのか。現在まかなえている場合でも、もし公的年金で生活費をまかなえない状況が起こったらどのように不足を補うつもりか。今回の調査ではこれを複数回答可で尋ねた。

表4-2-1はその度数分布表である。最も多かったのは「生活費の節約」(64%)であり、これに「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」(55%)、「就労収入」(34%)、「企業年金・個人年金」(28%)が続いた。「子からの援助」は4%と非常に少なかった。

表4-2-1 公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の対処法（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
就労収入	273	17.1%	33.6%
生活費の節約	517	32.4%	63.6%
預貯金や証券など金融資産の取り崩し	445	27.9%	54.7%
子からの援助	35	2.2%	4.3%
企業年金・個人年金	225	14.1%	27.7%
生活扶助費	6	0.4%	0.7%
家賃・地代などの不動産収入	70	4.4%	8.6%
その他	23	1.4%	2.8%
合計	1594	100.0%	

回答者の選択率は公的年金受給者（813）を母数とする各項目の選択数の割合

表4-2-2 年齢5区分とのクロス表

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	合計
60-64	58	49	39	2	30	0	8	3	89
	65.2%	55.1%	43.8%	2.2%	33.7%	0.0%	9.0%	3.4%	
65-69	97	127	112	6	66	2	19	8	207
	46.9%	61.4%	54.1%	2.9%	31.9%	1.0%	9.2%	3.9%	
70-74	74	155	127	6	65	0	25	6	239
	31.0%	64.9%	53.1%	2.5%	27.2%	0.0%	10.5%	2.5%	
75-79	30	102	101	12	43	3	9	2	167
	18.0%	61.1%	60.5%	7.2%	25.7%	1.8%	5.4%	1.2%	
80-84	14	84	66	9	21	1	9	4	111
	12.6%	75.7%	59.5%	8.1%	18.9%	0.9%	8.1%	3.6%	
合計	273	517	445	35	225	6	70	23	813

%は各行の合計を母数とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ

表4-2-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。これをみると、60-64歳層では「就労収入」と「生活費の節約」が中心的な対策となるが、年齢区分が上がると「就労収入」の割合は低下し、「生活費の節約」と「預貯金や証券などの金融資産の取り崩し」が中心的な対策となる傾向がある。

表4-2-3 収入を伴う仕事の有無とのクロス表

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	合計
仕事あり	245 69.8%	192 54.7%	137 39.0%	10 2.8%	93 26.5%	0 0.0%	40 11.4%	8 2.3%	351
仕事なし	28 6.1%	325 70.3%	308 66.7%	25 5.4%	132 28.6%	6 1.3%	30 6.5%	15 3.2%	462
合計	273	517	445	35	225	6	70	23	813

表4-2-4 子の有無と公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の対処法(複数回答)

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	合計
あり	260 33.9%	487 63.5%	417 54.4%	35 4.6%	215 28.0%	5 0.7%	63 8.2%	19 2.5%	767
なし	13 28.3%	30 65.2%	28 60.9%	0 0.0%	10 21.7%	1 2.2%	7 15.2%	4 8.7%	46
合計	273	517	445	35	225	6	70	23	813

表4-2-3は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費を賅えない場合の対処法は仕事をしている者では「就労収入」の割合が最も高い。仕事をしていない者では「生活費の節約」と並んで「預貯金や証券などの金融資産の取り崩し」が高くなる。

公的年金で毎月の生活費をまかなえないときに不足を補う方法としては、一般論としては子の援助を受けるという選択肢がある。しかし、全体的に「子からの援助」を選択する者は非常に少なかった。表4-2-4は子の有無とのクロス集計結果である。これをみると、子がいる場合でも、「子からの援助」を選択する者は5%と非常に少ない。

4-3 公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法

表4-3-1 公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法

	回答数	割合
就労収入	194	23.7%
生活費の節約	162	19.8%
預貯金や証券など金融資産の取り崩し	254	31.1%
子からの援助	15	1.8%
企業年金・個人年金	128	15.6%
生活扶助費	4	0.5%
家賃・地代などの不動産収入	46	5.6%
その他	11	1.3%
無回答	4	0.5%
合計	818	100.0%

この調査では公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法は何かを尋ねた。前頁の表4-3-1はその度数分布表である。最も多かったのは「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」(31%)で、次いで「就労収入」(24%)、「生活費の節約」(20%)、「企業年金・個人年金」(16%)だった。

表4-3-2 性別と最大の対処法のクロス表

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	無回答	合計
男性	106	71	109	6	59	3	24	7	0	385
	27.5%	18.4%	28.3%	1.6%	15.3%	0.8%	6.2%	1.8%	0.0%	100.0%
女性	88	91	145	9	69	1	22	4	4	433
	20.3%	21.0%	33.5%	2.1%	15.9%	0.2%	5.1%	0.9%	0.9%	100.0%
合計	194	162	254	15	128	4	46	11	4	818
	23.7%	19.8%	31.1%	1.8%	15.6%	0.5%	5.6%	1.3%	0.5%	100.0%

P=0.088>0.05

表4-3-3 年齢5区分と公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	無回答	合計
60-64	50	4	17	2	8	0	7	2	0	90
	55.6%	4.4%	18.9%	2.2%	8.9%	0.0%	7.8%	2.2%	0.0%	100.0%
65-69	67	34	59	0	31	1	10	5	1	208
	32.2%	16.3%	28.4%	0.0%	14.9%	0.5%	4.8%	2.4%	0.5%	100.0%
70-74	56	53	75	2	37	0	14	2	2	241
	23.2%	22.0%	31.1%	0.8%	15.4%	0.0%	5.8%	0.8%	0.8%	100.0%
75-79	16	43	54	6	38	2	8	0	0	167
	9.6%	25.7%	32.3%	3.6%	22.8%	1.2%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
80-84	5	28	49	5	14	1	7	2	1	112
	4.5%	25.0%	43.8%	4.5%	12.5%	0.9%	6.3%	1.8%	0.9%	100.0%
合計	194	162	254	15	128	4	46	11	4	818
	23.7%	19.8%	31.1%	1.8%	15.6%	0.5%	5.6%	1.3%	0.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-3-2は性別とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費を賄えない場合の最大の対処法は性別と強い相関関係はないが、男性では「就労収入」がやや高い。

表4-3-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。これを見ると、60代までは「就労収入」の割合が最も高いが、70代後半からは「就労収入」の割合は顕著に低下する。70代になると「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」の割合が最も大きくなり、80代前半ではそれは44%になっている。「生活費の節約」も70代後半からは二番目に割合が大きい対処法になっている。

次頁の表4-3-4は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている場合には、公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法で最も割合が大きいのは「就労収入」

である（51％）。これに対して、仕事をしていない場合で最も割合が大きい最大の対処法は「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」（42％）である。

表4-3-4 収入を伴う仕事の有無と公的年金で生活費を賄えない場合の最大の対処法

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子からの援助	企業・個人年金	生活扶助費	家賃・地代収入	その他	無回答	合計
仕事あり	181	43	60	3	37	0	27	1	0	352
	51.4%	12.2%	17.0%	0.9%	10.5%	0.0%	7.7%	0.3%	0.0%	100.0%
仕事なし	13	119	194	12	91	4	19	10	4	466
	2.8%	25.5%	41.6%	2.6%	19.5%	0.9%	4.1%	2.1%	0.9%	100.0%
合計	194	162	254	15	128	4	46	11	4	818
	23.7%	19.8%	31.1%	1.8%	15.6%	0.5%	5.6%	1.3%	0.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表4-3-5 現在の経済的な暮らし向きと最大の対処法

	就労収入	生活費の節約	預貯金の取り崩し	子の援助	企業個人年金	生活扶助費	家賃地代収入	その他	無回答	合計
ゆとりあり全く心配ない	22	8	42	0	14	0	22	0	0	108
	20.4%	7.4%	38.9%	0.0%	13.0%	0.0%	20.4%	0.0%	0.0%	100%
ゆとりないが心配ない	97	83	154	10	69	0	22	6	3	444
	21.8%	18.7%	34.7%	2.3%	15.5%	0.0%	5.0%	1.4%	0.7%	100%
家計ゆとりなく多少心配	58	65	51	5	40	2	1	5	1	228
	25.4%	28.5%	22.4%	2.2%	17.5%	0.9%	0.4%	2.2%	0.4%	100%
家計苦しく非常に心配	17	5	5	0	5	0	1	0	0	33
	51.5%	15.2%	15.2%	0.0%	15.2%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	100%
その他	0	1	2	0	0	2	0	0	0	5
	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	194	162	254	15	128	4	46	11	4	818
	23.7%	19.8%	31.1%	1.8%	15.6%	0.5%	5.6%	1.3%	0.5%	100%

P=0.000<0.01

表 4-3-5 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえない場合の最大の対処法は経済的な暮らし向きによって大きく異なる。「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らしている」者では最も多い対処法は「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」（39％）だが、二番目に「家賃・地代などの不動産収入」（20％）が「就労収入」（20％）と同率で高いことが注目される。これに対して、「家計が苦しく非常に心配」な者では最も多い対処法は「就労収入」（52％）で、「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」は15％とかなり小さい。全体では最も割合が高い「預貯金や証券など金融資産の取り崩し」は家計の状況が悪化するほど割合が低下する傾向が明瞭にみられる。

第5章 要介護状態になったときの考え

5-1 自分が要介護状態になったことを考えたことがあるか

表5-1-1 性別と自分が要介護状態になったことを考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
男性	293	145	11	449
	65.3%	32.3%	2.4%	100.0%
女性	369	87	9	465
	79.4%	18.7%	1.9%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

表5-1-2 年齢5区分と要介護状態になったことを考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
60-64	111	65	2	178
	62.4%	36.5%	1.1%	100.0%
65-69	157	50	4	211
	74.4%	23.7%	1.9%	100.0%
70-74	175	65	4	244
	71.7%	26.6%	1.6%	100.0%
75-79	132	33	3	168
	78.6%	19.6%	1.8%	100.0%
80-84	87	19	7	113
	77.0%	16.8%	6.2%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

調査対象者に「自分が要介護状態になったことを考えたことがあるか」と尋ねた結果では、7割を超える(72%)者が「ある」と回答した。「ない」は25%であり、「すでに要介護状態になっている」が2%だった。全体的には大半の回答者が自分の要介護状態を考えたことがあると回答している。

表5-1-1は性別とのクロス集計結果である。女性は男性に比べて自分の要介護状態を考えたことがある者が多く、8割近くが「ある」と回答している。

表5-1-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。自分の要介護状態を考えたことがある者は60代後半から顕著に増加する。60代前半では自分の要介護状態を考えたことがある者は6割強だが、65歳以降では7割を超える。80-84歳では「すでに要介護状態である」も6%と比較的高い。

次頁の表5-1-3は公的年金の受給の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護状態を考えたことがあるかは公的年金の受給の有無と非常に強い相関関係がある。公的年金を受給していない者では、受給している者に比べて自分の要介護状態を考えたことが「ある」が少なく、「ない」が多い。

表5-1-4は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。要介護状態を考えたことはあるかは収入を伴う仕事の有無と非常に強い相関関係がある。仕事をしている者では、仕事をしていない者に比べて自分の要介護状態を考えたことが「ある」が少なく、考えたことが「ない」が多い。

表5-1-3 公的年金受給の有無と要介護状態を考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
受給している	603	196	19	818
	73.7%	24.0%	2.3%	100.0%
受給していない	59	36	1	96
	61.5%	37.5%	1.0%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0.013<0.05

表5-1-5 服用処方薬の有無と要介護状態を考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
あり	480	140	20	640
	75.0%	21.9%	3.1%	100.0%
なし	182	91	0	273
	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
無回答	0	1	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

表5-1-4 収入を伴う仕事の有無と要介護状態を考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
仕事あり	300	132	3	435
	69.0%	30.3%	0.7%	100.0%
仕事なし	362	100	17	479
	75.6%	20.9%	3.5%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

表5-1-6 現在の健康状態と要介護状態を考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要介護状態	合計
よい	80	27	0	107
	74.8%	25.2%	0.0%	100.0%
まあよい	169	73	1	243
	69.5%	30.0%	0.4%	100.0%
普通	275	101	8	384
	71.6%	26.3%	2.1%	100.0%
あまりよくない	123	27	6	156
	78.8%	17.3%	3.8%	100.0%
よくない	14	3	5	22
	63.6%	13.6%	22.7%	100.0%
無回答	1	1	0	2
	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

表5-1-5は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護状態を考えたことがあるかは服用する処方薬の有無と非常に強い相関関係がある。服用する処方薬がある者ではない者に比べて、自分の要介護状態を考えたことが「ある」が多く、考えたことが「ない」が少ない。

表5-1-6は健康状態とのクロス集計結果である。自分の要介護状態を考えたことがあるかは健康状態と非常に強い相関関係がある。健康状態が「あまりよくない」と「よくない」では、健康状態が「普通」以上に比べて自分の要介護状態を考えたことが「ある」が多く、考えたことが「ない」が少ない。健康

状態は客観的にも主観的にも要介護状態の想起と非常に強い相関関係がある。

表5-1-7 居住する住宅と自分の要介護状態を考えたことがあるかのクロス表

	ある	ない	すでに要 介護状態	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	578	198	15	791
	73.1%	25.0%	1.9%	100.0%
持ち家（住宅 ローン返済中）	50	15	1	66
	75.8%	22.7%	1.5%	100.0%
賃貸住宅	26	15	1	42
	61.9%	35.7%	2.4%	100.0%
公営住宅	4	3	1	8
	50.0%	37.5%	12.5%	100.0%
その他	4	1	2	7
	57.1%	14.3%	28.6%	100.0%
合計	662	232	20	914
	72.4%	25.4%	2.2%	100.0%

P=0<0.01

表 5-1-7 は居住する住宅とのクロス集計結果である。自分の要介護状態を考えたことがあるかは居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「賃貸住宅」と「公営住宅」では、「持ち家」に居住する者に比べて、自分の要介護状態を考えたことが「ある」が少なく、考えたことが「ない」が多い。

5-2 家族の介護保険利用の世話をしたことがあるか

現在では要介護状態になったときには介護保険サービスを利用することができる。しかし、介護保険サービスを利用するには要介護認定の申請や介護プランの作成、介護保険サービスの利用申込などを行う必要がある。これは誰かのサポートが必要な場合が多い。そこで今回の調査では、親や配偶者などの介護保険利用の世話をしたことがあるかを尋ねた。その結果、46%の回答者が家族の介護保険利用の世話をしたことがあった。

表 5-2-1 は性別とのクロス集計結果である。性別と介護保険利用の世話をしたことがあるかは強い相関関係がなかったが、女性は男性よりも世話をしたことがある者が多い。

表 5-2-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。介護保険利用の世話をしたことがある者は 60 代に比較的多い。とくに 60 代では「現在している」が比較的多い。70 代後半以上では介護保険利用の世話の経験がない者が相対的に多くなる。介護保健制度は 2000 年にスタートしたが、本格的な普及は比較的近年であるので、70 代後半以降の世代では家族の介護保険利用の世話をした経験がある者はやや少ないのかもしれない。

表5-2-1 性別と介護保険利用の世話をしたことがあるかのクロス表

	過去に ある	現在し ている	過去も現 在もある	ない	合計
男性	131	48	18	252	449
	29.2%	10.7%	4.0%	56.1%	100%
女性	170	40	17	238	465
	36.6%	8.6%	3.7%	51.2%	100%
合計	301	88	35	490	914
	32.9%	9.6%	3.8%	53.6%	100%

P = 0.115 > 0.05

表5-2-2 年齢5区分と介護保険利用の世話をしたことがあるかのクロス表

	過去に ある	現在し ている	過去も現 在もある	ない	合計
60-64	54	29	9	86	178
	30.3%	16.3%	5.1%	48.3%	100%
65-69	76	25	12	98	211
	36.0%	11.8%	5.7%	46.4%	100%
70-74	93	14	4	133	244
	38.1%	5.7%	1.6%	54.5%	100%
75-79	47	8	7	106	168
	28.0%	4.8%	4.2%	63.1%	100%
80-84	31	12	3	67	113
	27.4%	10.6%	2.7%	59.3%	100%
合計	301	88	35	490	914
	32.9%	9.6%	3.8%	53.6%	100%

P=0.000 < 0.01

表5-2-3 出生年代と介護保険利用の世話をしたことがあるかのクロス表

	過去に ある	現在して いる	過去も現 在もある	ない	合計
1956-60	54	28	9	86	177
	30.5%	15.8%	5.1%	48.6%	100.0%
1951-55	74	25	12	96	207
	35.7%	12.1%	5.8%	46.4%	100.0%
1946-50	96	15	4	135	250
	38.4%	6.0%	1.6%	54.0%	100.0%
1941-45	46	8	7	103	164
	28.0%	4.9%	4.3%	62.8%	100.0%
1940以前	31	12	3	70	116
	26.7%	10.3%	2.6%	60.3%	100.0%
合計	301	88	35	490	914
	32.9%	9.6%	3.8%	53.6%	100.0%

P=0.001 < 0.01

表 5-2-3 は回答者の出生年代とのクロス集計結果である。出生年代が「1956-60」と「1951-56」ではそれ以前に出生の者に比べて、介護保険利用の世話の経験がある者が多い。これに対して、1945年以前

出生の者では、それ以降の出生の者に比べて介護保険利用の世話の経験がない者が多い。このことも介護保健制度が近年に急速に普及したことと関連しているように思われる。

表5-2-4 これまでの人生の満足度と介護保険利用の世話をしたことがあるかのクロス表

	過去に ある	現在して いる	過去も現 在もある	ない	合計
かなり満足	34 33.7%	6 5.9%	0 0.0%	61 60.4%	101 100.0%
まあまあ満足	206 35.0%	59 10.0%	25 4.2%	299 50.8%	589 100.0%
やや不満	37 31.4%	9 7.6%	3 2.5%	69 58.5%	118 100.0%
大いに不満	3 13.6%	7 31.8%	0 0.0%	12 54.5%	22 100.0%
どちらともい えない	21 25.3%	6 7.2%	7 8.4%	49 59.0%	83 100.0%
無回答	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	301 32.9%	88 9.6%	35 3.8%	490 53.6%	914 100.0%

$P=0.000 < 0.01$

表 5-2-4 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。様々な要因とクロス集計した結果では、介護保険利用の世話の経験と非常に強い相関関係がある要因は少なかった。その中で介護保険利用の世話の経験と非常に強い相関関係があったものの一つはこれまでの人生の満足度である。これまでの人生に「大いに不満」では介護保険利用の世話を「現在している」(32%)が相対的に大きい。介護保険利用の世話をしていることが「大いに不満」であることの一因になっている可能性がある。

5-3 介護サービスの利用時に介護保険から一定の給付があることを知っているか

介護保健制度では、介護サービスを利用した場合には介護保険から一定の保険給付がある。このことを知っているかを尋ねた結果では、「大体は知っている」が29%、「少しは知っている」が43%、「まったく知らない」が28%であった。

次頁の表 5-3-1 は性別とのクロス集計結果である。検定の結果では強い相関関係はなかったが、介護サービスの利用時に介護保険から一定の保険給付があることは女性の方がよく知っていた。

表 5-3-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。検定の結果では介護保険サービスへの保険給付の

知識の有無は年齢 5 区分と強い相関関係はなかったが、60 代後半では「大体は知っている」がやや多い。

表 5-3-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。介護保険の利用時に介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは配偶者の有無と強い相関関係があった。配偶者がいない者では「まったく知らない」が比較的多い。

表5-3-1 性別と介護サービスへの保険給付を知っているかのクロス表

	大体は知ってる	少しは知ってる	まったく知らない	合計
男性	124	206	119	449
	27.6%	45.9%	26.5%	100.0%
女性	140	186	139	465
	30.1%	40.0%	29.9%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.196>0.05

表5-3-2 年齢5区分と介護サービスへの保険給付を知っているかのクロス表

	大体は知ってる	少しは知ってる	まったく知らない	合計
60-64	49	79	50	178
	27.5%	44.4%	28.1%	100.0%
65-69	74	94	43	211
	35.1%	44.5%	20.4%	100.0%
70-74	70	103	71	244
	28.7%	42.2%	29.1%	100.0%
75-79	38	76	54	168
	22.6%	45.2%	32.1%	100.0%
80-84	33	40	40	113
	29.2%	35.4%	35.4%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.063>0.05

表5-3-3 配偶者の有無と介護サービスへの保険給付を知っているかのクロス表

	大体は知っている	少しは知っている	まったく知らない	合計
有配偶	223	324	196	743
	30.0%	43.6%	26.4%	100.0%
無配偶	41	68	62	171
	24.0%	39.8%	36.3%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.030<0.05

表5-3-4 現在の健康状態と介護サービスへの保険給付を知っているかのクロス表

	大体は知っている	少しは知っている	まったく知らない	合計
よい	45	37	25	107
	42.1%	34.6%	23.4%	100.0%
まあよい	75	104	64	243
	30.9%	42.8%	26.3%	100.0%
普通	92	185	107	384
	24.0%	48.2%	27.9%	100.0%
あまりよくない	45	57	54	156
	28.8%	36.5%	34.6%	100.0%
よくない	7	9	6	22
	31.8%	40.9%	27.3%	100.0%
無回答	0	0	2	2
	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.007<0.01

表 5-3-4 は健康状態とのクロス集計結果である。介護サービスの利用時に介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは現在の健康状態は強い相関関係がある。現在の健康状態が「よい」者には一定の保険給付があることを知っている者が相対的に多い。これに対して、健康状態が「あまりよくない」者では「まったく知らない」者が相対的に多い。

表 5-3-5 は居住する住宅とのクロス集計結果である。介護サービスの利用時に介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは居住する住宅と強い相関関係がある。「賃貸住宅」と「公営住宅」に居住する者では一定の保険給付があることを知らない者がかなり多い。とくに「公営住宅」に居住する者では62%が「まったく知らない」と回答している。

次頁の表 5-3-6 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。介護サービスの利用時に介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。端的に言えば、家計に心配がない者では保険給付があることを知っている者が相対的に多く、家計に心配がある者では知らない者が相対的に多い。たとえば、「家計にゆとりがありまったく心配なく暮らしている」者では「まったく知らない」は23%だが、「家計が苦しく非常に心配である」者では「まったく知らない」は38%である。

表 5-3-7 は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは1年前と比べた経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。端的に言えば、暮らし向きが良くなった者では保険給付があることを知っている者が相対的に多く、悪くなった者では「まったく知らない」者が相対的に多い。

表5-3-5 居住する住宅と介護サービスへの保険給付を知っているかのクロス表

	大体は知っている	少しは知っている	まったく知らない	合計
持ち家 (ローン無)	240	337	214	791
	30.3%	42.6%	27.1%	100.0%
持ち家 (ローン有)	13	35	18	66
	19.7%	53.0%	27.3%	100.0%
賃貸住宅	10	13	19	42
	23.8%	31.0%	45.2%	100.0%
公営住宅	0	3	5	8
	0.0%	37.5%	62.5%	100.0%
その他	1	4	2	7
	14.3%	57.1%	28.6%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.029<0.05

表5-3-6 現在の経済的な暮らし向きと介護サービスへの保険給付を知っているか

	大体は知ってる	少しは知ってる	全く知らない	合計
ゆとりあり	59	36	29	108
全く無心配	47.6%	29.0%	23.4%	100%
ゆとりない	140	224	135	444
が心配ない	28.1%	44.9%	27.1%	100%
ゆとりなく 多少心配	58	112	79	228
	23.3%	45.0%	31.7%	100%
家計苦しく 非常に心配	7	16	14	33
	18.9%	43.2%	37.8%	100%
その他	0	4	1	5
	0.0%	80.0%	20.0%	100%
合計	264	392	258	818
	28.9%	42.9%	28.2%	100%

P=0.000<0.01

表5-3-7 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と保険給付を知っているか

	大体は知ってる	少しは知ってる	全く知らない	合計
良くなった	4	2	3	108
	44.4%	22.2%	33.3%	100%
どちらかと いえば良化	27	19	24	444
	38.6%	27.1%	34.3%	100%
どちらかと いえば悪化	60	114	78	228
	23.8%	45.2%	31.0%	100%
悪くなった	17	21	28	33
	25.8%	31.8%	42.4%	100%
変わらない	156	236	125	5
	30.2%	45.6%	24.2%	100%
合計	264	392	258	818
	28.9%	42.9%	28.2%	100%

P=0.003<0.01

表5-3-8 1ヶ月の生活費とのクロス表

	大体は知っている	少しは知っている	まったく知らない	合計
10万円未満	21	32	37	90
	23.3%	35.6%	41.1%	100.0%
10万円~15万円	45	83	58	186
	24.2%	44.6%	31.2%	100.0%
15万円~20万円	74	100	66	240
	30.8%	41.7%	27.5%	100.0%
20万円~25万円	53	102	46	201
	26.4%	50.7%	22.9%	100.0%
25万円~30万円	32	42	30	104
	30.8%	40.4%	28.8%	100.0%
30万円~35万円	17	21	16	54
	31.5%	38.9%	29.6%	100.0%
35万円~40万円	10	11	4	25
	40.0%	44.0%	16.0%	100.0%
40万円以上	12	1	1	14
	85.7%	7.1%	7.1%	100.0%
合計	264	392	258	914
	28.9%	42.9%	28.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表 5-3-8 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。介護サービスの利用時に介護保険から一定の保険給付があることを知っているかは 1 ヶ月の生活費と非常に強い相関関係がある。1 ヶ月の生活費が少ない者では「まったく知らない」が比較的多く、1 ヶ月の生活費が多い者では「まったく知らない」は少ない。たとえば、「まったく知らない」は 1 ヶ月の生活費が 10 万円未満で 41%だが、「35 万円~40 万円」で 16%、「40 万円以上」では 7%である。

5-4 要介護度に応じて月額支給限度額があることを知っているか

表5-4-1 性別と介護保険の月額支給限度額の存在を知っているかのクロス表

	大体は知ってる	少しは知ってる	まったく知らない	合計
男性	119	189	141	449
	26.5%	42.1%	31.4%	100.0%
女性	138	175	152	465
	29.7%	37.6%	32.7%	100.0%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100.0%

P=0.354>0.05

表5-4-2 年齢5区分と介護保険の月額支給限度額の存在を知っているかクロス表

	大体は知ってる	少しは知ってる	まったく知らない	合計
60-64	51	72	55	178
	28.7%	40.4%	30.9%	100.0%
65-69	77	87	47	211
	36.5%	41.2%	22.3%	100.0%
70-74	68	92	84	244
	27.9%	37.7%	34.4%	100.0%
75-79	31	75	62	168
	18.5%	44.6%	36.9%	100.0%
80-84	30	38	45	113
	26.5%	33.6%	39.8%	100.0%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100.0%

P=0.003<0.01

介護保険の給付には要介護度に応じて月額を支給限度額がある。調査ではこのことを知っているかを尋ねた。その結果は「大体は知っている」は 28%、「少しは知っている」は 40%、「まったく知らない」は 32%であった。7 割近くは多少とも知っていると回答した。

表 5-4-1 は性別とのクロス集計結果である。表にみられるように、介護保険に月額支給限度額があることを知っているかは男女別で大きな違いはなかった。

表 5-4-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。介護保険に月額支給限度額があることを知っているかは年齢 5 区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると多少とも知っている者は少なくなり、「まったく知らない」者が増える。特に対照的なのは、65-69 歳層では「まったく知らない」は 22%だが、80-84 歳層では「まったく知らない」は 40%に上ることである。

次頁の表 5-4-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。介護保険の月額支給限度額の存在を知っているかは配偶者の有無と強い相関関係がある。配偶者がいない者では、配偶者がいる者に比べて「まったく知らない」が多い。

表5-4-3 配偶者の有無と介護保険の月額支給限度額の存在を知っているか

	大体は知ってる	少しは知ってる	全く知らない	合計
有配偶	221	297	225	743
	29.7%	40.0%	30.3%	100%
無配偶	36	67	68	171
	21.1%	39.2%	39.8%	100%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100%

P=0.020<0.05

表5-4-4 生きがいを感じる程度と介護保険の月額支給限度額の存在を知っているか

	大体は知ってる	少しは知ってる	全く知らない	合計
十分に感じている	86	93	62	241
	35.7%	38.6%	25.7%	100%
多少は感じている	121	205	153	479
	25.3%	42.8%	31.9%	100%
あまり感じてない	37	54	57	148
	25.0%	36.5%	38.5%	100%
まったく感じていない	3	4	6	13
	23.1%	30.8%	46.2%	100%
わからない	10	8	15	33
	30.3%	24.2%	45.5%	100%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100%

P=0.018<0.05

表5-4-5 現在の経済的な暮らし向きとのクロス表

	大体は知っている	少しは知っている	まったく知らない	合計
家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている	57	34	33	124
	46.0%	27.4%	26.6%	100.0%
家計にあまりゆとりはないがそれほど心配なく暮らす	136	205	158	499
	27.3%	41.1%	31.7%	100.0%
家計にゆとりがなく多少心配	55	107	87	249
	22.1%	43.0%	34.9%	100.0%
家計が苦しく非常に心配	8	15	14	37
	21.6%	40.5%	37.8%	100.0%
その他	1	3	1	5
	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100.0%

P=0.001≦0.01

表5-4-4は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。要介護度に応じて介護保険に月額支給限度額があることを知っているかは生きがいを感じる程度と強い相関関係がある。生きがいを「十分に感じている」者では月額支給限度額の存在を大体ないし少しは「知っている」が比較的多く、「まったく知らない」は比較的少ない。これに対して、生きがいを「あまり感じていない」「まったく感じていない」者と「わからない」者では月額支給限度額の存在を多少とも知る者は相対的に少

なく、「まったく知らない」が比較的多い。

表 5-4-5 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。要介護度に応じて介護保険に月額支給限度額があることを知っているかは、現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」では月額支給限度額の存在を「大体は知っている」の割合が他の家計状態が劣る層の者に比べて顕著に多い（46%）。これに対して、「家計にゆとりがなく多少心配」な者と「家計が苦しく非常に心配」な者では「大体は知っている」は相対的に少なく、「まったく知らない」が比較的多い。

表5-4-6 1ヶ月の生活費とのクロス表

	大体は知っ ている	少しは知っ ている	まったく知 らない	合計
10万円未満	20	34	36	90
	22.2%	37.8%	40.0%	100.0%
10万円～15万円	41	72	73	186
	22.0%	38.7%	39.2%	100.0%
15万円～20万円	70	102	68	240
	29.2%	42.5%	28.3%	100.0%
20万円～25万円	54	88	59	201
	26.9%	43.8%	29.4%	100.0%
25万円～30万円	33	38	33	104
	31.7%	36.5%	31.7%	100.0%
30万円～35万円	19	19	16	54
	35.2%	35.2%	29.6%	100.0%
35万円～40万円	9	9	7	25
	36.0%	36.0%	28.0%	100.0%
40万円以上	11	2	1	14
	78.6%	14.3%	7.1%	100.0%
合計	257	364	293	914
	28.1%	39.8%	32.1%	100.0%

$P=0.004<0.01$

表 5-4-6 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。介護保険の月額支給限度額の存在を知っているかは生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。生活費が少ない者では月額支給限度額の存在を「大体は知っている」は相対的に少なく、「まったく知らない」が多い。これに対して、生活費が多い層では「大体は知っている」が相対的に多く、「まったく知らない」は少ない。たとえば、1ヶ月の生活費が「10万円未満」と「10万円～15万円」では「大体は知っている」は共に22%であり、「まったく知らない」は40%程度である。これに対して「30万円～35万円」と「35万円～40万円」では「大体は知っている」は35%～36%であり、「40万円以上」では「大体は知っている」は79%に上る。

5-5 要介護期に希望する介護形態

表5-5-1 性別と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
男性	42	277	68	1	61	449
	9.4%	61.7%	15.1%	0.2%	13.6%	100.0%
女性	39	279	81	6	60	465
	8.4%	60.0%	17.4%	1.3%	12.9%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.336>0.05

表5-5-2 年齢5区分と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
60-64	9	115	34	2	18	178
	5.1%	64.6%	19.1%	1.1%	10.1%	100.0%
65-69	20	123	37	2	29	211
	9.5%	58.3%	17.5%	0.9%	13.7%	100.0%
70-74	21	146	38	3	36	244
	8.6%	59.8%	15.6%	1.2%	14.8%	100.0%
75-79	17	102	24	0	25	168
	10.1%	60.7%	14.3%	0.0%	14.9%	100.0%
80-84	14	70	16	0	13	113
	12.4%	61.9%	14.2%	0.0%	11.5%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.667>0.05

自分が要介護状態になった場合、どのような介護形態を希望するか。これを尋ねた結果が上記の表である。全体で最も多かったのは「最初は在宅介護で必要なら施設介護」であり、6割(61%)を占めた。次に「最初から施設介護」が16%、「最後まで在宅介護」が9%、「わからない」が13%だった。最後まで在宅介護を含めて最初は在宅介護を望む者は7割に達する。回答結果は性別でほぼ違いはみられなかった。

表5-5-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は年齢5区分と強い相関関係はなかったが、70代後半以上で「最後まで在宅介護」がやや多い。他方「最初は在宅介護で必要なら施設介護」は年齢区分によって大差なかった。

表5-5-3 配偶者の有無と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
有配偶	60	478	112	5	88	743
	8.1%	64.3%	15.1%	0.7%	11.8%	100.0%
無配偶	21	78	37	2	33	171
	12.3%	45.6%	21.6%	1.2%	19.3%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表5-5-4 子の有無と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
あり	73	527	138	7	111	856
	8.5%	61.6%	16.1%	0.8%	13.0%	100.0%
なし	8	29	11	0	10	58
	13.8%	50.0%	19.0%	0.0%	17.2%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.356>0.05

表5-5-5 世帯形態と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
一人暮らし	17	44	21	0	24	106
	16.0%	41.5%	19.8%	0.0%	22.6%	100.0%
夫婦のみ	42	301	70	3	53	469
	9.0%	64.2%	14.9%	0.6%	11.3%	100.0%
その他の同居人あり	22	210	56	4	44	336
	6.5%	62.5%	16.7%	1.2%	13.1%	100.0%
無回答	0	1	2	0	0	3
	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.001<0.01

表 5-5-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は配偶者の有無と非常に強い相関関係がある。配偶者がいない者では「最後まで在宅介護」を含めて最初に在宅介護を望む者が比較的少なく、「最初から施設介護」の希望が比較的多い。配偶者による介護が期待できないことが影響しているとみられる。

表 5-5-4 は子の有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は子の有無と強い相関

関係はなかったが、子がない者では「最後まで在宅介護」を含めて最初に在宅介護を望む者が比較的少なく、「最初から施設介護」が比較的多い。子による介護を期待できないためとみられる。

表 5-5-5 は世帯形態と要介護期に希望する介護形態のクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は世帯形態と非常に強い相関関係がある。「一人暮らし」では「最後まで在宅介護」を含めて最初に在宅介護を希望する者が比較的少ない。これも同居家族に介護が期待できないためとみられる。

表5-5-5 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
十分まかなえている	11	38	10	1	1	61
	18.0%	62.3%	16.4%	1.6%	1.6%	100.0%
何とかまかなえている	23	212	43	0	48	326
	7.1%	65.0%	13.2%	0.0%	14.7%	100.0%
多少足りない	21	152	39	4	33	249
	8.4%	61.0%	15.7%	1.6%	13.3%	100.0%
かなり足りない	21	94	38	2	27	182
	11.5%	51.6%	20.9%	1.1%	14.8%	100.0%
合計	76	496	130	7	109	818
	9.3%	60.6%	15.9%	0.9%	13.3%	100.0%

P=0.006<0.01

表5-5-6 収入を伴う仕事の有無と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
仕事あり	47	254	75	3	56	435
	10.8%	58.4%	17.2%	0.7%	12.9%	100.0%
仕事なし	34	302	74	4	65	479
	7.1%	63.0%	15.4%	0.8%	13.6%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.293>0.05

表5-5-7 地域の社会活動への参加の有無と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
参加している	29	192	44	4	35	304
	9.5%	63.2%	14.5%	1.3%	11.5%	100.0%
参加していない	52	364	105	3	86	610
	8.5%	59.7%	17.2%	0.5%	14.1%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.355>0.05

前頁の表 5-5-5 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と非常に強い相関関係がある。公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」では「最後まで在宅介護」が比較的多い。これに対して、「かなり足りない」では「最初から施設介護」が比較的多い。

表 5-5-6 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなく、要介護期に希望する介護形態は大差がなかった。

表 5-5-7 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は地域の社会活動への参加の有無で大差はなかった。

表5-5-8 近隣の人とのつきあいの有無と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
ある	67	481	124	7	101	780
	8.6%	61.7%	15.9%	0.9%	12.9%	100.0%
ない	14	75	25	0	20	134
	10.4%	56.0%	18.7%	0.0%	14.9%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.536>0.05

表5-5-9 服用する処方薬の有無と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
処方薬が ^g ある	55	390	108	2	85	640
	8.6%	60.9%	16.9%	0.3%	13.3%	100.0%
処方薬はない	25	166	41	5	36	273
	9.2%	60.8%	15.0%	1.8%	13.2%	100.0%
無回答	1	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.035<0.05

表 5-5-8 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は近隣の人とのつきあいの有無で目立った差異はなかった。

表 5-5-9 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は服用する処方薬の有無によってほぼ差はなかった。

次頁の表 5-5-6 は健康状態とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態健康状態と強い相関関係がある。健康状態が「よい」と「まあよい」では「最初から施設介護」がやや多い。これに対して、健康状態が「よくない」では「最初在宅介護で必要なら施設介護」が相対的に少なく、「わからない」が32%と顕著に多い。

表5-5-10 現在の健康状態と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
よい	14	63	21	0	9	107
	13.1%	58.9%	19.6%	0.0%	8.4%	100.0%
まあよい	24	146	50	0	23	243
	9.9%	60.1%	20.6%	0.0%	9.5%	100.0%
普通	27	241	55	5	56	384
	7.0%	62.8%	14.3%	1.3%	14.6%	100.0%
あまりよくない	13	95	21	2	25	156
	8.3%	60.9%	13.5%	1.3%	16.0%	100.0%
よくない	2	11	2	0	7	22
	9.1%	50.0%	9.1%	0.0%	31.8%	100.0%
無回答	1	0	0	0	1	2
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.023<0.05

表5-5-11 現在の経済的な暮らし向きと要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
家計にゆとりがあり全く心配なく暮らす	14	81	19	2	8	124
	11.3%	65.3%	15.3%	1.6%	6.5%	100.0%
家計にあまりゆとりはないが心配なく暮らす	34	325	80	3	57	499
	6.8%	65.1%	16.0%	0.6%	11.4%	100.0%
家計にゆとりがなく、多少心配	28	132	42	2	45	249
	11.2%	53.0%	16.9%	0.8%	18.1%	100.0%
家計が苦しく非常に心配	3	15	8	0	11	37
	8.1%	40.5%	21.6%	0.0%	29.7%	100.0%
その他	2	3	0	0	0	5
	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.001<0.01

表 5-5-11 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らす」と「家計にあまりゆとりはないが心配なく暮らす」では「最後まで在宅介護」を含めて最初に在宅介護を希望する者が7割を超え、非常に多い。これに比べて、「家計にゆとりがなく多少心配」と「家計が苦しく非常に心配」では最初に在宅介護を希望する者は少なく、「わからない」が比較的多い。

表5-5-12 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と希望する介護形態

	最後まで 在宅介護	最初は在宅介護で 必要なら施設介護	最初から 施設介護	その他	わからな い	合計
良くなった	2	4	3	0	0	9
	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえ ば良くなった	10	41	10	2	7	70
	14.3%	58.6%	14.3%	2.9%	10.0%	100.0%
どちらかといえ ば悪くなった	22	150	43	2	35	252
	8.7%	59.5%	17.1%	0.8%	13.9%	100.0%
悪くなった	8	31	15	0	12	66
	12.1%	47.0%	22.7%	0.0%	18.2%	100.0%
変わらない	39	330	78	3	67	517
	7.5%	63.8%	15.1%	0.6%	13.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.171>0.05

表5-5-13 暮らし向きに対するコロナの影響と要介護期に希望する介護形態

	最後まで 在宅介護	最初は在宅介護で 必要なら施設介護	最初から 施設介護	その他	わからな い	合計
影響がある	49	300	79	3	54	485
	10.1%	61.9%	16.3%	0.6%	11.1%	100.0%
影響はない	26	205	63	3	39	336
	7.7%	61.0%	18.8%	0.9%	11.6%	100.0%
わからない	6	51	7	1	28	93
	6.5%	54.8%	7.5%	1.1%	30.1%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.000<0.01

表5-5-2は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係はなかった。しかし、経済的な暮らし向きが「良くなった」では「最後まで在宅介護」と「最初から施設介護」の双方が比較的多い。

表5-5-13は暮らし向きに対するコロナの影響とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は暮らし向きに対するコロナの影響と非常に強い相関関係がある。大きな差ではないが、「影響がある」では「最後まで在宅介護」が比較的多く、「影響がない」では「最初から施設介護」が比較的多い。

次頁の表5-5-14は居住する住宅とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「住宅ローンを返済中の持ち家」、「賃貸住宅」、「公営住宅」では「最後まで在宅介護」を含めて最初に在宅介護を希望する者が「住宅ローンの返済がない持ち家」と比べると少なく、「わからない」が比較的多い。とくに「賃貸住宅」では最初に在宅介護を希望する者が46%とかなり少ない。

表5-5-14 居住する住宅と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで 在宅介護	最初は在宅介護で 必要なら施設介護	最初から 施設介護	その他	わから ない	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	73 9.2%	499 63.1%	120 15.2%	5 0.6%	94 11.9%	791 100.0%
持ち家（ロー ン返済中）	4 6.1%	34 51.5%	13 19.7%	1 1.5%	14 21.2%	66 100.0%
賃貸住宅	3 7.1%	16 38.1%	13 31.0%	0 0.0%	10 23.8%	42 100.0%
公営住宅	1 12.5%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	8 100.0%
その他	0 0.0%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	7 100.0%
合計	81 8.9%	556 60.8%	149 16.3%	7 0.8%	121 13.2%	914 100.0%

P=0.001<0.01

表5-5-15 1ヶ月の生活費と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで 在宅介護	最初は在宅介護で 必要なら施設介護	最初から 施設介護	その他	わから ない	合計
10万円未満	12 13.3%	39 43.3%	16 17.8%	2 2.2%	21 23.3%	90 100.0%
10万円~15万円	18 9.7%	104 55.9%	27 14.5%	3 1.6%	34 18.3%	186 100.0%
15万円~20万円	21 8.8%	154 64.2%	39 16.3%	0 0.0%	26 10.8%	240 100.0%
20万円~25万円	14 7.0%	130 64.7%	35 17.4%	1 0.5%	21 10.4%	201 100.0%
25万円~30万円	11 10.6%	62 59.6%	20 19.2%	1 1.0%	10 9.6%	104 100.0%
30万円~35万円	2 3.7%	41 75.9%	8 14.8%	0 0.0%	3 5.6%	54 100.0%
35万円~40万円	2 8.0%	17 68.0%	3 12.0%	0 0.0%	3 12.0%	25 100.0%
40万円以上	1 7.1%	9 64.3%	1 7.1%	0 0.0%	3 21.4%	14 100.0%
合計	81 8.9%	556 60.8%	149 16.3%	7 0.8%	121 13.2%	914 100.0%

P=0.070>0.05

表5-5-15は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は1ヶ月の生活費と強い相関関係はなかった。しかし、1ヶ月の生活費が少ない者では「最初は在宅介護で必要なら

施設介護」は比較的少なく、1ヶ月の生活費が多い者では「最初は在宅介護で必要なら施設介護」は比較的多い。

表5-5-16 生きがいを感じる程度と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
十分に感じている	29 12.0%	149 61.8%	35 14.5%	2 0.8%	26 10.8%	241 100.0%
多少は感じている	40 8.4%	294 61.4%	81 16.9%	3 0.6%	61 12.7%	479 100.0%
あまり感じていない	10 6.8%	91 61.5%	26 17.6%	2 1.4%	19 12.8%	148 100.0%
まったく感じていない	0 0.0%	5 38.5%	5 38.5%	0 0.0%	3 23.1%	13 100.0%
わからない	2 6.1%	17 51.5%	2 6.1%	0 0.0%	12 36.4%	33 100.0%
合計	81 8.9%	556 60.8%	149 16.3%	7 0.8%	121 13.2%	914 100.0%

P=0.018<0.05

表5-5-17 これまでの人生の満足度と要介護期に希望する介護形態

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
かなり満足	16 15.8%	62 61.4%	14 13.9%	0 0.0%	9 8.9%	101 100.0%
まあまあ満足	45 7.6%	374 63.5%	89 15.1%	4 0.7%	77 13.1%	589 100.0%
やや不満	13 11.0%	66 55.9%	24 20.3%	2 1.7%	13 11.0%	118 100.0%
大いに不満	1 4.5%	13 59.1%	5 22.7%	0 0.0%	3 13.6%	22 100.0%
どちらともいえない	6 7.2%	41 49.4%	17 20.5%	1 1.2%	18 21.7%	83 100.0%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
合計	81 8.9%	556 60.8%	149 16.3%	7 0.8%	121 13.2%	914 100.0%

P=0.073>0.05

表 5-5-16 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は生きがいを感じる程度と強い相関関係がある。普段の生活や仕事に生きがいを感じている者では必要なら施設介護を含めて最初は在宅介護を希望する者が多い。特に「生きがいを十分に感じ

ている」では最初に在宅介護を希望する者は74%である。これに対して、生きがい「まったく感じていない」者では「最初は在宅介護で必要なら施設介護」がかなり少なく、「最初から施設介護」が39%と顕著に多い。

表 5-5-17 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態はこれまでの人生の満足度と強い相関関係はなかった。しかし、これまでの人生に「かなり満足」では「最後まで在宅介護」が比較的多く、「最初は在宅介護で必要なら施設介護」を含めると77%が最初は在宅介護を希望している。これと比べると、最初は在宅介護を希望する者は「やや不満」で57%、「大いに不満」で64%、「どちらともいえない」で57%とやや少ない。

表5-5-18 現在の幸福度と要介護期に希望する介護形態のクロス表

	最後まで在宅介護	最初は在宅介護で必要なら施設介護	最初から施設介護	その他	わからない	合計
10点	16	56	16	0	9	97
	16.5%	57.7%	16.5%	0.0%	9.3%	100.0%
9点	7	51	10	0	16	84
	8.3%	60.7%	11.9%	0.0%	19.0%	100.0%
8点	21	180	41	3	26	271
	7.7%	66.4%	15.1%	1.1%	9.6%	100.0%
7点	15	111	29	1	25	181
	8.3%	61.3%	16.0%	0.6%	13.8%	100.0%
6点	8	69	22	0	17	116
	6.9%	59.5%	19.0%	0.0%	14.7%	100.0%
5点	12	73	22	2	19	128
	9.4%	57.0%	17.2%	1.6%	14.8%	100.0%
4点	1	7	6	1	4	19
	5.3%	36.8%	31.6%	5.3%	21.1%	100.0%
3点	0	4	2	0	2	8
	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
2点	0	3	0	0	0	3
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
1点	0	1	1	0	1	3
	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
0点	0	1	0	0	1	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	81	556	149	7	121	914
	8.9%	60.8%	16.3%	0.8%	13.2%	100.0%

P=0.303>0.05

表 5-5-18 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。要介護期に希望する介護形態は現在の幸福度と強い相関関係はないが、幸福度の点数が高い者では必要なら施設介護を含めて最初は在宅介護を希望する者が多い。特に幸福度の点数が10点では「最後まで在宅介護」が比較的多い。

第6章 自己負担の介護費用に関する見通し

6-1 自己負担の介護費用の財源

表6-1-1 自己負担の介護費用は何でまかなうか（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
公的年金	824	49.9%	90.2%
預貯金・証券など金融資産の取り崩し	588	35.6%	64.3%
子からの援助	52	3.2%	5.7%
家賃地代などの不動産収入	58	3.5%	6.3%
生活扶助費	13	0.8%	1.4%
私的な介護保険	51	3.1%	5.6%
その他	6	0.4%	0.7%
わからない	58	3.5%	6.3%
合計	1650	100.0%	

回答者の選択率は全回答数（914）を母数とする各項目の選択数の割合

介護サービスの利用時には介護保険から一定の給付があるが、全額給付ではない。利用者側に自己負担の費用も発生する。2018年の厚生労働省の調査によると、訪問介護を利用する場合、月平均の自己負担の費用は7000円～2万9000円、デイサービスの月平均の自己負担額は9000円～3万5000円、ショートステイの月平均の自己負担額は9000円～4万1000円だった。施設に入居すると、特別養護老人ホームでは月平均の介護費用は2万8000円～10万8000円、食費や居住費、洗濯代は別料金である。今回の調査では以上の平均的費用を目安として提示し、自分が要介護状態になった場合に自己負担の介護費用は何でまかなうことになりそうかを複数選択可で尋ねた。

表6-1-1はその度数分布表である。最も選択数が多かった財源は「公的年金」であり、回答者の9割が選択した。次に多かったのは「預貯金・証券など金融資産の取り崩し」であり、64%の選択率だった。この二つ以外の項目の選択率はずっと低い。3番目に多かったのは「家賃・地代などの不動産収入」の6.3%、4番目に「子からの援助」（5.7%）、5番目に「私的な介護保険」（5.6%）だった。

次頁の表6-1-2は性別とのクロス集計結果である。男性に比べて女性は、「預貯金の取り崩し」が多い。その他の項目では性別による大差はない。

表6-1-3は年齢5区分とのクロス集計結果である。「預貯金の取り崩し」は60代前半では73%と多いが、年齢区分が上がると低下する傾向があり、80代前半では59%である。「子からの援助」は80代前半では15%と比較的多くなる。

表6-1-4は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者では配偶者がいる者に比べて「預貯金の取り崩し」がやや少なく、「子からの援助」がやや多い。

表6-1-5は配偶者以外の者と同居している世帯について、子との同居の有無で自己負担の介護費用を何でまかなうかをクロス集計した結果である。同居する子がある場合でも「子からの援助」はそれほど多くない。このことは注目される。

表6-1-2 性別と自己負担の介護費用は何でまかなうか（複数回答）のクロス表

	公的年金	預貯金の 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	生活扶 助費	私的介 護保険	その他	わから ない	合計
男性	399	268	23	31	8	22	4	25	449
	88.9%	59.7%	5.1%	6.9%	1.8%	4.9%	0.9%	5.6%	
女性	425	320	29	27	5	29	2	33	465
	91.4%	68.8%	6.2%	5.8%	1.1%	6.2%	0.4%	7.1%	
合計	824	588	52	58	13	51	6	58	914

%は各行の合計を母数とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

表6-1-3 年齢5区分と自己負担の介護費用は何でまかなうか(複数回答)のクロス表

	公的年金	預貯金の 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	生活扶 助費	私的介 護保険	その他	わから ない	合計
60-64	157	130	9	10	0	11	1	11	178
	88.2%	73.0%	5.1%	5.6%	0.0%	6.2%	0.6%	6.2%	
65-69	193	143	10	12	2	15	0	13	211
	91.5%	67.8%	4.7%	5.7%	0.9%	7.1%	0.0%	6.2%	
70-74	222	155	6	21	2	11	3	14	244
	91.0%	63.5%	2.5%	8.6%	0.8%	4.5%	1.2%	5.7%	
75-79	153	93	10	9	6	10	1	9	168
	91.1%	55.4%	6.0%	5.4%	3.6%	6.0%	0.6%	5.4%	
80-84	99	67	17	6	3	4	1	11	113
	87.6%	59.3%	15.0%	5.3%	2.7%	3.5%	0.9%	9.7%	
合計	824	588	52	58	13	51	6	58	914

表6-1-4 配偶者の有無と自己負担の介護費用は何でまかなうか（複数回答）

	公的年金	預貯金の 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	生活扶 助費	私的介 護保険	その他	わから ない	合計
有配偶	673	487	37	47	11	46	3	46	743
	90.6%	65.5%	5.0%	6.3%	1.5%	6.2%	0.4%	6.2%	
無配偶	151	101	15	11	2	5	3	12	171
	88.3%	59.1%	8.8%	6.4%	1.2%	2.9%	1.8%	7.0%	
合計	824	588	52	58	13	51	6	58	914

表6-1-5 同居する子の有無と自己負担の介護費用は何でまかなうか（複数回答）

	公的年金	預貯金の 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	生活扶 助費	私的介 護保険	その他	わから ない	合計
同居の子 なし	51	43	4	5	1	4	1	4	58
	87.9%	74.1%	6.9%	8.6%	1.7%	6.9%	1.7%	6.9%	
同居の子 あり	247	160	23	17	4	13	0	21	278
	88.8%	57.6%	8.3%	6.1%	1.4%	4.7%	0.0%	7.6%	
合計	298	203	27	22	5	17	1	25	336

6-2 自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうか

表6-2-1 性別と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
男性	60	150	103	69	67	449
	13.4%	33.4%	22.9%	15.4%	14.9%	100.0%
女性	58	158	86	108	55	465
	12.5%	34.0%	18.5%	23.2%	11.8%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.024<0.05

表6-2-2 年齢5区分と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
60-64	22	46	42	43	25	178
	12.4%	25.8%	23.6%	24.2%	14.0%	100.0%
65-69	22	78	43	42	26	211
	10.4%	37.0%	20.4%	19.9%	12.3%	100.0%
70-74	28	82	47	48	39	244
	11.5%	33.6%	19.3%	19.7%	16.0%	100.0%
75-79	22	61	31	32	22	168
	13.1%	36.3%	18.5%	19.0%	13.1%	100.0%
80-84	24	41	26	12	10	113
	21.2%	36.3%	23.0%	10.6%	8.8%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.100>0.05

次に自分が要介護状態になった場合に自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかを尋ねた。全体では、「大体まかなえるだろう」(13%)と「何とかまかなえるだろう」(34%)を足して5割近く(48%)は「まかなえるだろう」という見通しをもっている。他方で「多少足りないだろう」(21%)と「かなり足りないだろう」(19%)を足して4割は「足りないだろう」と回答した。

表6-2-1は性別とのクロス集計結果である。「まかなえるだろう」という見通しでは男女の差はないが、女性は男性に比べて「かなり足りないだろう」が若干多い。

表6-2-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかの見通しは年齢5区分と強い相関関係はないが、60代前半では多少とかなりを併せて「足りないだろう」が48%で、何とかと大体を足して「まかなえるだろう」の38%を大きく上回っている。60代後半以降では大差はないが、80代になると「まかなえるだろう」という見通しが6割近く(58%)になるのが注目される。

表6-2-3 配偶者の有無と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
有配偶	96	254	159	140	94	743
	12.9%	34.2%	21.4%	18.8%	12.7%	100.0%
無配偶	22	54	30	37	28	171
	12.9%	31.6%	17.5%	21.6%	16.4%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.511>0.05

表6-2-4 子の有無と自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
子がいる	116	288	180	163	109	856
	13.6%	33.6%	21.0%	19.0%	12.7%	100.0%
子はない	2	20	9	14	13	58
	3.4%	34.5%	15.5%	24.1%	22.4%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.047<0.05

表6-2-5 世帯形態と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
一人暮らし	17	37	16	23	13	106
	16.0%	34.9%	15.1%	21.7%	12.3%	100.0%
夫婦のみ	62	169	96	81	61	469
	13.2%	36.0%	20.5%	17.3%	13.0%	100.0%
その他の同居人あり	39	100	77	72	48	336
	11.6%	29.8%	22.9%	21.4%	14.3%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.513>0.05

表6-2-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは配偶者の有無と強い相関関係はなく、表の分布も大きな差はなかった。

表6-2-4は子の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかは子の有無と強い相関関係がある。子がない者は子がいる者に比べて自己負担の介護費用を「まかなえるだろう」という見通しをもつ者が少なく、「かなり足りないだろう」と「わからない」が多い。

表6-2-5は世帯形態とのクロス集計結果である。検定の結果では自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかは世帯形態とは強い相関関係はなかった。しかし、「一人暮らし」と「夫婦のみ」では「まかなえるだろう」という見通しが半数で比較的多いことは注目される。

表6-2-6 服用する処方薬の有無とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
処方薬が	86	213	131	116	94	640
ある	13.4%	33.3%	20.5%	18.1%	14.7%	100.0%
処方薬は	32	95	58	60	28	273
ない	11.7%	34.8%	21.2%	22.0%	10.3%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	913
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.336>0.05

表6-2-7 現在の健康状態と自己負担の介護費用ほどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
よい	25	47	11	14	10	107
	23.4%	43.9%	10.3%	13.1%	9.3%	100.0%
まあよい	48	84	48	37	26	243
	19.8%	34.6%	19.8%	15.2%	10.7%	100.0%
普通	28	130	91	81	54	384
	7.3%	33.9%	23.7%	21.1%	14.1%	100.0%
あまりよくない	16	41	32	38	29	156
	10.3%	26.3%	20.5%	24.4%	18.6%	100.0%
よくない	1	6	7	5	3	22
	4.5%	27.3%	31.8%	22.7%	13.6%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	912
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-8 収入を伴う仕事の有無とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
仕事あり	59	135	93	97	51	435
	13.6%	31.0%	21.4%	22.3%	11.7%	100.0%
仕事なし	59	173	96	80	71	479
	12.3%	36.1%	20.0%	16.7%	14.8%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.110>0.05

表6-2-6は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかの見通しは服用する処方薬の有無で大差はなかった。

表6-2-7は健康状態とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは健

康状態と非常に強い相関関係がある。健康状態のよい者では「まかなえるだろう」という見通しが多い。これに対して、健康状態がよくない者では「足りないだろう」が多い。たとえば、「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」という見通しは現在の健康状態が「よい」では67%に達するが、「あまりよくない」では37%、「よくない」では32%にとどまる。他方、「多少」と「かなり」を足して「足りないだろう」という見通しは健康状態が「よい」では23%であるが、「あまりよくない」では45%、「よくない」では54%とかなり多い。

表6-2-8は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。検定の結果では自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなかった。しかし、「仕事をしている」よりも「仕事をしていない」でまかなえるだろうという見通し多く、「足りないだろう」という見通しは少ない。要するに働いていることは自己負担の介護費用の充足についてよりよい見通しをもつことにつながっていない。このことは注目される。

表6-2-9 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
十分まかなえている	26 42.6%	21 34.4%	7 11.5%	3 4.9%	4 6.6%	61 100.0%
何とかまかなえている	45 13.8%	139 42.6%	66 20.2%	35 10.7%	41 12.6%	326 100.0%
多少足りない	16 6.4%	85 34.1%	60 24.1%	52 20.9%	36 14.5%	249 100.0%
かなり足りない	17 9.3%	41 22.5%	37 20.3%	63 34.6%	24 13.2%	182 100.0%
合計	104 12.7%	286 35.0%	170 20.8%	153 18.7%	105 12.8%	818 100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-9は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって大きく異なる。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者では自己負担の介護費用もまかなえるだろうという見通しをもつ者が多い。たとえば、「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」という見通しは、公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」で77%に達し、「何とかまかなえている」で55%である。これに対して、自己負担の介護費用を「まかなえるだろう」は、公的年金で毎月の生活費は「多少足りない」で41%、「かなり足りない」では32%にとどまる。

次頁の表6-2-10は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは現在の経済的な暮らし向きによって明瞭な相違がある。「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」は「家計にゆとりがあり全く心配なく暮らす」では9割に達し、「家計にゆとりはないが心配なく暮らす」で52%だが、「家計にゆとりがなく多少心配」では21%、「家計が苦しく非常に心配」では皆無である。家計に心配がある者では「わからない」も比較的多い。

表6-2-11は1年前と比べた経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化によって大きく異なる。暮らし向

きがよくなった者と悪くなった者で大きな違いがある。「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」は「良くなった」では100%に達し、「どちらかといえば良くなった」で67%、「変わらない」で54%だが、「どちらかといえば悪くなった」では32%、「悪くなった」では18%にとどまる。

表6-2-10 現在の経済的な暮らし向きとのクロス表

	大体賄えるだろう	何とか賄えるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
家計ゆとりあり全く心配なく暮らす	61	50	8	1	4	124
	49.2%	40.3%	6.5%	0.8%	3.2%	100.0%
家計ゆとりないが心配なく暮らす	51	209	111	62	66	499
	10.2%	41.9%	22.2%	12.4%	13.2%	100.0%
家計ゆとりなく多少心配	6	46	60	93	44	249
	2.4%	18.5%	24.1%	37.3%	17.7%	100.0%
家計苦しく非常に心配	0	0	10	21	6	37
	0.0%	0.0%	27.0%	56.8%	16.2%	100.0%
その他	0	3	0	0	2	5
	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-11 1年前と比べた経済的な暮らし向きとのクロス表

	大体賄えるだろう	何とか賄えるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
良くなった	6	3	0	0	0	9
	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえば良くなった	12	35	10	6	7	70
	17.1%	50.0%	14.3%	8.6%	10.0%	100.0%
どちらかといえば悪くなった	16	65	56	71	44	252
	6.3%	25.8%	22.2%	28.2%	17.5%	100.0%
悪くなった	1	11	22	25	7	66
	1.5%	16.7%	33.3%	37.9%	10.6%	100.0%
変わらない	83	194	101	75	64	517
	16.1%	37.5%	19.5%	14.5%	12.4%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

次頁の表 6-2-12 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは暮らし向きに対するコロナの影響の有無と非常に強い相関関係がある。コロナの影響がない者ではある者よりも「まかなえるだろう」という見通しをもつ者が多い。反対にコロナの影響がある者では影響がないものに比べて「足りないだろう」という見通し者が多い。

表 6-2-12 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス表

	大体まかなえる	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
影響がある	55	162	108	98	62	485
	11.3%	33.4%	22.3%	20.2%	12.8%	100.0%
影響はない	59	125	65	50	37	336
	17.6%	37.2%	19.3%	14.9%	11.0%	100.0%
わからない	4	21	16	29	23	93
	4.3%	22.6%	17.2%	31.2%	24.7%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-13 居住する住宅と自己負担の介護費用ほどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
持ち家(住宅ローンなし)	111	282	162	131	105	791
	14.0%	35.7%	20.5%	16.6%	13.3%	100.0%
持ち家(ローン返済中)	4	14	15	25	8	66
	6.1%	21.2%	22.7%	37.9%	12.1%	100.0%
賃貸住宅	1	7	10	18	6	42
	2.4%	16.7%	23.8%	42.9%	14.3%	100.0%
公営住宅	1	2	1	2	2	8
	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	25.0%	100.0%
その他	1	3	1	1	1	7
	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表 6-2-13 は居住する住宅とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「大体」に「何とか」を加えて「まかなえるだろう」は「住宅ローンの返済がない持ち家」で50%だが、「住宅ローン返済中の持ち家」では27%、「賃貸住宅」で19%、「公営住宅」では38%である。これに対して、「多少」と「かなり」を足して「足りないだろう」は「住宅ローンの返済がない持ち家」で37%だが、「住宅ローンを返済中の持ち家」では61%、「賃貸住宅」で66%、「公営住宅」では50%である。

次頁の 6-2-14 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を十分だと思える者ではまかなえるだろうという見通しが多く、足りないと思える者では不足するだろうという見通しが多い。たとえば、「大体」に「何とか」を加えて「まかなえるだろう」は現在の貯蓄額を「十分だと思える」で89%に達するが、「少し足りない」で57%、「かなり足りない」では22%である。これに対して「多少」に「かなり」を加えて「足りないだろう」は「十

分だと思う」では6%に過ぎないが、「少し足りない」で35%、「かなり足りない」で66%である。なお

表6-2-14 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	大体賄えるだろう	何と賄えるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
十分だと思う	61	50	7	1	6	125
	48.8%	40.0%	5.6%	0.8%	4.8%	100.0%
少し足りない	37	131	79	25	27	299
	12.4%	43.8%	26.4%	8.4%	9.0%	100.0%
かなり足りない	6	59	78	114	35	292
	2.1%	20.2%	26.7%	39.0%	12.0%	100.0%
わからない	9	57	18	14	39	137
	6.6%	41.6%	13.1%	10.2%	28.5%	100.0%
貯蓄はしていない	5	11	7	23	15	61
	8.2%	18.0%	11.5%	37.7%	24.6%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-15 1ヶ月の生活費と自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうか

	大体賄えるだろう	何と賄えるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
10万円未満	11	20	17	24	18	90
	12.2%	22.2%	18.9%	26.7%	20.0%	100.0%
10万円~15万円	13	63	30	46	34	186
	7.0%	33.9%	16.1%	24.7%	18.3%	100.0%
15万円~20万円	32	91	49	46	22	240
	13.3%	37.9%	20.4%	19.2%	9.2%	100.0%
20万円~25万円	17	70	57	31	26	201
	8.5%	34.8%	28.4%	15.4%	12.9%	100.0%
25万円~30万円	17	35	23	16	13	104
	16.3%	33.7%	22.1%	15.4%	12.5%	100.0%
30万円~35万円	13	17	8	10	6	54
	24.1%	31.5%	14.8%	18.5%	11.1%	100.0%
35万円~40万円	5	8	5	4	3	25
	20.0%	32.0%	20.0%	16.0%	12.0%	100.0%
40万円以上	10	4	0	0	0	14
	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

「わからない」では「まかなえるだろう」は58%と「足りないだろう」の23%を上回るが、「貯蓄はしていない」では「まかなえるだろう」は28%と「足りないだろう」の49%を下回る。

前頁の表 6-2-15 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは1ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。1ヶ月の生活費が非常に多い者ではまかなえるだろうという見通しが多く、1ヶ月の生活費が少ない者ではまかなえるだろうという見通しは少ない。たとえば、「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」は1ヶ月の生活費が「30万円～35万円」で56%、「35万円～40万円」で52%、「40万円以上」では100%に達するが、「10万円未満」では34%、「10万円～15万円」で41%である。

表6-2-16 地域の社会活動への参加の有無とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
参加している	50 16.4%	119 39.1%	59 19.4%	43 14.1%	33 10.9%	304 100.0%
参加していない	68 11.1%	189 31.0%	130 21.3%	134 22.0%	89 14.6%	610 100.0%
合計	118 12.9%	308 33.7%	189 20.7%	177 19.4%	122 13.3%	914 100.0%

P=0.002<0.01

表6-2-17 近隣の人とのつきあいの有無とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
つきあいがある	105 13.5%	280 35.9%	157 20.1%	136 17.4%	102 13.1%	780 100.0%
つきあいはない	13 9.7%	28 20.9%	32 23.9%	41 30.6%	20 14.9%	134 100.0%
合計	118 12.9%	308 33.7%	189 20.7%	177 19.4%	122 13.3%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表 6-2-16 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは地域の社会活動への参加の有無と非常に強い相関関係がある。「大体」に「何とか」を足して「まかなえるだろう」は地域の社会活動に参加している者に比較的多く、「多少」に「かなり」を加えて「足りないだろう」は地域の社会活動に参加していない者に比較的多い。

表 6-2-17 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは近隣の人とのつきあいの有無と非常に強い相関関係がある。「まかなえるだろう」という見通しは近隣の人とのつきあいがある者で比較的多く、「不足するだろう」という見通しは近隣の人とのつきあいが無い者に比較的多い。

次頁の 6-2-18 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。「まかなえ

るだろう」は生きがいを感じている者で多く、感じていない者では少ない。たとえば、「まかなえるだろう」は生きがいを「十分に感じている」で6割（62%）だが、「あまり感じていない」では31%、「まったく感じていない」では23%である。他方、「足りないだろう」という見通しは、生きがいを「十分に感じている」では29%だが、「あまり感じていない」では55%、「まったく感じていない」では46%である。生きがいを「まったく感じていない」では「わからない」も31%とかなり多い。

表6-2-18 生きがいを感じる程度と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
十分に感じている	53	97	40	30	21	241
	22.0%	40.2%	16.6%	12.4%	8.7%	100.0%
多少は感じている	47	171	109	87	65	479
	9.8%	35.7%	22.8%	18.2%	13.6%	100.0%
あまり感じていない	14	32	34	48	20	148
	9.5%	21.6%	23.0%	32.4%	13.5%	100.0%
まったく感じていない	1	2	1	5	4	13
	7.7%	15.4%	7.7%	38.5%	30.8%	100.0%
わからない	3	6	5	7	12	33
	9.1%	18.2%	15.2%	21.2%	36.4%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-2-19 これまでの人生の満足度と自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうか

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
かなり満足	27	41	12	13	8	101
	26.7%	40.6%	11.9%	12.9%	7.9%	100.0%
まあまあ満足	77	216	124	102	70	589
	13.1%	36.7%	21.1%	17.3%	11.9%	100.0%
やや不満	7	30	32	36	13	118
	5.9%	25.4%	27.1%	30.5%	11.0%	100.0%
大いに不満	0	6	7	5	4	22
	0.0%	27.3%	31.8%	22.7%	18.2%	100.0%
どちらともいえない	7	15	13	21	27	83
	8.4%	18.1%	15.7%	25.3%	32.5%	100.0%
無回答	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	118	308	189	177	122	914
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100.0%

P=0.000<0.01

前頁の表 6-2-19 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは人生の満足度と非常に強い相関関係がある。これまでの人生に満足している者ではまかなえるだろうという見通しが多く、不満な者では少ない。たとえば、「大体」と「何とか」を足して「まかなえるだろう」はこれまでの人生に「かなり満足」で67%と3分の2を占め、「まあまあ満足」で50%だが、「やや不満」では31%、「大いに不満」では27%にとどまる。一方で「多少」に「かなり」を加えた「足りないだろう」は「かなり満足」で24%、「まあまあ満足」では38%だが、「やや不満」では58%、「大いに不満」では54%である。なお「どちらともいえない」では「まかなえるだろう」(27%)よりも「足りないだろう」(41%)と「わからない」(33%)の方が多し。

表6-2-20 現在の幸福度とのクロス表

	大体まかなえるだろう	何とかまかなえるだろう	多少足りないだろう	かなり足りないだろう	わからない	合計
10点	28	36	13	14	6	97
	28.9%	37.1%	13.4%	14.4%	6.2%	100%
9点	16	35	14	9	10	84
	19.0%	41.7%	16.7%	10.7%	11.9%	100%
8点	36	109	52	36	38	271
	13.3%	40.2%	19.2%	13.3%	14.0%	100%
7点	20	58	52	32	19	181
	11.0%	32.0%	28.7%	17.7%	10.5%	100%
6点	7	36	27	34	12	116
	6.0%	31.0%	23.3%	29.3%	10.3%	100%
5点	8	25	26	39	30	128
	6.3%	19.5%	20.3%	30.5%	23.4%	100%
4点	3	2	1	7	6	19
	15.8%	10.5%	5.3%	36.8%	31.6%	100%
3点	0	5	1	2	0	8
	0.0%	62.5%	12.5%	25.0%	0.0%	100%
2点	0	0	1	2	0	3
	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100%
1点	0	0	2	1	0	3
	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100%
0点	0	1	0	0	1	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100%
合計	118	308	189	177	122	912
	12.9%	33.7%	20.7%	19.4%	13.3%	100%

P=0.000<0.01

この調査では、現在どの程度幸せかを、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として何点ぐらいになるかを尋ねた。表 6-2-20 は現在の幸福度と自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかのクロス集計結果である。自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかは幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者ではまかなえるだろうという見通しが多く、幸福度の点数が低い者では足

りないだろうという見通しが多くなる傾向がみられる。たとえば、「まかなえるだろう」は幸福度10点で66%、9点で61%、8点で54%である。これに対して、「足りないだろう」は幸福度の点数が3点で38%、2点と1点で100%、0点で50%である。

6-3 自己負担の介護費用が不足した場合の対策

ではもし自己負担の介護費用が不足した場合、どのような対策が考えられるか。これを尋ねた結果では、最も多かった回答は「わからない」(37%)だった。次いで「公的な援助に頼る」(36%)、「子に頼る」(21%)、その他(5%)だった。

表6-3-1 自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかとのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助に頼る	その他	わからない	合計
大体まかなえるだろう	78 25.3%	5 1.6%	106 34.4%	14 4.5%	105 34.1%	308 100.0%
何とかまかなえるだろう	42 35.6%	1 0.8%	23 19.5%	15 12.7%	37 31.4%	118 100.0%
多少足りないだろう	43 22.8%	4 2.1%	83 43.9%	6 3.2%	53 28.0%	189 100.0%
かなり足りないだろう	17 9.6%	5 2.8%	83 46.9%	4 2.3%	68 38.4%	177 100.0%
わからない	9 7.4%	2 1.6%	34 27.9%	3 2.5%	74 60.7%	122 100.0%
合計	189 20.7%	17 1.9%	329 36.0%	42 4.6%	337 36.9%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表6-3-2 性別と自己負担の介護費用不足の場合の対策のクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助に頼る	その他	わからない	合計
男性	75 16.7%	9 2.0%	168 37.4%	24 5.3%	173 38.5%	449 100.0%
女性	114 24.5%	8 1.7%	161 34.6%	18 3.9%	164 35.3%	465 100.0%
合計	189 20.7%	17 1.9%	329 36.0%	42 4.6%	337 36.9%	914 100.0%

P=0.059>0.05

表6-3-1は自己負担の介護費用はどの程度まかなえそうかとのクロス集計結果である。介護費用が不足した場合の対策は自己負担の介護費用をどの程度まかなえそうかと非常に強い相関関係がある。この

表で特徴的なことは、自己負担の介護費用をまかなえるという見通しをもつ者では、「子に頼る」が比較的多いことである。とくに「何とかまかなえるだろう」では「子に頼る」が36%であり、「公的な援助に頼る」(34%)を上回っている。これに対して、足りないと思込む者では「公的な援助に頼る」がかなり多い。特に「かなり足りないだろう」では「子に頼る」は10%と少なく、「公的な援助に頼る」は47%である。「わからない」では不足した場合の対策も「わからない」が多い。

前頁の表6-3-2は性別とのクロス集計結果である。検定の結果では自己負担の介護費用が不足した場合の対策は性別と強い相関関係はなかったが、男性に比べて女性では「子に頼る」が若干多い。

表6-3-3 年齢5区分と自己負担の介護費用が不足した場合の対策のクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
60-64	29	6	72	4	67	178
	16.3%	3.4%	40.4%	2.2%	37.6%	100.0%
65-69	47	3	76	14	71	211
	22.3%	1.4%	36.0%	6.6%	33.6%	100.0%
70-74	35	4	81	14	110	244
	14.3%	1.6%	33.2%	5.7%	45.1%	100.0%
75-79	43	3	60	8	54	168
	25.6%	1.8%	35.7%	4.8%	32.1%	100.0%
80-84	35	1	40	2	35	113
	31.0%	0.9%	35.4%	1.8%	31.0%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.008<0.01

表6-3-4 配偶者の有無と自己負担の介護費用が不足した場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
有配偶	144	12	281	38	268	743
	19.4%	1.6%	37.8%	5.1%	36.1%	100.0%
無配偶	45	5	48	4	69	171
	26.3%	2.9%	28.1%	2.3%	40.4%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.024>0.01

表6-3-3は年齢5区分とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると「子に頼る」割合が高くなる。特に80代前半では「子に頼る」は31%とかなり高い。

表6-3-4は配偶者の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は配偶者の有無と強い相関関係はないが、無配偶者では「子に頼る」が比較的多い。

表6-3-5 子の有無と自己負担の介護費用が不足した場合の対策のクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
子がいる	188	14	303	41	310	856
	22.0%	1.6%	35.4%	4.8%	36.2%	100.0%
子はいない	1	3	26	1	27	58
	1.7%	5.2%	44.8%	1.7%	46.6%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.001<0.01

表6-3-6 世帯形態と自己負担の介護費用が不足した場合の対策のクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
一人暮らし	25	3	27	2	49	106
	23.6%	2.8%	25.5%	1.9%	46.2%	100.0%
夫婦のみ	72	8	191	30	168	469
	15.4%	1.7%	40.7%	6.4%	35.8%	100.0%
その他の同 居人あり	92	6	109	10	119	336
	27.4%	1.8%	32.4%	3.0%	35.4%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	911
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.001<0.01

表6-3-7 配偶者以外に同居人がある場合の同居する子の有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
同居の子は いない	14	4	17	1	22	58
	24.1%	6.9%	29.3%	1.7%	37.9%	100.0%
同居の子が いる	78	2	92	9	97	278
	28.1%	0.7%	33.1%	3.2%	34.9%	100.0%
合計	92	6	109	10	119	336
	27.4%	1.8%	32.4%	3.0%	35.4%	100.0%

P=0.024>0.01

表 6-3-5 は子の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は子の有無と非常に強い相関関係がある。「子がない」では「公的な援助に頼る」と「わからない」がやや多い。

表 6-3-6 は世帯形態とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は世帯形態と非常に強い相関関係がある。「一人暮らし」では「公的な援助に頼る」は比較的少なく、「わからない」がかなり多い (46%)。「夫婦のみ」では「子に頼る」は少なく、「公的な援助に頼る」が比較的多い (41%)。「その他の同居人あり」では「子に頼る」が比較的多い (27%)。

表 6-3-7 は配偶者以外に同居人がある場合の世帯について、同居する子の有無と自己負担の介護費用が不足する場合の対策をクロス集計した結果である。世帯形態とのクロス集計結果では自己負担の介護

費用が不足した場合の対策として「子に頼る」は「その他の同居人あり」で相対的に大きかった。しかし、子の世帯の中では「子に頼る」割合は子と同居しているか否かでそれほど大きな差はなかった。子と同居している場合でも「子に頼る」割合は28%であり、同居していない場合（24%）と比べて顕著に高いわけではなかった。

表6-3-8 収入を伴う仕事の有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
仕事あり	89	7	169	23	147	435
	20.5%	1.6%	38.9%	5.3%	33.8%	100.0%
仕事なし	100	10	160	19	190	479
	20.9%	2.1%	33.4%	4.0%	39.7%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.270>0.05

表6-3-9 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
十分まかなえて いる	14	2	21	5	19	61
	23.0%	3.3%	34.4%	8.2%	31.1%	100.0%
何とかまかなえ ている	66	5	111	17	127	326
	20.2%	1.5%	34.0%	5.2%	39.0%	100.0%
多少足りない	57	3	96	12	81	249
	22.9%	1.2%	38.6%	4.8%	32.5%	100.0%
かなり足りない	36	5	61	6	74	182
	19.8%	2.7%	33.5%	3.3%	40.7%	100.0%
合計	173	15	289	40	301	818
	21.1%	1.8%	35.3%	4.9%	36.8%	100.0%

P=0.675>0.05

表 6-3-8 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。検定の結果では自己負担の介護費用が不足した場合の対策は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなく、仕事の有無によって項目の分布に大きな違いはみられなかった。

表 6-3-9 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と強い相関関係はなかった。公的年金で毎月の生活費をまかなえている場合も不足する場合も、「子に頼る」と「公的な援助に頼る」は大差がなかった。いいかえると、公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと自己負担の介護費用が不足した場合の対策は相互に強い関係性がない問題であるということである。

次頁の表 6-3-10 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足する場合の対策は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配なく暮らして

いる者では「子に頼る」が比較的多く、「公的な援助に頼る」がやや少ない。とくに「家計にゆとりがありまったく心配なく暮らしている」者ではこの傾向が顕著である。これに対して、家計に心配がある者では「子に頼る」はやや少なく、「公的な援助に頼る」が比較的多い。特に「家計が苦しく非常に心配」な者では「公的な援助に頼る」が46%と高い割合を占めている。

表6-3-10 現在の経済的な暮らし向きと自己負担の介護費用が不足する場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
家計にゆとりがあり全 く心配なく暮らす	34	5	37	14	34	124
	27.4%	4.0%	29.8%	11.3%	27.4%	100.0%
家計にあまりゆとりは ないが心配なく暮らす	107	6	170	21	195	499
	21.4%	1.2%	34.1%	4.2%	39.1%	100.0%
家計にゆとりがなく、 多少心配	41	6	103	7	92	249
	16.5%	2.4%	41.4%	2.8%	36.9%	100.0%
家計が苦しく非常に心 配	6	0	17	0	14	37
	16.2%	0.0%	45.9%	0.0%	37.8%	100.0%
その他	1	0	2	0	2	5
	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	40.0%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.004<0.01

表6-3-11 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
良くなった	3	0	2	2	2	9
	33.3%	0.0%	22.2%	22.2%	22.2%	100.0%
どちらかといえ ば良くなった	19	1	20	4	26	70
	27.1%	1.4%	28.6%	5.7%	37.1%	100.0%
どちらかといえ ば悪くなった	58	2	104	8	80	252
	23.0%	0.8%	41.3%	3.2%	31.7%	100.0%
悪くなった	12	1	25	3	25	66
	18.2%	1.5%	37.9%	4.5%	37.9%	100.0%
変わらない	97	13	178	25	204	517
	18.8%	2.5%	34.4%	4.8%	39.5%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.159>0.05

表6-3-11は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係はなかった。しかし、「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」では「子に頼る」が比較的多く。「どちらかとい

えば悪くなった」と「悪くなった」では「子に頼る」が比較的多い。これに対して、「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」では「子に頼る」はやや少なく、「公的な援助に頼る」が比較的多い。

表6-3-12 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
影響がある	93	11	186	23	172	485
	19.2%	2.3%	38.4%	4.7%	35.5%	100.0%
影響はない	80	4	114	17	121	336
	23.8%	1.2%	33.9%	5.1%	36.0%	100.0%
わからない	16	2	29	2	44	93
	17.2%	2.2%	31.2%	2.2%	47.3%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.254>0.05

表6-3-13 1ヶ月の生活費と自己負担の介護費用が不足した場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
10万円未満	20	3	27	4	36	90
	22.2%	3.3%	30.0%	4.4%	40.0%	100.0%
10万円~15万円	42	3	65	6	70	186
	22.6%	1.6%	34.9%	3.2%	37.6%	100.0%
15万円~20万円	46	3	93	12	86	240
	19.2%	1.3%	38.8%	5.0%	35.8%	100.0%
20万円~25万円	41	4	74	13	69	201
	20.4%	2.0%	36.8%	6.5%	34.3%	100.0%
25万円~30万円	18	3	34	1	48	104
	17.3%	2.9%	32.7%	1.0%	46.2%	100.0%
30万円~35万円	15	1	25	2	11	54
	27.8%	1.9%	46.3%	3.7%	20.4%	100.0%
35万円~40万円	5	0	8	2	10	25
	20.0%	0.0%	32.0%	8.0%	40.0%	100.0%
40万円以上	2	0	3	2	7	14
	14.3%	0.0%	21.4%	14.3%	50.0%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.522>0.05

前頁の表 6-3-12 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は暮らし向きに対するコロナの影響の有無と強い相関関係はなかった。しかし、「影響がない」では「子に頼る」がやや多く、「公的な援助に頼る」がやや少ない。

表 6-3-13 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は 1 ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係はなかった。しかし、「40 万円以上」で「子に頼る」と「公的な援助に頼る」がやや少なく、「わからない」が比較的多い。

表6-3-14 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
十分だと思う	42	2	31	13	37	125
	33.6%	1.6%	24.8%	10.4%	29.6%	100.0%
少し足りない と思う	71	7	106	16	99	299
	23.7%	2.3%	35.5%	5.4%	33.1%	100.0%
かなり足りな いと思う	50	3	136	6	97	292
	17.1%	1.0%	46.6%	2.1%	33.2%	100.0%
わからない	17	1	33	6	80	137
	12.4%	0.7%	24.1%	4.4%	58.4%	100.0%
貯蓄はしてい ない	9	4	23	1	24	61
	14.8%	6.6%	37.7%	1.6%	39.3%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表6-3-15 居住する住宅と自己負担の介護費用不足の場合の対策のクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	162	16	287	40	286	791
	20.5%	2.0%	36.3%	5.1%	36.2%	100.0%
持ち家（住宅 ローン返済中）	12	1	20	2	31	66
	18.2%	1.5%	30.3%	3.0%	47.0%	100.0%
賃貸住宅	11	0	14	0	17	42
	26.2%	0.0%	33.3%	0.0%	40.5%	100.0%
公営住宅	1	0	5	0	2	8
	12.5%	0.0%	62.5%	0.0%	25.0%	100.0%
その他	3	0	3	0	1	7
	42.9%	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.672>0.05

表 6-3-14 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス表である。自己負担の介護費用が不足した場合の対

策は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」では「子に頼る」が相比較的多く（34%）、「公的な援助に頼る」と「わからない」は比較的少ない。これに対して、「かなり足りないと思う」では、「子に頼る」は比較的少なく、「公的な援助に頼る」が相対的に高い割合（47%）を占める。「わからない」では自己負担の介護費用が不足する場合の対策も「わからない」が多い（58%）。

表 6-3-15 は居住する住宅とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は居住する住宅と強い相関関係はなかった。しかし、「賃貸住宅」で「子に頼る」がやや多く、「公営住宅」では「公的な援助に頼る」が6割超とかなり多い。

表6-3-16 地域の社会活動への参加の有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
参加して いる	73 24.0%	7 2.3%	106 34.9%	20 6.6%	98 32.2%	304 100.0%
参加して いない	116 19.0%	10 1.6%	223 36.6%	22 3.6%	239 39.2%	610 100.0%
合計	189 20.7%	17 1.9%	329 36.0%	42 4.6%	337 36.9%	914 100.0%

P=0.047<0.05

表6-3-17 近隣の人とのつきあいの有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
つきあい がある	160 20.5%	13 1.7%	284 36.4%	41 5.3%	282 36.2%	780 100.0%
つきあい はない	29 21.6%	4 3.0%	45 33.6%	1 0.7%	55 41.0%	134 100.0%
合計	189 20.7%	17 1.9%	329 36.0%	42 4.6%	337 36.9%	914 100.0%

P=0.126>0.05

表6-3-18 服用する処方薬の有無とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
処方薬が ある	143 22.3%	13 2.0%	225 35.2%	23 3.6%	236 36.9%	640 100.0%
処方薬は ない	46 16.8%	4 1.5%	103 37.7%	19 7.0%	101 37.0%	273 100.0%
合計	189 20.7%	17 1.9%	329 36.0%	42 4.6%	337 36.9%	913 100.0%

P=0.267>0.05

表 6-3-16 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足

した場合の対策は地域の社会活動への参加の有無と強い相関関係があり、地域の社会活動に「参加している」では「子に頼る」がやや多い。

表 6-3-17 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係はなく、つきあいの有無で差はなかった。

表 6-3-18 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は服用する処方薬の有無と強い相関関係はなく、処方薬の有無で大きな違いはなかった。

表6-3-19 現在の健康状態と自己負担の介護費用が不足した場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
よい	30	2	25	8	42	107
	28.0%	1.9%	23.4%	7.5%	39.3%	100.0%
まあよい	63	6	81	15	78	243
	25.9%	2.5%	33.3%	6.2%	32.1%	100.0%
普通	58	5	157	13	151	384
	15.1%	1.3%	40.9%	3.4%	39.3%	100.0%
あまりよく ない	34	2	57	6	57	156
	21.8%	1.3%	36.5%	3.8%	36.5%	100.0%
よくない	4	2	7	0	9	22
	18.2%	9.1%	31.8%	0.0%	40.9%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	912
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.007<0.01

表6-3-20 生きがいを感じる程度と自己負担の介護費用が不足する場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
十分に感じて いる	65	7	73	18	78	241
	27.0%	2.9%	30.3%	7.5%	32.4%	100.0%
多少は感じて いる	97	5	187	17	173	479
	20.3%	1.0%	39.0%	3.5%	36.1%	100.0%
あまり感じて いない	22	5	57	5	59	148
	14.9%	3.4%	38.5%	3.4%	39.9%	100.0%
まったく感じ ていない	1	0	3	0	9	13
	7.7%	0.0%	23.1%	0.0%	69.2%	100.0%
わからない	4	0	9	2	18	33
	12.1%	0.0%	27.3%	6.1%	54.5%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	914
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.004<0.01

前頁の表 6-3-19 は健康状態とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は現在の健康状態によって大きな違いがある。健康状態が「よい」と「まあよい」では「子に頼る」が比較的多い。健康状態が「普通」では「子に頼る」は比較的少なく、「公的な援助に頼る」が比較的多い。健康状態が「よくない」は「わからない」が比較的多い。

表 6-3-20 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足する場合の対策は生きがいを感じる程度によって明瞭な相違がみられる。生きがいを感じている者では「子に頼る」が比較的多く、生きがいを感じていない者では「子に頼る」は比較的少ない。生きがいをまったく感じていない者では「公的な援助に頼る」も少なく、「わからない」が 69%と顕著に多い。

表6-3-21 これまでの人生の満足度とのクロス表

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
かなり満足	29	3	22	11	36	101
	28.7%	3.0%	21.8%	10.9%	35.6%	100.0%
まあまあ満足	122	10	220	25	212	589
	20.7%	1.7%	37.4%	4.2%	36.0%	100.0%
やや不満	27	3	48	3	37	118
	22.9%	2.5%	40.7%	2.5%	31.4%	100.0%
大いに不満	3	1	11	0	7	22
	13.6%	4.5%	50.0%	0.0%	31.8%	100.0%
どちらともい えない	8	0	28	3	44	83
	9.6%	0.0%	33.7%	3.6%	53.0%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	913
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.005<0.01

表 6-3-21 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足する場合の対策はこれまでの人生の満足度によって顕著な差がみられる。これまでの人生に「かなり満足している」者では「子に頼る」が比較的多い (29%)。これに対して、「大いに不満である」者では「子に頼る」は比較的少なく (14%)、「公的な援助に頼る」がかなり多い (50%)。満足か不満かどちらともいえない者では「子に頼る」は少なく (10%)、「わからない」がかなり多い (53%)。

次頁の表 6-3-22 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。自己負担の介護費用が不足した場合の対策は現在の幸福度と強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者、特に 10 点では「子に頼る」が比較的多く、「公的な援助に頼る」が少ない。幸福度の点数が低くなると、概ね「公的な援助に頼る」が多くなる傾向がみられる。

表6-3-22 現在の幸福度と自己負担の介護費用が不足した場合の対策

	子に頼る	子以外の家族・ 親族に頼る	公的な援助 に頼る	その他	わからない	合計
10点	31	3	24	10	29	97
	32.0%	3.1%	24.7%	10.3%	29.9%	100.0%
9点	18	3	23	4	36	84
	21.4%	3.6%	27.4%	4.8%	42.9%	100.0%
8点	58	3	101	13	96	271
	21.4%	1.1%	37.3%	4.8%	35.4%	100.0%
7点	36	4	66	5	70	181
	19.9%	2.2%	36.5%	2.8%	38.7%	100.0%
6点	15	1	58	5	37	116
	12.9%	0.9%	50.0%	4.3%	31.9%	100.0%
5点	27	2	43	5	51	128
	21.1%	1.6%	33.6%	3.9%	39.8%	100.0%
4点	2	0	9	0	8	19
	10.5%	0.0%	47.4%	0.0%	42.1%	100.0%
3点	0	0	2	0	6	8
	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%
2点	1	1	0	0	1	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
1点	1	0	1	0	1	3
	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
0点	0	0	1	0	1	2
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	189	17	329	42	337	912
	20.7%	1.9%	36.0%	4.6%	36.9%	100.0%

P=0.022 < 0.05

第7章 介護サービス利用の世話人に関する見通し

7-1 ケアプランの作成者は誰になりそうか

表7-1-1 性別と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
男性	91	251	54	10	2	41	449
	20.3%	55.9%	12.0%	2.2%	0.4%	9.1%	100.0%
女性	106	182	140	7	3	27	465
	22.8%	39.1%	30.1%	1.5%	0.6%	5.8%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-2 年齢5区分と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
60-64	37	98	33	3	0	7	178
	20.8%	55.1%	18.5%	1.7%	0.0%	3.9%	100.0%
65-69	46	109	36	2	1	17	211
	21.8%	51.7%	17.1%	0.9%	0.5%	8.1%	100.0%
70-74	あ	122	46	5	1	13	244
	23.4%	50.0%	18.9%	2.0%	0.4%	5.3%	100.0%
75-79	28	68	44	5	1	22	168
	16.7%	40.5%	26.2%	3.0%	0.6%	13.1%	100.0%
80-84	29	36	35	2	2	9	113
	25.7%	31.9%	31.0%	1.8%	1.8%	8.0%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.003<0.01

介護保険を利用するにはケアマネージャーと相談し介護サービスの利用計画（ケアプラン）を作成する必要がある。そこで自分の要介護期にケアプランを作成する人は主として誰になりそうかを尋ねた。その結果、最も多かった人は「配偶者」で半数（48%）に近かった。次いで「自分自身」（22%）、「子」（21%）だった。これ以外の者は極めて少なかった。

表7-1-1は性別とのクロス集計結果である。要介護期のケアプランの作成者と見込む者は性別で顕著な差がみられる。男女ともに「配偶者」が最も多いが、男性では特に多く56%と半数超である。「子」

は12%と少ない。女性では「配偶者」は4割（39%）で、「子」は30%と比較的多い。

表7-1-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者と見込む者は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。ケアプランの作成者と見込む者は70代前半までは「配偶者」が多いが、70代後半からは「配偶者」は少なくなる。70代後半以上では「配偶者」に代わり、「子」が比較的多くなる。

表7-1-3 配偶者の有無と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
有配偶	133	433	119	7	4	47	743
	17.9%	58.3%	16.0%	0.9%	0.5%	6.3%	100.0%
無配偶	64	0	75	10	1	21	171
	37.4%	0.0%	43.9%	5.8%	0.6%	12.3%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-4 子の有無と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
子がいる	176	414	194	7	5	60	856
	20.6%	48.4%	22.7%	0.8%	0.6%	7.0%	100.0%
子はない	21	19	0	10	0	8	58
	36.2%	32.8%	0.0%	17.2%	0.0%	13.8%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは配偶者の有無と非常に強い相関関係がある。配偶者がいない者では配偶者によるケアプランの作成を期待できない。その場合、ケアプランの作成者として期待する者は「子」が44%、「自分自身」が38%であり、いずれもかなり大きな割合を占める。

表7-1-4は子の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは子の有無と非常に強い相関関係がある。子がない場合には子によるケアプランの作成を期待できない。その場合にケアプランの作成者として期待する者は「自分自身」(36%)が最も多く、二番目に「配偶者」(33%)だった。

次頁の表7-1-5は世帯形態とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプラン作成者の見通しは世帯形態と非常に強い相関関係がある。ケアプランの作成者になりそうな者は「一人暮らし」では「自分自身」(42%)と「子」(35%)が相対的に多い。「夫婦のみ」では「配偶者」(62%)が非常に多い。「その他の同居人あり」では「配偶者」(42%)と「子」(30%)が相対的に多い。

表7-1-5 世帯形態と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
一人暮らし	44	3	37	7	1	14	106
	41.5%	2.8%	34.9%	6.6%	0.9%	13.2%	100.0%
夫婦のみ	91	290	56	2	3	27	469
	19.4%	61.8%	11.9%	0.4%	0.6%	5.8%	100.0%
その他の同 居人あり	60	140	100	8	1	27	336
	17.9%	41.7%	29.8%	2.4%	0.3%	8.0%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	911
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-6 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
十分まかな えている	19	26	15	0	0	1	61
	31.1%	42.6%	24.6%	0.0%	0.0%	1.6%	100.0%
何とかまかな えている	55	161	73	10	3	24	326
	16.9%	49.4%	22.4%	3.1%	0.9%	7.4%	100.0%
多少足りない	55	120	51	2	2	19	249
	22.1%	48.2%	20.5%	0.8%	0.8%	7.6%	100.0%
かなり足りな い	46	72	43	3	0	18	182
	25.3%	39.6%	23.6%	1.6%	0.0%	9.9%	100.0%
合計	175	379	182	15	5	62	818
	21.4%	46.3%	22.2%	1.8%	0.6%	7.6%	100.0%

P=0.102>0.05

表7-1-7 収入を伴う仕事の有無と自分の要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
仕事あり	94	211	90	5	3	32	435
	21.6%	48.5%	20.7%	1.1%	0.7%	7.4%	100.0%
仕事なし	103	222	104	12	2	36	479
	21.5%	46.3%	21.7%	2.5%	0.4%	7.5%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.714>0.05

表7-1-6は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者と見通しは公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と強い相関関係は

なかった。しかし、「十分まかなえている」では「自分自身」が比較的多い。

表 7-1-7 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなく、収入の有無で分布に差はなかった。

表7-1-8 服用する処方薬の有無と自分の要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
処方薬が ある	143	290	138	14	5	50	640
	22.3%	45.3%	21.6%	2.2%	0.8%	7.8%	100.0%
処方薬は ない	54	142	56	3	0	18	273
	19.8%	52.0%	20.5%	1.1%	0.0%	6.6%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.692>0.05

表7-1-9 現在の健康状態と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
よい	32	43	21	3	2	6	107
	29.9%	40.2%	19.6%	2.8%	1.9%	5.6%	100.0%
まあよい	57	120	51	4	1	10	243
	23.5%	49.4%	21.0%	1.6%	0.4%	4.1%	100.0%
普通	72	198	78	4	1	31	384
	18.8%	51.6%	20.3%	1.0%	0.3%	8.1%	100.0%
あまりよ くない	29	62	40	5	1	19	156
	18.6%	39.7%	25.6%	3.2%	0.6%	12.2%	100.0%
よくない	6	9	4	1	0	2	22
	27.3%	40.9%	18.2%	4.5%	0.0%	9.1%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	912
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.159>0.05

表 7-1-8 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは服用する処方薬の有無と強い相関関係はなかった。しかし、処方薬のない者では「配偶者」を見込む者がやや多い。

表 7-1-9 は健康状態とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは現在の健康状態と強い相関関係はなかった。しかし、現在の健康状態が「よい」では「自分自身」が比較的多く、「まあよい」と「普通」では「配偶者」がやや多い。「あまりよくない」と「よくない」では「わからない」がやや多く、「配偶者」がやや少ない。

表7-1-10 居住する住宅と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	165 20.9%	395 49.9%	159 20.1%	15 1.9%	5 0.6%	52 6.6%	791 100.0%
持ち家（ロー ン返済中）	14 21.2%	29 43.9%	19 28.8%	0 0.0%	0 0.0%	4 6.1%	66 100.0%
賃貸住宅	14 33.3%	6 14.3%	12 28.6%	1 2.4%	0 0.0%	9 21.4%	42 100.0%
公営住宅	1 12.5%	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	8 100.0%
その他	3 42.9%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100.0%
合計	197 21.6%	433 47.4%	194 21.2%	17 1.9%	5 0.5%	68 7.4%	914 100.0%

P=0.000<0.001

表7-1-11 地域の社会活動への参加の有無と要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
参加して いる	68 22.4%	147 48.4%	62 20.4%	4 1.3%	3 1.0%	20 6.6%	304 100.0%
参加して いない	129 21.1%	286 46.9%	132 21.6%	13 2.1%	2 0.3%	48 7.9%	610 100.0%
合計	197 21.6%	433 47.4%	194 21.2%	17 1.9%	5 0.5%	68 7.4%	914 100.0%

P=0.674>0.05

表7-1-12 近隣の人とのつきあいの有無と要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
つきあ いがある	156 20.0%	384 49.2%	168 21.5%	12 1.5%	5 0.6%	55 7.1%	780 100.0%
つきあ いはない	41 30.6%	49 36.6%	26 19.4%	5 3.7%	0 0.0%	13 9.7%	134 100.0%
合計	197 21.6%	433 47.4%	194 21.2%	17 1.9%	5 0.5%	68 7.4%	914 100.0%

P=0.010<0.05

表 7-1-10 は居住する住宅とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通

しは居住する住宅によって明瞭な相違がある。「住宅ローンの返済のない持ち家」では「配偶者」が半数だが、「住宅ローンを返済中の持ち家」では「配偶者」はやや少なく、「子」が比較的多い。これに対して、「賃貸住宅」と「公営住宅」では「配偶者」は顕著に少ない。ケアプランの作成者になりそうな者は「賃貸住宅」は「自分自身」(33%)と「子」(29%)が比較的多く、「公営住宅」では「子」が比較的多い一方で「わからない」(38%)もかなり多い。

表 7-1-11 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは地域の社会活動への参加の有無と強い相関関係はなく、回答の分布も参加の有無で差がなかった。

表 7-1-12 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係がある。近隣の人とのつきあいがいない者では自分の要介護期のケアプランの作成者として「配偶者」を挙げる者は少なく、「自分自身」を挙げる者が比較的多い。

表7-1-13 現在の経済的な暮らし向きと自分の要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
家計にゆとりがあり 全く心配ない	29 23.4%	57 46.0%	31 25.0%	3 2.4%	4 3.2%	0 0.0%	124 100.0%
あまりゆとりはない がそれほど心配ない	102 20.4%	256 51.3%	103 20.6%	12 2.4%	0 0.0%	26 5.2%	499 100.0%
家計にゆとりがな く、多少心配	56 22.5%	107 43.0%	51 20.5%	2 0.8%	1 0.4%	32 12.9%	249 100.0%
家計が苦しく非常に 心配	10 27.0%	11 29.7%	7 18.9%	0 0.0%	0 0.0%	9 24.3%	37 100.0%
その他	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
合計	197 21.6%	433 47.4%	194 21.2%	17 1.9%	5 0.5%	68 7.4%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表 7-1-13 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配がない者では要介護期のケアプランの作成者として「配偶者」と「子」に期待する者は家計に心配がない者に多く、家計に心配がある者では比較的少ない。たとえば、「配偶者」と「子」の合計割合は「家計にゆとりがあり全く心配ない」で71%、「あまりゆとりはないがそれほど心配ない」で72%だが、「家計にゆとりがなく多少心配」では64%、「家計が苦しく非常に心配」では49%である。

表7-1-14 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
良くなった	2	4	2	0	0	1	9
	22.2%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%
どちらかといえ ば良くなった	20	33	10	1	2	4	70
	28.6%	47.1%	14.3%	1.4%	2.9%	5.7%	100.0%
どちらかといえ ば悪くなった	45	111	65	6	0	25	252
	17.9%	44.0%	25.8%	2.4%	0.0%	9.9%	100.0%
悪くなった	13	31	11	1	0	10	66
	19.7%	47.0%	16.7%	1.5%	0.0%	15.2%	100.0%
変わらない	117	254	106	9	3	28	517
	22.6%	49.1%	20.5%	1.7%	0.6%	5.4%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.081>0.05

表7-1-15 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
影響がある	113	243	82	9	3	35	485
	23.3%	50.1%	16.9%	1.9%	0.6%	7.2%	100.0%
影響はない	74	152	84	7	2	17	336
	22.0%	45.2%	25.0%	2.1%	0.6%	5.1%	100.0%
わからない	10	38	28	1	0	16	93
	10.8%	40.9%	30.1%	1.1%	0.0%	17.2%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表 7-1-14 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係はなかったが、「悪くなった」で「わからない」が比較的多い。

表 7-1-15 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは暮らし向きに対するコロナの影響の有無と非常に強い相関関係がある。コロナの「影響がない」と影響があるかどうか「わからない」で要介護期のケアプランの作成者として「子」に期待する者がやや多い。

次頁の表 7-1-16 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって相違がある。「配偶者」と「子」の合計は現在の貯蓄額を「十分だと思う」で 76%だが、「少し足りないと思う」で 71%、「かなり足りないと思う」で 68%、「わからない」で 65%、「貯蓄はしていな

い」で52%と順次少なくなる。「貯蓄はしていない」では「わからない」が26%とかなり多い。

表7-1-16 現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかとケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
十分だと思う	26	65	30	3	0	1	125
	20.8%	52.0%	24.0%	2.4%	0.0%	0.8%	100.0%
少し足りない と思う	64	158	54	6	2	15	299
	21.4%	52.8%	18.1%	2.0%	0.7%	5.0%	100.0%
かなり足りな いと思う	65	134	67	2	1	23	292
	22.3%	45.9%	22.9%	0.7%	0.3%	7.9%	100.0%
わからない	31	61	26	5	1	13	137
	22.6%	44.5%	19.0%	3.6%	0.7%	9.5%	100.0%
貯蓄はしてい ない	11	15	17	1	1	16	61
	18.0%	24.6%	27.9%	1.6%	1.6%	26.2%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-17 自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
大体まかなえ るだろう	24	59	29	1	3	2	118
	20.3%	50.0%	24.6%	0.8%	2.5%	1.7%	100.0%
何とかまかな えるだろう	76	151	62	7	1	11	308
	24.7%	49.0%	20.1%	2.3%	0.3%	3.6%	100.0%
多少足りない だろう	34	98	44	4	0	9	189
	18.0%	51.9%	23.3%	2.1%	0.0%	4.8%	100.0%
かなり足りな いだろう	39	74	36	2	1	25	177
	22.0%	41.8%	20.3%	1.1%	0.6%	14.1%	100.0%
わからない	24	51	23	3	0	21	122
	19.7%	41.8%	18.9%	2.5%	0.0%	17.2%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.001<0.01

表 7-1-17 は自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは自己負担の介護費用をまかなえそうな程度と非常に強い相関関係がある。自己負担の介護費用が「かなり足りないだろう」と「わからない」で「配偶者」と「子」に期待する者がやや少なく、「わからない」が比較的多い。

次頁の 7-1-18 は自己負担の介護費用が不足する場合の対策とのクロス集計結果である。これをみると、自己負担の介護費用が不足する場合の対策として「子に頼る」を挙げる者は、自分の要介護期のケ

アプランの作成者が「子」になりそうだと見込む者が比較的多いことが特徴的である。

表7-1-18 自己負担の介護費用が不足する場合の対策とケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
子に頼る	17	97	64	1	3	7	189
	9.0%	51.3%	33.9%	0.5%	1.6%	3.7%	100.0%
子以外の家族・ 親族に頼る	3	9	2	3	0	0	17
	17.6%	52.9%	11.8%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0%
公的な援助に 頼る	35	202	60	5	7	20	329
	10.6%	61.4%	18.2%	1.5%	2.1%	6.1%	100.0%
その他	4	31	4	1	0	2	42
	9.5%	73.8%	9.5%	2.4%	0.0%	4.8%	100.0%
わからない	26	192	50	7	4	58	337
	7.7%	57.0%	14.8%	2.1%	1.2%	17.2%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-19 1ヶ月の生活費と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
10万円未満	25	17	32	3	1	12	90
	27.8%	18.9%	35.6%	3.3%	1.1%	13.3%	100.0%
10万円~15万円	37	61	56	5	0	27	186
	19.9%	32.8%	30.1%	2.7%	0.0%	14.5%	100.0%
15万円~20万円	50	127	48	1	2	12	240
	20.8%	52.9%	20.0%	0.4%	0.8%	5.0%	100.0%
20万円~25万円	42	113	32	4	1	9	201
	20.9%	56.2%	15.9%	2.0%	0.5%	4.5%	100.0%
25万円~30万円	22	60	13	3	1	5	104
	21.2%	57.7%	12.5%	2.9%	1.0%	4.8%	100.0%
30万円~35万円	14	29	8	1	0	2	54
	25.9%	53.7%	14.8%	1.9%	0.0%	3.7%	100.0%
35万円~40万円	5	17	2	0	0	1	25
	20.0%	68.0%	8.0%	0.0%	0.0%	4.0%	100.0%
40万円以上	2	9	3	0	0	0	14
	14.3%	64.3%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

前頁の表 7-1-19 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは 1 ヶ月の生活費の大きさによって顕著に異なる。1 ヶ月の生活費が少ない者では自分の要介護期のケアプランの作成者として「配偶者」に期待する者が少なく、「子」に期待する者が多い。これに対して 1 ヶ月の生活費が多額の者では「配偶者」に期待する者が多く、「子」に期待する者は少ない。たとえば、「配偶者」は 1 ヶ月の生活費が「10 万円未満」で 19%、「10 万円～15 万円」で 33%だが、「35 万円～40 万円」で 68%、「40 万円以上」で 64%である。また「子」は「10 万円未満」で 36%、「10 万円～15 万円」で 30%だが、「35 万円～40 万円」では 8%、「40 万円以上」では 21%である。

表7-1-20 生きがいを感じる程度と自分の要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
十分に感じ ている	61	104	61	3	2	10	241
	25.3%	43.2%	25.3%	1.2%	0.8%	4.1%	100.0%
多少は感じ ている	94	249	93	8	1	34	479
	19.6%	52.0%	19.4%	1.7%	0.2%	7.1%	100.0%
あまり感じ ていない	34	63	32	6	2	11	148
	23.0%	42.6%	21.6%	4.1%	1.4%	7.4%	100.0%
まったく感 じていない	3	4	1	0	0	5	13
	23.1%	30.8%	7.7%	0.0%	0.0%	38.5%	100.0%
わからない	5	13	7	0	0	8	33
	15.2%	39.4%	21.2%	0.0%	0.0%	24.2%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表7-1-21 これまでの人生の満足度と自分の要介護期のケアプランの作成者

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
かなり満足	24	52	20	1	1	3	101
	23.8%	51.5%	19.8%	1.0%	1.0%	3.0%	100.0%
まあまあ満足	123	286	130	11	4	35	589
	20.9%	48.6%	22.1%	1.9%	0.7%	5.9%	100.0%
やや不満	26	56	20	3	0	13	118
	22.0%	47.5%	16.9%	2.5%	0.0%	11.0%	100.0%
大いに不満	8	7	4	2	0	1	22
	36.4%	31.8%	18.2%	9.1%	0.0%	4.5%	100.0%
どちらともい えない	16	31	20	0	0	16	83
	19.3%	37.3%	24.1%	0.0%	0.0%	19.3%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	914
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.020<0.05

前頁の表 7-1-20 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。表の中で特徴的なのは、生きがいを「まったく感じていない」で「配偶者」と「子」にケアプランの作成者を期待する者が顕著に少なく、「わからない」が非常に多いことである。

表 7-1-21 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しはこれまでの人生の満足度と強い相関関係がある。これまでの人生に「大いに不満」と「どちらともいえない」ではケアプランの作成者として「配偶者」が比較的少ない。また「大いに不満」では「自分自身」が比較的多く、「どちらともいえない」では「わからない」が比較的多い。

表 7-1-21 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。自分の要介護期のケアプランの作成者の見通しは現在の幸福度と非常に強い相関関係がある。現在の幸福度の点数が高い者では、要介護期のケアプランの作成者を「配偶者」や「子」に期待する者が多い。これは概ね6点以上が該当する。これに対して、現在の幸福度の点数が低い者では「配偶者」と「子」は少なく、「自分自身」が多い。一方で「わからない」も比較的多い。これは概ね幸福度が4点以下の層が該当する。

表7-1-21 現在の幸福度と自分の要介護期のケアプランの作成者のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
10点	22	46	24	1	1	3	97
	22.7%	47.4%	24.7%	1.0%	1.0%	3.1%	100.0%
9点	9	54	16	1	0	4	84
	10.7%	64.3%	19.0%	1.2%	0.0%	4.8%	100.0%
8点	67	132	51	4	2	15	271
	24.7%	48.7%	18.8%	1.5%	0.7%	5.5%	100.0%
7点	36	87	40	2	1	15	181
	19.9%	48.1%	22.1%	1.1%	0.6%	8.3%	100.0%
6点	19	59	28	3	1	6	116
	16.4%	50.9%	24.1%	2.6%	0.9%	5.2%	100.0%
5点	33	50	28	4	0	13	128
	25.8%	39.1%	21.9%	3.1%	0.0%	10.2%	100.0%
4点	6	2	4	0	0	7	19
	31.6%	10.5%	21.1%	0.0%	0.0%	36.8%	100.0%
3点	2	1	1	1	0	3	8
	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	0.0%	37.5%	100.0%
2点	0	0	1	1	0	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
1点	2	0	0	0	0	1	3
	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%
0点	1	1	0	0	0	0	2
	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	197	433	194	17	5	68	912
	21.6%	47.4%	21.2%	1.9%	0.5%	7.4%	100.0%

P=0.000<0.001

7-2 日々の介護サービスの利用を世話する人は誰になりそうか

表7-2-1 性別と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
男性	33	316	43	9	6	42	449
	7.3%	70.4%	9.6%	2.0%	1.3%	9.4%	100.0%
女性	52	215	137	8	8	45	465
	11.2%	46.2%	29.5%	1.7%	1.7%	9.7%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-2 年齢5区分と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからない	合計
60-64	15	116	29	3	2	13	178
	8.4%	65.2%	16.3%	1.7%	1.1%	7.3%	100.0%
65-69	25	132	34	3	4	13	211
	11.8%	62.6%	16.1%	1.4%	1.9%	6.2%	100.0%
70-74	23	151	36	6	3	25	244
	9.4%	61.9%	14.8%	2.5%	1.2%	10.2%	100.0%
75-79	12	90	41	3	4	18	168
	7.1%	53.6%	24.4%	1.8%	2.4%	10.7%	100.0%
80-84	10	42	40	2	1	18	113
	8.8%	37.2%	35.4%	1.8%	0.9%	15.9%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.001 < 0.01

介護保険制度を利用するためにはケアプランの作成だけでなく、日々の介護サービスの利用を世話する人が必要である。そこで自分が要介護状態になった場合に、日常的な介護サービス利用を世話する人は主として誰になりそうかを尋ねた。全体として最も多かったのは「配偶者」であり、6割近い(58%)回答だった。次いで「子」が20%であり、「わからない」が10%、「自分自身」が9%だった。「その他の家族・親族」や「家族・親族以外の者」は極めて少なかった。

表7-2-1は性別とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用を世話する人の見通しは性別と非常に強い相関関係がある。男性では「配偶者」が多く、女性では「子」が比較的多い。

表7-2-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。自分の要介護期に介護サービス利用を世話する人は誰になりそうかの見通しは年齢5区分と非常に強い相関関係がある。70代前半までは「配偶者」が相対的に多いが、70代後半以降では「配偶者」は減少し、「子」が多くなる。特に80代前半では「配偶者」は37%、「子」は35%と拮抗する。70代後半以降では配偶者の死亡や要介護状態化により、配偶者による世話を期待できない者が増加するためではないかと推察される。

表7-2-3 配偶者の有無と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
有配偶	42	531	105	6	6	53	743
	5.7%	71.5%	14.1%	0.8%	0.8%	7.1%	100.0%
無配偶	43	0	75	11	8	34	171
	25.1%	0.0%	43.9%	6.4%	4.7%	19.9%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-4 子の有無と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
子がいる	74	508	180	8	10	76	856
	8.6%	59.3%	21.0%	0.9%	1.2%	8.9%	100.0%
子はない	11	23	0	9	4	11	58
	19.0%	39.7%	0.0%	15.5%	6.9%	19.0%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-5 世帯形態と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
一人暮らし	29	4	38	7	6	22	106
	27.4%	3.8%	35.8%	6.6%	5.7%	20.8%	100.0%
夫婦のみ	26	359	47	2	3	32	469
	5.5%	76.5%	10.0%	0.4%	0.6%	6.8%	100.0%
その他の同居 人あり	30	167	93	8	5	33	336
	8.9%	49.7%	27.7%	2.4%	1.5%	9.8%	100.0%
無回答	0	1	2	0	0	0	3
	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	911
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者では配偶者に介護サービス利用の世話を期待できない。そのため無配偶者では「子」と「自分自身」が有配偶者に比べ顕著に多い。

表7-2-4は子の有無とのクロス集計結果である。子がない場合、介護サービス利用の世話を子に期待できないので「子」は皆無である。しかし、子がない者では介護サービス利用の世話を「配偶者」に期待する者も少ない。子がない者では「自分自身」や「その他の家族・親族」、「家族・親族以外の人」に世話人を期待する者と「わからない」が比較的多い。

前頁の表 7-2-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。自分が要介護状態になったときに日々の介護サービス利用の世話をする者が誰になりそうかの見通しは世帯形態によって明瞭に異なる。「一人暮らし」では「子」(36%)と「自分自身」(27%)が比較的多いが、一方で「わからない」(21%)も比較的多い。「夫婦のみ」では「配偶者」(77%)が非常に多い。「その他の同居人あり」では「配偶者」が半分を占めるが、「子」(28%)も比較的多い。

表7-2-6 同居人がある世帯で同居する子の有無と介護サービスの利用の世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
同居の子 なし	6 10.3%	28 48.3%	9 15.5%	5 8.6%	2 3.4%	8 13.8%	58 100.0%
同居の子 あり	24 8.6%	139 50.0%	84 30.2%	3 1.1%	3 1.1%	25 9.0%	278 100.0%
合計	30 8.9%	167 49.7%	93 27.7%	8 2.4%	5 1.5%	33 9.8%	336 100.0%

P = 0.003 < 0.01

表7-2-7 現在の健康状態と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
よい	13 12.1%	59 55.1%	23 21.5%	3 2.8%	0 0.0%	9 8.4%	107 100.0%
まあよい	27 11.1%	144 59.3%	52 21.4%	4 1.6%	1 0.4%	15 6.2%	243 100.0%
普通	27 7.0%	240 62.5%	63 16.4%	7 1.8%	9 2.3%	38 9.9%	384 100.0%
あまりよく ない	17 10.9%	75 48.1%	38 24.4%	2 1.3%	3 1.9%	21 13.5%	156 100.0%
よくない	1 4.5%	12 54.5%	4 18.2%	1 4.5%	0 0.0%	4 18.2%	22 100.0%
合計	85 9.3%	531 58.1%	180 19.7%	17 1.9%	14 1.5%	87 9.5%	912 100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 7-2-6 は同居人ありの世帯について、子との同居の有無と自分の要介護期の介護サービスの利用を世話する人をクロス集計した結果である。同居人の中に子が含まれない世帯では「子」は比較的小さく、「自分自身」、「その他の家族・親族」、「家族・親族以外の人」、「わからない」が比較的多い。これに対して、同居人の中に子が含まれる者では「子」を挙げる者は比較的多い。

表 7-2-7 は健康状態とのクロス集計結果である。自分が要介護状態になったときに日々の介護サービスの利用を世話するのは誰になりそうかの見通しは健康状態と非常に強い相関関係がある。現在の健康状態がよい者では「配偶者」と「子」と並んで「自分自身」を挙げる者が比較的多い。健康状態が「よ

くない」では「自分自身」は比較的少なく、「わからない」が比較的多い。

表7-2-8 地域の社会活動への参加の有無と自分の介護サービスの利用の世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
参加して いる	30 9.9%	185 60.9%	58 19.1%	5 1.6%	2 0.7%	24 7.9%	304 100.0%
参加して いない	55 9.0%	346 56.7%	122 20.0%	12 2.0%	12 2.0%	63 10.3%	610 100.0%
合計	85 9.3%	531 58.1%	180 19.7%	17 1.9%	14 1.5%	87 9.5%	914 100.0%

P = 0.481 > 0.05

表7-2-9 近隣の人とのつきあいの有無と自分の介護サービスの利用の世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
つきあい がある	68 8.7%	464 59.5%	156 20.0%	13 1.7%	8 1.0%	71 9.1%	780 100.0%
つきあい はない	17 12.7%	67 50.0%	24 17.9%	4 3.0%	6 4.5%	16 11.9%	134 100.0%
合計	85 9.3%	531 58.1%	180 19.7%	17 1.9%	14 1.5%	87 9.5%	914 100.0%

P = 0.011 < 0.05

表7-2-10 現在の経済的な暮らし向きと介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
家計にゆとりがあり まったく心配ない	14 11.3%	73 58.9%	25 20.2%	6 4.8%	0 0.0%	6 4.8%	124 100.0%
あまりゆとりはない がそれほど心配ない	39 7.8%	311 62.3%	95 19.0%	10 2.0%	7 1.4%	37 7.4%	499 100.0%
家計にゆとりがなく 多少心配	25 10.0%	132 53.0%	52 20.9%	1 0.4%	5 2.0%	34 13.7%	249 100.0%
家計が苦しく、非常 に心配	7 18.9%	13 35.1%	6 16.2%	0 0.0%	2 5.4%	9 24.3%	37 100.0%
その他	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
合計	85 9.3%	531 58.1%	180 19.7%	17 1.9%	14 1.5%	87 9.5%	914 100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-8 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世

話人になりそうな者は地域の社会活動の参加の有無と強い相関関係はないが、地域活動に参加している者では「配偶者」がやや多い。

表 7-2-9 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。自分の介護サービスの世話人になりそうな者は近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係がある。近隣の人とのつきあいがいない者ではつきあいのある者に比べて「配偶者」が少なく、「自分自身」が比較的多い。

表 7-2-10 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。自分の介護サービスの世話人になりそうな者は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配がない者では「配偶者」と「子」が多く、家計に心配がある者では「配偶者」ないし「子」は比較的少ない。特に「家計が苦しく非常に心配」では「配偶者」は一段と少なく、「自分自身」と「わからない」が比較的多い。

表7-2-11 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と介護サービスの世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
良くなった	0	5	3	0	0	1	9
	0.0%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%
どちらかといえ ば良くなった	7	40	13	4	0	6	70
	10.0%	57.1%	18.6%	5.7%	0.0%	8.6%	100.0%
どちらかといえ ば悪くなった	23	135	55	5	3	31	252
	9.1%	53.6%	21.8%	2.0%	1.2%	12.3%	100.0%
悪くなった	7	39	9	0	3	8	66
	10.6%	59.1%	13.6%	0.0%	4.5%	12.1%	100.0%
変わらない	48	312	100	8	8	41	517
	9.3%	60.3%	19.3%	1.5%	1.5%	7.9%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.358 > 0.05

表7-2-12 暮らし向きに対するコロナの影響の有無と介護サービスの利用の世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
影響がある	43	300	83	8	10	41	485
	8.9%	61.9%	17.1%	1.6%	2.1%	8.5%	100.0%
影響はない	35	187	72	8	3	31	336
	10.4%	55.7%	21.4%	2.4%	0.9%	9.2%	100.0%
わからない	7	44	25	1	1	15	93
	7.5%	47.3%	26.9%	1.1%	1.1%	16.1%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.085 > 0.05

表 7-2-11 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と強い相関関係はない

が、「良くなった」では「自分自身」は皆無で「子」が比較的多い。「悪くなった」では「子」は少なく、「わからない」が比較的多い。

表 7-2-12 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者はコロナの影響の有無と強い相関関係はないが、「わからない」で「配偶者」が比較的少なく、「子」がやや多い。

表7-2-13 居住する住宅と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	71 9.0%	482 60.9%	143 18.1%	15 1.9%	9 1.1%	71 9.0%	791 100.0%
持ち家（住宅 ローン返済中）	6 9.1%	35 53.0%	18 27.3%	1 1.5%	1 1.5%	5 7.6%	66 100.0%
賃貸住宅	5 11.9%	10 23.8%	16 38.1%	0 0.0%	3 7.1%	8 19.0%	42 100.0%
公営住宅	1 12.5%	2 25.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	3 37.5%	8 100.0%
その他	2 28.6%	2 28.6%	2 28.6%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 100.0%
合計	85 9.3%	531 58.1%	180 19.7%	17 1.9%	14 1.5%	87 9.5%	914 100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-14 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と介護サービス世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
十分まかなえて いる	5 8.2%	35 57.4%	19 31.1%	1 1.6%	0 0.0%	1 1.6%	61 100.0%
何とかまかなえ ている	23 7.1%	188 57.7%	70 21.5%	7 2.1%	6 1.8%	32 9.8%	326 100.0%
多少足りない	21 8.4%	153 61.4%	46 18.5%	5 2.0%	4 1.6%	20 8.0%	249 100.0%
かなり足りない	28 15.4%	91 50.0%	35 19.2%	2 1.1%	2 1.1%	24 13.2%	182 100.0%
合計	77 9.4%	467 57.1%	170 20.8%	15 1.8%	12 1.5%	77 9.4%	818 100.0%

P = 0.049 < 0.05

表 7-2-13 は居住する住宅とのクロス集計結果である。要介護状態になったときに日々の介護サービスの利用を世話する者は誰になりそうかの見通しは居住する住宅と非常に強い相関関係がある。日々の介護サービスの利用の世話人として身近な家族（「配偶者」または「子」）を挙げる者は「持ち家」で多く、「賃貸住宅」と「公営住宅」では少ない。たとえば、介護サービスの利用の世話人として「配偶者」

または「子」を挙げる者は住宅ローンの返済がない持ち家で79%、住宅ローンを返済中の持ち家で80%であるのに対して、「賃貸住宅」では62%、「公営住宅」では38%にとどまる。また介「わからない」は「持ち家」では極めて少ないが、「賃貸住宅」で19%、「公営住宅」では38%と比較的多い。

表7-2-14は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と強い相関関係がある。「十分まかなえている」、「何とかまかなえている」、「多少足りない」では「配偶者」と「子」が多い。これに対して、「かなり足りない」では「配偶者」はやや少なく、「自分自身」と「わからない」が比較的多い。

表7-2-15 収入を伴う仕事の有無と自分の介護サービスの利用を世話する人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
仕事あり	42	261	80	7	6	39	435
	9.7%	60.0%	18.4%	1.6%	1.4%	9.0%	100.0%
仕事なし	43	270	100	10	8	48	479
	9.0%	56.4%	20.9%	2.1%	1.7%	10.0%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.846 > 0.05

表7-2-16 1ヶ月の生活費と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
10万円未満	13	20	32	4	6	15	90
	14.4%	22.2%	35.6%	4.4%	6.7%	16.7%	100.0%
10万円~15万円	22	77	56	4	1	26	186
	11.8%	41.4%	30.1%	2.2%	0.5%	14.0%	100.0%
15万円~20万円	20	150	42	1	2	25	240
	8.3%	62.5%	17.5%	0.4%	0.8%	10.4%	100.0%
20万円~25万円	15	145	26	5	3	7	201
	7.5%	72.1%	12.9%	2.5%	1.5%	3.5%	100.0%
25万円~30万円	7	78	12	1	0	6	104
	6.7%	75.0%	11.5%	1.0%	0.0%	5.8%	100.0%
30万円~35万円	5	34	8	1	1	5	54
	9.3%	63.0%	14.8%	1.9%	1.9%	9.3%	100.0%
35万円~40万円	3	18	1	0	1	2	25
	12.0%	72.0%	4.0%	0.0%	4.0%	8.0%	100.0%
40万円以上	0	9	3	1	0	1	14
	0.0%	64.3%	21.4%	7.1%	0.0%	7.1%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 7-2-15 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなく、仕事の有無で分布に差はなかった。

表 7-2-16 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者は 1 ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。「配偶者」または「子」は生活費が多い者では多く、少ない者では比較的少ない。たとえば、「配偶者」と「子」の合計は 1 ヶ月の生活費が 15 万円以上では概ね 80%前後だが、「10 万円～15 万円」では 71%、「10 万円未満」では 58%にとどまる。1 ヶ月の生活費が 15 万円未満では「わからない」も比較的多い。

表7-2-17 現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかと介護サービスの世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
十分だと思う	10	80	26	4	0	5	125
	8.0%	64.0%	20.8%	3.2%	0.0%	4.0%	100.0%
少し足りない と思う	26	193	51	5	4	20	299
	8.7%	64.5%	17.1%	1.7%	1.3%	6.7%	100.0%
かなり足りな いと思う	23	168	66	3	4	28	292
	7.9%	57.5%	22.6%	1.0%	1.4%	9.6%	100.0%
わからない	15	75	26	2	2	17	137
	10.9%	54.7%	19.0%	1.5%	1.5%	12.4%	100.0%
貯蓄はしてい ない	11	15	11	3	4	17	61
	18.0%	24.6%	18.0%	4.9%	6.6%	27.9%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.001

表7-2-18 自己負担の介護費用をまかなえそうな程度と介護サービスの世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
大体まかなえ るだろう	13	72	22	4	1	6	118
	11.0%	61.0%	18.6%	3.4%	0.8%	5.1%	100.0%
何とかまかな えるだろう	26	191	62	6	1	22	308
	8.4%	62.0%	20.1%	1.9%	0.3%	7.1%	100.0%
多少足りないだ ろう	14	114	42	3	6	10	189
	7.4%	60.3%	22.2%	1.6%	3.2%	5.3%	100.0%
かなり足りな いだろう	19	92	36	2	5	23	177
	10.7%	52.0%	20.3%	1.1%	2.8%	13.0%	100.0%
わからない	13	62	18	2	1	26	122
	10.7%	50.8%	14.8%	1.6%	0.8%	21.3%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

前頁の表 7-2-17 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。自分の介護サービスの利用を世話する人の見通しは貯蓄をしている者と貯蓄をしていない者で大きな違いがある。貯蓄をしている者では「配偶者」が多いが、貯蓄をしていない者では「配偶者」は少ない。一方で貯蓄をしていない者では「自分自身」と「わからない」の割合が比較的多い。いいかえると、貯蓄をしていない者では身近な家族（「配偶者」または「子」）に世話人を期待できない者が多い。

表 7-2-18 は自己負担の介護費用をまかなえそうな程度とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用の世話人になりそうな者は自己負担の介護費用をまかなえそうな程度と非常に強い相関関係がある。「大体まかなえるだろう」、「何とかまかなえるだろう」、「多少足りないだろう」では「配偶者」が6割超だが、「かなり足りないだろう」と「わからない」では「配偶者」が50%少しでやや少ない。「かなり足りないだろう」と「わからない」では誰が世話人になるかが「わからない」も比較的多い。

表7-2-19 自己負担の介護費用が不足する場合の対策と介護サービスの世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
子に頼る	17	97	64	1	3	7	189
	9.0%	51.3%	33.9%	0.5%	1.6%	3.7%	100.0%
子以外の家族・ 親族に頼る	3	9	2	3	0	0	17
	17.6%	52.9%	11.8%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0%
公的な援助に 頼る	35	202	60	5	7	20	329
	10.6%	61.4%	18.2%	1.5%	2.1%	6.1%	100.0%
その他	4	31	4	1	0	2	42
	9.5%	73.8%	9.5%	2.4%	0.0%	4.8%	100.0%
わからない	26	192	50	7	4	58	337
	7.7%	57.0%	14.8%	2.1%	1.2%	17.2%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 7-2-19 は自己負担の介護費用が不足する場合の対策とのクロス集計結果である。自分の介護サービス利用を世話する人の見通しは、介護費用が不足する場合の対策と非常に強い相関関係がある。全体的には世話人として「配偶者」を挙げる者が多いが、その中で自己負担の介護費用が不足する場合の対策として「子に頼る」と述べた者では、世話人として「子」を挙げる者が比較的多い。

次頁の表 7-2-20 は自分が要介護状態になったときにケアプランの作成を期待する者とのクロス集計結果である。自分の介護サービスの利用の世話をする者の見通しはケアプランの作成者の見通しと非常に強い相関関係がある。ケアプランの作成者を「配偶者」に期待する者は介護サービス利用の世話人としても「配偶者」を見込む者が94%と圧倒的に多い。同様にケアプランの作成者を「子」に期待する者は介護サービス利用の世話人として「子」を見込む者が非常に多い。しかし、ケアプランの作成者として「自分自身」を見込む者では介護サービス利用の世話人は「自分自身」(34%)よりも「配偶者」を挙げる者(43%)が多い。

表7-2-20 自分の要介護期のケアプランの作成者と介護サービスの利用の世話人

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
自分自身	67	84	26	4	4	12	197
	34.0%	42.6%	13.2%	2.0%	2.0%	6.1%	100.0%
配偶者	5	406	10	0	3	9	433
	1.2%	93.8%	2.3%	0.0%	0.7%	2.1%	100.0%
子	10	26	136	1	4	17	194
	5.2%	13.4%	70.1%	0.5%	2.1%	8.8%	100.0%
その他の家 族・親族	0	1	1	11	1	3	17
	0.0%	5.9%	5.9%	64.7%	5.9%	17.6%	100.0%
家族・親族以 外の人	0	0	3	1	0	1	5
	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	100.0%
わからない	3	14	4	0	2	45	68
	4.4%	20.6%	5.9%	0.0%	2.9%	66.2%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-21 生きがいを感じる程度と介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わから ない	合計
十分に感じて いる	25	136	58	5	1	16	241
	10.4%	56.4%	24.1%	2.1%	0.4%	6.6%	100.0%
多少は感じて いる	41	299	90	7	6	36	479
	8.6%	62.4%	18.8%	1.5%	1.3%	7.5%	100.0%
あまり感じて いない	15	78	23	5	5	22	148
	10.1%	52.7%	15.5%	3.4%	3.4%	14.9%	100.0%
まったく感じ ていない	2	5	2	0	0	4	13
	15.4%	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%	30.8%	100.0%
わからない	2	13	7	0	2	9	33
	6.1%	39.4%	21.2%	0.0%	6.1%	27.3%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 7-2-21 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。自分の介護サービスの利用を世話する人の見通しは生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。「配偶者」または「子」を挙げる者は生きがいを感じている者に多く、生きがいを感じていない者ではやや少ない。たとえば、「配偶者」と「子」の合計は生きがいを「十分に感じている」で 81%、「多少は感じている」でも 81%だが、「あまり感じていない」では 68%、「まったく感じていない」では 64%である。また生きがいを感じていない者では世話人が誰になるか「わからない」も比較的多い。

表7-2-22 これまでの人生の満足度と介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
かなり満足	5	67	21	2	0	6	101
	5.0%	66.3%	20.8%	2.0%	0.0%	5.9%	100.0%
まあまあ満足	58	355	119	11	6	40	589
	9.8%	60.3%	20.2%	1.9%	1.0%	6.8%	100.0%
やや不満	11	65	21	3	3	15	118
	9.3%	55.1%	17.8%	2.5%	2.5%	12.7%	100.0%
大いに不満	3	10	3	1	2	3	22
	13.6%	45.5%	13.6%	4.5%	9.1%	13.6%	100.0%
どちらともい えない	8	33	16	0	3	23	83
	9.6%	39.8%	19.3%	0.0%	3.6%	27.7%	100.0%
合計	85	531	180	17	14	87	914
	9.3%	58.1%	19.7%	1.9%	1.5%	9.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表7-2-22 現在の幸福度と自分の介護サービスの利用を世話する人のクロス表

	自分自身	配偶者	子	その他の 家族・親族	家族・親族 以外の人	わからな い	合計
10点	7	58	27	3	0	2	97
	7.2%	59.8%	27.8%	3.1%	0.0%	2.1%	100.0%
9点	5	56	15	1	0	7	84
	6.0%	66.7%	17.9%	1.2%	0.0%	8.3%	100.0%
8点	25	166	49	3	4	24	271
	9.2%	61.3%	18.1%	1.1%	1.5%	8.9%	100.0%
7点	20	115	31	3	1	11	181
	11.0%	63.5%	17.1%	1.7%	0.6%	6.1%	100.0%
6点	12	62	24	3	5	10	116
	10.3%	53.4%	20.7%	2.6%	4.3%	8.6%	100.0%
5点	10	66	29	2	4	17	128
	7.8%	51.6%	22.7%	1.6%	3.1%	13.3%	100.0%
4点	4	2	4	1	0	8	19
	21.1%	10.5%	21.1%	5.3%	0.0%	42.1%	100.0%

P = 0.000 < 0.01 3点以下は省略。

表 7-2-21 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。介護サービスの利用を世話する人の見通しはこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。世話人として「配偶者」または「子」に期待する者はこれまでの人生に満足している者に多く、不満な者ではやや少ない。たとえば、「配偶者」と「子」の合計は、「かなり満足」で87%、「まあまあ満足」で81%だが、「やや不満」で73%、「大いに不満」では59%である。「どちらともいえない」でも「配偶者」と「子」はやや少ない。

表 7-2-22 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。介護サービスの利用を世話人の見通しは現在の幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者では「配偶者」と「子」が多い。

第8章 就労状況

8-1 収入を伴う仕事の有無

表8-1-1 性別と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
男性	247	202	449
	55.0%	45.0%	100.0%
女性	188	277	465
	40.4%	59.6%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-1-2 年齢5区分と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
60-64	133	45	178
	74.7%	25.3%	100.0%
65-69	119	92	211
	56.4%	43.6%	100.0%
70-74	106	138	244
	43.4%	56.6%	100.0%
75-79	48	120	168
	28.6%	71.4%	100.0%
80-84	29	84	113
	25.7%	74.3%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

回答者の就労状況については、収入を伴う仕事をしている者が48%、仕事をしていない者が52%と半々に近かった。

表8-1-1は性別とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている者は女性よりも男性に多い。次いで表8-1-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無と年齢5区分は明瞭な相関関係があり、年齢区分が上がると仕事をしていない者が増える。しかし、80代前半でも4分の1は収入を伴う仕事をしている。

表8-1-3 配偶者の有無と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
有配偶	370	373	743
	49.8%	50.2%	100.0%
無配偶	65	106	171
	38.0%	62.0%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.006<0.01

表8-1-4 子の有無と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
子がいる	412	444	856
	48.1%	51.9%	100.0%
子はない	23	35	58
	39.7%	60.3%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.221>0.05

表8-1-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者では収入を伴う仕事をしていない者が多い。表8-1-4は子の有無とのクロス集計結果である。子の有無と仕事の有無は強い相関関係はなかったが、子がない者では収入を伴う仕事をしていない者が多い。

表8-1-5 世帯形態と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
一人暮らし	41	65	106
	38.7%	61.3%	100.0%
夫婦のみ	223	246	469
	47.5%	52.5%	100.0%
その他の同居人あり	170	166	336
	50.6%	49.4%	100.0%
合計	435	479	912
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.184>0.05

表8-1-6 処方薬の有無と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
処方薬がある	284	356	640
	44.4%	55.6%	100.0%
処方薬はない	150	123	273
	54.9%	45.1%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.008<0.01

表8-1-7 処方薬の数と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
1種類	111	124	235
	47.2%	52.8%	100.0%
2種類	96	113	209
	45.9%	54.1%	100.0%
3種類	58	68	126
	46.0%	54.0%	100.0%
4種類以上	19	49	68
	27.9%	72.1%	100.0%
合計	285	356	638
	44.5%	55.5%	100.0%

P=0.069>0.05

表8-1-8 現在の健康状態と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
よい	67	40	107
	62.6%	37.4%	100.0%
まあよい	122	121	243
	50.2%	49.8%	100.0%
普通	182	202	384
	47.4%	52.6%	100.0%
あまりよくない	57	99	156
	36.5%	63.5%	100.0%
よくない	5	17	22
	22.7%	77.3%	100.0%
合計	435	479	912
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-1-5は世帯形態とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は世帯形態と強い相関関係はなかったが、「一人暮らし」では仕事をしていない者が比較的多い。

表8-1-6は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。仕事の有無は服用する処方薬の有無と非常に強い相関関係があり、服用する処方薬がある者では仕事をしていない者が比較的多い。

表8-1-7は服用する処方薬のある者について、服用する処方薬の数と仕事の有無をクロス集計した結果である。収入を伴う仕事の有無は服用する処方薬の数と強い相関関係はなかった。4種類以上の処方薬を服用する者で4分の1超が仕事をしていることは注目される。

表8-1-8は健康状態とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は現在の健康状態と非常に強い相関関係がある。健康状態がよい者では収入を伴う仕事をしている者が多いが、健康状態がよくない者では仕事をしていない者が非常に多い。

次頁の表8-1-9は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は現在の経済的な暮らし向きと強い相関関係はなかった。仕事をしている者は「家計が苦しく非常に心配」で多いが、「家計にゆとりがあり全く心配ない」でも比較的多い。

表8-1-9 暮らし向きと仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
ゆとりがあり	66	58	124
全く心配ない	53.2%	46.8%	100.0%
ゆとりはない	224	275	499
が心配ない	44.9%	55.1%	100.0%
ゆとりがなく	120	129	249
多少心配	48.2%	51.8%	100.0%
家計が苦しく	24	13	37
非常に心配	64.9%	35.1%	100.0%
その他	1	4	5
	20.0%	80.0%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.060>0.05

表8-1-10 1年前との変化と仕事有無

	仕事あり	仕事なし	合計
良くなった	4	5	9
	44.4%	55.6%	100.0%
どちらかと	52	18	70
いえば良化	74.3%	25.7%	100.0%
どちらかと	113	139	252
いえば悪化	44.8%	55.2%	100.0%
悪くなった	35	31	66
	53.0%	47.0%	100.0%
変わらない	231	286	517
	44.7%	55.3%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-1-11 コロナ影響の有無と仕事有無

	仕事あり	仕事なし	合計
影響ある	241	244	485
	49.7%	50.3%	100.0%
影響ない	159	177	336
	47.3%	52.7%	100.0%
わからない	35	58	93
	37.6%	62.4%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.102>0.05

表8-1-12 公的年金受給と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
受給して	362	418	780
いる	46.4%	53.6%	100.0%
受給して	73	61	134
ない	54.5%	45.5%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表 8-1-10 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と非常に強い相関関係がある。仕事をしている者は「どちらかといえは良くなった」で 74% と非常に多く、「悪くなった」でも 53% と比較的多い。経済的な暮らし向きの変化は良い方向でも悪い方向でも仕事の有無と相関関係がある。

表 8-1-11 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無はコロナの影響の有無と強い相関関係はなかったが、「わからない」で仕事をしていない者が比較的多い。

表 8-1-12 は公的年金の受給の有無とのクロス集計結果である。公的年金を「受給してない」で仕事をしている者が 55% と多いが、「受給している」でも仕事をしている者は 46% とかなり多い。

次頁の表 8-1-13 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は賄えている程度によって明瞭に異なる。公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」と「何とかまかなえている」では仕事をしていない者が多い。これに対して、「多少足りない」と「かなり足りない」で仕事をしている者が多い。特に「かなり足りない」では仕事をしている者は 64% とかなり多い。生活費を補うために働いている者が多いとみられる。

表8-1-13 年金で賄えている程度と仕事

	仕事あり	仕事なし	合計
十分まかな えている	19	42	61
	31.1%	68.9%	100.0%
何とかまか なえている	104	222	326
	31.9%	68.1%	100.0%
多少足りな い	112	137	249
	45.0%	55.0%	100.0%
かなり足り ない	117	65	182
	64.3%	35.7%	100.0%
合計	352	466	818
	43.0%	57.0%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-1-14 現在の貯蓄額と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
十分だと思う	47	78	125
	37.6%	62.4%	100.0%
少し足りない と思う	141	158	299
	47.2%	52.8%	100.0%
かなり足りな いと思う	165	127	292
	56.5%	43.5%	100.0%
わからない	48	89	137
	35.0%	65.0%	100.0%
貯蓄はしてい ない	34	27	61
	55.7%	44.3%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-1-15 1ヶ月の生活費と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
10万円未満	39	51	90
	43.3%	56.7%	100.0%
10万円~15 万円	82	104	186
	44.1%	55.9%	100.0%
15万円~20 万円	111	129	240
	46.3%	53.8%	100.0%
20万円~25 万円	91	110	201
	45.3%	54.7%	100.0%
25万円~30 万円	53	51	104
	51.0%	49.0%	100.0%
30万円~35 万円	32	22	54
	59.3%	40.7%	100.0%
35万円~40 万円	18	7	25
	72.0%	28.0%	100.0%
40万円以上	9	5	14
	64.3%	35.7%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.069>0.05

表8-1-16 最大の収入源と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
仕事収入	214	8	222
	96.4%	3.6%	100.0%
公的年金	193	437	630
	30.6%	69.4%	100.0%
家賃地代	22	13	35
	62.9%	37.1%	100.0%
株式債券	0	1	1
	0.0%	100.0%	100.0%
家族親族の 援助	3	6	9
	33.3%	66.7%	100.0%
生活扶助費	0	3	3
	0.0%	100.0%	100.0%
その他	2	3	5
	40.0%	60.0%	100.0%
収入はない	1	8	9
	11.1%	88.9%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.000<0.01

表 8-1-14 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は現在の貯蓄額をどう思うかと非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活

の備えとして「十分だと思ふ」では仕事をしていない者が比較的多く、「かなり足りないと思ふ」では仕事をしている者が比較的多い。「わからない」では仕事をしていない者がかなり多く、「貯蓄はしていない」では仕事をしている者が比較的多い。

表 8-1-16 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は現在の最大の収入源と非常に強い相関関係がある。最大の収入源が「仕事収入」では仕事をしている者がほとんどであるが、「家賃・地代などの不動産収入」でも仕事をしている者は63%と非常に多い。公的年金を最大の収入源とする者では7割が仕事をしていない。

表8-1-17 地域の社会的活動と仕事有無

	仕事あり	仕事なし	合計
参加している	153	151	304
	50.3%	49.7%	100.0%
参加していない	282	328	610
	46.2%	53.8%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.261>0.05

表8-1-18 近隣とのつきあいと仕事有無

	仕事あり	仕事なし	合計
つきあいが ある	362	418	780
	46.4%	53.6%	100.0%
つきあいは ない	73	61	134
	54.5%	45.5%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.092>0.05

表8-1-19 居住する住宅と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	365	426	791
	46.1%	53.9%	100.0%
持ち家（ロー ン返済中）	44	22	66
	66.7%	33.3%	100.0%
賃貸住宅	21	21	42
	50.0%	50.0%	100.0%
公営住宅	3	5	8
	37.5%	62.5%	100.0%
その他	2	5	7
	28.6%	71.4%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.019<0.05

表8-1-20 生きがいを感じる程度と仕事

	仕事あり	仕事なし	合計
十分に感じて いる	133	108	241
	55.2%	44.8%	100.0%
多少は感じて いる	232	247	479
	48.4%	51.6%	100.0%
あまり感じて いない	55	93	148
	37.2%	62.8%	100.0%
まったく感じ ていない	3	10	13
	23.1%	76.9%	100.0%
わからない	12	21	33
	36.4%	63.6%	100.0%
合計	435	479	914
	47.6%	52.4%	100.0%

P=0.002<0.01

表 8-1-17 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。仕事の有無は地域の社会活動への参加の有無と強い相関関係はなかったが、参加している者では仕事をしている者がやや多い。

表 8-1-18 は近隣の人とのつきあいのクロス集計結果である。仕事の有無は近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係はなかったが、つきあいが無い者で仕事をしている者比較的多い。

表 8-1-19 は居住する住宅とのクロス集計結果である。仕事の有無は居住する住宅と強い相関関係がある。住宅ローンを返済中の持ち家に住む者では収入を伴う仕事をしている者がかなり多い。その他の住宅では仕事をしている者よりも仕事をしていない者の方が多い。

表 8-1-20 は生きがいを感じている程度とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度と非常に強い相関関係がある。生きがいを「十分に感じている」では仕事をしている者が比較的多い。生きがいを感じていない者では仕事をしている者は少ない。とくに「まったく感じていない」では仕事をしている者は非常に少ない。

表8-1-21 これまでの人生の満足度と仕事の有無

	仕事あり	仕事なし	合計		仕事あり	仕事なし	合計
かなり満足	51	50	101	大いに不満	6	16	22
	50.5%	49.5%	100.0%		27.3%	72.7%	100.0%
まあまあ満足	279	310	589	どちらとも	33	50	83
	47.4%	52.6%	100.0%	いえない	39.8%	60.2%	100.0%
やや不満	65	53	118	合計	435	479	913
	55.1%	44.9%	100.0%		47.6%	52.4%	100.0%

P=0.081>0.05

表8-1-22 現在の幸福度と収入を伴う仕事の有無のクロス表

	仕事あり	仕事なし	合計		仕事あり	仕事なし	合計
10点	50	47	97	4点	5	14	19
	51.5%	48.5%	100.0%		26.3%	73.7%	100.0%
9点	40	44	84	3点	3	5	8
	47.6%	52.4%	100.0%		37.5%	62.5%	100.0%
8点	146	125	271	2点	0	3	3
	53.9%	46.1%	100.0%		0.0%	100.0%	100.0%
7点	88	93	181	1点	0	3	3
	48.6%	51.4%	100.0%		0.0%	100.0%	100.0%
6点	47	69	116	0点	0	2	2
	40.5%	59.5%	100.0%		0.0%	100.0%	100.0%
5点	54	74	128	合計	435	479	912
	42.2%	57.8%	100.0%		47.6%	52.4%	100.0%

P=0.024<0.05

表 8-1-21 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無はこれまでの人生の満足度と強い相関関係はなかった。「やや不満」で仕事をしている者がやや多く、「大いに不満」で仕事をしていない者が非常に多い。

表 8-1-22 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事の有無は現在の幸福度と強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者（8点以上）では仕事をしている者がやや多いが、幸福度の点数が7点以下では仕事をしていない者が多い。

8-2 従事する職業

表8-2-1 職業の度数分布表

	回答数	割合
会社、団体などに雇われている被雇用者	252	57.9%
会社、団体などの役員	30	6.9%
商店、工場、農林漁業などの自営業主や自由業	88	20.2%
自営業の家族従業者	23	5.3%
シルバー人材センターの仕事	27	6.2%
家庭で行う内職	1	0.2%
人から頼まれてその都度行う仕事	10	2.3%
その他	4	0.9%
合計	435	100.0%

表8-2-2 年齢5区分と職業のクロス表

	被雇用者	会社団 体役員	自営業・ 自由業	家族従 業者	シルバー センター	内職	頼まれて 行う仕事	その他	合計
60-64	110	11	9	2	0	0	0	1	133
	82.7%	8.3%	6.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	100.0%
65-69	72	6	19	8	10	0	3	1	119
	60.5%	5.0%	16.0%	6.7%	8.4%	0.0%	2.5%	0.8%	100.0%
70-74	46	9	33	5	8	0	4	1	106
	43.4%	8.5%	31.1%	4.7%	7.5%	0.0%	3.8%	0.9%	100.0%
75-79	17	2	17	4	6	0	1	1	48
	35.4%	4.2%	35.4%	8.3%	12.5%	0.0%	2.1%	2.1%	100.0%
80-84	7	2	10	4	3	1	2	0	29
	24.1%	6.9%	34.5%	13.8%	10.3%	3.4%	6.9%	0.0%	100.0%
合計	252	30	88	23	27	1	10	4	435
	57.9%	6.9%	20.2%	5.3%	6.2%	0.2%	2.3%	0.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表 8-2-1 は収入を伴う仕事をしている人の職業の度数分布表である。最も多いのは「会社、団体などに雇われている被雇用者」である。

表 8-2-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。職業は年齢 5 区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が上がるに伴って被雇用者として働く者は少なくなる。70 代以降では「自営業や自由業」が相対的に多い。

表8-2-3 現在の経済的な暮らし向きと職業のクロス表

	被雇用者	会社団体役員	自営業・自由業	家族従業者	シルバーセンター	内職	頼まれて行う仕事	その他	合計
家計にゆとりあり	26	12	19	8	1	0	0	0	66
まったく心配ない	39.4%	18.2%	28.8%	12.1%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
ゆとりはないがそれほど心配ない	134	14	42	11	15	1	4	3	224
	59.8%	6.3%	18.8%	4.9%	6.7%	0.4%	1.8%	1.3%	100%
家計にゆとりがなく、多少心配	75	4	22	2	10	0	6	1	120
	62.5%	3.3%	18.3%	1.7%	8.3%	0.0%	5.0%	0.8%	100%
家計が苦しく非常に心配	16	0	5	2	1	0	0	0	24
	66.7%	0.0%	20.8%	8.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	252	30	88	23	27	1	10	4	435
	57.9%	6.9%	20.2%	5.3%	6.2%	0.2%	2.3%	0.9%	100%

P=0.019<0.05

表8-2-4 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と職業のクロス表

	被雇用者	会社団体役員	自営業・自由業	家族従業者	シルバーセンター	内職	頼まれて行う仕事	その他	合計
良くなった	1	1	0	2	0	0	0	0	4
	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえは良化	30	1	8	9	4	0	0	0	52
	57.7%	1.9%	15.4%	17.3%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえは悪化	58	8	25	5	9	1	5	2	113
	51.3%	7.1%	22.1%	4.4%	8.0%	0.9%	4.4%	1.8%	100.0%
悪くなった	24	0	8	1	1	0	1	0	35
	68.6%	0.0%	22.9%	2.9%	2.9%	0.0%	2.9%	0.0%	100.0%
変わらない	139	20	47	6	13	0	4	2	231
	60.2%	8.7%	20.3%	2.6%	5.6%	0.0%	1.7%	0.9%	100.0%
合計	252	30	88	23	27	1	10	4	435
	57.9%	6.9%	20.2%	5.3%	6.2%	0.2%	2.3%	0.9%	100.0%

P=0.002<0.01

表 8-2-3 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。「家計にゆとりがありまったく心配なく暮らしている」では「被雇用者」はやや少なく、「会社・団体の役員」と「自営業・自由業」が比較的多い。「家計にゆとりがなく多少心配」と「家計が苦しく非常に心配」では「被雇用者」がかなり多い。

表 8-2-4 は1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。1年前と比べて経済的な暮らし向きが「悪くなった」では被雇用者として働く者が非常に多い。

次頁の表 8-2-5 は1ヶ月の生活費の大きさとのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費が「40万円以上」では「被雇用者」は少なく、「会社・団体の役員」として働く者がかなり多い。

表8-2-5 1ヶ月の生活費と職業のクロス表

	被雇用者	会社団 体役員	自営業・ 自由業	家族従 業者	シルバー センター	内職	頼まれて 行う仕事	その他	合計
10万円 未満	22 56.4%	1 2.6%	6 15.4%	2 5.1%	4 10.3%	1 2.6%	3 7.7%	0 0.0%	39 100.0%
10万円 ~15万円	48 58.5%	6 7.3%	18 22.0%	3 3.7%	4 4.9%	0 0.0%	2 2.4%	1 1.2%	82 100.0%
15万円 ~20万円	62 55.9%	2 1.8%	26 23.4%	9 8.1%	10 9.0%	0 0.0%	1 0.9%	1 0.9%	111 100.0%
20万円 ~25万円	52 57.1%	5 5.5%	19 20.9%	6 6.6%	4 4.4%	0 0.0%	3 3.3%	2 2.2%	91 100.0%
25万円 ~30万円	33 62.3%	5 9.4%	9 17.0%	1 1.9%	4 7.5%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	53 100.0%
30万円 ~35万円	21 65.6%	4 12.5%	4 12.5%	2 6.3%	1 3.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	32 100.0%
35万円 ~40万円	12 66.7%	2 11.1%	4 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	18 100.0%
40万円 以上	2 22.2%	5 55.6%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
合計	252 57.9%	30 6.9%	88 20.2%	23 5.3%	27 6.2%	1 0.2%	10 2.3%	4 0.9%	435 100.0%

P=0.009<0.01

表8-2-6 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと職業のクロス表

	被雇用者	会社団 体役員	自営業・ 自由業	家族従 業者	シルバー センター	内職	頼まれて 行う仕事	その他	合計
十分だ と思う	18 38.3%	5 10.6%	13 27.7%	5 10.6%	3 6.4%	0 0.0%	3 6.4%	0 0.0%	47 100.0%
少し足 らない	71 50.4%	14 9.9%	35 24.8%	8 5.7%	9 6.4%	0 0.0%	1 0.7%	3 2.1%	141 100.0%
かなり足 りない	117 70.9%	6 3.6%	24 14.5%	4 2.4%	7 4.2%	0 0.0%	6 3.6%	1 0.6%	165 100.0%
わから ない	26 54.2%	4 8.3%	13 27.1%	1 2.1%	3 6.3%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	48 100.0%
貯蓄は して いない	20 58.8%	1 2.9%	3 8.8%	5 14.7%	5 14.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	34 100.0%
合計	252 57.9%	30 6.9%	88 20.2%	23 5.3%	27 6.2%	1 0.2%	10 2.3%	4 0.9%	435 100.0%

P=0.000<0.01

表8-2-6は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。仕事内容は現在の貯蓄額の自己評価と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」では「被雇用

者」が38%と相対的に少ない。一方で「会社・団体の役員」と「自営業・自由業」は比較的多い。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしては「かなり足りないと思う」では「被雇用者」が71%と非常に多い。

表8-2-7 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と職業のクロス表

	被雇用者	会社団 体役員	自営業・ 自由業	家族従 業者	シルバー センター	内職	頼まれて 行う仕事	その他	合計
十分まかな えている	6 31.6%	2 10.5%	8 42.1%	2 10.5%	0 0.0%	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	19 100.0%
何とかまか なえている	41 39.4%	6 5.8%	35 33.7%	7 6.7%	13 12.5%	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	104 100.0%
多少足りな い	68 60.7%	4 3.6%	19 17.0%	6 5.4%	9 8.0%	0 0.0%	4 3.6%	2 1.8%	112 100.0%
かなり足り ない	71 60.7%	8 6.8%	21 17.9%	6 5.1%	5 4.3%	0 0.0%	5 4.3%	1 0.9%	117 100.0%
合計	186 52.8%	20 5.7%	83 23.6%	21 6.0%	27 7.7%	1 0.3%	10 2.8%	4 1.1%	352 100.0%

P=0.000<0.01

表8-2-7は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかとのクロス集計結果である。職業は公的年金で生活費をまかなえている程度と非常に明瞭な相関関係がある。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者では「被雇用者」は相対的に少なく、公的年金では毎月の生活費が不足する者では「被雇用者」として働く者が相対的に多い。

8-3 被雇用者の雇用形態

表8-3-1 性別と雇用形態のクロス表

	常勤被 雇用者	契約・ 嘱託	パート・ バイト	その 他	合計
男性	52 36.6%	54 38.0%	35 24.6%	1 0.7%	142 100%
女性	16 14.5%	21 19.1%	73 66.4%	0 0.0%	110 100%
合計	68 27.0%	75 29.8%	108 42.9%	1 0.4%	252 100%

P=0.000<0.01

表8-3-2 年齢5区分と雇用形態のクロス表

	常勤被 雇用者	契約・ 嘱託	パート・ バイト	その 他	合計
60-64	41 37.3%	35 31.8%	34 30.9%	0 0.0%	110 100%
65-69	16 22.2%	22 30.6%	33 45.8%	1 1.4%	72 100%
70-74	7 15.2%	10 21.7%	29 63.0%	0 0.0%	46 100%
75-79	2 11.8%	5 29.4%	10 58.8%	0 0.0%	17 100%
80-84	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%	0 0.0%	7 100%
合計	68 27.0%	75 29.8%	108 42.9%	1 0.4%	252 100%

P=0.034<0.05

次に被雇用者として働く者について、その雇用形態を尋ねた。最も多かったのは「パート・アルバイト」(43%)であり、次いで「契約・嘱託・派遣・臨時」が30%、常勤の被雇用者が27%だった。

前頁の表8-3-1は性別とのクロス集計結果である。男性では「契約・嘱託・派遣・臨時」と「常勤の被雇用者」が4割弱でほぼ同数である。女性では「パート・アルバイト」が3分の2を占める。

表8-3-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。「常勤の被雇用者」は60代前半では比較的多いが、60代後半以降では少なくなる。60代後半以降では「パート・アルバイト」か「契約・嘱託・派遣・臨時」が多く、非常勤の仕事が中心になる。

表8-3-3 現在の経済的な暮らし向きと雇用形態のクロス表

	常勤の被 雇用者	契約・嘱託・ 派遣・臨時	パート・ア ルバイト	その他	合計
家計にゆとりがあり まったく心配ない	10 38.5%	6 23.1%	9 34.6%	1 3.8%	26 100.0%
あまりゆとりはない がそれほど心配ない	43 32.1%	42 31.3%	49 36.6%	0 0.0%	134 100.0%
家計にゆとりがな く、多少心配	12 16.0%	23 30.7%	40 53.3%	0 0.0%	75 100.0%
家計が苦しく非常に 心配	3 18.8%	4 25.0%	9 56.3%	0 0.0%	16 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	68 27.0%	75 29.8%	108 42.9%	1 0.4%	252 100.0%

P=0.047<0.05

表8-3-4 現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかと雇用形態

	常勤の被 雇用者	契約・嘱託・ 派遣・臨時	パート・ア ルバイト	その他	合計
十分だと思う	4 22.2%	4 22.2%	9 50.0%	1 5.6%	18 100.0%
少し足りない と思う	26 36.6%	18 25.4%	27 38.0%	0 0.0%	71 100.0%
かなり足りな いと思う	30 25.6%	40 34.2%	47 40.2%	0 0.0%	117 100.0%
わからない	5 19.2%	9 34.6%	12 46.2%	0 0.0%	26 100.0%
貯蓄はしてい ない	3 15.0%	4 20.0%	13 65.0%	0 0.0%	20 100.0%
合計	68 27.0%	75 29.8%	108 42.9%	1 0.4%	252 100.0%

P=0.029<0.05

前頁の表 8-3-3 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。雇用形態は現在の経済的な暮らし向きと強い相関関係がある「家計にゆとりがありまったく心配ない」では「常勤の被雇用者」が比較的多い。「家計にゆとりがなく多少心配」と「家計が苦しく非常に心配」では「常勤の被雇用者」は少なく、「パート・アルバイト」や「契約・嘱託・派遣・臨時」が非常に多い。

表 8-3-4 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。雇用形態は現在の貯蓄額を今後のどう思うかと強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」では「パート・アルバイト」が 50%と比較的多い。これに対して、「少し足りないと思う」では常勤の被雇用者として働く者が比較的多い。また「貯蓄はしていない」では「パート・アルバイト」が 65%とかなり多い。

8-4 仕事をしている理由

表8-4-1 収入を伴う仕事をしている理由（複数回答）の度数分布表

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
生活費の主要部分をまかなう	168	13.1%	38.7%
生活費の足しにする	193	15.1%	44.5%
生活水準を引き上げる	55	4.3%	12.7%
将来に備え貯蓄を増やす	121	9.5%	27.9%
小遣いを稼ぐ	86	6.7%	19.8%
健康に良い	141	11.0%	32.5%
生きがいを感じる	143	11.2%	32.9%
社会とのつながりを得る	163	12.8%	37.6%
人から頼まれている	37	2.9%	8.5%
時間に余裕がある	56	4.4%	12.9%
何もしないと退屈	90	7.0%	20.7%
その他	25	2.0%	5.8%
合計	1278	100.0%	

回答者の選択率は仕事をしている人(435)を母数とする回答数の割合

仕事をしている理由は何かを複数回答可で尋ねた。その結果、最も選択率が高い理由は「生活の足しにする」の 45%だった。二番目に「生活費の主要部分をまかなう」(39%) だった。仕事をしている者の 4 割は生活の維持を理由として働いている。三番目以降は「社会とのつながりを得る」(38%)、「生きがいを感じる」(33%)、「健康に良い」(33%) だった。

次頁の表 8-4-2 は性別とのクロス集計結果である。男性では「生活費の主要部分をまかなう」(46%) が「生活費の足しにする」(40%) を上回っている。女性では「生活費の足しにする」(50%) が「生活費の主要部分をまかなう」(29%) を上回っている。

表 8-4-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は年齢区分によって異なる。60 代前半では「生活費の主要部分をまかなう」の選択率が 62%と「生活費の足しにする」(36%) を大きく上回っているが、60 代後半以降の年齢層では「生活費の足しにする」の選択率が「生活費の主要部分をまかなう」を上回っている。全体的には、70 代前半まででは生活の維持を挙げる者が多いが、70 代後半以降では「健康によい」や「生きがいを感じる」が最も選択率が高い理由になっている。

表8-4-2 性別と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康に よい
男性	113	99	37	69	51	84
	45.9%	40.2%	15.0%	28.0%	20.7%	34.1%
女性	55	94	18	52	35	57
	29.3%	50.0%	9.6%	27.7%	18.6%	30.3%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがい を感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
男性	74	87	17	35	57	14	246
	30.1%	35.4%	6.9%	14.2%	23.2%	5.7%	
女性	69	76	20	21	33	11	188
	36.7%	40.4%	10.6%	11.2%	17.6%	5.9%	
合計	143	163	37	56	90	25	434

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

表8-4-3 年齢5区分と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康によい
60-64	83	48	22	49	19	30
	62.4%	36.1%	16.5%	36.8%	14.3%	22.6%
65-69	38	69	13	39	33	38
	31.9%	58.0%	10.9%	32.8%	27.7%	31.9%
70-74	34	45	14	22	19	40
	32.4%	42.9%	13.3%	21.0%	18.1%	38.1%
75-79	9	18	5	9	8	17
	18.8%	37.5%	10.4%	18.8%	16.7%	35.4%
80-84	4	13	1	2	7	16
	13.8%	44.8%	3.4%	6.9%	24.1%	55.2%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがい を感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
60-64	41	53	5	12	25	6	133
	30.8%	39.8%	3.8%	9.0%	18.8%	4.5%	
65-69	40	55	12	17	21	7	119
	33.6%	46.2%	10.1%	14.3%	17.6%	5.9%	
70-74	31	35	12	19	25	5	105
	29.5%	33.3%	11.4%	18.1%	23.8%	4.8%	
75-79	17	14	6	4	12	5	48
	35.4%	29.2%	12.5%	8.3%	25.0%	10.4%	
80-84	14	6	2	4	7	2	29
	48.3%	20.7%	6.9%	13.8%	24.1%	6.9%	
合計	143	163	37	56	90	25	434

表8-4-4 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要部分を賄う	生活費の足しにする	生活水準引き上げ	将来に備え貯蓄増やす	小遣いを稼ぐ	健康によい
十分まかなえている	4 21.1%	3 15.8%	2 10.5%	5 26.3%	3 15.8%	10 52.6%
何とかまかなえている	22 21.2%	40 38.5%	10 9.6%	26 25.0%	26 25.0%	47 45.2%
多少足りない	21 18.9%	76 68.5%	14 12.6%	27 24.3%	30 27.0%	35 31.5%
かなり足りない	60 51.3%	53 45.3%	13 11.1%	29 24.8%	19 16.2%	31 26.5%
合計	107	172	39	87	78	123

	生きがいを感じる	社会とのつながりを得る	人から頼まれて	時間に余裕がある	何もしないと退屈	その他	合計
十分まかなえている	12 63.2%	8 42.1%	2 10.5%	2 10.5%	2 10.5%	4 21.1%	19
何とかまかなえている	40 38.5%	40 38.5%	12 11.5%	22 21.2%	24 23.1%	9 8.7%	104
多少足りない	32 28.8%	40 36.0%	9 8.1%	17 15.3%	27 24.3%	3 2.7%	111
かなり足りない	31 26.5%	45 38.5%	11 9.4%	12 10.3%	20 17.1%	7 6.0%	117
合計	115	133	34	53	73	23	351

表8-4-4は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって大きく異なる。公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」では、生活上の必要性を理由に挙げる者は少ない。「十分まかなえている」では「生きがいを感じる」(63%)の選択率が非常に高く、「健康によい」(53%)も過半を超えており、「社会とのつながりを得る」(42%)も比較的高い。

これに対して、公的年金では毎月の生活費が不足する者では生活費を稼ぐことを挙げる者が最も多い。たとえば、「多少足りないと思う」では「生活費の足しにする」の選択率が69%であり、「かなり足りないと思う」では「生活費の主要部分をまかなう」を選択する者が51%と過半を超えている。他方、公的年金では毎月の生活費が不足する者では仕事をしている理由として「生きがいを感じる」を挙げる者はやや少ない。

表8-4-5 現在の健康状態と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康に よい
よい	19	26	13	23	7	25
	28.8%	39.4%	19.7%	34.8%	10.6%	37.9%
まあよい	46	53	17	43	22	39
	37.7%	43.4%	13.9%	35.2%	18.0%	32.0%
普通	75	84	23	42	44	60
	41.2%	46.2%	12.6%	23.1%	24.2%	33.0%
あまりよ くない	24	29	2	13	11	15
	42.1%	50.9%	3.5%	22.8%	19.3%	26.3%
よくない	3	1	0	0	1	2
	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%
合計	167	193	55	121	85	141

	生きがい を感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
よい	30	28	3	9	14	7	66
	45.5%	42.4%	4.5%	13.6%	21.2%	10.6%	
まあよい	43	48	9	18	27	7	122
	35.2%	39.3%	7.4%	14.8%	22.1%	5.7%	
普通	53	66	19	22	36	7	182
	29.1%	36.3%	10.4%	12.1%	19.8%	3.8%	
あまりよ くない	14	18	5	6	12	3	57
	24.6%	31.6%	8.8%	10.5%	21.1%	5.3%	
よくない	2	2	0	1	1	0	5
	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	
合計	142	162	36	56	90	24	432

表8-4-5は健康状態とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は現在の健康状態によって大きく異なる。健康状態が「よい」では、「生きがいを感じる」(46%)と「社会とのつながりを得る」(42%)が1位と2位の選択率の理由となっている。これに比べて「生活費の足しにする」(39%)と「生活費の主要部分をまかなう」(29%)はやや少ない。

これに対して、健康状態がよくない者では生活費を稼ぐことが最も選択率が高い理由である。たとえば、健康状態が「あまりよくない」では「生活費の足しにする」が51%であり、「よくない」では「生活費の主要部分をまかなう」が60%である。健康状態がよくないのにもかかわらず仕事をしている者では、生活上の必要性から仕事をせざるを得ない者が多いことが推察される。

表8-4-6 居住する住宅と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康に よい
持ち家（住宅 ローンなし）	131 36.00%	161 44.20%	44 12.10%	103 28.30%	76 20.90%	123 33.80%
持ち家（ロー ン返済中）	23 52.30%	22 50.00%	7 15.90%	12 27.30%	7 15.90%	10 22.70%
賃貸住宅	13 61.90%	9 42.90%	4 19.00%	6 28.60%	2 9.50%	7 33.30%
公営住宅	1 33.30%	1 33.30%	0 0.00%	0 0.00%	1 33.30%	1 33.30%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがいを 感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	123 33.80%	136 37.40%	33 9.10%	50 13.70%	74 20.30%	23 6.30%	364
持ち家（住宅 ローン返済	13 29.50%	17 38.60%	3 6.80%	6 13.60%	15 34.10%	2 4.50%	44
賃貸住宅	6 28.60%	9 42.90%	0 0.00%	0 0.00%	1 4.80%	0 0.00%	21
公営住宅	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3
その他	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2
合計	143	163	37	56	90	25	434

表8-4-6は居住する住宅とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は居住する住宅によって大きく異なる。「賃貸住宅」では「生活費の主要部分をまかなう」が62%、「生活費の足しにする」が43%と、生活費を稼ぐことが他の住宅の対応と比べて顕著に選択率が高い理由となっている。また同じく持ち家であっても、住宅ローンの返済を抱える者では「生活費の主要部分をまかなう」が52%、「生活費の足しにする」が50%と、住宅ローンの返済がない持ち家に住む者に比べて生活費を稼ぐことが高い選択率の理由になっている。

表8-4-7 普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度と仕事をしている理由
(複数回答) のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康によ い
十分に感じ ている	49	44	19	39	23	43
	37.1%	33.3%	14.4%	29.5%	17.4%	32.6%
多少は感じ ている	86	118	26	65	53	83
	37.1%	50.9%	11.2%	28.0%	22.8%	35.8%
あまり感じ ていない	27	22	7	15	7	11
	49.1%	40.0%	12.7%	27.3%	12.7%	20.0%
まったく感 じていない	0	3	1	0	0	1
	0.0%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
わからない	6	6	2	2	3	3
	50.0%	50.0%	16.7%	16.7%	25.0%	25.0%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがいを 感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
十分に感じ ている	69	60	18	17	26	10	132
	52.3%	45.5%	13.6%	12.9%	19.7%	7.6%	
多少は感じ ている	63	94	15	32	57	12	232
	27.2%	40.5%	6.5%	13.8%	24.6%	5.2%	
あまり感じ ていない	8	5	1	5	6	1	55
	14.5%	9.1%	1.8%	9.1%	10.9%	1.8%	
まったく感 じていない	1	1	0	0	0	0	3
	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
わからない	2	3	3	2	1	2	12
	16.7%	25.0%	25.0%	16.7%	8.3%	16.7%	
合計	143	163	37	56	90	25	434

表8-4-7は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度によって異なる。「十分に感じている」者では、「生きがいを感じる」(52%)と「社会とのつながりを得る」(46%)が第1位と第2位の選択率の理由であり、「生活費の主要部分をまかなう」や「生活の足しにする」を大きく上回っている。これに対して、生きがいを感じていない者では「生活費の主要部分をまかなう」と「生活費の足しにする」が高い選択率の理由になっており、「生きがいを感じる」や「社会とのつながりを得る」の選択率は低い。

表8-4-8 これまでの人生の満足度と仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康によ い
かなり満足	17	18	8	13	10	19
	34.0%	36.0%	16.0%	26.0%	20.0%	38.0%
まあまあ満足	105	121	39	87	59	90
	37.6%	43.4%	14.0%	31.2%	21.1%	32.3%
やや不満	30	36	2	13	6	22
	46.2%	55.4%	3.1%	20.0%	9.2%	33.8%
大いに不満	4	2	3	2	0	1
	66.7%	33.3%	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%
どちらともい えない	11	16	3	6	11	9
	33.3%	48.5%	9.1%	18.2%	33.3%	27.3%
合計	167	193	55	121	86	141

	生きがいを感じ る	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしない と退屈	その他	合計
かなり満足	28	24	5	4	7	3	50
	56.0%	48.0%	10.0%	8.0%	14.0%	6.0%	
まあまあ満足	95	117	26	40	71	16	279
	34.1%	41.9%	9.3%	14.3%	25.4%	5.7%	
やや不満	14	15	1	7	11	3	65
	21.5%	23.1%	1.5%	10.8%	16.9%	4.6%	
大いに不満	1	0	0	0	0	0	6
	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
どちらともい えない	5	7	5	5	1	3	33
	15.2%	21.2%	15.2%	15.2%	3.0%	9.1%	
合計	143	163	37	56	90	25	433

表8-4-8はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。仕事をしている理由はこれまでの人生の満足度によって異なる。これまでの人生に満足している者では「生きがいを感じる」と「社会とのつながりを得る」を選択する者が多い。特にこれまでの人生に「かなり満足している」では「生きがいを感じる」は56%、「社会とのつながりを得る」は48%である。これに対して、これまでの人生に不満である者では「生活費の主要部分をまかなう」と「生活費の足しにする」を選択する者が多い。特にこれまでの人生に「大いに不満」では「生活費の主要部分をまかなう」は67%と3分の2を占める。

表8-4-9 現在の経済的な暮らし向きと仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康に よい
家計にゆとりがあ り全く心配ない	28	15	12	22	8	17
	43.1%	23.1%	18.5%	33.8%	12.3%	26.2%
ゆとりはないがそ れほど心配ない	71	102	29	70	51	79
	31.7%	45.5%	12.9%	31.3%	22.8%	35.3%
家計にゆとりがな く、多少心配	52	66	10	24	22	36
	43.3%	55.0%	8.3%	20.0%	18.3%	30.0%
家計が苦しく、非 常に心配である	17	9	3	4	4	8
	70.8%	37.5%	12.5%	16.7%	16.7%	33.3%
その他	0	1	1	1	1	1
	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがいを感じ る	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしない と退屈	その他	合計
家計にゆとりがあ り全く心配ない	35	34	5	9	10	13	65
	53.8%	52.3%	7.7%	13.8%	15.4%	20.0%	
ゆとりはないがそ れほど心配ない	73	90	20	33	52	11	224
	32.6%	40.2%	8.9%	14.7%	23.2%	4.9%	
家計にゆとりがな く、多少心配	33	32	8	13	26	1	120
	27.5%	26.7%	6.7%	10.8%	21.7%	0.8%	
家計が苦しく、非 常に心配である	1	6	4	0	1	0	24
	4.2%	25.0%	16.7%	0.0%	4.2%	0.0%	
その他	1	1	0	1	1	0	1
	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
合計	143	163	37	56	90	25	434

表8-4-9は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。仕事をしている理由は現在の経済的な暮らし向きによって大きく異なる。「家計にゆとりがあり全く心配ない」では「生きがいを感じる」（54%）と「社会とのつながりを得る」（52%）が高い選択率の理由になっている。これに対して、家計に心配がある者では「生活費の主要部分をまかなう」と「生活費の足しにする」が高い選択率の理由になっている。特に「家計が苦しく非常に心配」では「生活費の主要部分をまかなう」の選択率は71%と非常に高い。

また家計に心配がある者では「生きがいを感じる」や「社会とのつながりを得る」を選択する者は少ない。特に「家計が苦しく非常に心配である」者では「生きがいを感じる」は4%と極めて少ない。

表8-4-10 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと仕事をしている理由（複数回答）のクロス表

	生活費主要部分を賄う	生活費の足しにする	生活水準引き上げ	将来に備え貯蓄増やす	小遣いを稼ぐ	健康によい
十分だと思う	14	11	4	10	8	15
	29.8%	23.4%	8.5%	21.3%	17.0%	31.9%
少し足りないと思う	50	68	19	50	29	49
	35.5%	48.2%	13.5%	35.5%	20.6%	34.8%
かなり足りないと思う	81	76	21	49	29	47
	49.4%	46.3%	12.8%	29.9%	17.7%	28.7%
わからない	12	18	8	9	14	18
	25.0%	37.5%	16.7%	18.8%	29.2%	37.5%
貯蓄はしていない	11	20	3	3	6	12
	32.4%	58.8%	8.8%	8.8%	17.6%	35.3%
合計	168	193	55	121	86	141

	生きがいを感じる	社会とのつながりを得る	人から頼まれて	時間に余裕がある	何もしないと退屈	その他	合計
十分だと思う	26	23	8	8	11	7	47
	55.3%	48.9%	17.0%	17.0%	23.4%	14.9%	
少し足りないと思う	53	53	10	19	31	8	141
	37.6%	37.6%	7.1%	13.5%	22.0%	5.7%	
かなり足りないと思う	34	54	11	14	32	4	164
	20.7%	32.9%	6.7%	8.5%	19.5%	2.4%	
わからない	23	22	5	11	13	6	48
	47.9%	45.8%	10.4%	22.9%	27.1%	12.5%	
貯蓄はしていない	7	11	3	4	3	0	34
	20.6%	32.4%	8.8%	11.8%	8.8%	0.0%	
合計	143	163	37	56	90	25	434

表 8-4-10 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。仕事をしている理由は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を「十分だと思う」者では「生きがいを感じる」（55%）と「社会とのつながりを得る」（49%）が選択率の理由になっている。これに対して、現在の貯蓄額を足りないと思う者では「生活費の主要部分をまかなう」と「生活費の足しにする」を選択する者が多い。特に「かなり足りないと思う」者ではこの傾向が鮮明であり、「生活費の主要部分をまかなう」が49%、「生活費の足しにする」が46%である。また「貯蓄をしていない」と述べる者でも「生活費の足しにする」の選択率は59%と高い。

8-5 仕事をしている最大の理由

表8-5-1 性別と仕事をしている最大の理由のクロス表

	生活費主要 部分を賄う	生活費の足 しにする	生活水準 引き上げ	将来に備え 貯蓄増やす	小遣いを 稼ぐ	健康に よい
男性	96	45	9	18	11	11
	38.9%	18.2%	3.6%	7.3%	4.5%	4.5%
女性	32	48	5	24	6	11
	17.0%	25.5%	2.7%	12.8%	3.2%	5.9%
合計	128	93	14	42	17	22
	29.4%	21.4%	3.2%	9.7%	3.9%	5.1%

	生きがい を感じる	社会とのつ ながり得る	人から頼 まれて	時間に余裕 がある	何もしな いと退屈	その他	合計
男性	20	21	1	4	3	8	247
	8.1%	8.5%	0.4%	1.6%	1.2%	3.2%	100.0%
女性	26	17	7	1	5	6	188
	13.8%	9.0%	3.7%	0.5%	2.7%	3.2%	100.0%
合計	46	38	8	5	8	14	435
	10.6%	8.7%	1.8%	1.1%	1.8%	3.2%	100.0%

P=0.000<0.01

前問では複数回答可で仕事をしている理由を尋ねたが、次に仕事をしている最大の理由は何かを尋ねた。その結果、最も多い理由は「生活費の主要部分をまかなう」(29%)であり、次いで「生活費の足しにする」(21%)だった。

表8-5-1は性別とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている最大の理由は性別と非常に強い相関関係がある。男女共に生活上の必要性を理由として働いている者が多いが、男性では「生活費の主要部分をまかなう」が相対的に多い。これに対して、女性では「生活費の足しにする」(26%)のために働いている者が最も多い。

次頁の表8-5-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている最大の理由は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。60代前半層では「生活費の主要部分をまかなう」を最大の理由とする者が非常に多いが、60代後半以降の年齢層ではそれは少なくなる。60代後半層では「生活の足しにする」を最大の理由とする者がやや多くなるが、70代以降ではそれは減少する。80代前半では「健康によい」が「生活費の足しにする」と並んで仕事をしている最大の理由になっている。

なお仕事をしている最大の理由についても様々な変数とクロス集計を行ったが、その結果は複数回答可での集計結果とほぼ同様であるので省略することにしたい。

表8-5-2 年齢5区分と仕事をしている最大の理由のクロス表

	生活費主要部分を賄う	生活費の足しにする	生活水準引き上げ	将来に備え貯蓄増やす	小遣いを稼ぐ	健康によい
60-64	69	18	4	9	3	1
	51.9%	13.5%	3.0%	6.8%	2.3%	0.8%
65-69	28	36	2	15	2	5
	23.5%	30.3%	1.7%	12.6%	1.7%	4.2%
70-74	23	24	6	12	6	7
	21.7%	22.6%	5.7%	11.3%	5.7%	6.6%
75-79	5	10	0	4	4	4
	10.4%	20.8%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%
80-84	3	5	2	2	2	5
	10.3%	17.2%	6.9%	6.9%	6.9%	17.2%
合計	128	93	14	42	17	22
	29.4%	21.4%	3.2%	9.7%	3.9%	5.1%

	生きがいを感じる	社会とつながり得る	人から頼まれて	時間に余裕がある	何もしないと退屈	その他	合計
60-64	11	11	1	2	3	1	133
	8.3%	8.3%	0.8%	1.5%	2.3%	0.8%	100.0%
65-69	14	13	1	0	1	2	119
	11.8%	10.9%	0.8%	0.0%	0.8%	1.7%	100.0%
70-74	10	7	3	2	1	5	106
	9.4%	6.6%	2.8%	1.9%	0.9%	4.7%	100.0%
75-79	6	6	2	1	1	5	48
	12.5%	12.5%	4.2%	2.1%	2.1%	10.4%	100.0%
80-84	5	1	1	0	2	1	29
	17.2%	3.4%	3.4%	0.0%	6.9%	3.4%	100.0%
合計	46	38	8	5	8	14	435
	10.6%	8.7%	1.8%	1.1%	1.8%	3.2%	100.0%

P=0.000<0.01

8-6 何歳頃まで仕事をしたいか

日本は人口が減少する時代に入り、生産年齢人口の減少が見込まれている。このままでは近い将来に労働力不足が深刻化する。その対策として就業年齢の延長が政策的に推進されている。そこで今回の調査では、仕事をしている者については何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかと尋ねた。

表8-6-1 性別と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
男性	30	60	53	28	72	4	247
	12.1%	24.3%	21.5%	11.3%	29.1%	1.6%	100.0%
女性	26	37	43	14	61	7	188
	13.8%	19.7%	22.9%	7.4%	32.4%	3.7%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.384>0.05

表8-6-2 年齢5区分と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
60-64	55	46	7	1	20	4	133
	41.4%	34.6%	5.3%	0.8%	15.0%	3.0%	100.0%
65-69	1	47	39	4	25	3	119
	0.8%	39.5%	32.8%	3.4%	21.0%	2.5%	100.0%
70-74	0	4	47	15	39	1	106
	0.0%	3.8%	44.3%	14.2%	36.8%	0.9%	100.0%
75-79	0	0	3	20	23	2	48
	0.0%	0.0%	6.3%	41.7%	47.9%	4.2%	100.0%
80-84	0	0	0	2	26	1	29
	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%	89.7%	3.4%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-6-1は性別とのクロス集計結果である。何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかは性別で大差なかった。男女共に「働けるうちはいつまでも」が最も多かった。

表8-6-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかは年齢5区分によって明瞭な相違がみられた。60代前半では「65歳くらいまで」と「70歳くらいまで」が多く、60代後半では「70歳くらいまで」と「75歳くらいまで」が多い。つまり、60代ではおおよそ次の年齢区分まで仕事を継続したいという者が多い。70代前半では「75歳くらいまで」と「働けるうちはいつまでも」が多く、次の年齢区分で仕事をやめたい者といつまでも働きたい者との二極分解の傾向がある。70代後半以降では「80歳くらいまで」と「働けるうちはいつまでも」が多い。80代前半まで働いている者は就業継続意欲が非常に高く、9割が「働けるうちはいつまでも」と回答している。

次頁の表8-6-3は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者のいない者は配偶者がいる者よりも「働けるうちはいつまでも」が多い。

表8-6-4は子の有無とのクロス集計結果である。子がない者はいる者に比べて「働けるうちはいつまでも」が多いが、「65歳くらいまで」も比較的多い。

表8-6-3 配偶者の有無と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
有配偶	47	88	87	32	109	7	370
	12.7%	23.8%	23.5%	8.6%	29.5%	1.9%	100.0%
無配偶	9	9	9	10	24	4	65
	13.8%	13.8%	13.8%	15.4%	36.9%	6.2%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.029<0.05

表8-6-4 子の有無と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
子がいる	51	93	94	39	124	11	412
	12.4%	22.6%	22.8%	9.5%	30.1%	2.7%	100.0%
子はない	5	4	2	3	9	0	23
	21.7%	17.4%	8.7%	13.0%	39.1%	0.0%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.392>0.05

表8-6-5 世帯形態と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
一人暮らし	5	7	8	6	13	2	41
	12.2%	17.1%	19.5%	14.6%	31.7%	4.9%	100.0%
夫婦のみ	31	48	54	19	69	2	223
	13.9%	21.5%	24.2%	8.5%	30.9%	0.9%	100.0%
その他の同 居人あり	20	42	34	17	50	7	170
	11.8%	24.7%	20.0%	10.0%	29.4%	4.1%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	10	434
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.755>0.05

表8-6-5は世帯形態とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは世帯形態と強い相関関係はなく、何歳頃まで仕事をしたいかは世帯形態で大きな差はなかった。

次頁の表8-6-6は服用する処方薬とのクロス集計結果である。服用する処方薬がある者はない者よりも「働けるうちいつまでも」が多い。持病をもつ者は持病をもたない者よりも総じて就業継続意欲が高い者が多いのは意外な結果である。

表8-6-6 服用する処方薬の有無と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
ある	27	61	66	29	93	8	284
	9.5%	21.5%	23.2%	10.2%	32.7%	2.8%	100.0%
ない	29	36	30	13	40	2	150
	19.3%	24.0%	20.0%	8.7%	26.7%	1.3%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-6-7 処方薬の数と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
1種類	12	27	29	9	33	1	111
	10.8%	24.3%	26.1%	8.1%	29.7%	0.9%	100.0%
2種類	9	18	22	14	28	5	96
	9.4%	18.8%	22.9%	14.6%	29.2%	5.2%	100.0%
3種類	5	14	12	3	23	1	58
	8.6%	24.1%	20.7%	5.2%	39.7%	1.7%	100.0%
4種以上	1	2	3	3	9	1	19
	5.3%	10.5%	15.8%	15.8%	47.4%	5.3%	100.0%
合計	27	61	66	29	93	8	284
	9.5%	21.4%	23.2%	10.2%	32.6%	3.2%	100.0%

P=0.001<0.01

表8-6-7は服用する処方薬の数とのクロス集計結果である。服用する処方薬の数が多いことは複数の持病があることを意味する。それだけ不健康ということだが、調査の結果では、服用する処方薬の数が多くなるにつれて「働けるうちはいつまでも」が多くなっている。たとえば、4種類上の処方薬を服用する者で48%が「働けるうちはいつまでも」と答えている。

次頁の表8-6-8は健康状態とのクロス集計結果である。何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかは現在の健康状態と非常に強い相関関係がある。健康状態が「よい」では「働けるうちはいつまでも」が37%と比較的多い。しかし、健康状態がよくない者でも「働けるうちはいつまでも」は比較的多い。たとえば、「働けるうちはいつまでも」は健康状態が「あまりよくない」で39%、「よくない」では60%である。仕事をしている者については、健康状態がよくない者でも就業継続意欲が高い者が多いのは注目すべき結果である。

表8-6-9は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは現在の経済的な暮らし向きと強い相関関係はなかった。しかし、「家計が苦しく非常に心配」で「働けるうちはいつまでも」が54%と過半を超えている。

表8-6-8 現在の健康状態と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
よい	5	12	15	10	25	0	67
	7.5%	17.9%	22.4%	14.9%	37.3%	0.0%	100.0%
まあよい	21	24	25	16	35	1	122
	17.2%	19.7%	20.5%	13.1%	28.7%	0.8%	100.0%
普通	28	51	39	11	48	5	182
	15.4%	28.0%	21.4%	6.0%	26.4%	2.7%	100.0%
あまりよく ない	2	8	16	5	22	4	57
	3.5%	14.0%	28.1%	8.8%	38.6%	7.0%	100.0%
よくない	0	1	1	0	3	0	5
	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100.0%
合計	56	96	96	42	133	10	433
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.001<0.01

表8-6-9 現在の経済的な暮らし向きと何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
家計にゆとりあ り全く心配ない	11	10	14	5	26	0	66
	16.7%	15.2%	21.2%	7.6%	39.4%	0.0%	100.0%
家計にゆとりは ないが心配ない	30	60	49	26	53	6	224
	13.4%	26.8%	21.9%	11.6%	23.7%	2.7%	100.0%
家計にゆとりが なく多少心配	15	24	28	9	41	3	120
	12.5%	20.0%	23.3%	7.5%	34.2%	2.5%	100.0%
家計が苦しく非 常に心配	0	2	5	2	13	2	24
	0.0%	8.3%	20.8%	8.3%	54.2%	8.3%	100.0%
その他	0	1	0	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.067>0.05

次頁の表 8-6-10 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかはコロナの影響の有無と強い相関関係がある。影響の有無では大きな差はないが、「わからない」で「80歳くらいまで」と「働けるうちいつまでも」が多い。

表 8-6-11 は居住する住宅とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは居住する住宅と強い相関関係はなかった。しかし、「賃貸住宅」と「公営住宅」では「働けるうちいつまでも」が多い。

表 8-6-12 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは地域の社会活動への参加の有無と非常に。地域の社会活動に参加している者では「働けるうちいつ

までも」が比較的多い。

表8-6-10 暮らし向きに対するコロナの影響と何歳頃まで仕事をしたいか

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
影響がある	35	63	47	25	68	3	241
	14.5%	26.1%	19.5%	10.4%	28.2%	1.2%	100.0%
影響はない	17	28	46	11	50	7	159
	10.7%	17.6%	28.9%	6.9%	31.4%	4.4%	100.0%
わからない	4	6	3	6	15	1	35
	11.4%	17.1%	8.6%	17.1%	42.9%	2.9%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.020<0.05

表8-6-11 居住する住宅と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	45	82	82	37	110	9	365
	12.3%	22.5%	22.5%	10.1%	30.1%	2.5%	100.0%
持ち家（ロー ン返済中）	6	12	10	3	11	2	44
	13.6%	27.3%	22.7%	6.8%	25.0%	4.5%	100.0%
賃貸住宅	5	2	3	2	9	0	21
	23.8%	9.5%	14.3%	9.5%	42.9%	0.0%	100.0%
公営住宅	0	0	1	0	2	0	3
	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
その他	0	1	0	0	1	0	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.892>0.05

表8-6-12 地域の社会活動への参加の有無と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
参加している	10	26	36	20	58	3	153
	6.5%	17.0%	23.5%	13.1%	37.9%	2.0%	100.0%
参加していな い	46	71	60	22	75	8	282
	16.3%	25.2%	21.3%	7.8%	26.6%	2.8%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.003<0.01

表8-6-13 近隣の人とのつきあいの有無と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
つきあいがある	37 10.2%	80 22.1%	87 24.0%	37 10.2%	112 30.9%	9 2.5%	362 100.0%
つきあいは ない	19 26.0%	17 23.3%	9 12.3%	5 6.8%	21 28.8%	2 2.7%	73 100.0%
合計	56 12.9%	97 22.3%	96 22.1%	42 9.7%	133 30.6%	11 2.5%	435 100.0%

P=0.006<0.01

表8-6-14 1ヶ月の生活費と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
10万円未満	5 12.8%	5 12.8%	7 17.9%	5 12.8%	15 38.5%	2 5.1%	39 100.0%
10万円～15万円	11 13.4%	17 20.7%	16 19.5%	10 12.2%	23 28.0%	5 6.1%	82 100.0%
15万円～20万円	13 11.7%	23 20.7%	29 26.1%	5 4.5%	40 36.0%	1 0.9%	111 100.0%
20万円～25万円	12 13.2%	25 27.5%	22 24.2%	10 11.0%	22 24.2%	0 0.0%	91 100.0%
25万円～30万円	9 17.0%	8 15.1%	10 18.9%	6 11.3%	18 34.0%	2 3.8%	53 100.0%
30万円～35万円	3 9.4%	10 31.3%	4 12.5%	5 15.6%	9 28.1%	1 3.1%	32 100.0%
35万円～40万円	3 16.7%	7 38.9%	3 16.7%	1 5.6%	4 22.2%	0 0.0%	18 100.0%
40万円以上	0 0.0%	2 22.2%	5 55.6%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	9 100.0%
合計	56 12.9%	97 22.3%	96 22.1%	42 9.7%	133 30.6%	11 2.5%	435 100.0%

P=0.316>0.05

表 8-6-13 は近隣の人とのつきあいのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは近隣の人とのつきあいの非常に強い相関関係がある。つきあいがある者ではつきあいが無い者よりも長く働きたい者が多い。

表 8-6-14 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは1ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係はなかった。しかし、「80歳くらいまで」と「働けるうちいつまでも」の合計は「10万円未満」で51%、「10万円～15万円」で42%と生活費が少ない者で長く働きたい者が比較的多い。一方で「35万円～40万円」で28%、「40万円以上」で22%と生活費が多額である者では長く働きたい者は比較的少ない。

表8-6-15 公的年金で生活費を賄えている程度と何歳頃まで仕事したいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
十分まかなえて いる	1 5.3%	3 15.8%	0 0.0%	3 15.8%	12 63.2%	0 0.0%	19 100.0%
何とかまかなえ ている	4 3.8%	12 11.5%	30 28.8%	17 16.3%	38 36.5%	3 2.9%	104 100.0%
多少足りない	3 2.7%	27 24.1%	31 27.7%	9 8.0%	37 33.0%	5 4.5%	112 100.0%
かなり足りない	14 12.0%	23 19.7%	30 25.6%	12 10.3%	36 30.8%	2 1.7%	117 100.0%
合計	22 6.3%	65 18.5%	91 25.9%	41 11.6%	123 34.9%	10 2.8%	352 100.0%

P=0.010≦0.01

表8-6-16 就業収入がなくなった場合に公的年金だけの生活費を賄えそうな程度と何歳まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
十分まかなえる と思う	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	6 75.0%	0 0.0%	8 100.0%
何とかまかなえ ると思う	22 17.1%	26 20.2%	25 19.4%	15 11.6%	40 31.0%	1 0.8%	129 100.0%
多少足りない と思う	11 8.5%	35 27.1%	34 26.4%	11 8.5%	33 25.6%	5 3.9%	129 100.0%
かなり足りない と思う	20 13.1%	32 20.9%	34 22.2%	15 9.8%	48 31.4%	4 2.6%	153 100.0%
わからない	3 18.8%	4 25.0%	2 12.5%	0 0.0%	6 37.5%	1 6.3%	16 100.0%
合計	56 12.9%	97 22.3%	96 22.1%	42 9.7%	133 30.6%	11 2.5%	435 100.0%

P=0.261>0.05

表 8-6-15 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと非常に強い相関関係がある。意外にも「十分まかなえている」で「働けるうちはいつまでも」が63%とかなり多い。

表 8-6-16 は就業収入がなくなった場合に公的年金だけで毎月の生活費をどの程度まかなえそうかとのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは就業収入がなくなった場合に公的年金だけで毎月の生活費をまかなえそうな程度と強い相関関係はなかった。しかし、「十分まかなえている」で「働けるうちはいつまでも」が75%と非常に高いことは注目される。

次頁の表 8-6-17 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは現在の貯蓄額をどう思うかと強い相関関係があり、「働けるうちはいつま

でも」は「十分だと思う」で43%と最も多い。

表8-6-17 現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかと何歳頃まで仕事をしたいか

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
十分だと思う	2	8	13	4	20	0	47
	4.3%	17.0%	27.7%	8.5%	42.6%	0.0%	100.0%
少し足りない	28	35	28	17	30	3	141
	19.9%	24.8%	19.9%	12.1%	21.3%	2.1%	100.0%
かなり足りない	21	35	40	16	47	6	165
	12.7%	21.2%	24.2%	9.7%	28.5%	3.6%	100.0%
わからない	5	13	6	4	20	0	48
	10.4%	27.1%	12.5%	8.3%	41.7%	0.0%	100.0%
貯蓄はしていない	0	6	9	1	16	2	34
	0.0%	17.6%	26.5%	2.9%	47.1%	5.9%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.012<0.05

表8-6-17 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と何歳頃まで仕事をしたいか

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
100万円～500万 円	2	6	5	0	5	0	18
	11.1%	33.3%	27.8%	0.0%	27.8%	0.0%	100.0%
500万円～1000万 円	3	7	20	6	23	1	60
	5.0%	11.7%	33.3%	10.0%	38.3%	1.7%	100.0%
1000万円～1500 万円	6	8	22	10	21	1	68
	8.8%	11.8%	32.4%	14.7%	30.9%	1.5%	100.0%
1500万円～2000 万円	12	29	11	6	20	1	79
	15.2%	36.7%	13.9%	7.6%	25.3%	1.3%	100.0%
2000万円～3000 万円	19	19	20	8	23	5	94
	20.2%	20.2%	21.3%	8.5%	24.5%	5.3%	100.0%
3000万円～4000 万円	7	13	6	2	12	0	40
	17.5%	32.5%	15.0%	5.0%	30.0%	0.0%	100.0%
4000万円～5000 万円	3	3	3	2	7	0	18
	16.7%	16.7%	16.7%	11.1%	38.9%	0.0%	100.0%
5000万円以上	1	5	5	4	6	0	21
	4.8%	23.8%	23.8%	19.0%	28.6%	0.0%	100.0%
わからない	3	7	4	4	16	3	37
	8.1%	18.9%	10.8%	10.8%	43.2%	8.1%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.010≦0.01

前頁の表 8-6-17 は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と非常に強い相関関係がある。「80歳くらいまで」と「働けるうちはいつまでも」の合計は必要だと思う貯蓄額が多額な者と「わからない」で比較的多い。たとえば、「4000万円～5000万円」で50%、「5000万円以上」で48%、「わからない」で54%である。

表8-6-18 収入を伴う仕事をしている最大の理由と何歳頃まで仕事をしたいか

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
生活費の主要部分 をまかなう	26 20.3%	39 30.5%	27 21.1%	6 4.7%	29 22.7%	1 0.8%	128 100.0%
生活費の足しにす る	12 12.9%	20 21.5%	24 25.8%	9 9.7%	23 24.7%	5 5.4%	93 100.0%
生活水準を引き上 げる	1 7.1%	3 21.4%	4 28.6%	1 7.1%	4 28.6%	1 7.1%	14 100.0%
将来に備え貯蓄を 増やす	4 9.5%	11 26.2%	9 21.4%	4 9.5%	13 31.0%	1 2.4%	42 100.0%
小遣いを稼ぐ	1 5.9%	3 17.6%	4 23.5%	2 11.8%	7 41.2%	0 0.0%	17 100.0%
健康によい	1 4.5%	3 13.6%	3 13.6%	2 9.1%	12 54.5%	1 4.5%	22 100.0%
生きがいを感じる	4 8.7%	8 17.4%	9 19.6%	8 17.4%	16 34.8%	1 2.2%	46 100.0%
社会とのつながり を得る	6 15.8%	8 21.1%	8 21.1%	5 13.2%	11 28.9%	0 0.0%	38 100.0%
人から頼まれてい る	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	8 100.0%
時間に余裕がある	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	5 100.0%
何もしないと退屈	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	6 75.0%	0 0.0%	8 100.0%
その他	0 0.0%	1 7.1%	4 28.6%	1 7.1%	8 57.1%	0 0.0%	14 100.0%
合計	56 12.9%	97 22.3%	96 22.1%	42 9.7%	133 30.6%	11 2.5%	435 100.0%

P=0.079 > 0.05

表 8-6-19 は収入を伴う仕事をしている最大の理由とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは仕事をしている最大の理由と強い相関関係はなかった。しかし、「80歳くらいまで」と「働けるうちはいつまでも」が大きな割合を占める理由は、「時間に余裕がある」(80%)、「何もしないと退屈」(75%)、「健康によい」(55%)、「小遣いを稼ぐ」(41%)、「生きがいを感じる」(35%)だった。長く働きたい理由としては経済的な理由よりも非経済的な理由が多いことが注目される。

表8-6-19 就業収入と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
5万円未満	3	6	16	17	41	6	89
	3.4%	6.7%	18.0%	19.1%	46.1%	6.7%	100.0%
5万円~10万円	11	20	32	7	34	3	107
	10.3%	18.7%	29.9%	6.5%	31.8%	2.8%	100.0%
10万円~15万円	13	18	16	7	23	0	77
	16.9%	23.4%	20.8%	9.1%	29.9%	0.0%	100.0%
15万円~20万円	4	11	14	1	10	0	40
	10.0%	27.5%	35.0%	2.5%	25.0%	0.0%	100.0%
20万円~25万円	13	20	6	4	3	2	48
	27.1%	41.7%	12.5%	8.3%	6.3%	4.2%	100.0%
25万円~30万円	6	6	2	0	5	0	19
	31.6%	31.6%	10.5%	0.0%	26.3%	0.0%	100.0%
30万円~35万円	1	3	2	0	5	0	11
	9.1%	27.3%	18.2%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%
35万円~40万円	3	5	1	3	2	0	14
	21.4%	35.7%	7.1%	21.4%	14.3%	0.0%	100.0%
40万円以上	2	8	7	3	10	0	30
	6.7%	26.7%	23.3%	10.0%	33.3%	0.0%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-6-20 生きがいを感じる程度と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからない	合計
十分に感じて いる	11	25	31	19	47	0	133
	8.3%	18.8%	23.3%	14.3%	35.3%	0.0%	100.0%
多少は感じて いる	35	61	48	20	61	7	232
	15.1%	26.3%	20.7%	8.6%	26.3%	3.0%	100.0%
あまり感じて いない	10	8	12	2	21	2	55
	18.2%	14.5%	21.8%	3.6%	38.2%	3.6%	100.0%
まったく感じ ていない	0	0	3	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
わからない	0	3	2	1	4	2	12
	0.0%	25.0%	16.7%	8.3%	33.3%	16.7%	100.0%
合計	56	97	96	42	133	11	435
	12.9%	22.3%	22.1%	9.7%	30.6%	2.5%	100.0%

P=0.002<0.01

表 8-6-19 は就業収入とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは就業収入と非常に強

い相関関係がある。「80 歳くらいまで」と「働けるうちはいつまでも」の合計は就業収入が「5 万円未満」で 65%と非常に多い。

表 8-6-20 は普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは生きがいを感じている程度と非常に強い相関関係がある。生きがいを「十分に感じている」では「80 歳くらいまで」が 14%、「働けるうちはいつまでも」が 35%といずれも比較的多い。

表8-6-21 職業と何歳頃まで仕事をしたいかのクロス表

	65歳くら いまで	70歳くら いまで	75歳くら いまで	80歳くら いまで	働けるうち いつまでも	わからな い	合計
会社団体 被雇用者	52 20.6%	77 30.6%	49 19.4%	19 7.5%	46 18.3%	9 3.6%	252 100.0%
会社団体 役員	3 10.0%	6 20.0%	10 33.3%	3 10.0%	8 26.7%	0 0.0%	30 100.0%
自営業主 や自由業	1 1.1%	8 9.1%	21 23.9%	12 13.6%	45 51.1%	1 1.1%	88 100.0%
自営業家 族従業者	0 0.0%	3 13.0%	5 21.7%	0 0.0%	15 65.2%	0 0.0%	23 100.0%
シルバー センター	0 0.0%	3 11.1%	5 18.5%	5 18.5%	14 51.9%	0 0.0%	27 100.0%
内職	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
頼まれて 行う仕事	0 0.0%	0 0.0%	6 60.0%	0 0.0%	4 40.0%	0 0.0%	10 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	4 100.0%
合計	56 12.9%	97 22.3%	96 22.1%	42 9.7%	133 30.6%	11 2.5%	435 100.0%

P=0.000<0.01

表 8-6-21 は職業とのクロス集計結果である。何歳頃まで仕事をしたいかは従事している職業と非常に強い相関関係がある。「働けるうちはいつまでも」は「会社団体の被雇用者」(18%)では少なく、「自営業主や自営業」(51%)、「自営業の家族従業者」(65%)、「シルバー人材センターの仕事」(52%)、「人から頼まれて行う仕事」(40%)で多い。

8-7 就業収入

表8-7-1 性別と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円未 満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
男性	44	42	33	29	39	16	6	12	26	247
	17.8%	17.0%	13.4%	11.7%	15.8%	6.5%	2.4%	4.9%	10.5%	100.0%
女性	45	65	44	11	9	3	5	2	4	188
	23.9%	34.6%	23.4%	5.9%	4.8%	1.6%	2.7%	1.1%	2.1%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-7-2 年齢5区分と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円未 満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
60-64	10	20	21	13	32	12	7	6	12	133
	7.5%	15.0%	15.8%	9.8%	24.1%	9.0%	5.3%	4.5%	9.0%	100.0%
65-69	19	35	22	11	12	5	1	6	8	119
	16.0%	29.4%	18.5%	9.2%	10.1%	4.2%	0.8%	5.0%	6.7%	100.0%
70-74	26	32	21	13	4	1	3	2	4	106
	24.5%	30.2%	19.8%	12.3%	3.8%	0.9%	2.8%	1.9%	3.8%	100.0%
75-79	21	12	10	1	0	0	0	0	4	48
	43.8%	25.0%	20.8%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
80-84	13	8	3	2	0	1	0	0	2	29
	44.8%	27.6%	10.3%	6.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	6.9%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-7-1は性別と就業収入のクロス集計結果である。全体的には1ヶ月の就業収入は8割強(83%)が25万円未満であり、45%が10万円未満である。その中で女性は男性よりも就業収入が低い者が多い。女性では10万円未満は59%、15万円未満では82%を占める。これに対して、男性では10万円未満は35%、15万円未満では48%である。

表8-7-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると就業収入が低い者が多くなる。10万円未満の者は60代前半では23%だが、70代後半では69%、80代前半では72%である。

表8-7-3 世帯形態と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
一人暮らし	11	7	8	3	5	1	1	1	4	41
	26.8%	17.1%	19.5%	7.3%	12.2%	2.4%	2.4%	2.4%	9.8%	100.0%
夫婦のみ	39	61	42	22	23	8	7	6	15	223
	17.5%	27.4%	18.8%	9.9%	10.3%	3.6%	3.1%	2.7%	6.7%	100.0%
その他の 同居人あり	39	39	26	15	20	10	3	7	11	170
	22.9%	22.9%	15.3%	8.8%	11.8%	5.9%	1.8%	4.1%	6.5%	100.0%
無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.955>0.05

表8-7-4 服用する処方薬の有無と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
ある	65	76	49	26	26	10	9	7	16	284
	22.9%	26.8%	17.3%	9.2%	9.2%	3.5%	3.2%	2.5%	5.6%	100.0%
ない	23	31	28	14	22	9	2	7	14	150
	15.3%	20.7%	18.7%	9.3%	14.7%	6.0%	1.3%	4.7%	9.3%	100.0%
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.382>0.05

表 8-7-3 は世帯形態とのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は世帯形態によって大きな違いはなかった。

表 8-7-4 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は服用する処方薬の有無と強い相関関係はなかったが、処方薬を服用する者では1ヶ月の就業収入が10万円未満の者がやや多い。

表 8-7-5 は健康状態とのクロス集計結果である。全体的にみて1ヶ月の就業収入は健康状態によって大きく異なることはなかった。ただし健康状態が「あまりよくない」と「よくない」者では5万円未満の者が比較的多い。

表8-7-5 現在の健康状態と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
よい	11	20	12	4	5	1	2	3	9	67
	16.4%	29.9%	17.9%	6.0%	7.5%	1.5%	3.0%	4.5%	13.4%	100.0%
まあよい	25	32	20	8	11	8	2	5	11	122
	20.5%	26.2%	16.4%	6.6%	9.0%	6.6%	1.6%	4.1%	9.0%	100.0%
普通	31	41	36	25	22	10	5	6	6	182
	17.0%	22.5%	19.8%	13.7%	12.1%	5.5%	2.7%	3.3%	3.3%	100.0%
あまりよ くない	19	14	9	2	9	0	2	0	2	57
	33.3%	24.6%	15.8%	3.5%	15.8%	0.0%	3.5%	0.0%	3.5%	100.0%
よくない	2	0	0	1	1	0	0	0	1	5
	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.134>0.05

表8-7-6 地域の社会活動への参加の有無と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
参加	52	39	23	14	7	1	4	6	7	153
	34.0%	25.5%	15.0%	9.2%	4.6%	0.7%	2.6%	3.9%	4.6%	100.0%
不参加	37	68	54	26	41	18	7	8	23	282
	13.1%	24.1%	19.1%	9.2%	14.5%	6.4%	2.5%	2.8%	8.2%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表 8-7-6 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。地域の社会活動とは自治会、老人クラブ、高齢者サロンの活動、児童の登下校や独居高齢者の見守り活動などである。地域の社会活動に参加している者では1ヶ月の就業収入が低い者が総じて多く、20万円未満の者が81%と大半を占める。特に10万円未満の者が34%と相対的に大きな割合を占めている。これに対して、地域の社会活動に参加しない者では20万円未満が56%、20万円以上が44%を占める。

次頁の表 8-7-7 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいがある人では1ヶ月の就業収入が低い者が総じて多く、20万円未満の者が4分の3(75%)を占める。特に10万円未満の者は49%、5万円未満が23%である。これに対して、近隣の人とのつきあいが無い者では20万円未満の者は55%であり、10万円未満の者は23%である。

表8-7-7 近隣の人とのつきあいの有無と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
ある	83	96	61	33	34	14	9	12	20	362
	22.9%	26.5%	16.9%	9.1%	9.4%	3.9%	2.5%	3.3%	5.5%	100.0%
ない	6	11	16	7	14	5	2	2	10	73
	8.2%	15.1%	21.9%	9.6%	19.2%	6.8%	2.7%	2.7%	13.7%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.003<0.01

表8-7-8 仕事内容と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
会社団体 被雇用者	25	64	57	28	43	14	6	5	10	252
	9.9%	25.4%	22.6%	11.1%	17.1%	5.6%	2.4%	2.0%	4.0%	100.0%
会社団体 役員	1	6	2	3	1	1	2	3	11	30
	3.3%	20.0%	6.7%	10.0%	3.3%	3.3%	6.7%	10.0%	36.7%	100.0%
自営業主 や自由業	40	14	10	6	3	1	2	6	6	88
	45.5%	15.9%	11.4%	6.8%	3.4%	1.1%	2.3%	6.8%	6.8%	100.0%
自営業家 族従業者	4	8	3	2	1	2	1	0	2	23
	17.4%	34.8%	13.0%	8.7%	4.3%	8.7%	4.3%	0.0%	8.7%	100.0%
シルバー センター	9	12	4	0	0	1	0	0	1	27
	33.3%	44.4%	14.8%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	3.7%	100.0%
内職	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
頼まれて 行う仕事	5	3	1	1	0	0	0	0	0	10
	50.0%	30.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	89	107	77	40	48	19	11	14	30	435
	20.5%	24.6%	17.7%	9.2%	11.0%	4.4%	2.5%	3.2%	6.9%	100.0%

P=0.000<0.01

表8-7-8は仕事内容とのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は仕事内容と非常に強い相関関係がある。「会社・団体の被雇用者」では1ヶ月の就業収入が25万円未満の者が多い。「会社・団体の役員」では30万円以上の収入の者が比較的多い。これ以外の仕事内容では1ヶ月の就業収入は総じて低く、15万円未満の者が多い。特に「自営業主や自由業」では10万円未満が61%、「自営業の家族従業者」では10万円未満が52%を占める。またシルバーセンターの仕事も1ヶ月の就業収入は低く、10万円未満が78%である。

表8-7-9 雇用形態と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
常勤の被雇 用者	1 1.5%	1 1.5%	14 20.6%	13 19.1%	20 29.4%	5 7.4%	3 4.4%	4 5.9%	7 10.3%	68 100.0%
契約・嘱託・ 派遣・臨時	5 6.7%	8 10.7%	19 25.3%	10 13.3%	18 24.0%	9 12.0%	3 4.0%	1 1.3%	2 2.7%	75 100.0%
パート・ アルバイト	19 17.6%	55 50.9%	24 22.2%	5 4.6%	5 4.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	108 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
合計	25 9.9%	64 25.4%	57 22.6%	28 11.1%	43 17.1%	14 5.6%	6 2.4%	5 2.0%	10 4.0%	252 100.0%

P=0.000<0.01

表8-7-10 仕事をしている最大の理由と1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円 未満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
生活費の主要部 分をまかなう	5 3.9%	13 10.2%	25 19.5%	15 11.7%	30 23.4%	13 10.2%	6 4.7%	7 5.5%	14 10.9%	128 100.0%
生活費の足しに する	17 18.3%	42 45.2%	21 22.6%	4 4.3%	6 6.5%	1 1.1%	2 2.2%	0 0.0%	0 0.0%	93 100.0%
生活水準を引き 上げる	3 21.4%	3 21.4%	3 21.4%	0 0.0%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	14 100.0%
将来に備え貯蓄 を増やす	3 7.1%	14 33.3%	8 19.0%	8 19.0%	3 7.1%	1 2.4%	0 0.0%	1 2.4%	4 9.5%	42 100.0%
小遣いを稼ぐ	5 29.4%	8 47.1%	3 17.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 100.0%
健康によい	12 54.5%	5 22.7%	4 18.2%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%
生きがいを感じる	16 34.8%	7 15.2%	8 17.4%	3 6.5%	3 6.5%	1 2.2%	2 4.3%	3 6.5%	3 6.5%	46 100.0%
社会とのつなが りを得る	12 31.6%	8 21.1%	3 7.9%	3 7.9%	3 7.9%	1 2.6%	1 2.6%	2 5.3%	5 13.2%	38 100.0%
人から頼まれて	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
時間に余裕あり	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100.0%
何もしないと退 屈	1 12.5%	3 37.5%	0 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 100.0%
その他	8 57.1%	1 7.1%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	14 100.0%
合計	89 20.5%	107 24.6%	77 17.7%	40 9.2%	48 11.0%	19 4.4%	11 2.5%	14 3.2%	30 6.9%	435 100.0%

P=0.000<0.01

前頁の表 8-7-9 は会社・団体の被雇用者について、雇用形態と1ヶ月の就業収入をクロス集計した結果である。1ヶ月の就業収入は雇用形態によって大きく異なる。「常勤の被雇用者」と「契約・嘱託・派遣・臨時」の者では10万円以上の者が大半である。これに対して、「パート・アルバイト」では総じて就業収入は低く、10万円未満の者が3分の2（68%）を占める。

表 8-7-10 は仕事をしている最大の理由とのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は仕事をしている最大の理由と非常に強い相関関係がある。仕事をしている最大の理由が「生活費の主要部分をまかなう」では10万円未満の者は少ない（14%）が、「生活費の足しにする」で10万円未満は64%とかなり多い。その他の理由でも10万円未満は多い。たとえば、10万円未満は「小遣いを稼ぐ」で77%、「健康によい」で77%、「生きがいを感じる」で50%、「社会とのつながりを得る」で53%である。

表8-7-11 何歳頃まで収入伴う仕事をしたいかと1ヶ月の就業収入のクロス表

	5万円未 満	5万円 ~10万円	10万円 ~15万円	15万円 ~20万円	20万円 ~25万円	25万円 ~30万円	30万円 ~35万円	35万円 ~40万円	40万円 以上	合計
65歳くらい まで	3 5.4%	11 19.6%	13 23.2%	4 7.1%	13 23.2%	6 10.7%	1 1.8%	3 5.4%	2 3.6%	56 100.0%
70歳くらい まで	6 6.2%	20 20.6%	18 18.6%	11 11.3%	20 20.6%	6 6.2%	3 3.1%	5 5.2%	8 8.2%	97 100.0%
75歳くらい まで	16 16.7%	32 33.3%	16 16.7%	14 14.6%	6 6.3%	2 2.1%	2 2.1%	1 1.0%	7 7.3%	96 100.0%
80歳くらい まで	17 40.5%	7 16.7%	7 16.7%	1 2.4%	4 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.1%	3 7.1%	42 100.0%
働けるうち いつまでも	41 30.8%	34 25.6%	23 17.3%	10 7.5%	3 2.3%	5 3.8%	5 3.8%	2 1.5%	10 7.5%	133 100.0%
わからない	6 54.5%	3 27.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 100.0%
合計	89 20.5%	107 24.6%	77 17.7%	40 9.2%	48 11.0%	19 4.4%	11 2.5%	14 3.2%	30 6.9%	435 100.0%

P=0.000<0.01

表 8-7-11 は何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかとのクロス集計結果である。1ヶ月の就業収入は何歳頃まで収入を伴う仕事をしたいかと非常に強い相関関係がある。就業継続年齢が高い者では1ヶ月の就業収入が少ない者が多い。たとえば、「80歳くらいまで」では15万円未満が74%、10万円未満は57%であり、「働けるうちはいつまでも」では15万円未満が74%、10万円未満は56%である。これに対して、就業継続年齢が低い者では1ヶ月の就業収入が少ない者は比較的少ない。たとえば、「65歳くらいまで」では15万円未満は48%、10万円未満は25%、「70歳くらいまで」では15万円未満は45%、10万円未満は27%である。

第9章 就業収入がなくなった場合の生活費充足の見通し

9-1 就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるか

表9-1-1 就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるか

	回答数	割合
十分まかなえると思う	8	1.8%
何とかまかなえると思う	129	29.7%
多少足りないと思う	129	29.7%
かなり足りないと思う	153	35.2%
わからない	16	3.7%
合計	435	100.0%

表9-1-2 性別と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
男性	5	67	79	88	8	247
	2.0%	27.1%	32.0%	35.6%	3.2%	100.0%
女性	3	62	50	65	8	188
	1.6%	33.0%	26.6%	34.6%	4.3%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

$P=0.606>0.05$

高齢期の就業は実際にはいつまでも続けられない。将来どこかで仕事ができなくなるときが来る。そのときは公的年金が主要な収入源となる。そこで今回の調査では将来、仕事ができなくなって就業収入が得られなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかを尋ねた。

表9-1-1はその度数分布表である。「十分まかなえると思う」は2%と極めて少ない。「何とかまかなえると思う」が3割、「多少足りないと思う」も3割であり、「かなり足りないと思う」が35%を占めた。収入を伴う仕事をしている者については、3分の2近く（65%）は就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金だけではまかなえないと考えている。

表9-1-2は性別とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかの見通しは性別でほとんど差がなかった。

次頁の表9-1-3は年齢5区分とのクロス集計結果である。毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかは年齢5区分と強い相関関係がなかった。しかし、年齢区分が高くなるとまかなえると思う者が多くなっている。たとえば、「十分まかなえると思う」と「何とかまかなえると思う」の合計は70代後半で48%、80代前半で45%である。

表9-1-3 年齢5区分と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
60-64	1	38	35	55	4	133
	0.8%	28.6%	26.3%	41.4%	3.0%	100.0%
65-69	2	31	42	38	6	119
	1.7%	26.1%	35.3%	31.9%	5.0%	100.0%
70-74	2	27	31	43	3	106
	1.9%	25.5%	29.2%	40.6%	2.8%	100.0%
75-79	2	21	14	9	2	48
	4.2%	43.8%	29.2%	18.8%	4.2%	100.0%
80-84	1	12	7	8	1	29
	3.4%	41.4%	24.1%	27.6%	3.4%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.302>0.05

表9-1-4 世帯形態と就業収入がなくなった場合に就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
一人暮らし	0	12	11	18	0	41
	0.0%	29.3%	26.8%	43.9%	0.0%	100.0%
夫婦のみ	8	61	66	84	4	223
	3.6%	27.4%	29.6%	37.7%	1.8%	100.0%
その他の同居人あり	0	56	52	50	12	170
	0.0%	32.9%	30.6%	29.4%	7.1%	100.0%
合計	8	129	129	152	16	434
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.033<0.05

表9-1-4は世帯形態とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかの見通しは世帯形態によって相違がある。「一人暮らし」では「かなり足りないと思う」が44%とかなり多い。「多少足りないと思う」の27%を併せると「一人暮らし」では就業収入がなくなった場合に7割が公的年金だけでは足りないの見込んでいる。

表9-1-5 現在の健康状態と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
よい	5	22	22	16	2	67
	7.5%	32.8%	32.8%	23.9%	3.0%	100.0%
まあよい	2	45	30	41	4	122
	1.6%	36.9%	24.6%	33.6%	3.3%	100.0%
普通	1	47	60	65	9	182
	0.5%	25.8%	33.0%	35.7%	4.9%	100.0%
あまりよくない	0	13	16	27	1	57
	0.0%	22.8%	28.1%	47.4%	1.8%	100.0%
よくない	0	2	0	3	0	5
	0.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100.0%
合計	8	129	128	152	16	433
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.058>0.05

表9-1-6 居住する住宅と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
持ち家（住宅ローンなし）	8	119	106	122	10	365
	2.2%	32.6%	29.0%	33.4%	2.7%	100.0%
持ち家（ローン返済中）	0	6	14	19	5	44
	0.0%	13.6%	31.8%	43.2%	11.4%	100.0%
賃貸住宅	0	3	7	11	0	21
	0.0%	14.3%	33.3%	52.4%	0.0%	100.0%
公営住宅	0	0	1	1	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
その他	0	1	1	0	0	2
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.022<0.05

表9-1-5は健康状態とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかは健康状態とは強い相関関係はなかったが、健康状態が「あまりよくない」と「よくない」では「かなり足りないと思う」がかなり多い。

表9-1-6は居住する住宅とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかは居住する住宅と強い相関関係がある。「賃貸住宅」に住む者では「かな

り足りないと思う」が過半を超えている。また同じ持ち家であっても、住宅ローンを返済中の者では「かなり足りないと思う」がやや高い。

表9-1-7 現在の幸福度と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
10点	3	18	15	13	1	50
	6.0%	36.0%	30.0%	26.0%	2.0%	100.0%
9点	3	14	11	12	0	40
	7.5%	35.0%	27.5%	30.0%	0.0%	100.0%
8点	1	53	43	43	6	146
	0.7%	36.3%	29.5%	29.5%	4.1%	100.0%
7点	0	24	29	30	5	88
	0.0%	27.3%	33.0%	34.1%	5.7%	100.0%
6点	0	9	13	24	1	47
	0.0%	19.1%	27.7%	51.1%	2.1%	100.0%
5点	1	8	18	24	3	54
	1.9%	14.8%	33.3%	44.4%	5.6%	100.0%
4点	0	0	0	5	0	5
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
3点	0	2	0	1	0	3
	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
無回答	0	1	0	1	0	2
	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

$P=0.027<0.05$

表9-1-7は現在の幸福度とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかの見通しは現在の幸福度と強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者では「十分まかなえると思う」と「何とかまかなえると思う」が比較的多い。これに対して、幸福度の点数が低い者では「かなり足りないと思う」が比較的多い。

次頁の表9-1-8は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。仕事をしている者については、普段の生活や仕事に「あまり生きがいを感じていない」では「かなり足りないと思う」が比較的多い。

表9-1-9は職業とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかの見通しは職業によって大差はなかった。

表9-1-8 普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
十分に感じている	6	43	32	46	6	133
	4.5%	32.3%	24.1%	34.6%	4.5%	100.0%
多少は感じている	2	75	78	69	8	232
	0.9%	32.3%	33.6%	29.7%	3.4%	100.0%
あまり感じていない	0	10	12	32	1	55
	0.0%	18.2%	21.8%	58.2%	1.8%	100.0%
まったく感じていない	0	0	3	0	0	3
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
わからない	0	1	4	6	1	12
	0.0%	8.3%	33.3%	50.0%	8.3%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.003<0.01

表9-1-9 仕事内容と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
会社・団体の被雇用者	3	68	78	93	10	252
	1.2%	27.0%	31.0%	36.9%	4.0%	100.0%
会社・団体役員	0	9	12	7	2	30
	0.0%	30.0%	40.0%	23.3%	6.7%	100.0%
自営業主や自由業	4	30	20	31	3	88
	4.5%	34.1%	22.7%	35.2%	3.4%	100.0%
自営業の家族従業員	1	7	4	10	1	23
	4.3%	30.4%	17.4%	43.5%	4.3%	100.0%
シルバー人材センターの仕事	0	10	9	8	0	27
	0.0%	37.0%	33.3%	29.6%	0.0%	100.0%
内職	0	1	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
頼まれてその都度行う仕事	0	2	5	3	0	10
	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	100.0%
その他	0	2	1	1	0	4
	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.821>0.05

表9-1-10 仕事をしている最大の理由と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
生活費の主要部分をまかなう	0	13	34	74	7	128
	0.0%	10.2%	26.6%	57.8%	5.5%	100.0%
生活費の足しにする	1	24	31	35	2	93
	1.1%	25.8%	33.3%	37.6%	2.2%	100.0%
生活水準を引き上げる	0	3	8	3	0	14
	0.0%	21.4%	57.1%	21.4%	0.0%	100.0%
将来に備え貯蓄を増やす	1	17	16	7	1	42
	2.4%	40.5%	38.1%	16.7%	2.4%	100.0%
小遣いを稼ぐ	0	6	5	4	2	17
	0.0%	35.3%	29.4%	23.5%	11.8%	100.0%
健康によい	1	11	8	1	1	22
	4.5%	50.0%	36.4%	4.5%	4.5%	100.0%
生きがいを感じる	3	25	7	9	2	46
	6.5%	54.3%	15.2%	19.6%	4.3%	100.0%
社会とのつながりを得る	1	13	12	12	0	38
	2.6%	34.2%	31.6%	31.6%	0.0%	100.0%
人から頼まれている	0	3	3	2	0	8
	0.0%	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100.0%
時間に余裕がある	0	0	2	3	0	5
	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
何もしないと退屈	0	8	0	0	0	8
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他	1	6	3	3	1	14
	7.1%	42.9%	21.4%	21.4%	7.1%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表 9-1-10 は仕事をしている最大の理由とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかの見通しは仕事をしている最大の理由によって大きく異なる。「十分」と「何とか」を足して「まかなえると思う」は「生活費の主要部分をまかなう」では10%、「生活費の足しにする」で27%である。これに対して、「まかなえると思う」は「何もしないと退屈」で100%、「人から頼まれている」で75%、「小遣いを稼ぐ」で65%、「生きがいを感じる」で61%、「健康によい」で55%である。非経済的な理由で仕事をしている者では就業収入がなくなった場合でも公的年金で毎月の生活費をまかなえると考える者が多い。

表9-1-11 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
十分まかなえている	6	8	1	2	2	19
	31.6%	42.1%	5.3%	10.5%	10.5%	100.0%
何とかまかなえている	0	63	21	14	6	104
	0.0%	60.6%	20.2%	13.5%	5.8%	100.0%
多少足りない	0	26	59	26	1	112
	0.0%	23.2%	52.7%	23.2%	0.9%	100.0%
かなり足りない	2	8	22	83	2	117
	1.7%	6.8%	18.8%	70.9%	1.7%	100.0%
合計	8	105	103	125	11	352
	2.3%	29.8%	29.3%	35.5%	3.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表9-1-12 現在の経済的な暮らし向きと就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている	6	24	11	22	3	66
	9.1%	36.4%	16.7%	33.3%	4.5%	100.0%
家計にあまりゆとりはないが心配なく暮らしている	2	98	69	49	6	224
	0.9%	43.8%	30.8%	21.9%	2.7%	100.0%
家計にゆとりがなく、多少心配	0	7	48	61	4	120
	0.0%	5.8%	40.0%	50.8%	3.3%	100.0%
家計が苦しく非常に心配	0	0	1	21	2	24
	0.0%	0.0%	4.2%	87.5%	8.3%	100.0%
その他	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表 9-1-11 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者では就業収入がなくなっても毎月の生活費を公的年金でまかなえると見込む者が多い。これは当然の結果である。

表 9-1-12 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。家計に心配なく暮らしている者では就業収入がなくなっても公的年金で生活費をまかなえると見込む者が比較的多い。これに対して、家計に心配がある者では公的年金では生活費が不足すると見込む者が9割を超える。特に「家計が苦しく非常に心配」では公的年金では生活費がかなり足りないと思込む者が88%を占める。

表9-1-13 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかのクロス表

	十分まかなえると思う	何とかまかなえる	多少足りない	かなり足りない	わからない	合計
十分だと思う	5	21	7	13	1	47
	10.6%	44.7%	14.9%	27.7%	2.1%	100.0%
少し足りないと思う	2	56	48	31	4	141
	1.4%	39.7%	34.0%	22.0%	2.8%	100.0%
かなり足りないと思う	0	23	51	85	6	165
	0.0%	13.9%	30.9%	51.5%	3.6%	100.0%
わからない	1	24	11	10	2	48
	2.1%	50.0%	22.9%	20.8%	4.2%	100.0%
貯蓄はしていない	0	5	12	14	3	34
	0.0%	14.7%	35.3%	41.2%	8.8%	100.0%
合計	8	129	129	153	16	435
	1.8%	29.7%	29.7%	35.2%	3.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表 9-1-13 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえるかは現在の貯蓄額の自己評価によって大きく異なる。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合に十分だと思う者では、就業収入がなくなっても公的年金で毎月の生活費をまかなえると見込む者が 55%と過半を超える。これに対して、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合に不足すると思う者では就業収入がなくなると毎月の生活費は公的年金では不足すると見込む者が多い。特に「かなり足りないと思う」では毎月の生活費が公的年金では不足すると見込む者が 82%を占める。

9-2 公的年金で不足する生活費の部分を補う主要な方法や財源

表9-2-1 公的年金で不足する生活費の部分を補う主要な方法や財源（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
生活費の節約	208	42.9%	75.4%
預貯金・証券など金融資産の取り崩し	176	36.3%	63.8%
子からの援助	19	3.9%	6.9%
家賃・地代などの不動産収入	22	4.5%	8.0%
企業年金・個人年金	50	10.3%	18.1%
生活扶助費	6	1.2%	2.2%
その他	4	0.8%	1.4%
合計	485	100.0%	175.7%

次に前問で「多少足りないと思う」、「かなり足りないと思う」と答えた者を対象として、公的年金で

は不足する部分を補う主要な方法や財源はなにになりそうかを複数回答可で尋ねた。表 9-2-1 はその度数分布表である。回答者の選択率が最も高かったのは「生活費の節約」(75%)であり、次いで「預貯金・証券など金融資産の取り崩し」(64%)だった。

表9-2-2 性別と生活費の不足を補う主要な方法や財源（複数回答）のクロス表

	生活費の節約	金融資産取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業・個人年金	生活扶助費	その他	合計
男性	122	103	10	14	31	5	2	166
	73.5%	62.0%	6.0%	8.4%	18.7%	3.0%	1.2%	
女性	86	73	9	8	19	1	2	110
	78.2%	66.4%	8.2%	7.3%	17.3%	0.9%	1.8%	
合計	208	176	19	22	50	6	4	276

表9-2-3 年齢5区分と生活費の不足を補う主要な方法や財源（複数回答）のクロス表

	生活費の節約	金融資産取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業・個人年金	生活扶助費	その他	合計
60-64	69	65	4	5	20	1	2	85
	81.2%	76.5%	4.7%	5.9%	23.5%	1.2%	2.4%	
65-69	58	52	5	9	22	1	1	80
	72.5%	65.0%	6.3%	11.3%	27.5%	1.3%	1.3%	
70-74	55	38	6	6	6	3	1	74
	74.3%	51.4%	8.1%	8.1%	8.1%	4.1%	1.4%	
75-79	16	17	2	0	1	1	0	23
	69.6%	73.9%	8.7%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%	
80-84	10	4	2	2	1	0	0	14
	71.4%	28.6%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	
合計	208	176	19	22	50	6	4	276

表 9-2-2 は性別とのクロス集計結果である。就業収入がなくなり毎月の生活費を公的年金でまかなえなくなった場合に不足する部分を補う方法や財源は性別で目立った差はなかった。

表 9-2-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。就業収入がなくなり毎月の生活費を公的年金でまかなえなくなった場合に不足する部分を補う方法や財源は 70 代までは「生活費の節約」と「金融資産の取り崩し」が二本柱であるが、80 代になると「金融資産の取り崩し」はかなり少なくなる。

次頁の表 9-2-4 は世帯形態とのクロス集計結果である。就業収入がなくなり毎月の生活費を公的年金でまかなえなくなった場合に不足する部分を補う方法や財源は「一人暮らし」では「金融資産の取り崩し」がやや少ない。その代わりに「子からの援助」がやや多い。

表9-2-4 世帯形態と生活費の不足を補う主要な方法や財源（複数回答）のクロス表

	生活費の 節約	金融資産 取り崩し	子からの 援助	不動産収 入	企業・個 人年金	生活扶助 費	その他	合計
一人暮らし	18	12	3	2	5	1	0	28
	64.3%	42.9%	10.7%	7.1%	17.9%	3.6%	0.0%	
夫婦のみ	109	102	7	13	27	1	2	149
	73.2%	68.5%	4.7%	8.7%	18.1%	0.7%	1.3%	
その他同居 人あり	80	61	9	7	18	4	2	98
	81.6%	62.2%	9.2%	7.1%	18.4%	4.1%	2.0%	
合計	207	175	19	22	50	6	4	275

表9-2-5 現在の健康状態と生活費の不足を補う主要な方法（複数回答）のクロス表

	生活費の 節約	金融資産 取り崩し	子からの 援助	不動産収 入	企業・個 人年金	生活扶助 費	その他	合計
よい	24	27	2	5	7	0	0	37
	64.9%	73.0%	5.4%	13.5%	18.9%	0.0%	0.0%	
まあよい	51	44	5	6	10	2	1	69
	73.9%	63.8%	7.2%	8.7%	14.5%	2.9%	1.4%	
普通	95	81	11	7	26	4	2	123
	77.2%	65.9%	8.9%	5.7%	21.1%	3.3%	1.6%	
あまりよ くない	35	21	0	3	6	0	0	42
	83.3%	50.0%	0.0%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	
よくない	2	2	1	1	0	0	0	3
	66.7%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計	207	175	19	22	49	6	3	274

表9-2-5は健康状態とのクロス集計結果である。就業収入がなくなり毎月の生活費を公的年金でまかなえなくなった場合に不足する部分を補う方法や財源は、健康状態が「よい」者では「生活費の節約」よりも「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。

次頁の表9-2-6はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。就業収入がなくなり毎月の生活費を公的年金でまかなえなくなった場合に不足する部分を補う方法や財源は、これまでの人生に「かなり満足している」者では「生活費の節約」よりも「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。

表9-2-6 これまでの人生の満足度と不足を補う主要な方法（複数回答）のクロス表

	生活費の 節約	金融資産 取り崩し	子からの 援助	不動産収 入	企業・個 人年金	生活扶助 費	その他	合計
かなり満足	20	25	1	4	9	0	0	31
	64.5%	80.6%	3.2%	12.9%	29.0%	0.0%	0.0%	
まあまあ満 足	132	109	7	15	33	3	3	169
	78.1%	64.5%	4.1%	8.9%	19.5%	1.8%	1.8%	
やや不満	37	34	7	3	3	1	0	51
	72.5%	66.7%	13.7%	5.9%	5.9%	2.0%	0.0%	
大いに不満	4	2	2	0	2	0	0	5
	80.0%	40.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	
どちらとも いえない	14	6	2	0	3	2	1	19
	73.7%	31.6%	10.5%	0.0%	15.8%	10.5%	5.3%	
合計	207	176	19	22	50	6	4	275

表9-2-7 現在の経済的な暮らし向きと不足を補う主要な方法（複数回答）のクロス表

	生活費の 節約	金融資産 取り崩し	子からの 援助	不動産 収入	企業・個 人年金	生活扶助 費	その他	合計
家計にゆとりがあ り、まったく心配 なく暮らしている	13	28	1	10	9	0	1	33
	39.4%	84.8%	3.0%	30.3%	27.3%	0.0%	3.0%	
家計にあまりゆと りはないが、それ ほど心配なく暮ら している	84	86	8	10	26	2	1	113
	74.3%	76.1%	7.1%	8.8%	23.0%	1.8%	0.9%	
家計にゆとりがな く、多少心配	93	56	8	2	10	2	2	108
	86.1%	51.9%	7.4%	1.9%	9.3%	1.9%	1.9%	
家計が苦しく、非 常に心配である	18	6	2	0	5	2	0	22
	81.8%	27.3%	9.1%	0.0%	22.7%	9.1%	0.0%	
合計	208	176	19	22	50	6	4	276

表 9-2-7 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。「家計にゆとりがありまったく心配なく暮らしている」者では「生活費の節約」を挙げる者が39%と相対的にかなり少ない。また家計に心配のない者では「生活費の節約」よりも「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。これに対して、家計に心配のある者では「生活費の節約」を挙げる者が多く、「金融資産の取り崩し」を挙げる者は相対的に少ない。特に「家計が苦しく非常に心配」な者では「金融資産の取り崩し」は27%にとどまる。

表9-2-8 現在の貯蓄額は今後の生活の備えとしてどう思うかと不足を補う主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産 取り崩し	子からの 援助	不動産収 入	企業・個 人年金	生活扶助 費	その他	合計
十分だと思う	10	17	1	5	6	0	1	20
	50.0%	85.0%	5.0%	25.0%	30.0%	0.0%	5.0%	
少し足りない	56	62	2	10	14	0	0	77
	72.7%	80.5%	2.6%	13.0%	18.2%	0.0%	0.0%	
かなり足りない	115	83	8	3	21	3	3	135
	85.2%	61.5%	5.9%	2.2%	15.6%	2.2%	2.2%	
わからない	10	13	4	2	5	0	0	19
	52.6%	68.4%	21.1%	10.5%	26.3%	0.0%	0.0%	
貯蓄はしてい ない	17	1	4	2	4	3	0	25
	68.0%	4.0%	16.0%	8.0%	16.0%	12.0%	0.0%	
合計	208	176	19	22	50	6	4	276

表 9-2-8 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者では不足を補う方法として「生活費の節約」を挙げる者は相対的に少なく、「金融資産の取り崩し」を挙げる者が非常に多い。また「十分だと思う」者では「不動産収入」や「個人年金・企業年金」を挙げる者も比較的多い。

9-3 公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法

表9-3-1 公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法

	回答数	割合
生活費の節約	113	40.1%
預貯金・証券など金融資産の取り崩し	118	41.8%
子からの援助	10	3.5%
家賃・地代などの不動産収入	14	5.0%
企業年金・個人年金	16	5.7%
生活扶助費	4	1.4%
その他	1	0.4%
無回答	6	2.1%
合計	914	100.0%

次に公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は何になりそうかを尋ねた。表 9-3-1 はその度数分布表である。最も多かった回答は「預貯金・証券など金融資産の取り崩し」であり、二番目に「生

活費の節約」だった。複数回答可で尋ねたときと比べて1位と2位の順序が入れ替わった。

表9-3-2 性別と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
男性	73	66	5	10	8	3	1	1	167
	43.7%	39.5%	3.0%	6.0%	4.8%	1.8%	0.6%	0.6%	100%
女性	40	52	5	4	8	1	0	5	115
	34.8%	45.2%	4.3%	3.5%	7.0%	0.9%	0.0%	4.3%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.234>0.05

表9-3-3 年齢5区分と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
60-64	28	47	2	4	4	0	0	5	90
	31.1%	52.2%	2.2%	4.4%	4.4%	0.0%	0.0%	5.6%	100%
65-69	36	30	3	4	5	1	1	0	80
	45.0%	37.5%	3.8%	5.0%	6.3%	1.3%	1.3%	0.0%	100%
70-74	30	28	3	5	5	3	0	0	74
	40.5%	37.8%	4.1%	6.8%	6.8%	4.1%	0.0%	0.0%	100%
75-79	10	11	1	0	1	0	0	0	23
	43.5%	47.8%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
80-84	9	2	1	1	1	0	0	1	15
	60.0%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.302>0.05

表9-3-2は性別とのクロス集計結果である。検定の結果では公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は性別と強い相関関係は見出せなかった。しかし、男性では「生活費の節約」がやや多く、女性では「金融資産の取り崩し」がやや多い。

表9-3-3は年齢5区分とのクロス集計結果である。公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は60代前半では「生活費の節約」は相対的に少なく「金融資産の取り崩し」が相対的に多い。これに対して80代前半では「金融資産の取り崩し」は少なく、「生活費の節約」が多い。検定の結果では公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は年齢5区分と強い相関関係はなかった。

表9-3-4 配偶者の有無と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
有配偶	99	102	6	10	16	2	1	2	238
	41.6%	42.9%	2.5%	4.2%	6.7%	0.8%	0.4%	0.8%	100%
無配偶	14	16	4	4	0	2	0	4	44
	31.8%	36.4%	9.1%	9.1%	0.0%	4.5%	0.0%	9.1%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.000<0.01

表9-3-5 子の有無と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
あり	110	109	10	10	16	2	1	6	264
	41.7%	41.3%	3.8%	3.8%	6.1%	0.8%	0.4%	2.3%	100%
なし	3	9	0	4	0	2	0	0	18
	16.7%	50.0%	0.0%	22.2%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.000<0.01

表9-3-6 世帯形態と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
一人暮らし	11	10	3	2	1	1	0	1	29
	37.9%	34.5%	10.3%	6.9%	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%	100%
夫婦のみ	58	71	3	6	9	1	1	1	150
	38.7%	47.3%	2.0%	4.0%	6.0%	0.7%	0.7%	0.7%	100%
その他の同居人あり	43	37	4	6	6	2	0	4	102
	42.2%	36.3%	3.9%	5.9%	5.9%	2.0%	0.0%	3.9%	100%
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.795>0.05

表9-3-4は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者では公的年金で不足する生活費を補う方法として「生活費の節約」と「金融資産の取り崩し」を挙げる者は配偶者がいる者に比べて

やや少ない。これらに代わり、配偶者がいない者では「子からの援助」を挙げる者が比較的多い。

表 9-3-5 は子の有無とのクロス集計結果である。子がない者では「生活費の節約」を挙げる者は少なく、「金融資産の取り崩し」を挙げる者が比較的多い。

表 9-3-6 は世帯形態とのクロス集計結果である。「一人暮らし」では生活費を補う最も主要な方法として「生活費の節約」と「金融資産の取り崩し」を挙げる者は共にやや少ない。「夫婦のみ」では「金融資産の取り崩し」を挙げる者が比較的多い。また「一人暮らし」では「子からの援助」が比較的多い。

表9-3-7 現在の健康状態と公的年金で不足する生活費を補う主要な方法のクロス表

	生活費 の節約	金融資産 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
よい	12	18	1	4	2	0	0	1	38
	31.6%	47.4%	2.6%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	2.6%	100%
まあよい	25	31	4	4	2	2	1	2	71
	35.2%	43.7%	5.6%	5.6%	2.8%	2.8%	1.4%	2.8%	100%
普通	55	52	4	4	6	2	0	2	125
	44.0%	41.6%	3.2%	3.2%	4.8%	1.6%	0.0%	1.6%	100%
あまりよく ない	20	16	0	1	5	0	0	1	43
	46.5%	37.2%	0.0%	2.3%	11.6%	0.0%	0.0%	2.3%	100%
よくない	1	0	1	1	0	0	0	0	3
	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
無回答	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

$P=0.249>0.05$

表 9-3-7 は健康状態とのクロス集計結果である。健康状態がよい者では、「生活費の節約」よりも「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。特に健康状態が「よい」者では「金融資産の取り崩し」は比較的多い。これに対して、健康状態がよくない者では「金融資産の取り崩し」よりも「生活費の節約」を挙げる者が多い。もっとも、検定の結果では公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は健康状態と強い相関関係はなかった。

次頁の 9-3-8 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。不足する生活費を補う最も主要な方法は生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。普段の生活や仕事に生きがいを十分に感じている者では「生活費の節約」は少なく、「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。これに対して、生きがいを感じていない者では「金融資産の取り崩し」よりも「生活費の節約」が多い。

表 9-3-9 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。不足する生活費を補う最も主要な方法は幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い（7 点以上）の者では「生活費の節約」よりも「金融資産の取り崩し」を挙げる者が多い。これに対して、幸福度の点数がやや低いと（6 点と 5 点）、「金融資産の取り崩し」よりも「生活費の節約」が多い。

表9-3-8 生きがいを感じる程度と不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費 の節約	金融資産 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
十分に感じ ている	22	37	3	8	7	0	0	1	78
	28.2%	47.4%	3.8%	10.3%	9.0%	0.0%	0.0%	1.3%	100%
多少は感じ ている	63	63	4	4	8	1	0	4	147
	42.9%	42.9%	2.7%	2.7%	5.4%	0.7%	0.0%	2.7%	100%
あまり感じ ていない	18	17	3	1	0	3	1	1	44
	40.9%	38.6%	6.8%	2.3%	0.0%	6.8%	2.3%	2.3%	100%
まったく感 じていない	2	0	0	1	0	0	0	0	3
	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
わからない	8	1	0	0	1	0	0	0	10
	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.012<0.05

表9-3-9 現在の幸福度と不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費 の節約	金融資産 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
10点	9	12	2	1	4	0	0	0	28
	32.1%	42.9%	7.1%	3.6%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
9点	8	11	2	0	1	0	0	1	23
	34.8%	47.8%	8.7%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%	100%
8点	30	39	1	8	5	1	0	2	86
	34.9%	45.3%	1.2%	9.3%	5.8%	1.2%	0.0%	2.3%	100%
7点	24	27	0	5	1	0	1	1	59
	40.7%	45.8%	0.0%	8.5%	1.7%	0.0%	1.7%	1.7%	100%
6点	21	12	0	0	2	2	0	0	37
	56.8%	32.4%	0.0%	0.0%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	100%
5点	20	13	5	0	2	0	0	2	42
	47.6%	31.0%	11.9%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	4.8%	100%
4点	1	4	0	0	0	0	0	0	5
	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
3点	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.000<0.01

表9-3-10 現在の経済的暮らし向きと不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活扶助費	その他	無回答	合計
ゆとりあり全く心配ない	1 3.0%	20 60.6%	0 0.0%	8 24.2%	4 12.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	33 100%
ゆとりはないが心配ない	38 32.2%	60 50.8%	3 2.5%	5 4.2%	6 5.1%	1 0.8%	0 0.0%	5 4.2%	118 100%
家計にゆとりなく多少心配	63 57.8%	35 32.1%	5 4.6%	1 0.9%	2 1.8%	1 0.9%	1 0.9%	1 0.9%	109 100%
家計が苦しく非常に心配	11 50.0%	3 13.6%	2 9.1%	0 0.0%	4 18.2%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	22 100%
合計	113 40.1%	118 41.8%	10 3.5%	14 5.0%	16 5.7%	4 1.4%	1 0.4%	6 2.1%	282 100%

P=0.000<0.01

表9-3-11 今後の生活の備えとしての現在の貯蓄額をどう思うかと公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活扶助費	その他	無回答	合計
十分だと思う	0 0.0%	15 75.0%	0 0.0%	4 20.0%	1 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	20 100%
少し足りないと思う	23 29.1%	44 55.7%	1 1.3%	6 7.6%	3 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.5%	79 100%
かなり足りないと思う	70 51.5%	49 36.0%	6 4.4%	1 0.7%	7 5.1%	1 0.7%	1 0.7%	1 0.7%	136 100%
わからない	6 28.6%	9 42.9%	0 0.0%	1 4.8%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	21 100%
貯蓄はしていない	14 53.8%	1 3.8%	3 11.5%	2 7.7%	2 7.7%	3 11.5%	0 0.0%	1 3.8%	26 100%
合計	113 40.1%	118 41.8%	10 3.5%	14 5.0%	16 5.7%	4 1.4%	1 0.4%	6 2.1%	282 100%

P=0.000<0.01

表 9-3-10 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。就業収入がなくなった場合に公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配がない者では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」よりも多い。また「ゆとりがありまったく心配ない」者では「不動産収入」も比較的多い。これに対して、家計に心配がある者では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりもずっと多い。

表 9-3-11 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。不足する生活費を補う最も主要な方法は現在の貯蓄額の自己評価と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして十分だと思ふ者では「金融資産の取り崩し」が非常に多く、また「不動産収入」も比較的多い。これに対して、「かなり足りないと思う」者では「金融資産の取り崩し」よりも「生活費の節約」がずっと多い。

表9-3-12 仕事内容と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費 の節約	金融資産 取り崩し	子から の援助	不動産 収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
会社、団体 の被雇用者	74	69	7	4	10	3	0	4	171
	43.3%	40.4%	4.1%	2.3%	5.8%	1.8%	0.0%	2.3%	100%
会社、団体 の役員	6	11	0	1	1	0	0	0	19
	31.6%	57.9%	0.0%	5.3%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
自営業主や 自由業	11	26	1	5	5	0	1	2	51
	21.6%	51.0%	2.0%	9.8%	9.8%	0.0%	2.0%	3.9%	100%
自営業の家 族従業者	4	6	1	3	0	0	0	0	14
	28.6%	42.9%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
シルバー人 材センター	12	3	1	0	0	1	0	0	17
	70.6%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	100%
頼まれて行 う仕事	6	2	0	0	0	0	0	0	8
	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
その他	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.067>0.05

表 9-3-12 は仕事内容とのクロス集計結果である。最も数が多い「会社、団体の被雇用者」では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりも若干多いが、「会社、団体の役員」では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」よりもずっと多い。「自営業主や自由業」と「自営業の家族従業者」でも「金融資産の取り崩し」は「生活費の節約」よりもずっと多い。これに対して、「シルバーセンターの仕事」と「頼まれてその都度行う仕事」では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりもずっと多い。ただし、検定の結果では不足する生活費を補う最も主要な方法は仕事内容と強い相関関係はなかった。

表9-3-13 仕事をしている最大の理由と生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活扶助費	その他	無回答	合計
生活費主要部分をまかなう	41 38.0%	51 47.2%	4 3.7%	1 0.9%	5 4.6%	4 3.7%	0 0.0%	2 1.9%	108 100%
生活費の足しにする	37 56.1%	19 28.8%	6 9.1%	2 3.0%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	66 100%
生活水準を引き上げる	6 54.5%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	11 100%
将来に備え貯蓄を増やす	8 34.8%	11 47.8%	0 0.0%	2 8.7%	2 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	23 100%
小遣いを稼ぐ	3 33.3%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	9 100%
健康によい	6 66.7%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 100%
生きがいを感じる	3 18.8%	10 62.5%	0 0.0%	1 6.3%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	16 100%
社会とのつながりを得る	6 25.0%	9 37.5%	0 0.0%	6 25.0%	2 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	24 100%
人から頼まれている	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100%
時間に余裕がある	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100%
その他	0 0.0%	5 83.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	6 100%
合計	113 40.1%	118 41.8%	10 3.5%	14 5.0%	16 5.7%	4 1.4%	1 0.4%	6 2.1%	282 100%

P=0.001<0.01

表 9-3-13 は仕事をしている最大の理由とのクロス集計結果である。生活費を補う最も主要な方法は仕事をしている最大の理由と非常に強い相関関係がある。「生活費の主要部分をまかなう」ことを最大の理由とする者では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」よりも多い。「生活費の足しにする」を最大の理由とする者では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりもずっと多い。また「健康によい」を最大の理由とする者では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりもずっと多い。一方で「生きがいを感じる」を最大の理由とする者では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」よりもずっと多い。「社会とのつながりを得る」を最大の理由とする者では「金融資産の取り崩し」が相対的に多いが、「不動産収入」も比較的多く、「生活費の節約」と同率である。

表9-3-14 1ヶ月の就業収入と公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法のクロス表

	生活費の節約	金融資産の取り崩し	子からの援助	不動産収入	企業年金 個人年金	生活 扶助費	その他	無回答	合計
5万円未満	21	14	1	6	2	0	0	1	45
	46.7%	31.1%	2.2%	13.3%	4.4%	0.0%	0.0%	2.2%	100%
5万円~10万円	31	24	3	3	5	0	1	2	69
	44.9%	34.8%	4.3%	4.3%	7.2%	0.0%	1.4%	2.9%	100%
10万円~15万円	25	22	3	0	2	3	0	0	55
	45.5%	40.0%	5.5%	0.0%	3.6%	5.5%	0.0%	0.0%	100%
15万円~20万円	11	12	0	0	1	0	0	1	25
	44.0%	48.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	100%
20万円~25万円	14	15	2	1	1	1	0	0	34
	41.2%	44.1%	5.9%	2.9%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	100%
25万円~30万円	4	8	0	0	2	0	0	0	14
	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
30万円~35万円	1	5	1	0	0	0	0	2	9
	11.1%	55.6%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	100%
35万円~40万円	4	6	0	0	2	0	0	0	12
	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
40万円以上	2	12	0	4	1	0	0	0	19
	10.5%	63.2%	0.0%	21.1%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	113	118	10	14	16	4	1	6	282
	40.1%	41.8%	3.5%	5.0%	5.7%	1.4%	0.4%	2.1%	100%

P=0.016<0.05

表 9-3-14 は 1 ヶ月の就業収入とのクロス集計結果である。公的年金で不足する生活費を補う最も主要な方法は就業収入と強い相関関係がある。1 ヶ月の就業収入が 15 万円未満の者では「生活費の節約」が「金融資産の取り崩し」よりも多い。1 ヶ月の就業収入が 15 万円以上の者では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」よりも多い。特に 1 ヶ月の就業収入が 25 万円以上の者では「金融資産の取り崩し」が「生活費の節約」を大きく上回っている。また 1 ヶ月の就業収入が 40 万円以上の者では「不動産収入」を挙げる者が比較的多い。

第10章 収入を伴う仕事をしていない理由

10-1 収入を伴う仕事をしていない理由（複数回答）

表10-1-1 収入を伴う仕事をしていない理由（複数回答）

	回答数	回答者の選択率
希望の条件にあう仕事がない	50	10.4%
年齢制限で仕事がない	136	28.4%
体力的に働くのはきつい	220	45.9%
健康状態がよくない	146	30.5%
収入を増やしたいと思わない	57	11.9%
仕事以外の活動に時間を使いたい	86	18.0%
家庭内での（介護以外の）仕事がある	60	12.5%
要介護の家族がいる	37	7.7%
特に理由はない	59	12.3%
その他	37	7.7%
	888	

回答者の選択率は収入を伴う仕事をしていない人（479）を母数とする回答数の割合

表10-1-2 性別と仕事をしていない理由（複数回答）のクロス表

	希望の条件 にあう仕事 がない	年齢制限で 仕事がない	体力的に仕 事はきつい	健康状態が よくない	収入を増や したいと思 わない	仕事以外の 活動に時間 を使いたい
男性	29	60	87	58	27	43
	14.4%	29.7%	43.1%	28.7%	13.4%	21.3%
女性	21	76	133	88	30	43
	7.6%	27.4%	48.0%	31.8%	10.8%	15.5%
合計	50	136	220	146	57	86

	家庭内での 仕事がある	要介護の家 族がいる	特に理由は ない	その他	合計
男性	17	13	23	19	202
	8.4%	6.4%	11.4%	9.4%	
女性	43	24	36	18	277
	15.5%	8.7%	13.0%	6.5%	
合計	60	37	59	37	479

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

表10-1-1は収入を伴う仕事をしていない理由（複数回答）の度数分布表である。最も選択率が高かった理由は「体力的に働くのはきつい」（46%）であり、次いで「健康状態がよくない」（31%）、「年齢制限で仕事がない」（28%）だった。

前頁の表 10-1-2 は性別とのクロス集計結果である。仕事をしていない理由は性別で大きな差はないが「希望の条件に合う仕事がない」は男性に多く、「家庭内での仕事がある」は女性に多い。

表10-1-3 年齢5区分と仕事をしていない理由（複数回答）のクロス表

	希望の条件 にあう仕事 がない	年齢制限で 仕事がない	体力的に仕 事はきつい	健康状態が よくない	収入を増や したいと思 わない	仕事以外の 活動に時間 を使いたい
60-64	8	3	14	15	1	8
	17.8%	6.7%	31.1%	33.3%	2.2%	17.8%
65-69	16	20	28	12	12	25
	17.4%	21.7%	30.4%	13.0%	13.0%	27.2%
70-74	14	39	61	51	18	25
	10.1%	28.3%	44.2%	37.0%	13.0%	18.1%
75-79	11	48	63	38	15	17
	9.2%	40.0%	52.5%	31.7%	12.5%	14.2%
80-84	1	26	54	30	11	11
	1.2%	31.0%	64.3%	35.7%	13.1%	13.1%
合計	50	136	220	146	57	86

	家庭内での 仕事がある	要介護の家 族がいる	特に理由は ない	その他	合計
60-64	6	9	8	8	45
	13.3%	20.0%	17.8%	17.8%	
65-69	17	11	9	11	92
	18.5%	12.0%	9.8%	12.0%	
70-74	11	9	22	9	138
	8.0%	6.5%	15.9%	6.5%	
75-79	17	3	14	7	120
	14.2%	2.5%	11.7%	5.8%	
80-84	9	5	6	2	84
	10.7%	6.0%	7.1%	2.4%	
合計	60	37	59	37	479

表 10-1-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。年齢区分が高くなると「希望の条件に合う仕事がない」は少なくなる。一方で「年齢制限で仕事がない」と「体力的に仕事はきつい」は年齢区分が高くなると多くなる。「健康状態がよくない」は年齢区分とは関係なく一定の割合を占めている。「要介護の家族がいる」は 60 代前半では 2 割を占めるが、70 代では少ない。60 代後半では「仕事以外の活動に時間を使いたい」が比較的多い。

表10-1-4 現在の健康状態と仕事をしていない理由（複数回答）のクロス表

	希望の条件 にあう仕事 がない	年齢制限で 仕事がない	体力的に仕 事はきつい	健康状態が よくない	収入を増や したいと思 わない	仕事以外の 活動に時間 を使いたい
よい	3	8	9	0	10	16
	7.5%	20.0%	22.5%	0.0%	25.0%	40.0%
まあよい	16	33	49	16	24	36
	13.2%	27.3%	40.5%	13.2%	19.8%	29.8%
普通	27	59	96	46	16	29
	13.4%	29.2%	47.5%	22.8%	7.9%	14.4%
あまりよく ない	4	31	56	71	6	5
	4.0%	31.3%	56.6%	71.7%	6.1%	5.1%
よくない	0	5	10	13	1	0
	0.0%	29.4%	58.8%	76.5%	5.9%	0.0%
合計	50	136	220	146	57	86

	家庭内での 仕事がある	要介護の家 族がいる	特に理由は ない	その他	合計
よい	8	3	6	2	40
	20.0%	7.5%	15.0%	5.0%	
まあよい	15	9	13	10	121
	12.4%	7.4%	10.7%	8.3%	
普通	27	19	31	17	202
	13.4%	9.4%	15.3%	8.4%	
あまりよく ない	9	6	9	8	99
	9.1%	6.1%	9.1%	8.1%	
よくない	1	0	0	0	17
	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計	60	37	59	37	479

表 10-1-4 は健康状態とのクロス集計結果である。仕事をしていない理由は健康状態によって大きく異なる。健康状態が「よい」では「仕事以外の活動に時間を使いたい」が4割を占め、「体力的に仕事はきつい」（23%）を大きく上回っている。「収入を増やしたいと思わない」も25%と比較的多い。健康状態が「よい」者では他にやりたいことがあり、積極的な理由で仕事をしていない者が多いとみられる。これと対照的に、健康状態がよくない者では「健康状態がよくない」と「体力的に仕事はきつい」を挙げる者が非常に多い。「健康状態がよくない」は健康状態が「あまりよくない」で72%、「よくない」では77%、「体力的に仕事はきつい」は「あまりよくない」で57%。「よくない」で59%である。健康状態が「まあよい」と「普通」では「健康状態がよくない」は比較的少なく、「体力的に仕事はきつい」が多い。「体力的に仕事はきつい」は「まあよい」で41%、「普通」で48%である。

表10-1-5 今後の就労希望と仕事をしていない理由（複数回答）のクロス表

	希望の条件にあう仕事がない	年齢制限で仕事がない	体力的に仕事はきつい	健康状態がよくない	収入を増やしたいと思わない	仕事以外の活動に時間を使いたい
仕事をしたいと思う	25 28.1%	42 47.2%	20 22.5%	23 25.8%	2 2.2%	17 19.1%
仕事をしたいと思わない	8 3.0%	58 22.1%	131 49.8%	76 28.9%	48 18.3%	53 20.2%
わからない	17 13.4%	36 28.3%	69 54.3%	47 37.0%	7 5.5%	16 12.6%
合計	50	136	220	146	57	86

	家庭内での仕事がある	要介護の家族がいる	特に理由はない	その他	合計
仕事をしたいと思う	8 9.0%	11 12.4%	6 6.7%	13 14.6%	89
仕事をしたいと思わない	36 13.7%	15 5.7%	36 13.7%	13 4.9%	263
わからない	16 12.6%	11 8.7%	17 13.4%	11 8.7%	127
合計	60	37	59	37	479

表 10-1-5 は今後の就労希望とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしていない理由は今後の就労希望によって明瞭な違いがみられる。今後に機会があれば「仕事をしたいと思う」では「年齢制限で仕事がない」(47%)と「希望の条件に合う仕事がない」(28%)が比較的多く、「健康状態がよくない」(26%)や「体力的に仕事はきつい」(23%)は比較的小さい。これは、仕事をすることは可能だが適当な仕事が見つからない状況にある者が比較的多いことを意味する。

これに対して、「仕事をしたいと思わない」では「体力的に仕事はきつい」が50%で、「健康状態がよくない」29%、「年齢制限で仕事がない」が22%、「仕事以外の活動に時間を使いたい」が20%、「収入を増やしたいと思わない」が18.3%である。仕事をしたいと思わない者の中には体力と健康の問題で仕事ができない者と体力と健康は問題がないが仕事をしたいと思わない者の二つが含まれている。「わからない」では「体力的に仕事はきつい」と「健康状態がよくない」が多く、体力と健康の問題で就労をためらう者が多いとみられる。

10-2 仕事をしていない最大の理由

表10-2-1 性別と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間を使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
男性	13	22	41	40	14	29	4	8	22	9	202
	6.4%	10.9%	20.3%	19.8%	6.9%	14.4%	2.0%	4.0%	10.9%	4.5%	100%
女性	6	31	70	55	7	30	22	17	29	10	277
	2.2%	11.2%	25.3%	19.9%	2.5%	10.8%	7.9%	6.1%	10.5%	3.6%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.009<0.01

表10-2-2 年齢5区分と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間を使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
60-64	3	1	6	8	0	7	2	6	7	5	45
	6.7%	2.2%	13.3%	17.8%	0.0%	15.6%	4.4%	13.3%	15.6%	11.1%	100%
65-69	7	9	10	12	4	19	9	8	7	7	92
	7.6%	9.8%	10.9%	13.0%	4.3%	20.7%	9.8%	8.7%	7.6%	7.6%	100%
70-74	4	14	31	35	4	15	4	6	20	5	138
	2.9%	10.1%	22.5%	25.4%	2.9%	10.9%	2.9%	4.3%	14.5%	3.6%	100%
75-79	4	17	32	22	8	13	9	2	11	2	120
	3.3%	14.2%	26.7%	18.3%	6.7%	10.8%	7.5%	1.7%	9.2%	1.7%	100%
80-84	1	12	32	18	5	5	2	3	6	0	84
	1.2%	14.3%	38.1%	21.4%	6.0%	6.0%	2.4%	3.6%	7.1%	0.0%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.000<0.01

では収入を伴う仕事をしていない最大の理由は何か。これを尋ねた結果、最も多かった理由は「体力的に仕事はきつい」(23%)で、次いで「健康状態がよくない」(20%)、「仕事以外の活動に時間を使いたい」(12%)、「年齢制限で仕事がない」(11%)だった。

表10-2-1は性別とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は性別では大差はないが、男性では「仕事以外に時間を使いたい」がやや多く、女性では「体力的に仕事はきつい」がやや多い。

表10-2-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は年齢5区分によって明瞭な違いがある。年齢区分が高くなると「体力的に仕事はきつい」が多くなり。80代前半では4

割近くなっている。「希望の条件の仕事がない」は70代以降では極めて少ない。「仕事以外に時間を使いたい」は60代では比較的多いが、70代以降ではやや少ない。

表10-2-3 服用する処方薬の有無と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
ある	7	36	85	93	14	35	19	16	38	13	356
	2.0%	10.1%	23.9%	26.1%	3.9%	9.8%	5.3%	4.5%	10.7%	3.7%	100%
ない	12	17	26	2	7	24	7	9	13	6	123
	9.8%	13.8%	21.1%	1.6%	5.7%	19.5%	5.7%	7.3%	10.6%	4.9%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.000<0.01

表10-2-4 現在の健康状態と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
よい	1	5	5	0	3	13	4	3	4	2	40
	2.5%	12.5%	12.5%	0.0%	7.5%	32.5%	10.0%	7.5%	10.0%	5.0%	100%
まあよい	9	15	29	5	10	23	7	7	12	4	121
	7.4%	12.4%	24.0%	4.1%	8.3%	19.0%	5.8%	5.8%	9.9%	3.3%	100%
普通	8	22	53	27	7	21	15	12	28	9	202
	4.0%	10.9%	26.2%	13.4%	3.5%	10.4%	7.4%	5.9%	13.9%	4.5%	100%
あまりよくない	1	11	21	50	0	2	0	3	7	4	99
	1.0%	11.1%	21.2%	50.5%	0.0%	2.0%	0.0%	3.0%	7.1%	4.0%	100%
よくない	0	0	3	13	1	0	0	0	0	0	17
	0.0%	0.0%	17.6%	76.5%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.000<0.01

表 10-2-3 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は、服用する処方薬がある者では「健康状態がよくない」が最も多いが、ない者では非常に少ない。服用する処方薬がない者では「仕事以外に時間を使いたい」が比較的多い。

表 10-2-4 は健康状態とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は健康状態によって大きく異なる。健康状態が「よい」では「仕事以外に時間を使いたい」が最も多く、「体力的に仕事はきつい」は少ない。これに対して、健康状態がよくない者ではやはり「健康状態がよくない」が多く、「あ

なりよくない」で51%、「よくない」で77%を占める。

表10-2-5 居住する住宅と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
持ち家 (ローン無)	14 3.3%	42 9.9%	103 24.2%	79 18.5%	21 4.9%	57 13.4%	24 5.6%	23 5.4%	46 10.8%	17 4.0%	426 100%
持ち家 (ローン有)	1 4.5%	8 36.4%	1 4.5%	5 22.7%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	1 4.5%	22 100%
賃貸住宅	3 14.3%	2 9.5%	6 28.6%	7 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	2 9.5%	0 0.0%	21 100%
公営住宅	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 100%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	5 100%
合計	19 4.0%	53 11.1%	111 23.2%	95 19.8%	21 4.4%	59 12.3%	26 5.4%	25 5.2%	51 10.6%	19 4.0%	479 100%

P=0.039 < 0.05

表10-2-6 生きがいを感じる程度と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
十分に感じている	2 1.9%	16 14.8%	22 20.4%	9 8.3%	8 7.4%	28 25.9%	6 5.6%	2 1.9%	10 9.3%	5 4.6%	108 100%
多少は感じている	14 5.7%	23 9.3%	56 22.7%	48 19.4%	9 3.6%	27 10.9%	17 6.9%	13 5.3%	33 13.4%	7 2.8%	247 100%
あまり感じない	3 3.2%	12 12.9%	25 26.9%	24 25.8%	3 3.2%	3 3.2%	3 3.2%	10 10.8%	4 4.3%	6 6.5%	93 100%
まったく感じない	0 0.0%	0 0.0%	4 40.0%	6 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100%
わからない	0 0.0%	2 9.5%	4 19.0%	8 38.1%	1 4.8%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	4 19.0%	1 4.8%	21 100%
合計	19 4.0%	53 11.1%	111 23.2%	95 19.8%	21 4.4%	59 12.3%	26 5.4%	25 5.2%	51 10.6%	19 4.0%	479 100%

P=0.000 < 0.01

表 10-2-5 は居住する住宅とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は居住する住宅

と強い相関関係がある。住宅ローンを返済中の持ち家に住む者では「年齢制限で仕事がない」が36%と比較的多い。これは働きたいが働けない者が比較的多いことを意味する。「賃貸住宅」では「健康状態がよくない」が33%と比較的多い。

表 10-2-6 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は普段の生活や仕事に生きがいをどの程度感じるかによって大きく異なる。仕事をしていない最大の理由は生きがいを十分に感じている者では「仕事以外に時間を使いたい」が比較的多く、「健康状態がよくない」は少ない。これに対して、生きがいを感じていない者では「仕事以外に時間を使いたい」は非常に少なく、「体力的に仕事はきつい」と「健康状態がよくない」が多い。特に生きがいをまったく感じていない者では「体力的に仕事はきつい」が40%、「健康状態がよくない」が60%である。

表10-2-7 これまでの人生の満足度と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
かなり満足	2	6	10	6	7	8	2	0	6	3	50
	4.0%	12.0%	20.0%	12.0%	14.0%	16.0%	4.0%	0.0%	12.0%	6.0%	100%
まあまあ満足	13	32	68	51	10	44	18	19	41	14	310
	4.2%	10.3%	21.9%	16.5%	3.2%	14.2%	5.8%	6.1%	13.2%	4.5%	100%
やや不満	4	5	19	12	2	4	3	2	1	1	53
	7.5%	9.4%	35.8%	22.6%	3.8%	7.5%	5.7%	3.8%	1.9%	1.9%	100%
大いに不満	0	3	3	6	1	0	1	2	0	0	16
	0.0%	18.8%	18.8%	37.5%	6.3%	0.0%	6.3%	12.5%	0.0%	0.0%	100%
どちらともいえない	0	7	11	20	1	3	2	2	3	1	50
	0.0%	14.0%	22.0%	40.0%	2.0%	6.0%	4.0%	4.0%	6.0%	2.0%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.005<0.01

表 10-2-7 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由はこれまでの人生の満足度によって大きな違いがある。これまでの人生に「かなり満足している」では、「収入を増やしたいと思わない」と「仕事以外に時間を使いたい」が相対的に大きな割合を占める。これに対して、「やや不満である」では「体力的に仕事はきつい」が相対的に大きく、「大いに不満である」では「健康状態がよくない」が相対的に大きな割合である。「どちらともいえない」でも「健康状態がよくない」が4割と相対的に大きな割合である。

表10-2-8 現在の幸福度と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
10点	2	6	12	4	6	7	2	0	6	2	47
	4.3%	12.8%	25.5%	8.5%	12.8%	14.9%	4.3%	0.0%	12.8%	4.3%	100.0%
9点	1	4	12	4	2	10	2	3	4	2	44
	2.3%	9.1%	27.3%	9.1%	4.5%	22.7%	4.5%	6.8%	9.1%	4.5%	100.0%
8点	7	10	27	17	6	23	9	5	19	2	125
	5.6%	8.0%	21.6%	13.6%	4.8%	18.4%	7.2%	4.0%	15.2%	1.6%	100.0%
7点	3	9	23	17	2	12	5	6	12	4	93
	3.2%	9.7%	24.7%	18.3%	2.2%	12.9%	5.4%	6.5%	12.9%	4.3%	100.0%
6点	1	12	10	19	1	4	5	4	7	6	69
	1.4%	17.4%	14.5%	27.5%	1.4%	5.8%	7.2%	5.8%	10.1%	8.7%	100.0%
5点	4	8	21	23	2	3	3	4	3	3	74
	5.4%	10.8%	28.4%	31.1%	2.7%	4.1%	4.1%	5.4%	4.1%	4.1%	100.0%
4点	1	2	5	4	1	0	0	1	0	0	14
	7.1%	14.3%	35.7%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	100.0%
3点	0	0	0	2	1	0	0	2	0	0	5
	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%
2点	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
1点	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
0点	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100.0%

P=0.031 < 0.05

表 10-2-8 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は現在の幸福度によって大きな違いがある。幸福度の点数が高い者では仕事をしていない最大の理由として「健康状態がよくない」を挙げる者は比較的少ない。たとえば、幸福度の点数が 10 点では「健康状態がよくない」は 9%であり、「収入を増やしたいと思わない」(13%) と「仕事以外に時間を使いたい」(15%) が比較的多い。これに対して、幸福度の点数が下がってくると「健康状態がよくない」を挙げる者が多くなる。

表10-2-9 地域の社会活動への参加の有無と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
参加している	3	24	30	17	9	30	11	7	15	5	151
	2.0%	15.9%	19.9%	11.3%	6.0%	19.9%	7.3%	4.6%	9.9%	3.3%	100%
参加していない	16	29	81	78	12	29	15	18	36	14	328
	4.9%	8.8%	24.7%	23.8%	3.7%	8.8%	4.6%	5.5%	11.0%	4.3%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.001<0.01

表10-2-10 現在の経済的な暮らし向きと仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
家計にゆとりあり心配ない	0	2	8	10	9	12	4	3	7	3	58
	0.0%	3.4%	13.8%	17.2%	15.5%	20.7%	6.9%	5.2%	12.1%	5.2%	100%
ゆとりはないが心配ない	6	28	69	46	12	39	15	14	37	9	275
	2.2%	10.2%	25.1%	16.7%	4.4%	14.2%	5.5%	5.1%	13.5%	3.3%	100%
ゆとりがなく多少心配	11	19	32	33	0	8	6	6	7	7	129
	8.5%	14.7%	24.8%	25.6%	0.0%	6.2%	4.7%	4.7%	5.4%	5.4%	100%
家計が苦しく非常に心配	2	3	1	5	0	0	0	2	0	0	13
	15.4%	23.1%	7.7%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	100%
その他	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	4
	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.000<0.01

表 10-2-9 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は地域の社会活動への参加の有無によって相違がある。地域の社会活動に参加している者では、「年齢制限で仕事がない」と「仕事以外に時間を使いたい」が比較的多い。これに対して、地域の社会活動に参加していない者では仕事をしていない最大の理由として「年齢制限で仕事がない」と「仕事以外に時間を使いたい」は比較的小なく、「健康状態がよくない」を挙げる者が比較的多い。

表 10-2-10 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は

現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。家計に心配がない者では「健康状態がよくない」は比較的少なく、「仕事以外に時間を使いたい」が比較的多い。特に「家計にゆとりがあり心配ない」では「仕事以外に時間を使いたい」（21%）と「収入を増やしたいと思わない」（16%）が比較的多い。これに対して、家計に心配がある者では「健康状態がよくない」を挙げる者が相対的に多い。特に「家計が苦しく非常に心配」な者では4割近く（39%）が「健康状態がよくない」を挙げる。

表10-2-11 1ヶ月の生活費と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内の仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
10万円未満	1 2.0%	7 13.7%	12 23.5%	14 27.5%	0 0.0%	2 3.9%	5 9.8%	3 5.9%	6 11.8%	1 2.0%	51 100%
10万円～15万円	3 2.9%	14 13.5%	24 23.1%	27 26.0%	2 1.9%	7 6.7%	9 8.7%	4 3.8%	10 9.6%	4 3.8%	104 100%
15万円～20万円	8 6.2%	19 14.7%	27 20.9%	23 17.8%	10 7.8%	18 14.0%	2 1.6%	7 5.4%	11 8.5%	4 3.1%	129 100%
20万円～25万円	4 3.6%	9 8.2%	28 25.5%	16 14.5%	5 4.5%	22 20.0%	6 5.5%	6 5.5%	12 10.9%	2 1.8%	110 100%
25万円～30万円	1 2.0%	3 5.9%	13 25.5%	11 21.6%	0 0.0%	4 7.8%	2 3.9%	5 9.8%	6 11.8%	6 11.8%	51 100%
30万円～35万円	1 4.5%	1 4.5%	4 18.2%	1 4.5%	2 9.1%	4 18.2%	2 9.1%	0 0.0%	5 22.7%	2 9.1%	22 100%
35万円～40万円	1 14.3%	0 0.0%	2 28.6%	2 28.6%	1 14.3%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 100%
40万円以上	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100%
合計	19 4.0%	53 11.1%	111 23.2%	95 19.8%	21 4.4%	59 12.3%	26 5.4%	25 5.2%	51 10.6%	19 4.0%	479 100%

P=0.093 > 0.05

表 10-2-11 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は1ヶ月の生活費の大きさとは明瞭な相関関係はみられなかった。

次頁の表 10-2-12 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きな違いがある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」では「健康状態がよくない」はやや少なく、「仕事以外に時間を使いたい」が比較的多い。また「収入を増やしたいと思わない」も比較的多い。これに対して、現在の貯蓄額を今後の備えとして「かなり足りないと思う」では「健康状態がよくない」が比較的多い。

表10-2-12 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
十分	1	5	21	9	10	13	6	2	8	3	78
	1.3%	6.4%	26.9%	11.5%	12.8%	16.7%	7.7%	2.6%	10.3%	3.8%	100%
少し不足	6	14	37	29	5	28	11	8	13	7	158
	3.8%	8.9%	23.4%	18.4%	3.2%	17.7%	7.0%	5.1%	8.2%	4.4%	100%
かなり不足	12	19	27	33	1	8	4	5	13	5	127
	9.4%	15.0%	21.3%	26.0%	0.8%	6.3%	3.1%	3.9%	10.2%	3.9%	100%
わからない	0	10	20	17	4	8	5	6	15	4	89
	0.0%	11.2%	22.5%	19.1%	4.5%	9.0%	5.6%	6.7%	16.9%	4.5%	100%
貯蓄ない	0	5	6	7	1	2	0	4	2	0	27
	0.0%	18.5%	22.2%	25.9%	3.7%	7.4%	0.0%	14.8%	7.4%	0.0%	100%
合計	19	53	111	95	21	59	26	25	51	19	479
	4.0%	11.1%	23.2%	19.8%	4.4%	12.3%	5.4%	5.2%	10.6%	4.0%	100%

P=0.000 < 0.01

表10-2-13 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内での仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
十分まかなえてる	1	4	7	8	5	8	2	2	4	1	42
	2.4%	9.5%	16.7%	19.0%	11.9%	19.0%	4.8%	4.8%	9.5%	2.4%	100%
何とかまかなえて	9	18	65	39	11	26	10	10	27	7	222
	4.1%	8.1%	29.3%	17.6%	5.0%	11.7%	4.5%	4.5%	12.2%	3.2%	100%
多少足りない	6	16	29	31	4	18	8	8	9	8	137
	4.4%	11.7%	21.2%	22.6%	2.9%	13.1%	5.8%	5.8%	6.6%	5.8%	100%
かなり足りない	2	14	8	14	1	5	5	3	10	3	65
	3.1%	21.5%	12.3%	21.5%	1.5%	7.7%	7.7%	4.6%	15.4%	4.6%	100%
合計	18	52	109	92	21	57	25	23	50	19	466
	4%	11%	23%	20%	5%	12%	5%	5%	11%	4%	100%

P=0.138 > 0.05

表 10-2-13 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。仕事をしていない最大の理由は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と強い相関関係はなかった。しかし、「十分まかなえている」では「仕事以外に時間を使いたい」と「収入を増やしたいと思わない」が相対

的に多い。これに対して「かなり足りない」では「年齢制限で仕事がない」が相対的に多い。

表10-2-14 今後の就労希望と仕事をしていない最大の理由のクロス表

	希望条件の仕事なし	年齢制限で仕事なし	体力的に仕事きつい	健康状態がよくない	収入増を望まない	仕事以外に時間使う	家庭内の仕事あり	要介護の家族がいる	特に理由ない	その他	合計
仕事したいと思う	13 14.6%	23 25.8%	2 2.2%	17 19.1%	1 1.1%	11 12.4%	3 3.4%	8 9.0%	4 4.5%	7 7.9%	89 100%
したいと思わない	2 0.8%	18 6.8%	82 31.2%	45 17.1%	16 6.1%	39 14.8%	15 5.7%	9 3.4%	31 11.8%	6 2.3%	263 100%
わからない	4 3.1%	12 9.4%	27 21.3%	33 26.0%	4 3.1%	9 7.1%	8 6.3%	8 6.3%	16 12.6%	6 4.7%	127 100%
合計	19 4.0%	53 11.1%	111 23.2%	95 19.8%	21 4.4%	59 12.3%	26 5.4%	25 5.2%	51 10.6%	19 4.0%	479 100%

P=0.000 < 0.01

表 10-2-4 は今後の就労希望とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしていない最大の理由は今後の就労希望によって顕著な相違がみられる。今後に機会があれば仕事をしたいと思う者では、仕事をしていない最大の理由として「希望の条件に合う仕事がない」と「年齢制限で仕事がない」を挙げる者が比較的多い。一方で「体力的に仕事はきつい」は2%と非常に少ない。これは、働くことはできるが適当な仕事が見つからない状況にある者が比較的多いことを意味する。これに対して、「仕事をしたいと思わない」者では「体力的に仕事はきつい」を挙げる者が最も多く、「希望の条件にあう仕事がない」は非常に少ない。「わからない」者では「体力的に仕事はきつい」と「健康状態がよくない」を挙げる者が多い。

10-3 今後の就労希望の有無

今後の就労希望の有無を探るため、今後に機会があれば収入を伴う仕事をしたいと思うかを尋ねた。単純集計結果では、「仕事をしたい」は19%、「仕事をしたいと思わない」が55%、「わからない」が27%だった。仕事をしていない者には今後に積極的に仕事をしたいと思う者は少なかった。

次頁の表 10-3-1 は性別とのクロス集計結果である。今後の就労希望は性別と強い相関関係はみられなかったが、女性は男性に比べると仕事をしたいと思わない者が比較的多い。

表 10-3-2 は年齢5区分とのクロス集計結果である。今後の就労希望は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると仕事をしたいと思う者は少なくなり、仕事をしたいと思わない者が多くなる。60代前半では仕事をしたい者は31%だが、80代前半では仕事をしたいと思う者は6%にとどまる。

表 10-3-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果であり、表 10-3-4 は世帯形態とのクロス集計結果である。今後の就労希望は配偶者の有無や世帯形態によって大きな違いはみられなかった。

表10-3-1 性別と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
男性	41	100	61	202
	20.3%	49.5%	30.2%	100.0%
女性	48	163	66	277
	17.3%	58.8%	23.8%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.123 > 0.05

表10-3-2 年齢5区分と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
60-64	14	21	10	45
	31.1%	46.7%	22.2%	100.0%
65-69	32	35	25	92
	34.8%	38.0%	27.2%	100.0%
70-74	21	74	43	138
	15.2%	53.6%	31.2%	100.0%
75-79	17	72	31	120
	14.2%	60.0%	25.8%	100.0%
80-84	5	61	18	84
	6.0%	72.6%	21.4%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表10-3-3 配偶者の有無と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
有配偶	69	202	102	373
	18.5%	54.2%	27.3%	100%
無配偶	20	61	25	106
	18.9%	57.5%	23.6%	100%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100%

P=0.734>0.05

表10-3-4 世帯形態と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
一人暮らし	14	38	13	65
	21.5%	58.5%	20.0%	100%
夫婦のみ	45	138	63	246
	18.3%	56.1%	25.6%	100%
他の同居人あり	29	86	51	166
	17.5%	51.8%	30.7%	100%
無回答	1	1	0	2
	50.0%	50.0%	0.0%	100%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100%

P = 0.575 > 0.05

次頁の表 10-3-5 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。服用する処方薬がない者はある者に比べて仕事をしたいと思う者が多かった。

表 10-3-6 は健康状態とのクロス集計結果である。健康状態が「よくない」では今後に仕事をしたいと思う者は皆無だった。しかし、これは意外な結果だが、健康状態が「よい」では仕事をしたいと思う者は比較的少なく、仕事をしたいと思わない者が78%と非常に多かった。仕事をしていない者で健康状態

が「よい」者には健康状態以外の理由で仕事をしていない者が多く含まれることを意味する。

表10-3-5 服用する処方薬の有無と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
ある	57	206	93	356
	16.0%	57.9%	26.1%	100%
ない	32	57	34	123
	26.0%	46.3%	27.6%	100%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100%

P = 0.027 < 0.05

表10-3-6 現在の健康状態と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
よい	5	31	4	40
	12.5%	77.5%	10.0%	100%
まあよい	29	65	27	121
	24.0%	53.7%	22.3%	100%
普通	36	101	65	202
	17.8%	50.0%	32.2%	100%
あまりよくない	19	55	25	99
	19.2%	55.6%	25.3%	100%
よくない	0	11	6	17
	0.0%	64.7%	35.3%	100%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100%

P = 0.016 < 0.05

表10-3-7 居住する住宅と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
持ち家 (ローン無)	71	238	117	426
	16.7%	55.9%	27.5%	100.0%
持ち家 (ローン有)	9	10	3	22
	40.9%	45.5%	13.6%	100.0%
賃貸住宅	6	9	6	21
	28.6%	42.9%	28.6%	100.0%
公営住宅	2	3	0	5
	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
その他	1	3	1	5
	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.108 > 0.05

表10-3-8 生きがいを感じる程度と今後の就労希望のクロス表

	仕事をしたい	したいと思わない	わからない	合計
十分に感じる	18	67	23	108
	16.7%	62.0%	21.3%	100.0%
多少は感じる	44	138	65	247
	17.8%	55.9%	26.3%	100.0%
あまり感じない	25	40	28	93
	26.9%	43.0%	30.1%	100.0%
まったく感じない	0	5	5	10
	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
わからない	2	13	6	21
	9.5%	61.9%	28.6%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.085 > 0.05

表10-3-9 現在の幸福度と今後の就労希望のクロス表

	仕事を したい	したいと 思わない	わから ない	合計
10点	8	31	8	47
	17.0%	66.0%	17.0%	100%
9点	8	29	7	44
	18.2%	65.9%	15.9%	100%
8点	18	73	34	125
	14.4%	58.4%	27.2%	100%
7点	22	50	21	93
	23.7%	53.8%	22.6%	100%
6点	12	36	21	69
	17.4%	52.2%	30.4%	100%
5点	15	31	28	74
	20.3%	41.9%	37.8%	100%

	仕事を したい	したいと 思わない	わから ない	合計
4点	3	6	5	14
	21.4%	42.9%	35.7%	100%
3点	0	3	2	5
	0.0%	60.0%	40.0%	100%
2点	1	2	0	3
	33.3%	66.7%	0.0%	100%
1点	1	1	1	3
	33.3%	33.3%	33.3%	100%
0点	1	1	0	2
	50.0%	50.0%	0.0%	100%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100%

P = 0.394 > 0.05

前頁の表 10-3-7 は居住する住宅とのクロス集計結果である。仕事をしていない者で住宅ローンを返済中の持ち家に住む者では今後に仕事をしたいと思う者が4割と相対的に多いのは興味深い。

表 10-3-8 は生きがいのクロス集計結果である。今後の就労希望は普段の生活や仕事に生きがいをどの程度感じているかと強い相関関係はなかった。しかし注目されるのは、生きがいを十分に感じている者では「仕事をしたいと思わない」と就労を明確に否定する者が62%と最も多い割合を示していることである。仕事をしていない者で生きがいを十分に感じている者は仕事以外のものに生きがいを感じていることを示唆する。

表 10-3-9 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。幸福度の点数が高い者、たとえば10点と9点では「仕事をしたいと思わない」が相対的に大きな割合であり、「わからない」は比較的少ない。幸福度の点数の高い者では今後の就労希望がない者が相対的に大きな割合を占める。仕事をしていない者で幸福度の高い者は仕事をしなくとも十分に幸福を感じる者が多く含まれることを示唆する。

次頁の表 10-3-10 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。「仕事をしたいと思う」者の割合については満足度の違いで大きな差はない。しかし、「仕事したいと思わない」者の割合ではこれまでに人生に「かなり満足している者」で60%と最も大きな割合になっている。仕事をしていない者でこれまでの人生にかなり満足している者では今後の就労希望がない者が相対的に大きな割合を占める。仕事をしていない者で人生の満足度が高い者には積極的な理由で仕事をしていない者が多く含まれることを意味する。

表 10-3-11 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。仕事をしていない者の今後の就労希望は現在の経済的な暮らし向きと非常に明瞭な相関関係がある。家計に心配がない者では今後に仕事をしたいと思う者は少なく、仕事をしたいと思わない者が多い。特に「家計にゆとりがありまったく心配ない」者では7割強が仕事をしたいと思わないと答えている。これに対して家計に心配がある者では「仕事をしたいと思う」者が比較的多い。特に「家計が苦しく非常に心配」な「者では46%が「仕事をしたいと思う」と答えている。

表10-3-10 これまでの人生の満足度と今後の就労希望のクロス表

	仕事をした いと思う	仕事したい と思わない	わからない	合計
かなり満足	10	30	10	50
	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
まあまあ満足	56	173	81	310
	18.1%	55.8%	26.1%	100.0%
やや不満	8	31	14	53
	15.1%	58.5%	26.4%	100.0%
大いに不満	3	9	4	16
	18.8%	56.3%	25.0%	100.0%
どちらともい えない	12	20	18	50
	24.0%	40.0%	36.0%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.625 > 0.05

表10-3-11 現在の経済的な暮らし向きと今後の就労希望のクロス表

	仕事をした いと思う	仕事したい と思わない	わからない	合計
家計にゆとりがあり、まったく 心配なく暮らしている	5	42	11	58
	8.6%	72.4%	19.0%	100.0%
家計にあまりゆとりはないが、 それほど心配なく暮らしている	37	165	73	275
	13.5%	60.0%	26.5%	100.0%
家計にゆとりがなく多少心配	39	50	40	129
	30.2%	38.8%	31.0%	100.0%
家計が苦しく、非常に心配	6	5	2	13
	46.2%	38.5%	15.4%	100.0%
その他	2	1	1	4
	50.0%	25.0%	25.0%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

次頁の表 10-3-12 は 1 年前と比べて経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。今後の就労希望は経済的な暮らし向きの変化と非常に強い相関関係がある。1 年前と比べて経済的な暮らし向きが「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」では「仕事をしたいと思わない」が比較的大きな割合を占め、1 年前と比べて「どちらかといえば悪くなった」と「悪くなった」者では「仕事をしたい

と思う」が比較的多い。

表10-3-12 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と今後の就労希望のクロス表

	仕事をした と思う	仕事したい と思わない	わからない	合計
良くなった	1	3	1	5
	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
どちらかといえば 良くなった	2	12	4	18
	11.1%	66.7%	22.2%	100.0%
どちらかといえば 悪くなった	37	62	40	139
	26.6%	44.6%	28.8%	100.0%
悪くなった	10	10	11	31
	32.3%	32.3%	35.5%	100.0%
変わらない	39	176	71	286
	13.6%	61.5%	24.8%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.004 < 0.01

表10-3-13 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと今後の就労希望のクロス表

	仕事をした と思う	仕事したい と思わない	わからない	合計
十分だと思う	4	61	13	78
	5.1%	78.2%	16.7%	100.0%
少し足りない と思う	26	85	47	158
	16.5%	53.8%	29.7%	100.0%
かなり足りな いと思う	42	52	33	127
	33.1%	40.9%	26.0%	100.0%
わからない	13	50	26	89
	14.6%	56.2%	29.2%	100.0%
貯蓄はしてい ない	4	15	8	27
	14.8%	55.6%	29.6%	100.0%
合計	89	263	127	479
	18.6%	54.9%	26.5%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 10-3-13 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。今後の就労希望は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと非常に強い相関関係がある。現在の貯

蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」では「仕事をしたいとは思わない」が非常に多い。これに対して「かなり足りないと思う」では「仕事をしたいと思う」が比較的多い。

**表10-3-14 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度
と今後の就労希望のクロス表**

	仕事をしたいと思う	仕事をしたいと思わない	わからない	合計
十分まかなえている	4	29	9	42
	9.5%	69.0%	21.4%	100.0%
何とかまかなえている	31	132	59	222
	14.0%	59.5%	26.6%	100.0%
多少足りない	30	66	41	137
	21.9%	48.2%	29.9%	100.0%
かなり足りない	21	29	15	65
	32.3%	44.6%	23.1%	100.0%
合計	86	256	124	466
	18.5%	54.9%	26.6%	100.0%

$P = 0.006 < 0.01$

表 10-3-14 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。今後の就労希望は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと非常に強い相関関係がある。毎月の生活費を公的年金でまかなえている者では「仕事をしたいと思う」は少なく、「仕事をしたいと思わない」が多い。これに対して、公的年金で毎月の生活費をまかなえていない者では「仕事をしたいと思う」が比較的多い。特に毎月の生活費が「かなり足りないと思う」では3分の1（32%）が「仕事をしたいと思う」と回答している。

第 11 章 高齢期の生活の備えに関する考え

11-1 高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと

表11-1-1 高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと(複数回答)

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
健康の維持・増進の心がけ	579	21.0%	63.4%
老後も楽しめる趣味をもつ	363	13.2%	39.8%
老後の生活のための預貯金	441	16.0%	48.3%
高齢期も生かせる技術・技能の取得	80	2.9%	8.8%
積極的な投資や資産運用	49	1.8%	5.4%
困ったときに頼れる友人・知人をもつ	140	5.1%	15.3%
公的年金の受給額の確認	281	10.2%	30.8%
老後の生活設計の立案	84	3.0%	9.2%
円満な家庭・家族関係を築く	391	14.2%	42.8%
近隣・地域の人々と良好な関係を築く	305	11.1%	33.4%
特にない	43	1.6%	4.7%
合計	2756	100.0%	

回答者の選択率は全回答者（914）を分母とする回答数の割合

現在の高齢者は高齢期の生活の備えて若い頃からどのようなことを実際に準備していたか。今回の調査ではこれを複数回答可で質問した。表 11-1-1 はその度数分布表である。最も選択率が高かった項目は「健康の維持・増進の心がけ」（63%）であり、二番目は「老後の生活のための預貯金」（48%）だった。以下、「円満な家庭・家族関係を築く」（43%）、「老後も楽しめる趣味をもつ」（40%）、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」（33%）、「公的年金の受給額の確認」（31%）が続いた。「積極的な投資や資産運用」は5%と非常に少なかった。

表 11-1-2 は性別とのクロス集計結果であり、表 11-2-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。高齢期に備えて若い頃から実際に準備していたことは、性別や年齢区分別によって目立った違いはなかった。

表11-1-2 性別と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
男性	281 62.7%	172 38.4%	194 43.3%	46 10.3%	29 6.5%	40 8.9%
女性	298 64.1%	191 41.1%	247 53.1%	34 7.3%	20 4.3%	100 21.5%
合計	579	363	441	80	49	140

	公的年金の 受給額確認	老後の生活 設計の立案	円満な家 庭・家族	近隣・地域と 良好な関係	特にない	合計
男性	137	41	188	124	23	448
	30.6%	9.2%	42.0%	27.7%	5.1%	
女性	144	43	203	181	20	465
	31.0%	9.2%	43.7%	38.9%	4.3%	
合計	281	84	391	305	43	913

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

表11-1-3 年齢5区分と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと
(複数回答)のクロス表

	健康の維 持・増進	老後も楽し める趣味	老後生活の 預貯金	技術・技能の 取得	積極的投資 や資産運用	頼れる友人・ 知人をもつ
60-64	97	60	90	15	8	20
	54.5%	33.7%	50.6%	8.4%	4.5%	11.2%
65-69	138	82	100	20	12	28
	65.4%	38.9%	47.4%	9.5%	5.7%	13.3%
70-74	148	103	126	25	15	44
	60.7%	42.2%	51.6%	10.2%	6.1%	18.0%
75-79	105	71	75	9	9	32
	62.9%	42.5%	44.9%	5.4%	5.4%	19.2%
80-84	91	47	50	11	5	16
	80.5%	41.6%	44.2%	9.7%	4.4%	14.2%
合計	579	363	441	80	49	140

	公的年金の 受給額確認	老後の生活 設計の立案	円満な家 庭・家族	近隣・地域と 良好な関係	特にない	合計
60-64	51	13	72	34	11	178
	28.7%	7.3%	40.4%	19.1%	6.2%	
65-69	75	21	88	69	8	211
	35.5%	10.0%	41.7%	32.7%	3.8%	
70-74	76	27	96	80	12	244
	31.1%	11.1%	39.3%	32.8%	4.9%	
75-79	52	16	83	72	9	167
	31.1%	9.6%	49.7%	43.1%	5.4%	
80-84	27	7	52	50	3	113
	23.9%	6.2%	46.0%	44.2%	2.7%	
合計	281	84	391	305	43	913

表11-1-4 現在の健康状態と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
よい	87	63	53	13	7	22
	81.3%	58.9%	49.5%	12.1%	6.5%	20.6%
まあよい	159	90	125	25	21	35
	65.4%	37.0%	51.4%	10.3%	8.6%	14.4%
普通	245	158	175	31	17	54
	64.0%	41.3%	45.7%	8.1%	4.4%	14.1%
あまりよくない	80	45	79	10	3	27
	51.3%	28.8%	50.6%	6.4%	1.9%	17.3%
よくない	7	7	9	0	1	1
	31.8%	31.8%	40.9%	0.0%	4.5%	4.5%
合計	578	363	441	79	49	139

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
よい	26	12	53	45	0	107
	24.3%	11.2%	49.5%	42.1%	0.0%	
まあよい	81	22	119	89	8	243
	33.3%	9.1%	49.0%	36.6%	3.3%	
普通	125	33	152	126	19	383
	32.6%	8.6%	39.7%	32.9%	5.0%	
あまりよくない	43	17	58	40	13	156
	27.6%	10.9%	37.2%	25.6%	8.3%	
よくない	6	0	9	5	3	22
	27.3%	0.0%	40.9%	22.7%	13.6%	
合計	281	84	391	305	43	911

表 11-1-4 は健康状態とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたことは現在の健康状態によって大きく異なる。現在の健康状態が「よい」では「健康の維持・増進の心がけ」の選択率が8割超で非常に高い。これに対して、健康状態が「よくない」では「健康の維持・増進の心がけ」の選択率は32%とずっと低い。健康状態がよい者では「老後も楽しめる趣味をもつ」(59%)、「円満な家庭・家族関係を築く」(50%)、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」(42%)も相対的に大きな割合を占める。現在の健康状態がよい者では、高齢期の生活に備えて実際に準備していたことが多い者が多くを占める。

表11-1-5 生きがいを感じる程度と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
十分に感じている	175 72.6%	130 53.9%	130 53.9%	35 14.5%	15 6.2%	52 21.6%
多少は感じている	296 61.9%	191 40.0%	235 49.2%	39 8.2%	26 5.4%	66 13.8%
あまり感じていない	85 57.4%	31 20.9%	65 43.9%	3 2.0%	6 4.1%	19 12.8%
まったく感じていない	6 46.2%	2 15.4%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%
わからない	17 51.5%	9 27.3%	9 27.3%	2 6.1%	2 6.1%	2 6.1%
合計	579	363	441	80	49	140

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
十分に感じている	77 32.0%	27 11.2%	136 56.4%	109 45.2%	5 2.1%	241
多少は感じている	146 30.5%	46 9.6%	193 40.4%	144 30.1%	21 4.4%	478
あまり感じていない	43 29.1%	11 7.4%	49 33.1%	43 29.1%	15 10.1%	148
まったく感じていない	4 30.8%	0 0.0%	4 30.8%	2 15.4%	1 7.7%	13
わからない	11 33.3%	0 0.0%	9 27.3%	7 21.2%	1 3.0%	33
合計	281	84	391	305	43	913

表 11-1-5 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたことは普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度によって異なる。生きがいを「十分に感じている」者では「健康の維持・増進の心がけ」を始めとしてすべての項目で選択率が相対的に高い。これに対して、生きがいを「まったく感じていない」者では「公的年金の受給額の確認」を除いてすべての項目で選択率が相対的に低い。生きがいを「十分に感じている」者では高齢期の生活に備えて若い頃から多くのことを実際に準備してきた者が多い。

表11-1-6 現在の幸福度と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	投資や資産運用	頼れる友人・知人	年金受給額の確認	老後生活設計の立案	円満な家庭・家族関係	近隣地域と良好な関係	特にない	合計
10点	74	49	49	14	6	15	32	16	54	43	0	97
	76.3%	50.5%	50.5%	14.4%	6.2%	15.5%	33.0%	16.5%	55.7%	44.3%	0.0%	
9点	57	41	43	10	8	13	22	7	53	39	6	84
	67.9%	48.8%	51.2%	11.9%	9.5%	15.5%	26.2%	8.3%	63.1%	46.4%	7.1%	
8点	174	121	144	21	16	43	88	25	131	94	10	271
	64.2%	44.6%	53.1%	7.7%	5.9%	15.9%	32.5%	9.2%	48.3%	34.7%	3.7%	
7点	121	69	99	17	8	30	64	25	79	54	4	181
	66.9%	38.1%	54.7%	9.4%	4.4%	16.6%	35.4%	13.8%	43.6%	29.8%	2.2%	
6点	64	42	43	5	4	20	35	3	33	39	10	116
	55.2%	36.2%	37.1%	4.3%	3.4%	17.2%	30.2%	2.6%	28.4%	33.6%	8.6%	
5点	70	31	50	10	7	14	28	7	36	28	11	127
	55.1%	24.4%	39.4%	7.9%	5.5%	11.0%	22.0%	5.5%	28.3%	22.0%	8.7%	
4点	9	7	8	1	0	3	6	0	3	6	0	19
	47.4%	36.8%	42.1%	5.3%	0.0%	15.8%	31.6%	0.0%	15.8%	31.6%	0.0%	
3点	4	1	4	1	0	2	4	1	2	2	0	8
	50.0%	12.5%	50.0%	12.5%	0.0%	25.0%	50.0%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%	
2点	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
1点	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
0点	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
合計	577	362	441	79	49	140	281	84	391	305	43	911

表 11-1-6 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。幸福度の点数が高い者（7点以上）では、「健康の維持・増進の心がけ」、「老後も楽しめる趣味をもつ」、「老後生活のための預貯金」、「円満な家庭・家族関係を築く」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」の選択率が比較的高い。現在の幸福度が高い者では、高齢期の生活に備えて若い頃から多くのことを準備してきた者が多くを占める。幸福度の点数が低くなると（6点以下）、「老後も楽しめる趣味をもつ」、「円満な家庭・家族関係を築く」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」の選択率が低くなる傾向がある。

表11-1-7 これまでの人生の満足度と高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
かなり満足	75	59	58	20	10	18
	74.3%	58.4%	57.4%	19.8%	9.9%	17.8%
まあまあ満足	382	236	297	47	37	90
	65.0%	40.1%	50.5%	8.0%	6.3%	15.3%
やや不満	68	33	49	8	1	20
	57.6%	28.0%	41.5%	6.8%	0.8%	16.9%
大いに不満	11	3	7	0	0	1
	50.0%	13.6%	31.8%	0.0%	0.0%	4.5%
どちらともいえない	43	31	30	5	1	10
	51.8%	37.3%	36.1%	6.0%	1.2%	12.0%
合計	579	362	441	80	49	139

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
かなり満足	34	21	60	46	1	101
	33.7%	20.8%	59.4%	45.5%	1.0%	
まあまあ満足	187	51	267	203	25	588
	31.8%	8.7%	45.4%	34.5%	4.3%	
やや不満	38	7	38	32	6	118
	32.2%	5.9%	32.2%	27.1%	5.1%	
大いに不満	7	0	4	5	3	22
	31.8%	0.0%	18.2%	22.7%	13.6%	
どちらともいえない	15	5	21	18	8	83
	18.1%	6.0%	25.3%	21.7%	9.6%	
合計	281	84	390	304	43	912

表 11-1-7 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から実際にこれまでの人生の満足度によって違いがある。これまでの人生にかなり満足している者では、「健康の維持・増進の心がけ」、「老後も楽しめる趣味をもつ」、「老後生活のための預貯金」、「円満な家庭・家族関係を築く」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」に加えて、「高齢期も生かせる技術・技能の取得」、「積極的な投資や資産運用」、「老後の生活設計の立案」の選択率比較的高い。これに対して、これまでの人生に大いに不満である者では、「老後も楽しめる趣味をもつ」、「困ったときに頼れる友人・知人をもつ」、「円満な家庭・家族関係を築く」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」で選択率が相対的に低い。

表11-1-8 現在の貯蓄額は今後の生活の備えとしてどう思うかと高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
十分だと思う	86	57	98	16	19	22
	68.8%	45.6%	78.4%	12.8%	15.2%	17.6%
少し足りないと思う	189	123	174	23	19	37
	63.2%	41.1%	58.2%	7.7%	6.4%	12.4%
かなり足りないと思う	168	111	88	25	3	47
	57.7%	38.1%	30.2%	8.6%	1.0%	16.2%
わからない	103	51	77	13	7	25
	75.2%	37.2%	56.2%	9.5%	5.1%	18.2%
貯蓄はしていない	33	21	4	3	1	9
	54.1%	34.4%	6.6%	4.9%	1.6%	14.8%
合計	579	363	441	80	49	140

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
十分だと思う	48	24	58	46	2	125
	38.4%	19.2%	46.4%	36.8%	1.6%	
少し足りないと思う	89	29	129	108	8	299
	29.8%	9.7%	43.1%	36.1%	2.7%	
かなり足りないと思う	89	18	119	85	24	291
	30.6%	6.2%	40.9%	29.2%	8.2%	
わからない	39	12	69	46	2	137
	28.5%	8.8%	50.4%	33.6%	1.5%	
貯蓄はしていない	16	1	16	20	7	61
	26.2%	1.6%	26.2%	32.8%	11.5%	
合計	281	84	391	305	43	913

表 11-1-8 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたことは現在の貯蓄額の今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きな違いがある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者では、「老後生活のための預貯金」の選択率が 78%と非常に高く、「高齢期も生かせる技術・技能の取得」、「積極的な投資や資産運用」、「老後の生活設計の立案」も比較的高い。このことは注目してよいだろう。これに対して、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「かなり足りないと思う」者では「老後生活のための預貯金」、「積極的な投資や資産運用」、「老後の生活設計の立案」は相対的に低い選択率である。

表11-1-9 現在の経済的な暮らし向きと高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人知人をもつ
家計ゆとりあり全く心配なく暮らす	85 68.5%	66 53.2%	81 65.3%	17 13.7%	17 13.7%	23 18.5%
家計ゆとりはないが心配なく暮らす	331 66.5%	199 40.0%	270 54.2%	41 8.2%	27 5.4%	79 15.9%
家計にゆとりがなく多少心配	135 54.2%	85 34.1%	77 30.9%	18 7.2%	5 2.0%	35 14.1%
家計が苦しく非常に心配	26 70.3%	11 29.7%	10 27.0%	3 8.1%	0 0.0%	2 5.4%
その他	2 40.0%	2 40.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
合計	579	363	441	80	49	140

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好関係	特にない	合計
家計ゆとりあり全く心配なく暮らす	45 36.3%	26 21.0%	61 49.2%	47 37.9%	3 2.4%	124
家計ゆとりはないが心配なく暮らす	150 30.1%	47 9.4%	229 46.0%	174 34.9%	18 3.6%	498
家計にゆとりがなく多少心配	75 30.1%	9 3.6%	88 35.3%	73 29.3%	21 8.4%	249
家計が苦しく非常に心配	8 21.6%	2 5.4%	13 35.1%	11 29.7%	1 2.7%	37
その他	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5
合計	281	84	391	305	43	913

表 11-1-9 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から実際に準備していたことは現在の経済的な暮らし向きによって大きな違いがある。家計に心配がない者では「老後生活のための預貯金」、「老後の生活設計の立案」、「積極的な投資や資産運用」の選択率が比較的高く、家計に心配がある者ではこれらの選択率は比較的低い。

11-2 高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと

表11-2-1 高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率	増減
健康の維持・増進の心がけ	690	18.9%	75.5%	11.9
老後も楽しめる趣味をもつ	529	14.5%	57.9%	20.1
老後の生活のための預貯金	623	17.0%	68.2%	19.9
高齢期も生かせる技術・技能の取得	237	6.5%	25.9%	17.1
積極的な投資や資産運用	69	1.9%	7.5%	2.1
困ったときに頼れる友人・知人をもつ	258	7.1%	28.2%	12.9
公的年金の受給額の確認	215	5.9%	23.5%	-7.3
老後の生活設計の立案	254	6.9%	27.8%	18.6
円満な家庭・家族関係を築く	419	11.5%	45.8%	3.0
近隣・地域の人々と良好な関係を築く	355	9.7%	38.8%	5.4
特にない	10	0.3%	1.1%	-3.6
合計	3659	100.0%		

回答者の選択率は全回答者数（914）を分母とする回答の割合

次に実際に行ったかどうかは別として、高齢期の生活の備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことを複数回答可で尋ねた。表 11-2-1 はその度数分布表である。最も選択率が高かった項目は「健康の維持・増進の心がけ」（76%）であり、次いで「老後の生活のための預貯金」（68%）、「老後も楽しめる趣味をもつ」（58%）、「円満な家庭・家族関係を築く」（46%）と続いた。実際に準備したことと比べて選択率が増えた項目が多いが、その中でも増加分が多かった項目は「老後も楽しめる趣味をもつ」、「老後の生活のための預貯金」、「高齢期も生かせる技術・技能の取得」、「老後の生活設計の立案」であり、それぞれ 2 割程度選択率が高くなった。「積極的な投資や資産運用」は 2% 増にとどまった。一方で選択率が減少したのは「公的年金の受給額の確認」だった。

表11-2-2 性別と高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことのクロス表（複数回答）

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
男性	343	253	289	127	42	96
	76.4%	56.3%	64.4%	28.3%	9.4%	21.4%
女性	347	276	334	110	27	162
	74.6%	59.4%	71.8%	23.7%	5.8%	34.8%
合計	690	529	623	237	69	258

	公的年金の 受給額確認	老後の生活 設計の立案	円満な家 庭・家族	近隣・地域と 良好な関係	特にない	合計
男性	94	131	203	149	6	449
	20.9%	29.2%	45.2%	33.2%	1.3%	
女性	121	123	216	206	4	465
	26.0%	26.5%	46.5%	44.3%	0.9%	
合計	215	254	419	355	10	914

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、この節の以下の表はすべて同じ。

**表11-2-3 年齢5区分と高齢期の生活に備えて若い頃から準備しておいた方がよ
いと今思うこと（複数回答）のクロス表**

	健康の維 持・増進	老後も楽し める趣味	老後生活の 預貯金	技術・技能の 取得	積極的投資 や資産運用	頼れる友人・ 知人をもつ
60-64	130	101	131	45	19	43
	73.0%	56.7%	73.6%	25.3%	10.7%	24.2%
65-69	155	117	143	69	12	61
	73.5%	55.5%	67.8%	32.7%	5.7%	28.9%
70-74	187	144	170	65	24	75
	76.6%	59.0%	69.7%	26.6%	9.8%	30.7%
75-79	124	101	103	36	7	49
	73.8%	60.1%	61.3%	21.4%	4.2%	29.2%
80-84	94	66	76	22	7	30
	83.2%	58.4%	67.3%	19.5%	6.2%	26.5%
合計	690	529	623	237	69	258

	公的年金の 受給額確認	老後の生活 設計の立案	円満な家 庭・家族	近隣・地域と 良好な関係	特にない	合計
60-64	40	53	84	60	1	178
	22.5%	29.8%	47.2%	33.7%	0.6%	
65-69	55	74	89	75	2	211
	26.1%	35.1%	42.2%	35.5%	0.9%	
70-74	58	64	101	88	3	244
	23.8%	26.2%	41.4%	36.1%	1.2%	
75-79	39	44	80	76	0	168
	23.2%	26.2%	47.6%	45.2%	0.0%	
80-84	23	19	65	56	4	113
	20.4%	16.8%	57.5%	49.6%	3.5%	
合計	215	254	419	355	10	914

前頁の表 11-1-2 は性別とのクロス集計結果であり、表 11-2-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果であ

る。高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことは性別と年齢5区分によって項目の選択率に目立った差異はみられなかった。

表11-2-4 現在の健康状態と高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
よい	94	69	73	27	9	36
	87.9%	64.5%	68.2%	25.2%	8.4%	33.6%
まあよい	181	139	167	56	26	50
	74.5%	57.2%	68.7%	23.0%	10.7%	20.6%
普通	280	218	252	117	19	117
	72.9%	56.8%	65.6%	30.5%	4.9%	30.5%
あまりよくない	115	89	115	34	14	52
	73.7%	57.1%	73.7%	21.8%	9.0%	33.3%
よくない	18	13	14	1	1	2
	81.8%	59.1%	63.6%	4.5%	4.5%	9.1%
合計	688	528	621	235	69	257

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
よい	23	27	54	50	0	107
	21.5%	25.2%	50.5%	46.7%	0.0%	
まあよい	63	76	124	99	2	243
	25.9%	31.3%	51.0%	40.7%	0.8%	
普通	87	107	162	146	5	384
	22.7%	27.9%	42.2%	38.0%	1.3%	
あまりよくない	38	39	70	53	3	156
	24.4%	25.0%	44.9%	34.0%	1.9%	
よくない	4	3	8	6	0	22
	18.2%	13.6%	36.4%	27.3%	0.0%	
合計	215	252	418	354	10	912

表 11-2-4 は健康状態とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことは、実際に準備したこととは異なって、健康状態の善し悪しによる差異がない項目が多い。その中で、健康状態が「よくない」では、他の健康状態に比べて、「高齢期も生かせる技術・技能の取得」、「頼れる友人・知人をもつ」、「老後の生活設計の立案」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」の選択率が著しく低い。

表11-2-5 普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度と高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
十分に感じている	195 80.9%	164 68.0%	161 66.8%	61 25.3%	18 7.5%	73 30.3%
多少は感じている	365 76.2%	275 57.4%	324 67.6%	122 25.5%	39 8.1%	130 27.1%
あまり感じていない	100 67.6%	66 44.6%	108 73.0%	45 30.4%	10 6.8%	46 31.1%
まったく感じていない	9 69.2%	5 38.5%	8 61.5%	1 7.7%	1 7.7%	3 23.1%
わからない	21 63.6%	19 57.6%	22 66.7%	8 24.2%	1 3.0%	6 18.2%
合計	690	529	623	237	69	258

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
十分に感じている	65 27.0%	82 34.0%	142 58.9%	124 51.5%	1 0.4%	241
多少は感じている	107 22.3%	125 26.1%	207 43.2%	167 34.9%	5 1.0%	479
あまり感じていない	31 20.9%	40 27.0%	53 35.8%	51 34.5%	2 1.4%	148
まったく感じていない	3 23.1%	1 7.7%	4 30.8%	3 23.1%	1 7.7%	13
わからない	9 27.3%	6 18.2%	13 39.4%	10 30.3%	1 3.0%	33
合計	215	254	419	355	10	914

表 11-2-5 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。高齢期に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことについても、実際に準備したことと異なり、生きがいを感じる程度による項目の選択率の差異は少ない。しかし、生きがいを「まったく感じていない」では、他の状態の者に比べて、「高齢期も生かせる技術・技能の取得」、「頼れる友人・知人をもつ」、「老後の生活設計の立案」、「近隣・地域の人々と良好な関係を築く」の選択率が著しく低い。

表11-2-6 これまでの人生の満足度と高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
かなり満足	82	67	65	26	11	31
	81.2%	66.3%	64.4%	25.7%	10.9%	30.7%
まあまあ満足	449	347	399	149	44	159
	76.2%	58.9%	67.7%	25.3%	7.5%	27.0%
やや不満	85	58	84	32	10	38
	72.0%	49.2%	71.2%	27.1%	8.5%	32.2%
大いに不満	17	14	16	5	1	9
	77.3%	63.6%	72.7%	22.7%	4.5%	40.9%
どちらともいえない	56	42	58	25	3	20
	67.5%	50.6%	69.9%	30.1%	3.6%	24.1%
合計	689	528	622	237	69	257

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
かなり満足	31	37	61	55	1	101
	30.7%	36.6%	60.4%	54.5%	1.0%	
まあまあ満足	134	159	280	226	7	589
	22.8%	27.0%	47.5%	38.4%	1.2%	
やや不満	29	31	37	36	0	118
	24.6%	26.3%	31.4%	30.5%	0.0%	
大いに不満	6	6	9	13	1	22
	27.3%	27.3%	40.9%	59.1%	4.5%	
どちらともいえない	15	21	31	24	1	83
	18.1%	25.3%	37.3%	28.9%	1.2%	
合計	215	254	418	354	10	913

表 11-2-6 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことは、実際に準備したことと異なり、これまでの人生の満足度によって項目の選択率に目立った差異はみられなかった。

表11-2-7 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
十分だと思う	101	81	93	27	15	38
	80.8%	64.8%	74.4%	21.6%	12.0%	30.4%
少し足りないと思う	227	175	203	71	22	72
	75.9%	58.5%	67.9%	23.7%	7.4%	24.1%
かなり足りないと思う	205	156	193	85	20	80
	70.2%	53.4%	66.1%	29.1%	6.8%	27.4%
わからない	115	86	96	37	7	46
	83.9%	62.8%	70.1%	27.0%	5.1%	33.6%
貯蓄はしていない	42	31	38	17	5	22
	68.9%	50.8%	62.3%	27.9%	8.2%	36.1%
合計	690	529	623	237	69	258

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好な関係	特にない	合計
十分だと思う	26	33	56	56	0	125
	20.8%	26.4%	44.8%	44.8%	0.0%	
少し足りないと思う	71	95	141	110	6	299
	23.7%	31.8%	47.2%	36.8%	2.0%	
かなり足りないと思う	71	83	129	108	3	292
	24.3%	28.4%	44.2%	37.0%	1.0%	
わからない	37	32	72	62	0	137
	27.0%	23.4%	52.6%	45.3%	0.0%	
貯蓄はしていない	10	11	21	19	1	61
	16.4%	18.0%	34.4%	31.1%	1.6%	
合計	215	254	419	355	10	914

表 11-2-7 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から思うことは、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって、項目の選択率に顕著な差異はみられなかった。

表11-2-8 現在の経済的な暮らし向きと高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うこと（複数回答）のクロス表

	健康の維持・増進	老後も楽しめる趣味	老後生活の預貯金	技術・技能の取得	積極的投資や資産運用	頼れる友人・知人をもつ
ゆとりがあり全く心配なく暮らす	93 75.0%	75 60.5%	88 71.0%	34 27.4%	15 12.1%	37 29.8%
ゆとりはないが心配なく暮らす	394 79.0%	311 62.3%	350 70.1%	122 24.4%	39 7.8%	140 28.1%
家計にゆとりがなく、多少心配	173 69.5%	123 49.4%	155 62.2%	67 26.9%	13 5.2%	70 28.1%
家計が苦しく、非常に心配	26 70.3%	17 45.9%	26 70.3%	12 32.4%	2 5.4%	10 27.0%
その他	4 80.0%	3 60.0%	4 80.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%
合計	690	529	623	237	69	258

	公的年金の受給額確認	老後の生活設計の立案	円満な家庭・家族	近隣・地域と良好関係	特にない	合計
ゆとりがあり全く心配なく暮らす	25 20.2%	35 28.2%	69 55.6%	53 42.7%	2 1.6%	124
ゆとりはないが心配なく暮らす	117 23.4%	141 28.3%	236 47.3%	202 40.5%	5 1.0%	499
家計にゆとりがなく多少心配	62 24.9%	66 26.5%	103 41.4%	86 34.5%	3 1.2%	249
家計が苦しく非常に心配	8 21.6%	12 32.4%	10 27.0%	12 32.4%	0 0.0%	37
その他	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	5
合計	215	254	419	355	10	914

表 11-2-8 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。高齢期の生活に備えて若い頃から準備した方がよいと今思うことは、実際に準備したこととは異なって、家計のゆとりや心配がある程度によって項目の選択率に大きな違いはみられなかった。

第12章 地域の社会活動への参加と近隣の人とのつきあい

12-1 地域の社会活動への参加の有無

表12-1-1 性別と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
男性	156	293	449
	34.7%	65.3%	100.0%
女性	148	317	465
	31.8%	68.2%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0.35>0.05$

表12-1-2 年齢5区分と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
60-64	35	143	178
	19.7%	80.3%	100.0%
65-69	70	141	211
	33.2%	66.8%	100.0%
70-74	86	158	244
	35.2%	64.8%	100.0%
75-79	67	101	168
	39.9%	60.1%	100.0%
80-84	46	67	113
	40.7%	59.3%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0<0.01$

表12-1-3 配偶者の有無と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
有配偶	256	487	743
	34.5%	65.5%	100.0%
無配偶	48	123	171
	28.1%	71.9%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0.11>0.05$

表12-1-4 子の有無と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
あり	294	562	856
	34.3%	65.7%	100.0%
なし	10	48	58
	17.2%	82.8%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0.007<0.01$

次に地域での社会活動への参加を尋ねた。ここでいう地域の社会活動とは、自治会、老人クラブ、高齢者サロンの活動、児童の登下校や独居高齢者の見守り活動を指すと例示した。

表12-1-1は性別とのクロス集計結果である。全体的な分布では「参加している」者が3分の1、「参加していない」者が3分の2だった。参加の有無は性別によって大差なかった。

表12-2-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。地域の社会活動への参加の有無は年齢5区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると「参加している」者が多くなる。地域の社会活動へ

の参加者は60代前半では2割だが、70代後半と80代後半では4割を占める。

表 12-1-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。強い相関関係はないが、無配偶では有配偶が比べ地域の社会活動に参加している者が少ない。

表 12-1-4 は子の有無とのクロス集計結果である。地域の社会活動への参加の有無は子の有無と非常に強い相関関係がある。子がない者は地域の社会活動に参加していない割合が高い。

表12-1-5 世帯形態と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
一人暮らし	28	78	106
	26.4%	73.6%	100.0%
夫婦のみ	155	314	469
	33.0%	67.0%	100.0%
他の同居人あり	119	217	336
	35.4%	64.6%	100.0%
無回答	2	1	3
	66.7%	33.3%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0.216>0.05$

表12-1-6 現在の健康状態と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
よい	43	64	107
	40.2%	59.8%	100.0%
まあよい	91	152	243
	37.4%	62.6%	100.0%
普通	122	262	384
	31.8%	68.2%	100.0%
あまりよくない	43	113	156
	27.6%	72.4%	100.0%
よくない	5	17	22
	22.7%	77.3%	100.0%
無回答	0	2	2
	0.0%	100.0%	100.0%
合計	304	610	914
	33.3%	66.7%	100.0%

$P=0.109>0.05$

表 12-1-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。検定の結果では地域の社会活動への参加の有無は世帯形態と強い相関関係はないが、「一人暮らし」では地域の社会活動に参加している者がやや少ない。

表 12-1-6 は健康状態とのクロス集計結果である。これをみると、現在の健康状態がよい者では地域の社会活動に参加している者の割合は高く、健康状態がよくない者では参加している者の割合は低い。

次頁の表 12-1-7 は居住する住宅とのクロス集計結果である。地域の社会活動への参加の有無は居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「賃貸住宅」に住む者は地域の社会活動に参加している者が非常に少ない。また同じ持ち家であっても、住宅ローンを返済中の者は住宅ローンがない者に比べて参加している者の割合が低い。

表 12-1-8 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを「十分に感じている」者では地域の社会活動に参加している者の割合が比較的高い。これに対して、生きがいを「あまり感じていない」者では参加している者の割合は低い。

表12-1-7 居住する住宅と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
持ち家 (ローン無)	280 35.4%	511 64.6%	791 100.0%
持ち家 (ローン有)	16 24.2%	50 75.8%	66 100.0%
賃貸住宅	3 7.1%	39 92.9%	42 100.0%
公営住宅	3 37.5%	5 62.5%	8 100.0%
その他	2 28.6%	5 71.4%	7 100.0%
合計	304 33.3%	610 66.7%	914 100.0%

P=0.002<0.01

表12-1-9 これまでの人生の満足度と地域の社会活動への参加のクロス表

	参加している	参加していない	合計
かなり満足	49 48.5%	52 51.5%	101 100.0%
まあまあ満足	194 32.9%	395 67.1%	589 100.0%
やや不満	38 32.2%	80 67.8%	118 100.0%
大いに不満	2 9.1%	20 90.9%	22 100.0%
どちらとも いえない	20 24.1%	63 75.9%	83 100.0%
無回答	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	304 33.3%	610 66.7%	914 100.0%

P=0.001<0.01

表12-1-8 生きがいを感じる程度と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
十分に感じて いる	112 46.5%	129 53.5%	241 100.0%
多少は感じて いる	160 33.4%	319 66.6%	479 100.0%
あまり感じて いない	22 14.9%	126 85.1%	148 100.0%
まったく感じ ていない	4 30.8%	9 69.2%	13 100.0%
わからない	6 18.2%	27 81.8%	33 100.0%
合計	304 33.3%	610 66.7%	914 100.0%

P=0<0.01

表12-1-10 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加している	参加していない	合計
十分だと思 う	44 35.2%	81 64.8%	125 100.0%
少し足りな い	113 37.8%	186 62.2%	299 100.0%
かなり足り ない	78 26.7%	214 73.3%	292 100.0%
わからない	55 40.1%	82 59.9%	137 100.0%
貯蓄はして いない	14 23.0%	47 77.0%	61 100.0%
合計	304 33.3%	610 66.7%	914 100.0%

P=0.006<0.01

前頁の表 12-1-9 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。地域の社会活動への参加の有無は人生の満足度によって大きく異なる。これまでの人生にかなり満足している者では地域の社会活動に参加している者の割合は半数に近い。これに対して、大いに不満である者では参加している者の割合は1割弱であり、9割は参加していない。

表 12-1-10 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。地域の社会活動への参加の有無は現在の貯蓄額の自己評価と非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えてとして「かなり足りない」と思う者と「貯蓄はしていないと思う」者では参加している者の割合が低い。

表 12-1-11 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。検定の結果では強い相関関係はないが、地域の社会活動に参加している者の割合は、「十分にまかなえている」者ではやや高く、「かなり足りないと思う」者ではやや低い。

表 12-1-12 は仕事内容とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている人については、地域の社会活動への参加の有無は仕事内容と非常に強い相関関係がある。商店・工場・農林漁業などの自営業や自由業、自営業の家族従業者、シルバーセンターの仕事に従事する者では地域の社会活動に参加する者の割合が比較的高い。

表12-1-11 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加	不参加	合計
十分まかなえている	26 42.6%	35 57.4%	61 100.0%
何とかまかなえている	122 37.4%	204 62.6%	326 100.0%
多少足りない	87 34.9%	162 65.1%	249 100.0%
かなり足りない	53 29.1%	129 70.9%	182 100.0%
合計	288 35.2%	530 64.8%	818 100.0%

P=0.162>0.05

表12-1-12 仕事内容と地域の社会活動への参加の有無のクロス表

	参加	不参加	合計
会社・団体被雇用者	72 28.6%	180 71.4%	252 100.0%
会社・団体の役員	7 23.3%	23 76.7%	30 100.0%
自営業や自由業	42 47.7%	46 52.3%	88 100.0%
自営業の家族従業者	10 43.5%	13 56.5%	23 100.0%
シルバー人材センター	16 59.3%	11 40.7%	27 100.0%
家庭で行う内職	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
頼まれて行う仕事	4 40.0%	6 60.0%	10 100.0%
その他	1 25.0%	3 75.0%	4 100.0%
合計	153 35.2%	282 64.8%	435 100.0%

P=0.002<0.01

12-2 近隣の人とのつきあいの有無

表12-2-1 性別と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
男性	363	86	449
	80.8%	19.2%	100.0%
女性	417	48	465
	89.7%	10.3%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表12-2-2 年齢5区分と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
60-64	129	49	178
	72.5%	27.5%	100.0%
65-69	181	30	211
	85.8%	14.2%	100.0%
70-74	215	29	244
	88.1%	11.9%	100.0%
75-79	155	13	168
	92.3%	7.7%	100.0%
80-84	100	13	113
	88.5%	11.5%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.000<0.01

表12-2-3 配偶者の有無と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
有配偶	645	98	743
	86.8%	13.2%	100.0%
無配偶	135	36	171
	78.9%	21.1%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.012<0.05

表12-2-4 子の有無と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
子がいる	742	114	856
	86.7%	13.3%	100.0%
子はない	38	20	58
	65.5%	34.5%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.000<0.01

次に近隣の人とのつきあいの有無を尋ねた。全体的には大半（85%）の回答者は近隣の人とつきあいがあり、つきあいがない者は15%と少ない。

表 12-2-1 は性別とのクロス集計結果である。女性は男性に比べて近隣の人とつきあいのある者が比較的多い。

表 12-2-2 は年齢5区分とのクロス集計結果である。60代前半ではつきあいのある者はやや少ないが、60代後半以降では多くなる。

表 12-2-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者はいる者に比べて近隣の人とつきあいのある者がやや少ない。

表 12-2-4 は子の有無とのクロス集計結果である。子がない者は子がいる者に比べて近隣の人とつきあいがある者がかなり低い。

表12-2-5 世帯形態と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
一人暮らし	81	25	106
	76.4%	23.6%	100.0%
夫婦のみ	408	61	469
	87.0%	13.0%	100.0%
その他の同居人あり	289	47	336
	86.0%	14.0%	100.0%
無回答	2	1	3
	66.7%	33.3%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P = 0.033 < 0.05

表12-2-7 現在の健康状態と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
よい	92	15	107
	86.0%	14.0%	100.0%
まあよい	211	32	243
	86.8%	13.2%	100.0%
普通	338	46	384
	88.0%	12.0%	100.0%
あまりよくない	125	31	156
	80.1%	19.9%	100.0%
よくない	12	10	22
	54.5%	45.5%	100.0%
無回答	2	0	2
	100.0%	0.0%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表 12-2-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいは世帯形態と強い相関関係があり、「一人暮らし」では近隣の人とのつきあいがいない者の割合がやや高い。

表 12-2-6 は処方薬の服用の有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は処方薬の服用の有無によって大きな差はなかった。

表 12-2-7 は健康状態とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は現在の健康状態と

表12-5-6 服用する処方薬の有無と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
処方薬が ある	552	88	640
	86.3%	13.8%	100.0%
処方薬は ない	227	46	273
	83.2%	16.8%	100.0%
無回答	1	0	1
	100.0%	0.0%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P = 0.440 > 0.05

表12-2-8 居住する住宅と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
持ち家 (ローン無)	697	94	791
	88.1%	11.9%	100.0%
持ち家 (ローン有)	53	13	66
	80.3%	19.7%	100.0%
賃貸住宅	17	25	42
	40.5%	59.5%	100.0%
公営住宅	7	1	8
	87.5%	12.5%	100.0%
その他	6	1	7
	85.7%	14.3%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

非常に強い相関関係があり、健康状態が「よくない」者では近隣の人とのつきあいがいない者は46%とその他の健康状態の者と比べてかなり高い。

表 12-2-8 は居住する住宅とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は居住する住宅と強い相関関係があり、「賃貸住宅」に住む者ではつきあいのない者の割合が6割とかなり高い。

表12-2-9 生きがいを感じる程度と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
十分に感じている	213	28	241
	88.4%	11.6%	100.0%
多少は感じている	429	50	479
	89.6%	10.4%	100.0%
あまり感じていない	104	44	148
	70.3%	29.7%	100.0%
まったく感じていない	7	6	13
	53.8%	46.2%	100.0%
わからない	27	6	33
	81.8%	18.2%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P = 0.000 < 0.01

表12-2-10 これまでの人生の満足度と近隣の人とのつきあいのクロス表

	ある	ない	合計
かなり満足	89	12	101
	88.1%	11.9%	100.0%
まあまあ満足	509	80	589
	86.4%	13.6%	100.0%
やや不満	101	17	118
	85.6%	14.4%	100.0%
大いに不満	13	9	22
	59.1%	40.9%	100.0%
どちらともいえない	67	16	83
	80.7%	19.3%	100.0%
無回答	1	0	1
	100.0%	0.0%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.011<0.05

表12-2-11 現在の幸福度と近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
10点	86	11	97
	88.7%	11.3%	100.0%
9点	72	12	84
	85.7%	14.3%	100.0%
8点	241	30	271
	88.9%	11.1%	100.0%
7点	156	25	181
	86.2%	13.8%	100.0%
6点	95	21	116
	81.9%	18.1%	100.0%
5点	105	23	128
	82.0%	18.0%	100.0%
4点	13	6	19
	68.4%	31.6%	100.0%

	ある	ない	合計
3点	6	2	8
	75.0%	25.0%	100.0%
2点	0	3	3
	0.0%	100.0%	100.0%
1点	3	0	3
	100.0%	0.0%	100.0%
0点	1	1	2
	50.0%	50.0%	100.0%
無回答	2	0	2
	100.0%	0.0%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.001<0.01

前頁の表 12-2-9 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。生きがいを感じていない者では生きがいを感じている者に比べて近隣の人とのつきあいがいない者の割合が高い。

表 12-2-10 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無はこれまでの人生の満足度と強い相関関係があり、これまでの人生に「大いに不満である」者では近隣の人とのつきあいがいない者の割合が 41% と相対的に高い。

表 12-2-11 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は現在の幸福度と強い相関関係があり、幸福度の点数が高い者（8 点以上）ではつきあいのある者が比較的多い。幸福度の点数が低くなると、近隣の人とのつきあいがいない者の割合がやや高くなる傾向がある。

表12-2-13 現在の経済的な暮らし向きと近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
ゆとりあり全く心配なく暮らす	109	15	124
	87.9%	12.1%	100.0%
ゆとりはないが心配なく暮らす	433	66	499
	86.8%	13.2%	100.0%
家計にゆとりがなく、多少心配	210	39	249
	84.3%	15.7%	100.0%
家計が苦しく、非常に心配	24	13	37
	64.9%	35.1%	100.0%
その他	4	1	5
	80.0%	20.0%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.007<0.01

表12-2-14 1ヶ月生活費と近隣とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
10万円未満	68	22	90
	75.6%	24.4%	100.0%
10万円～15万円	161	25	186
	86.6%	13.4%	100.0%
15万円～20万円	207	33	240
	86.3%	13.8%	100.0%
20万円～25万円	180	21	201
	89.6%	10.4%	100.0%
25万円～30万円	85	19	104
	81.7%	18.3%	100.0%
30万円～35万円	46	8	54
	85.2%	14.8%	100.0%
35万円～40万円	23	2	25
	92.0%	8.0%	100.0%
40万円以上	10	4	14
	71.4%	28.6%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P= 0.047<0.05

表 12-2-13 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計が苦しく非常に心配である」者では近隣の人とのつきあいがいない者の割合がかなり高い。

表 12-2-14 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は1ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係がある。1ヶ月の生活費が10万円未満では近隣の人とのつきあいがいない者の割合がやや高い。

表12-2-15 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと近隣の人とのつきあいの有無のクロス表

	ある	ない	合計
十分だと思う	115	10	125
	92.0%	8.0%	100.0%
少し足りないと思う	251	48	299
	83.9%	16.1%	100.0%
かなり足りないと思う	235	57	292
	80.5%	19.5%	100.0%
わからない	127	10	137
	92.7%	7.3%	100.0%
貯蓄はしていない	52	9	61
	85.2%	14.8%	100.0%
合計	780	134	914
	85.3%	14.7%	100.0%

P=0.003<0.01

表12-2-16 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と近隣の人とのつきあいのクロス表

	ある	ない	合計
十分まかなえている	54	7	61
	88.5%	11.5%	100.0%
何とかまかなえている	299	27	326
	91.7%	8.3%	100.0%
多少足りない	218	31	249
	87.6%	12.4%	100.0%
かなり足りない	146	36	182
	80.2%	19.8%	100.0%
合計	717	101	818
	87.7%	12.3%	100.0%

P=0.003<0.01

表12-2-15は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと非常に強い相関関係がある。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして十分だと思う者では近隣の人とのつきあいがある者の割合は92%と非常に高い。これに対して、「かなり足りないと思う」者では近隣の人とのつきあいがある者の割合はやや低い。

表12-2-16は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの有無は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と非常に強い相関関係がある。公的年金では毎月の生活費がかなり足りない者では近隣の人とのつきあいがいない者がやや多い。

12-3 近隣の人とのつきあいの程度

表12-3-1 性別と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	互いに家を訪問しあう	どちらかが訪問する	会ったときに話しする	挨拶を交わすだけ	合計
男性	65	107	162	29	363
	17.9%	29.5%	44.6%	8.0%	100.0%
女性	118	113	164	22	417
	28.3%	27.1%	39.3%	5.3%	100.0%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100.0%

P=0.005<0.01

次に近隣の人とのつきあいの程度を尋ねた。前頁の表 12-3-1 は性別とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は性別と非常に強い相関関係があり、女性は男性に比べて深いつきあい（家の訪問）をする者の割合が高い。

表12-3-2 年齢と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互訪問	一方訪問	出会い時会話	出会い時挨拶	合計
60-64	29	29	56	15	129
	22.5%	22.5%	43.4%	11.6%	100%
65-69	32	50	87	12	181
	17.7%	27.6%	48.1%	6.6%	100%
70-74	52	51	100	12	215
	24.2%	23.7%	46.5%	5.6%	100%
75-79	39	57	52	7	155
	25.2%	36.8%	33.5%	4.5%	100%
80-84	31	33	31	5	100
	31.0%	33.0%	31.0%	5.0%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

表12-3-3 世帯形態と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互訪問	一方訪問	出会い時会話	出会い時挨拶	合計
一人暮らし	18	22	32	9	81
	22.2%	27.2%	39.5%	11.1%	100%
夫婦のみ	91	119	172	26	408
	22.3%	29.2%	42.2%	6.4%	100%
同居人あり	73	79	121	16	289
	25.3%	27.3%	41.9%	5.5%	100%
無回答	1	0	1	0	2
	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.796>0.05

表12-3-4 配偶者の有無と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互訪問	一方訪問	出会い時会話	出会い時挨拶	合計
有配偶	149	182	275	39	645
	23.1%	28.2%	42.6%	6.0%	100%
無配偶	34	38	51	12	135
	25.2%	28.1%	37.8%	8.9%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.529>0.05

表12-3-5 子の有無と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互訪問	一方訪問	出会い時会話	出会い時挨拶	合計
あり	176	210	309	47	742
	23.7%	28.3%	41.6%	6.3%	100%
なし	7	10	17	4	38
	18.4%	26.3%	44.7%	10.5%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.674>0.05

表 12-3-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。年齢区分が高くなると深いつきあい（家の訪問）をする人の割合が高くなる傾向がある。

表 12-3-3 は世帯形態とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は世帯形態によって目立った差はなかった。

表 12-3-4 は配偶者の有無とのクロス集計結果であり、表 12-3-5 は子の有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は配偶者や子の有無と強い相関関係はなかった。

表12-3-6 現在の健康状態と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
よい	23	32	34	3	92
	25.0%	34.8%	37.0%	3.3%	100%
まあよい	48	59	87	17	211
	22.7%	28.0%	41.2%	8.1%	100%
普通	74	87	154	23	338
	21.9%	25.7%	45.6%	6.8%	100%
あまりよ くない	34	40	43	8	125
	27.2%	32.0%	34.4%	6.4%	100%
よくない	3	2	7	0	12
	25.0%	16.7%	58.3%	0.0%	100%
無回答	1	0	1	0	2
	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.594>0.05

表12-3-8 生きがいを感じる程度と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
十分に 感じる	69	65	71	8	213
	32.4%	30.5%	33.3%	3.8%	100%
多少は 感じる	89	119	192	29	429
	20.7%	27.7%	44.8%	6.8%	100%
あまり 感じず	20	28	48	8	104
	19.2%	26.9%	46.2%	7.7%	100%
全く感 じない	0	3	3	1	7
	0.0%	42.9%	42.9%	14.3%	100%
わから ない	5	5	12	5	27
	18.5%	18.5%	44.4%	18.5%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.006<0.01

表12-3-7 居住する住宅と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
持家(ロー ン無)	169	198	287	43	697
	24.2%	28.4%	41.2%	6.2%	100%
持家(住宅 ローン有)	11	15	25	2	53
	20.8%	28.3%	47.2%	3.8%	100%
賃貸住宅	1	3	9	4	17
	5.9%	17.6%	52.9%	23.5%	100%
公営住宅	1	2	3	1	7
	14.3%	28.6%	42.9%	14.3%	100%
その他	1	2	2	1	6
	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.265>0.05

表12-3-9 これまでの人生の満足度と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
かなり 満足	28	28	29	4	89
	31.5%	31.5%	32.6%	4.5%	100%
まあま あ満足	119	137	227	26	509
	23.4%	26.9%	44.6%	5.1%	100%
やや不 満	21	28	43	9	101
	20.8%	27.7%	42.6%	8.9%	100%
大いに 不満	1	5	5	2	13
	7.7%	38.5%	38.5%	15.4%	100%
どちら とも	13	22	22	10	67
	19.4%	32.8%	32.8%	14.9%	100%
無回答	1	0	0	0	1
	100%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.045<0.05

前頁の表 12-3-6 は健康状態とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は健康状態によって明瞭な差異はみられなかった。

表 12-3-7 は居住する住宅とのクロス集計結果である。検定の結果では近隣の人とのつきあいの程度は居住する住宅と強い相関関係はなかったが、「賃貸住宅」に居住する者は他の住宅形態と比べて深いつきあい（家の訪問）をする者の割合が低い。

表 12-3-8 は普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は生きがいを感じる程度と非常に強い相関関係がある。生きがいを十分に感じている者では深いつきあいをする者の割合が高い。これに対して、生きがいを感じていない者では深いつきあいをする者の割合が比較的低い。

表 12-3-9 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度はこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。これまでの人生に「かなり満足している」者では深いつきあいをする者の割合が比較的高いが、「大いに不満である」者では深いつきあいをする者の割合は比較的低い。

下の表 12-3-10 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。検定の結果では近隣の人とのつきあいの程度は現在の幸福度と強い相関関係はなかったが、幸福度の点数が高い者では深いつきあいをする者の割合が比較的高い。

表12-3-10 現在の幸福度と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計		相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
10点	28	27	27	4	86	4点	4	5	4	0	13
	32.6%	31.4%	31.4%	4.7%	100%		30.8%	38.5%	30.8%	0.0%	100%
9点	15	23	30	4	72	3点	2	2	0	2	6
	20.8%	31.9%	41.7%	5.6%	100%		33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100%
8点	56	67	106	12	241	1点	0	0	2	1	3
	23.2%	27.8%	44.0%	5.0%	100%		0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100%
7点	38	41	68	9	156	0点	0	1	0	0	1
	24.4%	26.3%	43.6%	5.8%	100%		0.0%	100%	0.0%	0.0%	100%
6点	20	23	45	7	95	無回答	1	0	1	0	2
	21.1%	24.2%	47.4%	7.4%	100%		50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100%
5点	19	31	43	12	105	合計	183	220	326	51	780
	18.1%	29.5%	41.0%	11.4%	100%		23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

$P=0.215>0.05$

次頁の表 12-3-11 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は地域の社会活動への参加の有無によって大きな違いがある。地域の社会活動に参加している者では参加していない者に比べて近隣の人と深いつきあいをする者の割合が比較的高い。

表 12-3-12 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。検定の結果では近隣の人とのつきあいの程度は現在の経済的な暮らし向きと強い相関関係はなかったが、家計が苦しく非常に心配であ

る者では深いつきあい（家の訪問）をする者の割合は比較的低い。

表12-3-11 地域の社会活動への参加と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	互いに家を 訪問しあう	どちらかが 訪問する	会ったとき に話する	挨拶を交わすだけ の人がいるのみ	合計
参加している	88	103	102	6	299
	29.4%	34.4%	34.1%	2.0%	100.0%
参加していない	95	117	224	45	481
	19.8%	24.3%	46.6%	9.4%	100.0%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100.0%

P=0.000<0.01

表12-3-12 現在の経済的な暮らし向きと近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	互いに家を 訪問しあう	どちらかが 訪問する	会ったとき に話する	挨拶を交わ すだけ	合計
家計にゆとりがあり、まったく 心配なく暮らしている	30	29	46	4	109
	27.5%	26.6%	42.2%	3.7%	100.0%
家計にあまりゆとりはない が、それほど心配なく暮らす	107	126	172	28	433
	24.7%	29.1%	39.7%	6.5%	100.0%
家計にゆとりがなく多少心配	40	61	93	16	210
	19.0%	29.0%	44.3%	7.6%	100.0%
家計が苦しく、非常に心配	4	4	13	3	24
	16.7%	16.7%	54.2%	12.5%	100.0%
その他	2	0	2	0	4
	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100.0%

P=0.443>0.05

次頁の表 12-3-13 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。検定の結果では近隣の人とのつきあいの程度は1ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係はなかったが、1ヶ月の生活費が大きい者（35万円以上）では深いつきあいをする者の割合が比較的高い。

表 12-3-14 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きな違いはなかった。

表 12-3-15 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって目立った差異はなかった。

表12-3-13 1ヶ月の生活費と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	互いに家を 訪問しあう	どちらかが 訪問する	会ったとき に話しする	挨拶を交わ すだけ	合計
10万円未満	16	22	24	6	68
	23.5%	32.4%	35.3%	8.8%	100.0%
10万円~15万円	41	45	64	11	161
	25.5%	28.0%	39.8%	6.8%	100.0%
15万円~20万円	52	59	87	9	207
	25.1%	28.5%	42.0%	4.3%	100.0%
20万円~25万円	39	51	74	16	180
	21.7%	28.3%	41.1%	8.9%	100.0%
25万円~30万円	16	25	42	2	85
	18.8%	29.4%	49.4%	2.4%	100.0%
30万円~35万円	7	12	24	3	46
	15.2%	26.1%	52.2%	6.5%	100.0%
35万円~40万円	9	4	8	2	23
	39.1%	17.4%	34.8%	8.7%	100.0%
40万円以上	3	2	3	2	10
	30.0%	20.0%	30.0%	20.0%	100.0%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100.0%

P=0.530>0.05

表12-3-14 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
十分だ と思う	31	23	52	9	115
	27.0%	20.0%	45.2%	7.8%	100%
少し不 足	59	85	96	11	251
	23.5%	33.9%	38.2%	4.4%	100%
かなり 不足	55	70	97	13	235
	23.4%	29.8%	41.3%	5.5%	100%
わから ない	27	33	56	11	127
	21.3%	26.0%	44.1%	8.7%	100%
貯蓄し てない	11	9	25	7	52
	21.2%	17.3%	48.1%	13.5%	100%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100%

P=0.114>0.05

表12-3-15 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	相互 訪問	一方 訪問	出会い 時会話	出会い 時挨拶	合計
十分充 足	14	16	22	2	54
	25.9%	29.6%	40.7%	3.7%	100%
何とか 充足	83	91	113	12	299
	27.8%	30.4%	37.8%	4.0%	100%
多少不 足	37	65	100	16	218
	17.0%	29.8%	45.9%	7.3%	100%
かなり 不足	35	36	61	14	146
	24.0%	24.7%	41.8%	9.6%	100%
合計	169	208	296	44	717
	23.6%	29.0%	41.3%	6.1%	100%

P=0.074>0.05

表12-3-16 従事した最長の職と近隣の人とのつきあいの程度のクロス表

	互いに家を 訪問しあう 人がいる	どちらかが 訪問する人 がいる	会ったとき に話しをす る人がいる	挨拶を交わ す人がいる だけである	合計
農林漁業	14	11	7	3	35
	40.0%	31.4%	20.0%	8.6%	100.0%
自営業	27	25	30	6	88
	30.7%	28.4%	34.1%	6.8%	100.0%
常勤被雇用者	95	101	176	28	400
	23.8%	25.3%	44.0%	7.0%	100.0%
契約・派遣・臨時・ パートの仕事	18	27	54	5	104
	17.3%	26.0%	51.9%	4.8%	100.0%
会社・団体役員	7	22	21	4	54
	13.0%	40.7%	38.9%	7.4%	100.0%
内職	0	5	0	0	5
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
専業主婦・専業主夫	21	22	28	4	75
	28.0%	29.3%	37.3%	5.3%	100.0%
その他	1	7	10	1	19
	5.3%	36.8%	52.6%	5.3%	100.0%
合計	183	220	326	51	780
	23.5%	28.2%	41.8%	6.5%	100.0%

P=0.004<0.01

表 12-3-16 はこれまでに従事した最長の職とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいの程度はこれまでに従事した最長の職と非常に強い相関関係がある。「農林漁業」と「自営業」ではその他の職業に比べて深いつきあいをする者の割合がかなり高い。

第13章 生きがいを感じている程度、幸福度、満足度

13-1 普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度

表13-1-1 性別と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
男性	108	239	76	10	16	449
	24.1%	53.2%	16.9%	2.2%	3.6%	100.0%
女性	133	240	72	3	17	465
	28.6%	51.6%	15.5%	0.6%	3.7%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.183>0.05

表13-1-2 年齢5区分と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
60-64	42	99	31	1	5	178
	23.6%	55.6%	17.4%	0.6%	2.8%	100.0%
65-69	46	126	29	0	10	211
	21.8%	59.7%	13.7%	0.0%	4.7%	100.0%
70-74	69	115	48	5	7	244
	28.3%	47.1%	19.7%	2.0%	2.9%	100.0%
75-79	49	88	22	4	5	168
	29.2%	52.4%	13.1%	2.4%	3.0%	100.0%
80-84	35	51	18	3	6	113
	31.0%	45.1%	15.9%	2.7%	5.3%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.141>0.05

単純集計の結果では、普段の生活や仕事に生きがい(喜びや楽しみ)を「十分に感じている」は26%、「多少は感じている」は52%、「あまり感じていない」は16%、「まったく感じていない」は1%、「わからない」は4%だった。「十分」に「多少」を加えると8割近く(78%)が生きがいを感じている。

表13-1-1は性別とのクロス集計結果で、表13-1-2は年齢5区分とのクロス集計結果である。生きがいを感じている程度は性別で差はなかった。また年齢区分別でも大きな違いはなかった。

次頁の表13-1-3は年齢2区分とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は年齢2区分と非常に強い相関関係がある。60代よりも70代以降で生きがいを「十分に感じている」の割合が高い。

表13-1-3 年齢2区分と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
60-69	88	225	60	1	15	389
	22.6%	57.8%	15.4%	0.3%	3.9%	100.0%
70-84	153	254	88	12	18	525
	29.1%	48.4%	16.8%	2.3%	3.4%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.007<0.01

表13-1-4 配偶者の有無と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
有配偶	198	400	114	6	25	743
	26.6%	53.8%	15.3%	0.8%	3.4%	100.0%
無配偶	43	79	34	7	8	171
	25.1%	46.2%	19.9%	4.1%	4.7%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.005<0.01

表13-1-5 子の有無と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
子がいる	227	457	130	12	30	856
	26.5%	53.4%	15.2%	1.4%	3.5%	100.0%
子はいな い	14	22	18	1	3	58
	24.1%	37.9%	31.0%	1.7%	5.2%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.022<0.05

表 13-1-4 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は配偶者の有無と非常に強い相関関係があり、配偶者がいる者では配偶者がいない者に比べて生きがいを感じている割合がやや高い。

表 13-1-5 は子の有無とのクロス集計結果である。生きがいを感じる程度は子の有無と強い相関関係がある。子がいる者は子がない者に比べて生きがいを感じている割合が高い。「十分」に「多少」を加えた「生きがいを感じている」は子のある者は80%だが、子のない者は62%である。

表13-1-6 世帯形態と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
一人暮らし	26	47	24	4	5	106
	24.5%	44.3%	22.6%	3.8%	4.7%	100.0%
夫婦のみ	125	255	69	3	17	469
	26.7%	54.4%	14.7%	0.6%	3.6%	100.0%
その他の同 居人あり	88	177	54	6	11	336
	26.2%	52.7%	16.1%	1.8%	3.3%	100.0%
無回答	2	0	1	0	0	3
	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.182>0.05

表13-1-7 服用する処方薬の有無と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
処方薬があ る	166	328	109	13	24	640
	25.9%	51.3%	17.0%	2.0%	3.8%	100.0%
処方薬はな い	75	151	39	0	8	273
	27.5%	55.3%	14.3%	0.0%	2.9%	100.0%
無回答	0	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-6 は世帯形態とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は世帯形態と強い相関関係はなかったが、「一人暮らし」で「十分」に「多少」を足した「生きがいを感じている」がやや少ない。「生きがいを感じている」は「夫婦のみ」で81%、「その他の同居人あり」で79%だが、「一人暮らし」では69%である。

表 13-1-7 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。服用する処方薬がない者は、服用する処方薬がある者に比べて、生きがいを感じている者の割合が若干高い。

次頁の表 13-1-8 は健康状態とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は健康状態によって明瞭な違いがみられる。健康状態がよい者では生きがいを感じている者の割合は高く、健康状態がよくない者では生きがいを感じている者の割合は比較的低い。健康状態が「よい」では生きがい「十分に感じている」は63%だが、健康状態が「あまりよくない」と「よくない」では生きがい「十分に感じている」は共に14%である。他方で健康状態が「よくない」では生きがいを「あまり感じていない」は32%。「まったく感じていない」が14%と相対的に高い。

表13-1-8 現在の健康状態と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
よい	67	34	6	0	0	107
	62.6%	31.8%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
まあよい	79	128	31	0	5	243
	32.5%	52.7%	12.8%	0.0%	2.1%	100.0%
普通	71	227	68	2	16	384
	18.5%	59.1%	17.7%	0.5%	4.2%	100.0%
あまりよ くない	21	82	36	8	9	156
	13.5%	52.6%	23.1%	5.1%	5.8%	100.0%
よくない	3	7	7	3	2	22
	13.6%	31.8%	31.8%	13.6%	9.1%	100.0%
無回答	0	1	0	0	1	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-1-9 居住する住宅と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
持ち家（住宅 ローンなし）	213	418	122	8	30	791
	26.9%	52.8%	15.4%	1.0%	3.8%	100.0%
持ち家（ロー ン返済中）	19	35	11	0	1	66
	28.8%	53.0%	16.7%	0.0%	1.5%	100.0%
賃貸住宅	7	19	13	3	0	42
	16.7%	45.2%	31.0%	7.1%	0.0%	100.0%
公営住宅	1	4	1	1	1	8
	12.5%	50.0%	12.5%	12.5%	12.5%	100.0%
その他	1	3	1	1	1	7
	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-9 は居住する住宅とのクロス集計結果である。生きがいを感じている程度は居住する住宅と非常に強い相関関係がある。「持ち家」では生きがいを感じている割合は高く、「賃貸住宅」や「公営住宅」では生きがいを感じている割合はやや低い。「十分」に「多少」を足した「生きがいを感じている」は「持ち家(住宅ローンなし)」で79%、「持ち家(ローン返済中)」で82%だが、「賃貸住宅」では62%、「公営住宅」で63%である。「賃貸住宅」では「あまり感じていない」が31%とかなり高い。

表13-1-10 現在の幸福度と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
10点	77	18	1	0	1	97
	79.4%	18.6%	1.0%	0.0%	1.0%	100.0%
9点	49	34	0	0	1	84
	58.3%	40.5%	0.0%	0.0%	1.2%	100.0%
8点	85	168	12	0	6	271
	31.4%	62.0%	4.4%	0.0%	2.2%	100.0%
7点	21	124	28	1	7	181
	11.6%	68.5%	15.5%	0.6%	3.9%	100.0%
6点	4	68	36	1	7	116
	3.4%	58.6%	31.0%	0.9%	6.0%	100.0%
5点	4	61	53	3	7	128
	3.1%	47.7%	41.4%	2.3%	5.5%	100.0%
4点	1	4	10	4	0	19
	5.3%	21.1%	52.6%	21.1%	0.0%	100.0%
3点	0	1	5	1	1	8
	0.0%	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	100.0%
2点	0	0	2	1	0	3
	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
1点	0	0	1	1	1	3
	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%
0点	0	0	0	1	1	2
	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%
無回答	0	1	0	0	1	2
	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-10 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は現在の幸福度と非常に強い相関関係がある。幸福度の点数が高い者では生きがいを感じている者の割合が高い。幸福度の点数が下がると生きがいを感じている者の割合は低くなり、4 点以下では生きがいを感じていない者の方が多くなる。

次頁の表 13-1-11 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度はこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係がある。これまでの人生に満足している者では生きがいを感じている者の割合が非常に高い。特に「かなり満足」では「十分に感じている」が 78%で、「多少感じている」を加えると 97%が生きがいを感じている。これに対して、「大いに不満」では「十分に感じている」は皆無で、「多少感じている」が 23%に過ぎない。他方で「あまり感じていない」が 55%、「まったく感じていない」が 14%である。

表13-1-11 これまでの人生の満足度と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
かなり満足	79	19	2	1	0	101
	78.2%	18.8%	2.0%	1.0%	0.0%	100.0%
まあまあ満足	148	350	75	1	15	589
	25.1%	59.4%	12.7%	0.2%	2.5%	100.0%
やや不満	9	68	35	5	1	118
	7.6%	57.6%	29.7%	4.2%	0.8%	100.0%
大いに不満	0	5	12	3	2	22
	0.0%	22.7%	54.5%	13.6%	9.1%	100.0%
どちらともい えない	5	36	24	3	15	83
	6.0%	43.4%	28.9%	3.6%	18.1%	100.0%
無回答	0	1	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-1-12 現在の経済的な暮らし向きと生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからな い	合計
家計にゆとりがありま たく心配なく暮らす	67	44	12	0	1	124
	54.0%	35.5%	9.7%	0.0%	0.8%	100.0%
家計にあまりゆとりはな いが心配なく暮らす	126	286	66	2	19	499
	25.3%	57.3%	13.2%	0.4%	3.8%	100.0%
家計にゆとりがなく多少 心配	41	132	58	9	9	249
	16.5%	53.0%	23.3%	3.6%	3.6%	100.0%
家計が苦しく非常に心配	6	14	12	1	4	37
	16.2%	37.8%	32.4%	2.7%	10.8%	100.0%
その他	1	3	0	1	0	5
	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-12 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。生きがいを感じている程度は現在の経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係がある。「家計にゆとりがありまったく心配がない」では「十分に感じている」が 54%だが、「家計が苦しく非常に心配」では「十分に感じている」は 16%にとどまる。

表13-1-13 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と生きがいを感じている程度のカロス表

	十分に感じている	多少は感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	合計
良くなった	8	1	0	0	0	9
	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえば良くなった	25	38	7	0	0	70
	35.7%	54.3%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
どちらかといえば悪くなった	48	141	51	6	6	252
	19.0%	56.0%	20.2%	2.4%	2.4%	100.0%
悪くなった	11	32	21	1	1	66
	16.7%	48.5%	31.8%	1.5%	1.5%	100.0%
変わらない	149	267	69	6	26	517
	28.8%	51.6%	13.3%	1.2%	5.0%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-1-14 暮らし向きに対するコロナの影響の有無と生きがいを感じている程度のカロス表

	十分に感じている	多少は感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	合計
影響がある	125	261	83	7	9	485
	25.8%	53.8%	17.1%	1.4%	1.9%	100.0%
影響はない	94	178	47	3	14	336
	28.0%	53.0%	14.0%	0.9%	4.2%	100.0%
わからない	22	40	18	3	10	93
	23.7%	43.0%	19.4%	3.2%	10.8%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.002<0.01

表 13-1-13 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。生きがいを感じる程度は暮らし向きの変化と非常に強い相関関係がある。1 年前と比べて経済的な暮らし向きが良くなった者では生きがいを「十分に感じている」が 9 割に近いが、暮らし向きが悪くなった者では生きがいを「十分に感じている」は 17%にとどまる。他方で 1 年前と比べて経済的な暮らし向きが悪くなった者では生きがいを「まったく感じていない」が 32%もいる。

表 13-1-14 は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。影響がある者と影響がない者の差はあまりないが、えいきょうがあるか「わからない」で生きがいを感じる者の割合がコロナの影響がない者に比べてやや低い。

表13-1-15 1ヶ月の生活費と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
10万円未満	19	42	19	4	6	90
	21.1%	46.7%	21.1%	4.4%	6.7%	100.0%
10万円~15万円	48	92	34	3	9	186
	25.8%	49.5%	18.3%	1.6%	4.8%	100.0%
15万円~20万円	63	131	33	4	9	240
	26.3%	54.6%	13.8%	1.7%	3.8%	100.0%
20万円~25万円	47	117	33	0	4	201
	23.4%	58.2%	16.4%	0.0%	2.0%	100.0%
25万円~30万円	26	59	15	1	3	104
	25.0%	56.7%	14.4%	1.0%	2.9%	100.0%
30万円~35万円	18	26	9	0	1	54
	33.3%	48.1%	16.7%	0.0%	1.9%	100.0%
35万円~40万円	13	7	4	1	0	25
	52.0%	28.0%	16.0%	4.0%	0.0%	100.0%
40万円以上	7	5	1	0	1	14
	50.0%	35.7%	7.1%	0.0%	7.1%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.070>0.05

表 13-1-15 は 1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は1ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係はなかった。しかし、1ヶ月の生活費が35万円以上の者では生きがいを十分に感じている者の割合が半数以上になっている。

次頁の表 13-1-16 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は最大の収入源によって相違がある。「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者では生きがいを十分に感じているが46%と相対的に大きな割合である。仕事による収入を最大の収入源とする者では公的年金を最大の収入源とする者よりも生きがいを十分に感じている者の割合がやや高いことも注目される。

表 13-1-17 は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって違いがみられる。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」では生きがいを十分に感じている者が半数近い。これに対して、「かなり足りないと思う」では生きがいを十分に感じている者は2割弱に低下し、あまり感じていない者の割合が相対的に高い。

表13-1-16 現在の最大の収入源と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
仕事収入	68	114	35	0	5	222
	30.6%	51.4%	15.8%	0.0%	2.3%	100.0%
公的年金	153	335	106	12	24	630
	24.3%	53.2%	16.8%	1.9%	3.8%	100.0%
家賃・地代など 不動産収入	16	14	3	0	2	35
	45.7%	40.0%	8.6%	0.0%	5.7%	100.0%
株式・債券の配 当・利子・売却益	0	1	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
家族・親族から の援助	1	6	1	0	1	9
	11.1%	66.7%	11.1%	0.0%	11.1%	100.0%
生活扶助費	0	2	0	1	0	3
	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
その他	0	4	1	0	0	5
	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
収入はない	3	3	2	0	1	9
	33.3%	33.3%	22.2%	0.0%	11.1%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.011<0.05

表13-1-17 現在の貯蓄額を今後のどう思うかと生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからない	合計
十分だと思う	61	48	14	0	2	125
	48.8%	38.4%	11.2%	0.0%	1.6%	100.0%
少し足りない と思う	80	174	38	2	5	299
	26.8%	58.2%	12.7%	0.7%	1.7%	100.0%
かなり足りな いと思う	55	164	60	5	8	292
	18.8%	56.2%	20.5%	1.7%	2.7%	100.0%
わからない	39	63	20	1	14	137
	28.5%	46.0%	14.6%	0.7%	10.2%	100.0%
貯蓄はしてい ない	6	30	16	5	4	61
	9.8%	49.2%	26.2%	8.2%	6.6%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-1-18 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じ ている	多少は感じ ている	あまり感じ ていない	まったく感 じていない	わからな い	合計
100万円～500万円	11	18	8	0	3	40
	27.5%	45.0%	20.0%	0.0%	7.5%	100.0%
500万円～1000万円	32	61	14	4	3	114
	28.1%	53.5%	12.3%	3.5%	2.6%	100.0%
1000万円～1500万円	37	70	27	2	6	142
	26.1%	49.3%	19.0%	1.4%	4.2%	100.0%
1500万円～2000万円	30	97	27	4	6	164
	18.3%	59.1%	16.5%	2.4%	3.7%	100.0%
2000万円～3000万円	58	112	36	0	3	209
	27.8%	53.6%	17.2%	0.0%	1.4%	100.0%
3000万円～4000万円	30	36	10	0	2	78
	38.5%	46.2%	12.8%	0.0%	2.6%	100.0%
4000万円～5000万円	12	17	3	0	0	32
	37.5%	53.1%	9.4%	0.0%	0.0%	100.0%
5000万円以上	15	20	3	1	2	41
	36.6%	48.8%	7.3%	2.4%	4.9%	100.0%
わからない	16	48	20	2	8	94
	17.0%	51.1%	21.3%	2.1%	8.5%	100.0%
合計	241	479	148	13	33	914
	26.4%	52.4%	16.2%	1.4%	3.6%	100.0%

P=0.033<0.05

表 13-1-18 は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は、今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と強い相関関係がある。今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額が比較的多い（3000 万円以上）者では生きがいを十分に感じている者の割合が比較的高く、あまり感じていない者の割合が比較的低い。これに対して、今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額が低い者では生きがいを十分に感じている者の割合がやや低く、あまり感じていない者の割合がやや高い。

次頁の表 13-1-19 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと非常に強い相関関係がある。公的年金で毎月の生活費を「十分まかなえている」者では生きがいを十分に感じている者が半数に近く、あまり感じていない者は比較的少ない。これに対して、公的年金では毎月の生活費が「かなり足りない」者では生きがいを十分に感じている者はやや少なく、生きがいをあまり感じていない者が比較的多い。

表13-1-19 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じている	多少は感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	合計
十分まかなえている	30 49.2%	22 36.1%	7 11.5%	1 1.6%	1 1.6%	61 100.0%
何とかまかなえている	93 28.5%	170 52.1%	47 14.4%	2 0.6%	14 4.3%	326 100.0%
多少足りない	50 20.1%	146 58.6%	40 16.1%	10 4.0%	3 1.2%	249 100.0%
かなり足りない	47 25.8%	86 47.3%	37 20.3%	0 0.0%	12 6.6%	182 100.0%
合計	220 26.9%	424 51.8%	131 16.0%	13 1.6%	30 3.7%	818 100.0%

P=0.000<0.01

表13-1-20 収入を伴う仕事の有無と生きがいを感じている程度のクロス表

	十分に感じている	多少は感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	合計
仕事をしている	133 30.6%	232 53.3%	55 12.6%	3 0.7%	12 2.8%	435 100.0%
仕事をしていない	108 22.5%	247 51.6%	93 19.4%	10 2.1%	21 4.4%	479 100.0%
合計	241 26.4%	479 52.4%	148 16.2%	13 1.4%	33 3.6%	914 100.0%

P=0.002<0.01

表 13-1-20 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じる程度は収入を伴う仕事の有無と非常に強い相関関係がある。仕事をしている者では仕事をしていない者に比べて生きがいを感じている者がやや多く、生きがいを感じていない者が比較的少ない。

13-2 現在の幸福度

この調査では現在どの程度幸せかについて、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると何点ぐらいになるかを答えてもらった。表 13-2-1 はその度数分布表である。回答は10点から5点に集中し、4点以下は4%と非常に少なかった。

表13-2-1 現在の幸福度

	回答数	割合
10点	97	10.6%
9点	84	9.2%
8点	271	29.6%
7点	181	19.8%
6点	116	12.7%

	回答数	割合
5点	128	14.0%
4点	19	2.1%
3点	8	0.9%
2点	3	0.3%

	回答数	割合
1点	3	0.3%
0点	2	0.2%
無回答	2	0.2%
合計	914	100.0%

表13-2-2 性別と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
男性	37	35	129	102	60	68	7	5	3	2
	8.2%	7.8%	28.7%	22.7%	13.4%	15.1%	1.6%	1.1%	0.7%	0.4%
女性	60	49	142	79	56	60	12	3	0	1
	12.9%	10.5%	30.5%	17.0%	12.0%	12.9%	2.6%	0.6%	0.0%	0.2%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.064>0.05

表13-2-3 年齢5区分と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
60-64	14	14	58	42	22	20	3	3	1	0
	7.9%	7.9%	32.6%	23.6%	12.4%	11.2%	1.7%	1.7%	0.6%	0.0%
65-69	20	26	55	51	30	22	2	3	0	1
	9.5%	12.3%	26.1%	24.2%	14.2%	10.4%	0.9%	1.4%	0.0%	0.5%
70-74	27	21	84	39	24	39	5	2	0	1
	11.1%	8.6%	34.4%	16.0%	9.8%	16.0%	2.0%	0.8%	0.0%	0.4%
75-79	20	14	42	29	27	30	4	0	2	0
	11.9%	8.3%	25.0%	17.3%	16.1%	17.9%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%
80-84	16	9	32	20	13	17	5	0	0	1
	14.2%	8.0%	28.3%	17.7%	11.5%	15.0%	4.4%	0.0%	0.0%	0.9%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.328>0.05

表 13-2-2 は性別とのクロス集計結果である。検定の結果では幸福度と性別は強い相関関係はなかったが、女性は男性よりも幸福度の点数が高い者がやや多い。

表 13-2-3 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。検定の結果では幸福度と年齢 5 区分は強い相関関係はなかったが、年齢区分が高くなると幸福度の点数が高い者がやや多い。

表13-2-4 年齢2区分と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
60-69	34	40	113	93	52	42	5	6	1	1
	8.7%	10.3%	29.0%	23.9%	13.4%	10.8%	1.3%	1.5%	0.3%	0.3%
70-84	63	44	158	88	64	86	14	2	2	2
	12.0%	8.4%	30.1%	16.8%	12.2%	16.4%	2.7%	0.4%	0.4%	0.4%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.046<0.05

表13-2-5 配偶者の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
有配偶	84	69	226	148	94	103	10	4	2	1
	11.3%	9.3%	30.4%	19.9%	12.7%	13.9%	1.3%	0.5%	0.3%	0.1%
無配偶	13	15	45	33	22	25	9	4	1	2
	7.6%	8.8%	26.3%	19.3%	12.9%	14.6%	5.3%	2.3%	0.6%	1.2%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.007<0.01

表13-2-6 子の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
あり	92	81	258	169	108	118	17	5	3	2
	10.7%	9.5%	30.1%	19.7%	12.6%	13.8%	2.0%	0.6%	0.4%	0.2%
なし	5	3	13	12	8	10	2	3	0	1
	8.6%	5.2%	22.4%	20.7%	13.8%	17.2%	3.4%	5.2%	0.0%	1.7%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.005<0.01

表 13-2-4 は年齢 2 区分とのクロス集計結果である。現在の幸福度は年齢に区分と強い相関関係があり、70 歳以降の者では 60 代の者に比べて幸福度が高い点数の者が相対的に多い。

表 13-2-5 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度は配偶者の有無と非常に強い相関関係があり、配偶者がいる者では配偶者がいない者に比べて幸福度の点数の高い者が相対的に多い。

表 13-2-6 は子の有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度はこの有無と非常に強い相関関係があり、子がいる者ではこのいない者に比べて幸福度の点数が高い者が相対的に多い。

表13-2-7 世帯形態と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
一人暮らし	10	10	28	19	14	13	5	4	0	2
	9.4%	9.4%	26.4%	17.9%	13.2%	12.3%	4.7%	3.8%	0.0%	1.9%
夫婦のみ	59	46	139	86	58	68	7	2	1	1
	12.6%	9.8%	29.6%	18.3%	12.4%	14.5%	1.5%	0.4%	0.2%	0.2%
同居人あり	28	28	103	76	44	46	6	2	2	0
	8.3%	8.3%	30.7%	22.6%	13.1%	13.7%	1.8%	0.6%	0.6%	0.0%
無回答	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.013<0.05

表13-2-8 服用する処方薬の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
ある	66	56	183	120	90	95	15	7	3	2
	10.3%	8.8%	28.6%	18.8%	14.1%	14.8%	2.3%	1.1%	0.5%	0.3%
ない	31	28	88	61	26	33	4	1	0	1
	11.4%	10.3%	32.2%	22.3%	9.5%	12.1%	1.5%	0.4%	0.0%	0.4%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.000<0.01

表 13-2-7 は世帯形態とのクロス集計結果である。現在の幸福度は世帯形態によって相違がある。「夫婦のみ」では幸福度の点数が高い者が相対的にやや多い。

表 13-2-8 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度は服用する処方薬の有無と非常に強い相関関係がある。服用する処方薬がない者はある者に比べて幸福度の点数が高い者がやや多い。

次頁の表 13-2-9 は健康状態とのクロス集計結果である。現在の幸福度は健康状態と非常に強い相関関係があり、幸福度の点数は健康状態によって大きく異なる。端的にいえば、健康状態がよい者では幸福度の点数が高い者が相対的に多く、健康状態がよくない者では幸福度の点数が高い者は少ない。たとえば、幸福度の点数が8点以上は現在の健康状態が「よい」者では85%に達するが、健康状態が「あまりよくない」者では27%、「よくない」者では23%である。

表13-2-9 現在の健康状態と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
	33	21	37	7	3	4	1	1	0	0
	30.8%	19.6%	34.6%	6.5%	2.8%	3.7%	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%
まあよい	25	32	94	40	25	22	3	1	0	1
	10.3%	13.2%	38.7%	16.5%	10.3%	9.1%	1.2%	0.4%	0.0%	0.4%
普通	30	22	111	91	54	66	6	3	0	0
	7.8%	5.7%	28.9%	23.7%	14.1%	17.2%	1.6%	0.8%	0.0%	0.0%
あまりよくない	8	8	26	39	31	30	8	2	2	1
	5.1%	5.1%	16.7%	25.0%	19.9%	19.2%	5.1%	1.3%	1.3%	0.6%
よくない	1	1	3	4	3	5	1	1	1	1
	4.5%	4.5%	13.6%	18.2%	13.6%	22.7%	4.5%	4.5%	4.5%	4.5%
無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.000<0.01

表13-2-10 居住する住宅と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点
持ち家（住宅ローンなし）	85	75	240	158	97	107	15	7
	10.7%	9.5%	30.3%	20.0%	12.3%	13.5%	1.9%	0.9%
持ち家（ローン返済中）	7	5	17	17	11	7	1	0
	10.6%	7.6%	25.8%	25.8%	16.7%	10.6%	1.5%	0.0%
賃貸住宅	4	4	11	5	4	10	2	1
	9.5%	9.5%	26.2%	11.9%	9.5%	23.8%	4.8%	2.4%
公営住宅	0	0	2	1	2	2	1	0
	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	25.0%	25.0%	12.5%	0.0%
その他	1	0	1	0	2	2	0	0
	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%

P=0.001<0.01

表 13-2-10 は居住する住宅とのクロス集計結果である。現在の幸福度は居住する住宅と非常に強い相関関係があり「公営住宅」に住む者ではその他の住宅に居住する者に比べて、幸福度の点数が高い者は相対的に少なく、幸福度の点数が低い者が相対的に多い。

表13-2-11 生きがいを感じる程度と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
十分に感じている	77	49	85	21	4	4	1	0	0	0
	32.0%	20.3%	35.3%	8.7%	1.7%	1.7%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
多少は感じている	18	34	168	124	68	61	4	1	0	0
	3.8%	7.1%	35.1%	25.9%	14.2%	12.7%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%
あまり感じていない	1	0	12	28	36	53	10	5	2	1
	0.7%	0.0%	8.1%	18.9%	24.3%	35.8%	6.8%	3.4%	1.4%	0.7%
まったく感じていない	0	0	0	1	1	3	4	1	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	7.7%	23.1%	30.8%	7.7%	7.7%	7.7%
わからない	1	1	6	7	7	7	0	1	0	1
	3.0%	3.0%	18.2%	21.2%	21.2%	21.2%	0.0%	3.0%	0.0%	3.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.000<0.01

表13-2-12 これまでの人生の満足度と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
かなり満足	56	20	16	6	1	2	0	0	0	0	0
	55.4%	19.8%	15.8%	5.9%	1.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
まあまあ満足	38	62	230	133	68	51	5	1	1	0	0
	6.5%	10.5%	39.0%	22.6%	11.5%	8.7%	0.8%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
やや不満	2	1	14	27	26	38	8	2	0	0	0
	1.7%	0.8%	11.9%	22.9%	22.0%	32.2%	6.8%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
大いに不満	0	0	2	2	2	7	0	4	1	2	2
	0.0%	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	31.8%	0.0%	18.2%	4.5%	9.1%	9.1%
どちらとも	1	1	9	13	18	30	6	1	1	1	0
	1.2%	1.2%	10.8%	15.7%	21.7%	36.1%	7.2%	1.2%	1.2%	1.2%	0.0%
無回答	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3	2
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%	0.2%

P=0.000<0.01

表 13-2-11 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。現在の幸福度は普段の生活や仕事にどの程度生きがいを感じているかによって大きく異なる。端的に言えば、幸福度の点数が高い者は生きがいを感じている者に多く、生きがいを感じていない者に少ない。たとえば、幸福度の点数が8点以上は生きがいを十分に感じている者では88%に達するが、生きがいを「あまり感じていない」者では9%であり、「まったく感じていない」者では皆無である。

前頁の表 13-2-12 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。現在の幸福度はこれまでの人生の満足度と非常に強い相関関係があり、幸福度はこれまでの人生の満足度によって大きく異なる。たとえば、幸福度の点数が 8 点以上は「かなり満足している」者では 91%に達するが、「やや不満」な者では 14%であり、「大いに不満である」者では 9%にとどまる。

表 13-2-13 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。検定の結果では現在の幸福度は地域の社会活動への参加の有無と強い相関関係はなかった。しかし、集計結果では、地域の社会活動に参加している者は参加していない者に比べて、幸福度の点数が高い者がやや多い。

表 13-2-14 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度は近隣の人とのつきあいの有無と非常に強い相関関係がある。近隣の人とのつきあいがある者はつきあいが無い者に比べて、幸福度の点数が高い者がやや多い。

表13-2-13 地域の社会活動への参加の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
参加	42	29	100	57	32	37	6	0	0	0
	13.8%	9.5%	32.9%	18.8%	10.5%	12.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%
不参加	55	55	171	124	84	91	13	8	3	3
	9.0%	9.0%	28.0%	20.3%	13.8%	14.9%	2.1%	1.3%	0.5%	0.5%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.098>0.05

表13-2-14 近隣の人とのつきあいの有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
ある	86	72	241	156	95	105	13	6	0	3
	11.0%	9.2%	30.9%	20.0%	12.2%	13.5%	1.7%	0.8%	0.0%	0.4%
ない	11	12	30	25	21	23	6	2	3	0
	8.2%	9.0%	22.4%	18.7%	15.7%	17.2%	4.5%	1.5%	2.2%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.001<0.01

次頁の表 13-2-15 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。現在の幸福度は経済的な暮らし向きと非常に強い相関関係があり、幸福度は家計のゆとりや心配の程度によって大きく異なる。たとえば、幸福度の点数が 8 点以上は「家計にゆとりがあり全く心配ない」者では 70%だが、「家計にゆとりがなく多少心配」な者では 33%であり、「家計が苦しく非常に心配」な者では 24%である。

表 13-2-16 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。現在の幸福度は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と非常に強い相関関係がある。端的にいえば、幸福度の点数が高い者は 1 年前と比べて経済的な暮らし向きが良くなった者に相対的に多く、悪くなった者では少ない。たとえば、幸福度の点数が 8 点以上は「良くなった」者で 89%、「どちらかといえば良くなった」者で 64%

だが、「どちらかといえば悪くなった」者では41%、「悪くなった」者では29%にとどまる。

表13-2-15 現在の経済的な暮らし向きと現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
ゆとりあり全く心配ない	27 21.8%	18 14.5%	42 33.9%	19 15.3%	7 5.6%	9 7.3%	1 0.8%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%
ゆとりはないが心配ない	47 9.4%	53 10.6%	172 34.5%	108 21.6%	57 11.4%	49 9.8%	4 0.8%	4 0.8%	2 0.4%	1 0.2%
ゆとりがなく多少心配	20 8.0%	12 4.8%	50 20.1%	50 20.1%	44 17.7%	57 22.9%	11 4.4%	2 0.8%	1 0.4%	0 0.0%
家計が苦しく非常に心配	3 8.1%	0 0.0%	6 16.2%	4 10.8%	7 18.9%	12 32.4%	2 5.4%	1 2.7%	0 0.0%	2 5.4%
その他	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	97 10.6%	84 9.2%	271 29.6%	181 19.8%	116 12.7%	128 14.0%	19 2.1%	8 0.9%	3 0.3%	3 0.3%

P=0.000<0.01

表13-2-16 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
良くなった	5 55.6%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
どちらかといえば良化	12 17.1%	8 11.4%	25 35.7%	14 20.0%	6 8.6%	3 4.3%	0 0.0%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%
どちらかといえば悪化	22 8.7%	16 6.3%	66 26.2%	47 18.7%	40 15.9%	52 20.6%	6 2.4%	0 0.0%	1 0.4%	2 0.8%
悪化	2 3.0%	3 4.5%	14 21.2%	15 22.7%	10 15.2%	15 22.7%	5 7.6%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
変わらない	56 10.8%	55 10.6%	165 31.9%	104 20.1%	60 11.6%	58 11.2%	8 1.5%	4 0.8%	2 0.4%	1 0.2%
合計	97 10.6%	84 9.2%	271 29.6%	181 19.8%	116 12.7%	128 14.0%	19 2.1%	8 0.9%	3 0.3%	3 0.3%

P=0.000<0.01

次頁の表13-2-17は暮らし向きに対するコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度は暮らし向きにコロナの影響の有無と強い相関関係がある。暮らし向きに対するコロナの影響がない者では影響がある者に比べて幸福度の点数が高い者が若干多い。たとえば、幸福度の点数が8点以上はコロナの影響がない者では53%だが、コロナの影響がある者では49%である。

表13-2-17 暮らし向きに対するコロナの影響の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
ある	39	41	158	108	58	62	11	3	1	3
	8.0%	8.5%	32.6%	22.3%	12.0%	12.8%	2.3%	0.6%	0.2%	0.6%
ない	46	39	94	56	42	48	5	3	1	0
	13.7%	11.6%	28.0%	16.7%	12.5%	14.3%	1.5%	0.9%	0.3%	0.0%
わから ない	12	4	19	17	16	18	3	2	1	0
	12.9%	4.3%	20.4%	18.3%	17.2%	19.4%	3.2%	2.2%	1.1%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.017<0.05

表13-2-18 1ヶ月の生活費と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
10万円未満	7	6	19	13	13	22	6	2	0	1
	7.8%	6.7%	21.1%	14.4%	14.4%	24.4%	6.7%	2.2%	0.0%	1.1%
10万円~15 万円	19	15	53	30	29	29	7	2	0	1
	10.2%	8.1%	28.5%	16.1%	15.6%	15.6%	3.8%	1.1%	0.0%	0.5%
15万円~20 万円	27	22	70	49	30	34	1	3	2	1
	11.3%	9.2%	29.2%	20.4%	12.5%	14.2%	0.4%	1.3%	0.8%	0.4%
20万円~25 万円	17	13	70	55	25	20	1	0	0	0
	8.5%	6.5%	34.8%	27.4%	12.4%	10.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
25万円~30 万円	13	18	21	18	12	17	3	0	1	0
	12.5%	17.3%	20.2%	17.3%	11.5%	16.3%	2.9%	0.0%	1.0%	0.0%
30万円~35 万円	7	4	25	6	6	4	1	1	0	0
	13.0%	7.4%	46.3%	11.1%	11.1%	7.4%	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%
35万円~40 万円	4	3	8	7	1	2	0	0	0	0
	16.0%	12.0%	32.0%	28.0%	4.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40万円以上	3	3	5	3	0	0	0	0	0	0
	21.4%	21.4%	35.7%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.025<0.05

表 13-2-18 は 1 ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。現在の幸福度は 1 ヶ月の生活費の大きさと強い相関関係がある。端的に言えば、1 ヶ月の生活費が多い者では幸福度の点数は高く、1 ヶ月の生活費が少ない者では幸福度の点数が高い者はやや少ない。たとえば、幸福度の点数が 8 点以上は 1 ヶ月の生活費が「30 万円～35 万円」で 67%、「35 万円～40 万円」で 60%、「40 万円以上」で 79%である。これに対して、幸福度の点数が 8 点以上は 1 ヶ月の生活費が「10 万円未満」で 36%、「10 万円～15 万円」で 47%、「15 万円～20 万円」で 50%である。

表13-2-19 現在の最大の収入源と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
仕事収入	23	25	67	43	31	26	4	3	0	0
	10.4%	11.3%	30.2%	19.4%	14.0%	11.7%	1.8%	1.4%	0.0%	0.0%
公的年金	63	57	180	129	81	94	12	5	2	3
	10.0%	9.0%	28.6%	20.5%	12.9%	14.9%	1.9%	0.8%	0.3%	0.5%
家賃地代	8	1	17	6	2	1	0	0	0	0
	22.9%	2.9%	48.6%	17.1%	5.7%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
株式債券	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家族親族 の援助	1	0	3	1	1	1	1	0	1	0
	11.1%	0.0%	33.3%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	0.0%	11.1%	0.0%
生活扶助 費	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
収入はな い	2	1	2	0	0	3	1	0	0	0
	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.039<0.05

表13-2-20 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
十分だと 思う	25	18	39	22	8	11	1	1	0	0
	20.0%	14.4%	31.2%	17.6%	6.4%	8.8%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%
少し足り ない	31	27	110	61	36	25	3	3	1	1
	10.4%	9.0%	36.8%	20.4%	12.0%	8.4%	1.0%	1.0%	0.3%	0.3%
かなり足 りない	23	19	71	62	46	56	9	2	1	1
	7.9%	6.5%	24.3%	21.2%	15.8%	19.2%	3.1%	0.7%	0.3%	0.3%
わから ない	17	15	41	25	16	21	2	0	0	0
	12.4%	10.9%	29.9%	18.2%	11.7%	15.3%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%
貯蓄はし ていない	1	5	10	11	10	15	4	2	1	1
	1.6%	8.2%	16.4%	18.0%	16.4%	24.6%	6.6%	3.3%	1.6%	1.6%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.000<0.01

表 13-2-19 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。現在の幸福度は現在の最大の収入源と

強い相関関係があり、幸福度は最大の収入源によって相違がみられる。特に目を引くのは「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者で幸福度の点数が高い者が顕著に多いことである。すなわち、幸福度の点数が8点以上は「家賃・地代などの不動産収入」を最大の収入源とする者では74%である。これに対して幸福度の点数が8点以上は、最大の収入源を「仕事収入」とする者では52%、「公的年金」とする者では48%である。

表13-2-20は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。現在の幸福度は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって明瞭な違いがみられる。たとえば、幸福度の点数が8点以上は、現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして「十分だと思う」者では66%であるが、「少し足りないと思う」者では56%、「かなり足りないと思う」者では39%であり、「貯蓄をしていない」者では26%にとどまる。

表13-2-21 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
100～500万円	4 10.0%	5 12.5%	8 20.0%	9 22.5%	4 10.0%	10 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
500～1000万円	16 14.0%	10 8.8%	29 25.4%	15 13.2%	19 16.7%	20 17.5%	3 2.6%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%
1000～1500万円	16 11.3%	9 6.3%	40 28.2%	30 21.1%	19 13.4%	20 14.1%	4 2.8%	2 1.4%	0 0.0%	0 0.0%
1500～2000万円	11 6.7%	11 6.7%	49 29.9%	37 22.6%	24 14.6%	25 15.2%	1 0.6%	2 1.2%	2 1.2%	1 0.6%
2000～3000万円	19 9.1%	24 11.5%	70 33.5%	45 21.5%	24 11.5%	20 9.6%	5 2.4%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%
3000～4000万円	12 15.4%	8 10.3%	27 34.6%	14 17.9%	7 9.0%	9 11.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%
4000～5000万円	4 12.5%	4 12.5%	11 34.4%	7 21.9%	3 9.4%	3 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
5000万円以上	9 22.0%	2 4.9%	13 31.7%	8 19.5%	4 9.8%	4 9.8%	0 0.0%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
わからない	6 6.4%	11 11.7%	24 25.5%	16 17.0%	12 12.8%	17 18.1%	6 6.4%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%
合計	97 10.6%	84 9.2%	271 29.6%	181 19.8%	116 12.7%	128 14.0%	19 2.1%	8 0.9%	3 0.3%	3 0.3%

P=0.690>0.05

表13-2-21は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス集計結果である。検定の結果では現在の幸福度は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と強い相関関係はなかった。しかし、必要だと思う貯蓄額が大きいものでは幸福度の点数が高い者が多い。たとえば、幸福度の点数が8点以上は「1500～2000万円」では43%であるが、「2000～3000万円」で54%、「3000～4000万円」で60%、

「4000~5000万円」と「5000万円以上」で共に59%である。

表13-2-22 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
十分まかなえてる	19	10	17	4	5	4	1	1	0	0
	31.1%	16.4%	27.9%	6.6%	8.2%	6.6%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%
何とかまかなえる	36	35	97	67	41	39	5	1	2	1
	11.0%	10.7%	29.8%	20.6%	12.6%	12.0%	1.5%	0.3%	0.6%	0.3%
多少足りない	22	15	75	49	37	43	4	2	0	1
	8.8%	6.0%	30.1%	19.7%	14.9%	17.3%	1.6%	0.8%	0.0%	0.4%
かなり足りない	12	15	51	44	23	27	5	3	0	1
	6.6%	8.2%	28.0%	24.2%	12.6%	14.8%	2.7%	1.6%	0.0%	0.5%
合計	89	75	240	164	106	113	15	7	2	3
	10.9%	9.2%	29.3%	20.0%	13.0%	13.8%	1.8%	0.9%	0.2%	0.4%

P=0.004<0.01

表13-2-23 収入を伴う仕事の有無と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
仕事をしている	50	40	146	88	47	54	5	3	0	0
	11.5%	9.2%	33.6%	20.2%	10.8%	12.4%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%
仕事をしていない	47	44	125	93	69	74	14	5	3	3
	9.8%	9.2%	26.1%	19.4%	14.4%	15.4%	2.9%	1.0%	0.6%	0.6%
合計	97	84	271	181	116	128	19	8	3	3
	10.6%	9.2%	29.6%	19.8%	12.7%	14.0%	2.1%	0.9%	0.3%	0.3%

P=0.024<0.05

表13-2-22は公的年金による毎月の生活費の充足度とのクロス集計結果である。現在の幸福度は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって相違がある。幸福度の点数が高い者は公的年金で毎月の生活費をまかなえている者に多く、まかなえていない者では少ない。たとえば、幸福度の点数が8点以上は「十分まかなえている」者では75%、「何とかまかなえている」者では53%だが、「多少足りない」者では45%、「かなり足りない」者では43%である。

表13-2-23は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。現在の幸福度は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係があり、収入を伴う仕事をしている者は仕事をしていない者に比べて、幸福度の点数が高い者がやや多い。

次頁の表13-2-24は仕事内容・形態とのクロス集計結果である。収入を伴う仕事をしている者については、現在の幸福度は仕事内容や雇用形態と強い相関関係はなかった。しかし、幸福度の点数が8点以上は「会社団体の役員」(67%)と「自営業や自由業」(64%)でかなり高い。これに対して、幸福度の点数が8点以上は「会社団体の被雇用者」では50%であり、「自営業の家族従業者」で57%、「シルバーセンターの仕事」では48%である。

表13-2-24 仕事内容・形態と現在の幸福度のクロス表

	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	合計
会社団体の 被雇用者	23 9.1%	24 9.5%	79 31.3%	53 21.0%	33 13.1%	34 13.5%	3 1.2%	2 0.8%	252 100.0%
会社団体の 役員	4 13.3%	5 16.7%	11 36.7%	7 23.3%	0 0.0%	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 100.0%
自営業や自 由業	16 18.2%	10 11.4%	30 34.1%	20 22.7%	4 4.5%	5 5.7%	1 1.1%	1 1.1%	88 100.0%
自営業家族 従業者	4 17.4%	0 0.0%	9 39.1%	3 13.0%	5 21.7%	2 8.7%	0 0.0%	0 0.0%	23 100.0%
シルバー人 材センター	1 3.7%	1 3.7%	11 40.7%	3 11.1%	3 11.1%	7 25.9%	1 3.7%	0 0.0%	27 100.0%
家庭内職	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
頼まれて行 う仕事	2 20.0%	0 0.0%	4 40.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
合計	50 11.5%	40 9.2%	146 33.6%	88 20.2%	47 10.8%	54 12.4%	5 1.1%	3 0.7%	435 100.0%

P=0.691>0.05

13-3 これまでの人生の満足度

13-3-1 性別とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり 満足	まあまあ 満足	やや不満	大いに 不満	どちらとも いえない	無回答	合計
男性	50 11.1%	296 65.9%	52 11.6%	15 3.3%	35 7.8%	1 0.2%	449 100.0%
女性	51 11.0%	293 63.0%	66 14.2%	7 1.5%	48 10.3%	0 0.0%	465 100.0%
合計	101 11.1%	589 64.4%	118 12.9%	22 2.4%	83 9.1%	1 0.1%	914 100.0%

P=0.196>0.05

これまでの人生を振り返って全体的にどの程度満足しているかを尋ねた結果では、「かなり満足している」は11%、「まあまあ満足している」は64%、「やや不満である」は13%、「大いに不満である」は2%、「どちらともいえない」は9%だった。「まあまあ満足」を含めると回答者の4分の3（76%）はこれまでの人生に満足していた。

表13-3-1は性別とのクロス集計結果であるが、これまでの人生の満足度は男女別で大差はなかった。

表13-3-2 年齢5区分とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
60-64	9	120	25	9	15	0	178
	5.1%	67.4%	14.0%	5.1%	8.4%	0.0%	100.0%
65-69	21	136	31	3	20	0	211
	10.0%	64.5%	14.7%	1.4%	9.5%	0.0%	100.0%
70-74	28	155	25	7	28	1	244
	11.5%	63.5%	10.2%	2.9%	11.5%	0.4%	100.0%
75-79	27	105	23	0	13	0	168
	16.1%	62.5%	13.7%	0.0%	7.7%	0.0%	100.0%
80-84	16	73	14	3	7	0	113
	14.2%	64.6%	12.4%	2.7%	6.2%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.078>0.05

表13-3-3 配偶者の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
有配偶	85	491	95	11	60	1	743
	11.4%	66.1%	12.8%	1.5%	8.1%	0.1%	100.0%
無配偶	16	98	23	11	23	0	171
	9.4%	57.3%	13.5%	6.4%	13.5%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.001<0.01

表 13-3-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。県令の結果ではこれまでの人生の満足度は年齢 5 区分と強い相関関係はなかったが、年齢区分が高くなると「かなり満足している」は相対的に多くなっている。

表 13-3-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は配偶者の有無と非常に強い相関関係があり、配偶者がいる者は配偶者がいない者に比べて、これまでの人生に満足している者が相対的に多い。

表 13-3-4 は子の有無とのクロス集計結果である。検定の結果ではこれまでの人生の満足度は子の有無と強い相関関係はなかったが、子のいる者は子がいない者に比べて満足している者が相対的に多い。

表 13-3-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は世帯形態と非常に強い相関関係があり、「一人暮らし」で「大いに不満」がやや多い。

表 13-3-6 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は服用する処方薬の有無で大差はなかった。

表13-3-4 子の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
あり	96	555	105	20	79	1	856
	11.2%	64.8%	12.3%	2.3%	9.2%	0.1%	100.0%
なし	5	34	13	2	4	0	58
	8.6%	58.6%	22.4%	3.4%	6.9%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.341>0.05

表13-3-5 世帯形態とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
一人暮らし	14	63	10	8	11	0	106
	13.2%	59.4%	9.4%	7.5%	10.4%	0.0%	100.0%
夫婦のみ	60	297	69	6	36	1	469
	12.8%	63.3%	14.7%	1.3%	7.7%	0.2%	100.0%
その他の同居人あり	27	228	39	8	34	0	336
	8.0%	67.9%	11.6%	2.4%	10.1%	0.0%	100.0%
無回答	0	1	0	0	2	0	3
	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.001<0.01

表13-3-6 服用する処方薬の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
ある	74	403	84	19	59	1	640
	11.6%	63.0%	13.1%	3.0%	9.2%	0.2%	100.0%
ない	27	186	34	3	23	0	273
	9.9%	68.1%	12.5%	1.1%	8.4%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	0	0	1	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.143>0.05

表13-3-7 現在の健康状態とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
よい	32	64	10	0	1	0	107
	29.9%	59.8%	9.3%	0.0%	0.9%	0.0%	100.0%
まあよい	32	174	22	3	12	0	243
	13.2%	71.6%	9.1%	1.2%	4.9%	0.0%	100.0%
普通	26	249	53	12	43	1	384
	6.8%	64.8%	13.8%	3.1%	11.2%	0.3%	100.0%
あまりよくない	10	91	28	4	23	0	156
	6.4%	58.3%	17.9%	2.6%	14.7%	0.0%	100.0%
よくない	1	11	4	3	3	0	22
	4.5%	50.0%	18.2%	13.6%	13.6%	0.0%	100.0%
無回答	0	0	1	0	1	0	2
	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-8 居住する住宅とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
持ち家（住宅ローンなし）	93	519	96	17	65	1	791
	11.8%	65.6%	12.1%	2.1%	8.2%	0.1%	100.0%
持ち家（住宅ローン返済中）	4	42	10	1	9	0	66
	6.1%	63.6%	15.2%	1.5%	13.6%	0.0%	100.0%
賃貸住宅	3	21	10	3	5	0	42
	7.1%	50.0%	23.8%	7.1%	11.9%	0.0%	100.0%
公営住宅	0	5	2	0	1	0	8
	0.0%	62.5%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	100.0%
その他	1	2	0	1	3	0	7
	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	42.9%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.035<0.05

表 13-3-7 は健康状態とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は現在の健康状態によって大きく異なる。健康状態がよい者では満足している者は多く、健康状態がよくない者では満足している者は少ない。たとえば、満足している者は健康状態が「よい」で90%、「まあよい」で85%だが、「あまりよくない」では65%、「よくない」では55%に低下する。

前頁の表 13-3-8 は居住する住宅とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は居住する住宅と強い相関関係がある。持ち家に住む者では満足している者が多く、借家（「賃貸住宅」と「公営住宅」）に住む者では満足している者はやや少ない。

表13-3-9 生きがいを感じる程度とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
十分に感じている	79	148	9	0	5	0	241
	32.8%	61.4%	3.7%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
多少は感じている	19	350	68	5	36	1	479
	4.0%	73.1%	14.2%	1.0%	7.5%	0.2%	100.0%
あまり感じていない	2	75	35	12	24	0	148
	1.4%	50.7%	23.6%	8.1%	16.2%	0.0%	100.0%
まったく感じていない	1	1	5	3	3	0	13
	7.7%	7.7%	38.5%	23.1%	23.1%	0.0%	100.0%
わからない	0	15	1	2	15	0	33
	0.0%	45.5%	3.0%	6.1%	45.5%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-10 現在の幸福度とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらとも	合計
10点	56	38	2	0	1	97
	57.7%	39.2%	2.1%	0.0%	1.0%	100%
9点	20	62	1	0	1	84
	23.8%	73.8%	1.2%	0.0%	1.2%	100%
8点	16	230	14	2	9	271
	5.9%	84.9%	5.2%	0.7%	3.3%	100%
7点	6	133	27	2	13	181
	3.3%	73.5%	14.9%	1.1%	7.2%	100%
6点	1	68	26	2	18	116
	0.9%	58.6%	22.4%	1.7%	15.5%	100%
5点	2	51	38	7	30	128
	1.6%	39.8%	29.7%	5.5%	23.4%	100%
4点	0	5	8	0	6	19
	0.0%	26.3%	42.1%	0.0%	31.6%	100%
3点	0	1	2	4	1	8
	0.0%	12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	100%
2点	0	1	0	1	1	3
	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	100%
1点	0	0	0	2	1	3
	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	100%
0点	0	0	0	2	0	2
	0.0%	0.0%	0.0%	100%	0.0%	100%
合計	101	589	118	22	83	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	100%

P=0.000<0.01

表 13-3-9 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は普段の生活や仕事にどの程度生きがいを感じているかによって大きく異なる。生きがいを感じている者ではこれ

までの人生に満足している者が多いが、生きがいを感じていない者では人生に満足している者は相対的に少ない。特に「まったく感じていない」者では人生に満足している者は15%にとどまる。

前頁の表 13-3-10 は現在の幸福度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じている程度は現在の幸福度によって大きな相違がある。幸福度の点数が高い者では生きがいを感じている者が多く、幸福度の点数が低くなるにつれて生きがいを感じている者は少なくなる傾向がある。

表13-3-11 地域の社会活動への参加の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
参加している	49 16.1%	194 63.8%	38 12.5%	2 0.7%	20 6.6%	1 0.3%	304 100.0%
参加していない	52 8.5%	395 64.8%	80 13.1%	20 3.3%	63 10.3%	0 0.0%	610 100.0%
合計	101 11.1%	589 64.4%	118 12.9%	22 2.4%	83 9.1%	1 0.1%	914 100.0%

P=0.001<0.01

表13-3-12 近隣の人とのつきあいの有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
ある	89 11.4%	509 65.3%	101 12.9%	13 1.7%	67 8.6%	1 0.1%	780 100.0%
ない	12 9.0%	80 59.7%	17 12.7%	9 6.7%	16 11.9%	0 0.0%	134 100.0%
合計	101 11.1%	589 64.4%	118 12.9%	22 2.4%	83 9.1%	1 0.1%	914 100.0%

P=0.011<0.05

表 13-3-11 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は地域の社会活動への参加の有無と非常に強い相関関係がある。地域の社会活動に参加している者では参加していない者に比べて、これまでの人生に満足している者が多い。

表 13-3-12 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は近隣の人とのつきあいの有無と強い相関関係がある。近隣の人とのつきあいがある者はつきあいが無い者に比べて、これまでの人生に満足している者がやや多い。

次頁の表 13-3-13 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は現在の経済的な暮らし向きによって大きく異なる。これまでの人生に満足している者は家計に心配がない者では比較的多く、家計に心配がある者では少ない。

表13-3-13 現在の経済的な暮らし向きとこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
家計ゆとりあり全く心配なく暮らす	33 26.6%	77 62.1%	9 7.3%	2 1.6%	3 2.4%	0 0.0%	124 100.0%
家計にゆとりないが心配なく暮らす	50 10.0%	353 70.7%	49 9.8%	8 1.6%	39 7.8%	0 0.0%	499 100.0%
家計にゆとりがなく多少心配	17 6.8%	134 53.8%	55 22.1%	8 3.2%	34 13.7%	1 0.4%	249 100.0%
家計が苦しく非常に心配	1 2.7%	21 56.8%	5 13.5%	4 10.8%	6 16.2%	0 0.0%	37 100.0%
その他	0 0.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	5 100.0%
合計	101 11.1%	589 64.4%	118 12.9%	22 2.4%	83 9.1%	1 0.1%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-14 1年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
良くなった	4 44.4%	5 55.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
どちらかといえば良くなった	8 11.4%	46 65.7%	11 15.7%	2 2.9%	3 4.3%	0 0.0%	70 100.0%
どちらかといえば悪くなった	20 7.9%	165 65.5%	40 15.9%	4 1.6%	23 9.1%	0 0.0%	252 100.0%
悪くなった	2 3.0%	35 53.0%	17 25.8%	6 9.1%	6 9.1%	0 0.0%	66 100.0%
変わらない	67 13.0%	338 65.4%	50 9.7%	10 1.9%	51 9.9%	1 0.2%	517 100.0%
合計	101 11.1%	589 64.4%	118 12.9%	22 2.4%	83 9.1%	1 0.1%	914 100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-14 は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きの変化と非常に強い相関関係がある。これまでの人生に満足している者は 1 年前と比べた経済的な暮らし向きが良くなった者に多く、悪くなった者では相対的に少ない。たとえば、「良くなった」者では 100%がこれまでの人生に満足しているが、「どちらかといえば悪くなった」者では 73%、「悪くなった」者では 58%である。

表13-3-15 暮らし向きに対するコロナの影響の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
ある	42	321	73	14	35	0	485
	8.7%	66.2%	15.1%	2.9%	7.2%	0.0%	100.0%
ない	46	221	33	6	30	0	336
	13.7%	65.8%	9.8%	1.8%	8.9%	0.0%	100.0%
わからない	13	47	12	2	18	1	93
	14.0%	50.5%	12.9%	2.2%	19.4%	1.1%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-16 1ヶ月の生活費とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
10万円未満	4	54	14	6	12	0	90
	4.4%	60.0%	15.6%	6.7%	13.3%	0.0%	100.0%
10万円~15万円	17	116	22	4	27	0	186
	9.1%	62.4%	11.8%	2.2%	14.5%	0.0%	100.0%
15万円~20万円	32	148	29	6	25	0	240
	13.3%	61.7%	12.1%	2.5%	10.4%	0.0%	100.0%
20万円~25万円	21	146	23	3	8	0	201
	10.4%	72.6%	11.4%	1.5%	4.0%	0.0%	100.0%
25万円~30万円	11	67	16	3	6	1	104
	10.6%	64.4%	15.4%	2.9%	5.8%	1.0%	100.0%
30万円~35万円	6	38	6	0	4	0	54
	11.1%	70.4%	11.1%	0.0%	7.4%	0.0%	100.0%
35万円~40万円	5	12	8	0	0	0	25
	20.0%	48.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40万円以上	5	8	0	0	1	0	14
	35.7%	57.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.001<0.01

表 13-2-15 はコロナの影響の有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は暮らし向きに対するコロナの影響の有無と非常に強い相関関係があり、コロナの影響がある者では影響がない者に比べて満足している者がやや少ない。

前頁の表 13-3-16 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は1ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係がある。これまでの人生に満足している者は1ヶ月の生活費が少ない者で相対的に少なく、生活費が多い者では概して多い。たとえば、これまでの人生に満足している者は1ヶ月の生活費が「10万円未満」で64%、「10万円～15万円」で72%だが、「30万円～35万円」で82%、「35万円～40万円」で68%、40万円以上では93%である。

表13-3-17 現在の最大の収入源とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
仕事収入	21	144	34	4	19	0	222
	9.5%	64.9%	15.3%	1.8%	8.6%	0.0%	100.0%
公的年金	70	409	75	16	59	1	630
	11.1%	64.9%	11.9%	2.5%	9.4%	0.2%	100.0%
家賃地代などの 不動産収入	8	22	4	0	1	0	35
	22.9%	62.9%	11.4%	0.0%	2.9%	0.0%	100.0%
株式や債券の配 当・利子・売却益	0	0	1	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
家族・親族の援 助	1	4	1	1	2	0	9
	11.1%	44.4%	11.1%	11.1%	22.2%	0.0%	100.0%
生活扶助費	0	1	1	0	1	0	3
	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
その他	0	3	2	0	0	0	5
	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
収入はない	1	6	0	1	1	0	9
	11.1%	66.7%	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.542>0.05

表 13-3-17 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。検定の結果ではこれまでの人生の満足度は現在の最大の収入源と強い相関関係はなかった。しかし、これまでの人生に満足している者は現在の最大の収入源が「家賃・地代などの不動産収入」で86%と非常に多い。これに比べると、これまでの人生に満足している者は最大の収入源が「仕事収入」では75%、「公的年金」では76%とやや少ない。一方で満足している者は「家族・親族の援助」では56%、「生活扶助費」では33%だった。

次頁の表 13-3-18 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって大きく異なる。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとして十分だと思う者ではこれまでの人生に満足している者が相対的に多く、足りないと思う者では満足している者はやや少ない。たとえば、これまでの人生に満足している者は現在の貯蓄額を「十分だと思う」者では89%だが、「少し足りないと思う」者では80%、「かなり足りないと思う」者では70%である。また人生に満足している者は「貯蓄はしていない」者では47%にとどまる。

表13-3-18 現在の貯蓄額を今後の備えとしてどう思うかとこれまでの人生の満足度

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
十分だと思う	31	80	8	0	6	0	125
	24.8%	64.0%	6.4%	0.0%	4.8%	0.0%	100.0%
少し足りない	29	210	38	7	15	0	299
	9.7%	70.2%	12.7%	2.3%	5.0%	0.0%	100.0%
かなり足りない	21	183	50	10	28	0	292
	7.2%	62.7%	17.1%	3.4%	9.6%	0.0%	100.0%
わからない	19	88	10	1	19	0	137
	13.9%	64.2%	7.3%	0.7%	13.9%	0.0%	100.0%
貯蓄はしていない	1	28	12	4	15	1	61
	1.6%	45.9%	19.7%	6.6%	24.6%	1.6%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-19 公的年金で生活費をまかなえている程度と人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
十分まかなえている	21	29	6	1	4	0	61
	34.4%	47.5%	9.8%	1.6%	6.6%	0.0%	100.0%
何とかまかなえてる	37	222	35	6	26	0	326
	11.3%	68.1%	10.7%	1.8%	8.0%	0.0%	100.0%
多少足りない	24	160	38	5	22	0	249
	9.6%	64.3%	15.3%	2.0%	8.8%	0.0%	100.0%
かなり足りない	12	117	24	5	23	1	182
	6.6%	64.3%	13.2%	2.7%	12.6%	0.5%	100.0%
合計	94	528	103	17	75	1	818
	11.5%	64.5%	12.6%	2.1%	9.2%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表 13-1-19 は公的年金で生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかによって明瞭な違いがみられる。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者では満足している者が多く、まかなえていない者では満足している者はやや少ない。たとえば、これまでの人生に満足している者は「十分にまかなえていると思う」では82%、「何とかまかなえていると思う」では79%だが、「多少足りないと思う」では74%、「かなり足りないと思う」では71%である。

次頁の表 13-3-20 は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額と非常に強い相関関係があった。「かなり」に「まあまあ」を足して「満足している」の割合については、必要だと思う貯蓄額で大きな差はない。しかし、「かなり満足」は必要だと思う貯蓄額が多額の者で比較的多い。たとえば「かなり満足」

は必要だと思う貯蓄額が「4000~5000万円」で22%、「5000万円以上」で29%である。

表13-3-20 今後の生活の備えとして必要だと思う貯蓄額とこれまでの人生の満足度

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
100~500万円	5	25	4	1	5	0	40
	12.5%	62.5%	10.0%	2.5%	12.5%	0.0%	100.0%
500~1000万円	11	75	19	3	6	0	114
	9.6%	65.8%	16.7%	2.6%	5.3%	0.0%	100.0%
1000~1500万円	12	91	21	4	13	1	142
	8.5%	64.1%	14.8%	2.8%	9.2%	0.7%	100.0%
1500~2000万円	11	107	25	4	17	0	164
	6.7%	65.2%	15.2%	2.4%	10.4%	0.0%	100.0%
2000~3000万円	24	144	28	5	8	0	209
	11.5%	68.9%	13.4%	2.4%	3.8%	0.0%	100.0%
3000~4000万円	10	59	4	1	4	0	78
	12.8%	75.6%	5.1%	1.3%	5.1%	0.0%	100.0%
4000~5000万円	7	19	4	0	2	0	32
	21.9%	59.4%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%	100.0%
5000万円以上	12	19	4	3	3	0	41
	29.3%	46.3%	9.8%	7.3%	7.3%	0.0%	100.0%
わからない	9	50	9	1	25	0	94
	9.6%	53.2%	9.6%	1.1%	26.6%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.000<0.01

表13-3-21 収入を伴う仕事の有無とこれまでの人生の満足度のクロス表

	かなり満足	まあまあ満足	やや不満	大いに不満	どちらともいえない	無回答	合計
仕事あり	51	279	65	6	33	1	435
	11.7%	64.1%	14.9%	1.4%	7.6%	0.2%	100.0%
仕事なし	50	310	53	16	50	0	479
	10.4%	64.7%	11.1%	3.3%	10.4%	0.0%	100.0%
合計	101	589	118	22	83	1	914
	11.1%	64.4%	12.9%	2.4%	9.1%	0.1%	100.0%

P=0.081>0.05

表 13-2-21 は収入を伴う仕事の有無とのクロス集計結果である。これまでの人生の満足度は収入を伴う仕事の有無と強い相関関係はなく、仕事の有無で満足度に目立った差異はなかった。

第 14 章 情報通信機器の所有状況と操作能力

14-1 情報通信機器の所有・非所有の状況

この調査では携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコンなどの情報通信機器の所有状況と捜査能力を尋ねる質問を行った。単純集計では所有している者は 94%、所有していない者は 6%だった。2018 年に東広島市で実施した外出行動に関する調査では所有している者は 92%、所有していない者は 8%だったので今回の調査では所有している者は若干増えた。

表14-1-1 性別と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
男性	428	21	449
	95.3%	4.7%	100%
女性	429	36	465
	92.3%	7.7%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.055>0.05

表14-1-2 年齢5区分と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
60-64	176	2	178
	98.9%	1.1%	100%
65-69	205	6	211
	97.2%	2.8%	100%
70-74	232	12	244
	95.1%	4.9%	100%
75-79	149	19	168
	88.7%	11.3%	100%
80-84	95	18	113
	84.1%	15.9%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.000<0.01

表14-1-3 配偶者の有無と情報通信機器の所有・非所有のクロ

	所有	非所有	合計
有配偶	704	39	743
	94.8%	5.2%	100%
無配偶	153	18	171
	89.5%	10.5%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.010<0.05

表14-1-4 子の有無と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
あり	803	53	856
	93.8%	6.2%	100%
なし	54	4	58
	93.1%	6.9%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.830>0.05

表 14-1-1 は性別とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は性別と強い相関関係はなかったが、女性では男性に比べて非所有の者が若干多い。

表 14-1-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有状況は年齢 5 区分と非常に強い相関関係がある。年齢区分が高くなると非所有の者が多くなる。携帯電話やスマホを所有していない者は 60 代ではほとんどいないが、70 代後半では 11%、80 代前半では 16%と一定程度存在する。

表14-1-3 配偶者の有無と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
有配偶	704	39	743
	94.8%	5.2%	100%
無配偶	153	18	171
	89.5%	10.5%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.010<0.05

表14-1-4 子の有無と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
あり	803	53	856
	93.8%	6.2%	100%
なし	54	4	58
	93.1%	6.9%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.830>0.05

表14-1-5 世帯形態と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
一人暮らし	95	11	106
	89.6%	10.4%	100%
夫婦のみ	445	24	469
	94.9%	5.1%	100%
他の同居人あり	314	22	336
	93.5%	6.5%	100%
合計	854	57	911
	93.8%	6.2%	100%

P=0.224>0.05

表14-1-6 服用する処方薬の有無と情報通信機器の所有・非所有

	所有	非所有	合計
ある	593	47	640
	92.7%	7.3%	100%
ない	263	10	273
	96.3%	3.7%	100%
合計	856	57	913
	93.8%	6.2%	100%

P=0.105>0.05

表 14-1-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は配偶者の有無との強い相関関係があり、配偶者のいない者では非所有がやや多い。

表 14-1-4 は子の有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は子の有無でほとんど差はなかった。

表 14-1-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は世帯形態とは強い相関関係はなかったが、「一人暮らし」では非所有がやや多い。

表 14-1-6 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は服用する処方薬の有無と強い相関関係はなかったが、服用する処方薬がある者では非所有がやや多い。

表14-1-7 現在の健康状態と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
よい	103	4	107
	96.3%	3.7%	100%
まあよい	229	14	243
	94.2%	5.8%	100%
普通	364	20	384
	94.8%	5.2%	100%
あまりよくない	138	18	156
	88.5%	11.5%	100%
よくない	21	1	22
	95.5%	4.5%	100%
合計	855	57	912
	93.8%	6.2%	100%

P=0.085>0.05

表14-1-8 居住する住宅と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
持ち家 (ローン無)	740	51	791
	93.6%	6.4%	100%
持ち家 (ローン有)	63	3	66
	95.5%	4.5%	100%
賃貸住宅	40	2	42
	95.2%	4.8%	100%
公営住宅	8	0	8
	100%	0.0%	100%
その他	6	1	7
	85.7%	14.3%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.764>0.05

表14-1-9 地域の社会活動への参加の有無と情報通信機器の所有・非所有

	所有	非所有	合計
参加している	290	14	304
	95.4%	4.6%	100%
参加していない	567	43	610
	93.0%	7.0%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.150>0.05

表14-1-10 近隣の人とのつきあいの有無と情報通信機器の所有・非所有

	所有	非所有	合計
ある	731	49	780
	93.7%	6.3%	100%
ない	126	8	134
	94.0%	6.0%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.890>0.05

表 14-1-7 は健康状態とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は健康状態と強い相関関係はなかったが、健康状態があまりよくない者では非所有がやや多かった。

表 14-1-8 は居住する住宅とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は居住する住宅と強い相関関係はなかったが、「公営住宅」では全員が所有していた。

表 14-1-9 は地域の社会活動への参加とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は地域の社会活動への参加と強い相関関係はなかったが、地域の社会活動に参加していない者では非所有が若干多かった。

表 14-1-10 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は近隣の人とのつきあいの有無によってほとんど差はなかった。

表14-1-11 現在の経済的な暮らし向きと情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
家計ゆとりあり全く心配なく暮らす	119	5	124
	96.0%	4.0%	100%
あまりゆとりないが心配なく暮らす	464	35	499
	93.0%	7.0%	100%
家計にゆとりなく多少心配	234	15	249
	94.0%	6.0%	100%
家計が苦しく非常に心配	35	2	37
	94.6%	5.4%	100%
その他	5	0	5
	100.0%	0.0%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.746>0.05

表14-1-12 1ヶ月の生活費と情報通信機器の所有・非所有のクロス表

	所有	非所有	合計
10万円未満	76	14	90
	84.4%	15.6%	100%
10万円~15万円	172	14	186
	92.5%	7.5%	100%
15万円~20万円	224	16	240
	93.3%	6.7%	100%
20万円~25万円	193	8	201
	96.0%	4.0%	100%
25万円~30万円	101	3	104
	97.1%	2.9%	100%
30万円~35万円	52	2	54
	96.3%	3.7%	100%
35万円~40万円	25	0	25
	100.0%	0.0%	100%
40万円以上	14	0	14
	100.0%	0.0%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.004<0.01

表14-1-13 現在の貯蓄額をどう思うかと情報通信機器の所有・非所有

	所有	非所有	合計
十分だと思う	119	6	125
	95.2%	4.8%	100%
少し足りないと思う	284	15	299
	95.0%	5.0%	100%
かなり足りないと思う	276	16	292
	94.5%	5.5%	100%
わからない	125	12	137
	91%	8.8%	100%
貯蓄はしていない	53	8	61
	86.9%	13.1%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.095>0.05

表14-1-14 公的年金で生活費をまかえている程度と情報通信機器の所有・非所有

	所有	非所有	合計
十分まかなえている	54	7	61
	88.5%	11.5%	100%
何とかまかなえている	299	27	326
	91.7%	8.3%	100%
多少足りない	234	15	249
	94.0%	6.0%	100%
かなり足りない	174	8	182
	95.6%	4.4%	100%
合計	761	57	818
	93.0%	7.0%	100%

P=0.173>0.05

**表14-1-15 生きがいを感じる程度と
情報通信機器の所有状況のクロス表**

	所有	非所有	合計
十分に感じ ている	229	12	241
	95.0%	5.0%	100%
多少は感じ ている	452	27	479
	94.4%	5.6%	100%
あまり感じ ていない	135	13	148
	91.2%	8.8%	100%
まったく感 じていない	10	3	13
	77%	23.1%	100%
わからない	31	2	33
	93.9%	6.1%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.064>0.05

**表14-1-16 これまでの人生の満足度と
情報通信機器の所有状況のクロス表**

	所有	非所有	合計
かなり満足	96	5	101
	95.0%	5.0%	100%
まあまあ満足	551	38	589
	93.5%	6.5%	100%
やや不満	112	6	118
	94.9%	5.1%	100%
大いに不満	21	1	22
	95.5%	4.5%	100%
どちらともい えない	76	7	83
	91.6%	8.4%	100%
無回答	1	0	1
	100.0%	0.0%	100%
合計	857	57	914
	93.8%	6.2%	100%

P=0.918>0.05

前頁の表 14-1-11 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は現在の経済的な暮らし向きによって大きな差はなかった。

表 14-1-12 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は1ヶ月の生活費の大きさと非常に強い相関関係があり、1ヶ月の生活費が10万円未満の者で非所有が比較的多かった。

表 14-1-13 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかと強い相関関係はなかったが、「貯蓄はしていない」者で非所有がやや多かった。

表 14-1-14 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は公的年金で毎月の生活費をどの程度まかなえているかと強い相関関係はなかったが、「十分まかなえている」で非所有はやや多かった。

表 14-1-15 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有は普段の生活や仕事に生きがいをどの程度感じるかと強い相関関係はなかったが、生きがいをまったく感じていない者で非所有は23%とやや大きな割合を示した。

表 14-1-16 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。情報通信機器の所有・非所有はこれまでの人生にどの程度満足しているかによって大きな差はなかった。

14-2 情報通信機器の所有状況

個人で所有する情報通信機器を複数回答可で尋ねた結果、携帯電話は44%、スマートフォンは55%、パソコンは44%、タブレット端末は17%だった。

表14-2-1 性別と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
男性	194	255	275	87
	43.2%	56.8%	61.2%	19.4%
女性	210	244	130	66
	45.2%	52.5%	28.0%	14.2%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-2 年齢5区分と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
60-64	50	138	105	48
	28.1%	77.5%	59.0%	27.0%
65-69	78	138	114	55
	37.0%	65.4%	54.0%	26.1%
70-74	122	126	107	34
	50.0%	51.6%	43.9%	13.9%
75-79	80	73	58	15
	47.6%	43.5%	34.5%	8.9%
80-84	74	24	21	1
	65.5%	21.2%	18.6%	0.9%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-3 配偶者の有無と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
有配偶	327	416	358	138
	44.0%	56.0%	48.2%	18.6%
無配偶	77	83	47	15
	45.0%	48.5%	27.5%	8.8%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-4 子の有無と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
いる	379	466	380	137
	44.3%	54.4%	44.4%	16.0%
いない	25	33	25	16
	43.1%	56.9%	43.1%	27.6%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表 14-2-1 は性別とのクロス集計結果である。携帯電話とスマホの所有率は性別で大差ないが、女性では男性に比べてパソコンの所有率がかなり低かった。

表 14-2-2 は年齢 5 区分とのクロス集計結果である。年齢区分が高くなると携帯電話の所有率は上昇しスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率は低下する傾向がみられる。

表 14-2-3 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者では配偶者がいる者に比べてスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率がやや低い。

表 14-2-4 は子の有無とのクロス集計結果である。携帯電話、スマホ、パソコンの所有率は子の有無で大差ないが、タブレット端末の所有率は子がない者は子がいる者に比べてやや高い。

表14-2-5 世帯形態と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
一人暮らし	46	55	36	10
	43.4%	51.9%	34.0%	9.4%
夫婦のみ	213	259	230	91
	45.4%	55.2%	49.0%	19.4%
他の同居人あり	142	185	139	52
	42.3%	55.1%	41.4%	15.5%
合計	401	499	405	153
	44.0%	54.8%	44.5%	16.8%

表14-2-6 服用する処方薬の有無と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
ある	297	328	270	101
	46.4%	51.3%	42.2%	15.8%
ない	107	170	135	52
	39.2%	62.3%	49.5%	19.0%
合計	404	498	405	153
	44.2%	54.5%	44.4%	16.8%

表14-2-7 現在の健康状態と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
よい	42	71	56	24
	39.3%	66.4%	52.3%	22.4%
まあよい	101	134	124	43
	41.6%	55.1%	51.0%	17.7%
普通	173	217	165	67
	45.1%	56.5%	43.0%	17.4%
あまりよくない	73	68	50	16
	46.8%	43.6%	32.1%	10.3%
よくない	15	7	10	3
	68.2%	31.8%	45.5%	13.6%
合計	404	497	405	153
	44.3%	54.5%	44.4%	16.8%

表14-2-8 居住する住宅と個人で所有する情報通信機器（複数回答）のクロス表

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
持ち家（ローン無）	350	426	359	132
	44.2%	53.9%	45.4%	16.7%
持ち家（ローン有）	22	48	28	16
	33.3%	72.7%	42.4%	24.2%
賃貸住宅	24	19	12	4
	57.1%	45.2%	28.6%	9.5%
公営住宅	4	4	3	0
	50.0%	50.0%	37.5%	0.0%
その他	4	2	3	1
	57.1%	28.6%	42.9%	14.3%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表 14-2-5 は世帯形態とのクロス集計結果である。「一人暮らし」ではパソコンとタブレット端末の所有率が他の世帯形態に比べてやや低い。

表 14-2-6 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。服用する処方薬がある者はない者に比べて、スマホ、パソコン、タブレット端末の所有率がやや高い。

表 14-2-7 は健康状態とのクロス集計結果である。健康状態がよい者ではよくない者に比べてスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率が高い。

表 14-2-8 は居住する住宅とのクロス集計結果である。持ち家に住む者では借家に住む者に比べてスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率が高い。

表14-2-9 地域の社会活動への参加の有無と所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
参加	136	175	157	50
	44.7%	57.6%	51.6%	16.4%
不参加	268	324	248	103
	43.9%	53.1%	40.7%	16.9%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-10 近隣とのつきあいの有無と所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
ある	349	421	339	130
	44.7%	54.0%	43.5%	16.7%
ない	55	78	66	23
	41.0%	58.2%	49.3%	17.2%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-11 現在の経済的な暮らし向きと情報通信機器の所有状況（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
家計にゆとり	66	68	69	31
全く心配ない	53.2%	54.8%	55.6%	25.0%
家計ゆとりない	205	274	240	89
いが心配ない	41.1%	54.9%	48.1%	17.8%
家計にゆとり	108	139	86	28
なく多少心配	43.4%	55.8%	34.5%	11.2%
家計が苦しく	22	16	9	4
非常に心配	59.5%	43.2%	24.3%	10.8%
その他	3	2	1	1
	60.0%	40.0%	20.0%	20.0%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-1-12 1ヶ月の生活費と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
10万円	39	40	18	8
未満	43.3%	44.4%	20.0%	8.9%
10万円	98	85	58	27
~15万円	52.7%	45.7%	31.2%	14.5%
15万円	115	117	101	33
~20万円	47.9%	48.8%	42.1%	13.8%
20万円	68	131	105	33
~25万円	33.8%	65.2%	52.2%	16.4%
25万円	52	60	58	22
~30万円	50.0%	57.7%	55.8%	21.2%
30万円	21	37	37	19
~35万円	38.9%	68.5%	68.5%	35.2%
35万円	5	20	18	7
~40万円	20.0%	80.0%	72.0%	28.0%
40万円	6	9	10	4
以上	42.9%	64.3%	71.4%	28.6%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表 14-2-9 は地域の社会活動への参加とのクロス集計結果である。地域の社会活動に参加している者は参加していない者に比べて、スマホとパソコンの所有率がやや高い。

表 14-2-10 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいがいない者ではつきあいがある者に比べて、スマホとパソコンの所有率がやや高い。

前頁の表 14-2-11 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。家計にゆとりがあり全く心配なく暮らしている者ではパソコンとタブレット端末の所有率がやや高い。逆に家計が苦しく非常に心配な者では、スマホ、パソコン、タブレット端末の所有率がやや低い。

表 14-2-12 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費が多い者ではスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率は比較的高い。逆に1ヶ月の生活費が少ない者ではスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率は比較的低い。

表14-2-13 今後の生活の備えとしての現在の貯蓄額をどう思うかとのクロス表

	携帯電 話	スマホ	パソコ ン	タブ レット
十分だと 思う	66 52.8%	60 48.0%	62 49.6%	23 18.4%
少し足り ない	125 41.8%	176 58.9%	157 52.5%	59 19.7%
かなり足 りない	124 42.5%	167 57.2%	117 40.1%	44 15.1%
わからな い	59 43.1%	71 51.8%	59 43.1%	24 17.5%
貯蓄はし ていない	30 49.2%	25 41.0%	10 16.4%	3 4.9%
合計	404 44.2%	499 54.6%	405 44.3%	153 16.7%

表14-2-14 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	携帯電 話	スマホ	パソコ ン	タブ レット
十分まかな えている	34 55.7%	24 39.3%	22 36.1%	9 14.8%
何とかまか なえている	159 48.8%	152 46.6%	125 38.3%	37 11.3%
多少足りな い	111 44.6%	132 53.0%	112 45.0%	46 18.5%
かなり足り ない	77 42.3%	113 62.1%	83 45.6%	33 18.1%
合計	381 46.6%	421 51.5%	342 41.8%	125 15.3%

表 14-2-13 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかによって情報通信機器の所有率は大きな違いはみられなかったが、貯蓄はしていない者ではスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率が顕著に低い。

表 14-2-14 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。意外なことに、スマホ、パソコン、タブレット端末の所有率は公的年金で毎月の生活費を十分まかなえている者でやや低く、かなり足りないと思う者でやや高かった。

次頁の表 14-2-15 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを十分に感じている者ではパソコンとタブレット端末の所有率が比較的高い。これに対して、生きがいをまったく感じていない者ではスマホとパソコンの所有率はやや低い。

表 14-2-16 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。スマホ、パソコン、タブレット端末の所有率はこれまでに人生にかなり満足している者で比較的高く、不満である者でやや低い。

表 14-2-17 は現在の幸福度とのクロス集計表である。幸福度の点数が高い者ではスマホ、パソコン、タブレット端末の所有率は比較的高い。

表14-2-15 生きがいを感じる程度と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
十分に感じる	113	133	132	53
	46.9%	55.2%	54.8%	22.0%
多少は感じる	205	268	215	76
	42.8%	55.9%	44.9%	15.9%
あまり感じない	62	82	49	19
	41.9%	55.4%	33.1%	12.8%
まったく感じない	7	3	2	2
	53.8%	23.1%	15.4%	15.4%
わからない	17	13	7	3
	51.5%	39.4%	21.2%	9.1%
合計	404	499	405	153
	44.2%	54.6%	44.3%	16.7%

表14-2-16 これまでの人生の満足度と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
かなり満足	51	51	58	21
	50.5%	50.5%	57.4%	20.8%
まあまあ満足	251	333	277	102
	42.6%	56.5%	47.0%	17.3%
やや不満	56	62	44	18
	47.5%	52.5%	37.3%	15.3%
大いに不満	14	7	8	2
	63.6%	31.8%	36.4%	9.1%
どちらともいえない	31	46	18	10
	37.3%	55.4%	21.7%	12.0%
合計	403	499	405	153
	44.1%	54.7%	44.4%	16.8%

表14-2-17 現在の幸福度と個人で所有する情報通信機器（複数回答）

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
10点	50	52	50	19
	51.5%	53.6%	51.5%	19.6%
9点	38	48	46	17
	45.2%	57.1%	54.8%	20.2%
8点	116	150	137	55
	42.8%	55.4%	50.6%	20.3%
7点	68	109	85	29
	37.6%	60.2%	47.0%	16.0%
6点	50	59	41	10
	43.1%	50.9%	35.3%	8.6%
5点	67	60	32	18
	52.3%	46.9%	25.0%	14.1%

	携帯電話	スマホ	パソコン	タブレット
4点	9	10	8	2
	47.4%	52.6%	42.1%	10.5%
3点	2	5	3	2
	25.0%	62.5%	37.5%	25.0%
2点	1	2	2	0
	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%
1点	1	2	0	0
	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
0点	2	0	1	1
	100.0%	0.0%	50.0%	50.0%
合計	405	497	405	153
	44.4%	54.5%	44.4%	16.8%

14-3 情報通信機器の操作能力

表14-3-1 情報通信機器の操作能力（複数回答）

	回答数	回答数の割合	回答者の選択率
いずれも操作できない	58	1.5%	6.3%
電話を受信	827	20.9%	90.5%
電話を発信	833	21.1%	91.1%
電子メールを受信	663	16.8%	72.5%
電子メールを送信	634	16.1%	69.4%
インターネットで予約や商品購入	301	7.6%	32.9%
インターネットで情報検索	479	12.1%	52.4%
インターネットで銀行取引	95	2.4%	10.4%
インターネットで株式投資	59	1.5%	6.5%
	3949	100.0%	

回答者の選択率は全回答者数(914)を分母とする選択数の割合

表 14-3-1 は情報通信機器の操作能力を複数回答可で尋ねた結果である。9 割超が電話を送受信でき、7 割がメールの送受信をできると回答した。インターネットで情報検索ができる者は過半を超えていたが、ネットで予約や商品購入ができる者は3分の1だった。ネットで銀行取引ができる者は1割、株式投資ができる者は7%と少なかった。

表14-3-2 性別と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて操作できない	電話受信	電話発信	メール受信	メール送信	ネットで予約や商品購入	ネットで情報検索	ネットで銀行取引	ネットで株式投資	合計
男性	22	406	412	329	309	175	265	68	47	449
	4.9%	90.4%	91.8%	73.3%	68.8%	39.0%	59.0%	15.1%	10.5%	
女性	36	421	421	334	325	126	214	27	12	465
	7.7%	90.5%	90.5%	71.8%	69.9%	27.1%	46.0%	5.8%	2.6%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

%は各行の合計を分母とする各項目の選択数の割合、以下の表はすべて同じ。

表 14-3-2 は性別とのクロス集計結果である。女性では男性に比べて、「ネットで予約や商品購入」、「ネットで情報検索」、「ネットで銀行取引」、「ネットで株式投資」がやや少ない。

次頁の表 14-3-3 は年齢5区分とのクロス集計結果である。70代後半以降では電話の送受信を除く項目で操作できない者が多くなる。

表 14-3-4 は配偶者の有無とのクロス集計結果である。配偶者がいない者は配偶者がいる者に比べて、すべて操作できない者がやや多く、いずれの項目でも操作できる者がやや少ない。

表14-3-3 年齢5区分と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で きない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
60-64	1	173	174	166	164	105	145	37	15	178
	0.6%	97.2%	97.8%	93.3%	92.1%	59.0%	81.5%	20.8%	8.4%	
65-69	5	198	200	178	172	94	148	31	20	211
	2.4%	93.8%	94.8%	84.4%	81.5%	44.5%	70.1%	14.7%	9.5%	
70-74	14	222	224	177	170	65	118	21	18	244
	5.7%	91.0%	91.8%	72.5%	69.7%	26.6%	48.4%	8.6%	7.4%	
75-79	20	143	141	97	90	30	57	5	5	168
	11.9%	85.1%	83.9%	57.7%	53.6%	17.9%	33.9%	3.0%	3.0%	
80-84	18	91	94	45	38	7	11	1	1	113
	15.9%	80.5%	83.2%	39.8%	33.6%	6.2%	9.7%	0.9%	0.9%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-4 配偶者の有無と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で きない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
有配偶	40	679	682	553	531	258	414	78	52	743
	5.4%	91.4%	91.8%	74.4%	71.5%	34.7%	55.7%	10.5%	7.0%	
無配偶	18	148	151	110	103	43	65	17	7	171
	10.5%	86.5%	88.3%	64.3%	60.2%	25.1%	38.0%	9.9%	4.1%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-5 子の有無と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で きない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
あり	53	776	780	624	597	277	450	81	51	856
	6.2%	90.7%	91.1%	72.9%	69.7%	32.4%	52.6%	9.5%	6.0%	
なし	5	51	53	39	37	24	29	14	8	58
	8.6%	87.9%	91.4%	67.2%	63.8%	41.4%	50.0%	24.1%	13.8%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-6 世帯形態と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
一人暮らし	10	93	95	71	69	28	47	12	5	106
	9.4%	87.7%	89.6%	67.0%	65.1%	26.4%	44.3%	11.3%	4.7%	
夫婦のみ	26	425	427	350	335	167	254	55	39	469
	5.5%	90.6%	91.0%	74.6%	71.4%	35.6%	54.2%	11.7%	8.3%	
その他の同 居人あり	22	306	308	239	228	106	177	28	15	336
	6.5%	91.1%	91.7%	71.1%	67.9%	31.5%	52.7%	8.3%	4.5%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-7 服用する処方薬の有無と情報通信機器の操作能力(複数回答)のクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
ある	48	573	576	442	421	184	296	52	36	640
	7.5%	89.5%	90.0%	69.1%	65.8%	28.8%	46.3%	8.1%	5.6%	
ない	10	253	256	220	212	117	183	43	23	273
	3.7%	92.7%	93.8%	80.6%	77.7%	42.9%	67.0%	15.8%	8.4%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

前頁の表 14-3-5 は子の有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の操作能力は子の有無で大きな差はみられなかった。

表 14-3-6 は世帯形態とのクロス集計結果である。「一人暮らし」では「すべて操作できない」がやや多く、メールの送受信やインターネットの活用ができる者がやや少ない。

表 14-3-7 は服用する処方薬の有無とのクロス集計結果である。服用する処方薬がある者はない者に比べて、メールの送受信やインターネットの活用ができる者がやや少ない。

表14-3-8 現在の健康状態と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
よい	3	103	102	91	91	49	70	23	12	107
	2.8%	96.3%	95.3%	85.0%	85.0%	45.8%	65.4%	21.5%	11.2%	
まあよい	14	223	222	185	175	86	139	30	21	243
	5.8%	91.8%	91.4%	76.1%	72.0%	35.4%	57.2%	12.3%	8.6%	
普通	21	349	354	280	266	127	207	31	16	384
	5.5%	90.9%	92.2%	72.9%	69.3%	33.1%	53.9%	8.1%	4.2%	
あまりよく ない	19	131	134	92	88	33	55	10	8	156
	12.2%	84.0%	85.9%	59.0%	56.4%	21.2%	35.3%	6.4%	5.1%	
よくない	1	20	20	14	13	5	8	1	2	22
	4.5%	90.9%	90.9%	63.6%	59.1%	22.7%	36.4%	4.5%	9.1%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-9 居住する住宅と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
持ち家 (ローン無)	53	714	717	574	550	253	417	78	52	791
	6.7%	90.3%	90.6%	72.6%	69.5%	32.0%	52.7%	9.9%	6.6%	
持ち家 (ローン有)	2	62	62	53	50	29	40	10	3	66
	3.0%	93.9%	93.9%	80.3%	75.8%	43.9%	60.6%	15.2%	4.5%	
賃貸住宅	2	37	40	28	25	14	16	5	2	42
	4.8%	88.1%	95.2%	66.7%	59.5%	33.3%	38.1%	11.9%	4.8%	
公営住宅	0	8	8	4	5	4	3	2	2	8
	0.0%	100%	100%	50.0%	62.5%	50.0%	37.5%	25.0%	25.0%	
その他	1	6	6	4	4	1	3	0	0	7
	14.3%	85.7%	85.7%	57.1%	57.1%	14.3%	42.9%	0.0%	0.0%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表 14-3-8 は健康状態とのクロス集計結果である。健康状態がよくない者ではよい者に比べて、メールの送受信やインターネットの活用ができる者がやや少ない。

表 14-3-9 は居住する住宅とのクロス集計結果である。借家（「賃貸住宅」と「公営住宅」）に住む者では持ち家に住む者に比べて、メールの送受信やインターネットの活用ができる者がかなり少ない。

表14-3-10 地域の社会活動への参加の有無と情報通信機器の操作能力(複数回答)

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
参加	14	286	288	230	223	161	161	27	20	304
	4.6%	94.1%	94.7%	75.7%	73.4%	34.2%	53.0%	8.9%	6.6%	
不参加	44	541	545	433	411	197	318	68	39	610
	7.2%	88.7%	89.3%	71.0%	67.4%	32.3%	52.1%	11.1%	6.4%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-11 近隣の人とのつきあいの有無と情報通信機器の操作能力(複数回答)

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
ある	50	707	712	568	544	241	398	70	44	780
	6.4%	90.6%	91.3%	72.8%	69.7%	30.9%	51.0%	9.0%	5.6%	
ない	8	120	121	95	90	60	81	25	15	134
	6.0%	89.6%	90.3%	70.9%	67.2%	44.8%	60.4%	18.7%	11.2%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表 14-3-10 は地域の社会活動への参加の有無とのクロス集計結果である。情報通信機器の操作能力は地域の社会活動への参加の有無で大きな差はなかった。

表 14-3-11 は近隣の人とのつきあいの有無とのクロス集計結果である。近隣の人とのつきあいがいない者はある者に比べて、インターネットの活用ができる者がやや多い。

次頁の表 14-3-12 は現在の経済的な暮らし向きとのクロス集計結果である。家計に心配がある者では心配のない者に比べて、インターネットの活用ができる者がやや少ない。

表 14-3-13 は1ヶ月の生活費とのクロス集計結果である。1ヶ月の生活費が多くなると、いずれの項目でも操作できる者が多くなる傾向がある。逆に1ヶ月の生活費が少なくなると操作できる者が少なくなる傾向がある。特に1ヶ月の生活費が10万円未満ではすべて操作できない者が14%と比較的多い。

表14-3-12 現在の経済的な暮らし向きと情報通信機器の操作能力（複数回答）

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネット 予約商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
家計にゆとり 全く心配ない	5 4.0%	116 93.5%	117 94.4%	91 73.4%	89 71.8%	49 39.5%	75 60.5%	24 19.4%	18 14.5%	124
家計ゆとりな いが心配ない	33 6.6%	449 90.0%	453 90.8%	376 75.4%	358 71.7%	176 35.3%	276 55.3%	49 9.8%	26 5.2%	499
家計にゆとり なく多少心配	18 7.2%	222 89.2%	223 89.6%	174 69.9%	166 66.7%	67 26.9%	117 47.0%	19 7.6%	13 5.2%	249
家計が苦しく 非常に心配	2 5.4%	35 94.6%	35 94.6%	18 48.6%	17 45.9%	7 18.9%	8 21.6%	2 5.4%	1 2.7%	37
その他	0 0.0%	5 100%	5 100%	4 80.0%	4 80.0%	2 40.0%	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	5
合計	58 6.3%	827 90.5%	833 91.1%	663 72.5%	634 69.4%	301 32.9%	479 52.4%	95 10.4%	59 6.5%	914

表14-3-13 1ヶ月の生活費と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
10万円 未満	13 14.4%	76 84.4%	76 84.4%	55 61.1%	53 58.9%	13 14.4%	30 33.3%	5 5.6%	1 1.1%	90
10万円 ~15万円	16 8.6%	163 87.6%	167 89.8%	120 64.5%	115 61.8%	48 25.8%	85 45.7%	15 8.1%	7 3.8%	186
15万円 ~20万円	18 7.5%	211 87.9%	212 88.3%	158 65.8%	153 63.8%	70 29.2%	107 44.6%	19 7.9%	11 4.6%	240
20万円 ~25万円	6 3.0%	187 93.0%	187 93.0%	164 81.6%	154 76.6%	73 36.3%	130 64.7%	22 10.9%	12 6.0%	201
25万円 ~30万円	3 2.9%	101 97.1%	101 97.1%	84 80.8%	80 76.9%	45 43.3%	59 56.7%	13 12.5%	9 8.7%	104
30万円 ~35万円	2 3.7%	52 96.3%	52 96.3%	49 90.7%	48 88.9%	26 48.1%	38 70.4%	10 18.5%	9 16.7%	54
35万円 ~40万円	0 0.0%	23 92.0%	24 96.0%	22 88.0%	20 80.0%	17 68.0%	20 80.0%	7 28.0%	7 28.0%	25
40万円 以上	0 0.0%	14 100%	14 100%	11 78.6%	11 78.6%	9 64.3%	10 71.4%	4 28.6%	3 21.4%	14
合計	58 6.3%	827 90.5%	833 91.1%	663 72.5%	634 69.4%	301 32.9%	479 52.4%	95 10.4%	59 6.5%	914

表14-3-14 公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
十分まかな えている	7	52	53	34	32	13	28	6	5	61
	11.5%	85.2%	86.9%	55.7%	52.5%	21.3%	45.9%	9.8%	8.2%	
何とかまか なえている	29	283	285	213	202	74	139	16	11	326
	8.9%	86.8%	87.4%	65.3%	62.0%	22.7%	42.6%	4.9%	3.4%	
多少足りな い	15	227	230	188	179	82	132	26	19	249
	6.0%	91.2%	92.4%	75.5%	71.9%	32.9%	53.0%	10.4%	7.6%	
かなり足り ない	7	173	172	142	137	72	101	23	12	182
	3.8%	95.1%	94.5%	78.0%	75.3%	39.6%	55.5%	12.6%	6.6%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-15 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてどう思うかとのクロス表

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
十分だと 思う	5	115	116	90	88	39	66	19	16	125
	4.0%	92.0%	92.8%	72.0%	70.4%	31.2%	52.8%	15.2%	12.8%	
少し足り ない	17	269	274	231	225	107	176	36	20	299
	5.7%	90.0%	91.6%	77.3%	75.3%	35.8%	58.9%	12.0%	6.7%	
かなり足 りない	17	269	270	214	199	101	144	24	16	292
	5.8%	92.1%	92.5%	73.3%	68.2%	34.6%	49.3%	8.2%	5.5%	
わからな い	12	121	120	100	96	43	79	13	6	137
	8.8%	88.3%	87.6%	73.0%	70.1%	31.4%	57.7%	9.5%	4.4%	
貯蓄はし ていない	7	53	53	28	26	11	14	3	1	61
	11.5%	86.9%	86.9%	45.9%	42.6%	18.0%	23.0%	4.9%	1.6%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表 14-3-14 は公的年金で毎月の生活費をまかなえている程度とのクロス集計結果である。公的年金で毎月の生活費をまかなえている者ではまかなえていない者に比べて、いずれの項目でも操作できる者がやや少ない。

表 14-3-15 は現在の貯蓄額の自己評価とのクロス集計結果である。貯蓄をしていない者で情報通信機器の操作ができる者が比較的少ない。

表 14-3-16 は現在の最大の収入源とのクロス集計結果である。仕事収入を最大の収入源とする者ではいずれの項目でも操作ができる者がかなり多い。

表14-3-16 現在の最大の収入源と情報通信機器の操作能力のクロス表

	すべて 操作で きない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
仕事収入	0	214	215	190	181	113	162	42	20	222
	0.0%	96.4%	96.8%	85.6%	81.5%	50.9%	73.0%	18.9%	9.0%	
公的年金	57	553	557	433	414	170	291	47	34	630
	9.0%	87.8%	88.4%	68.7%	65.7%	27.0%	46.2%	7.5%	5.4%	
家賃地代	1	34	34	23	23	12	17	4	3	35
	2.9%	97.1%	97.1%	65.7%	65.7%	34.3%	48.6%	11.4%	8.6%	
株式債券	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
家族親族 の援助	0	9	9	6	6	4	4	0	0	9
	0.0%	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	44.4%	44.4%	0.0%	0.0%	
生活扶助 費	0	3	3	1	1	0	1	0	1	3
	0.0%	100.0%	100.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	
その他	0	4	5	4	3	1	1	1	0	5
	0.0%	80.0%	100.0%	80.0%	60.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	
収入はな い	0	9	9	6	6	1	3	1	1	9
	0.0%	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	11.1%	33.3%	11.1%	11.1%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-17 生きがいを感じる程度と情報通信機器の操作能力（複数回答）のクロス表

	すべて 操作で きない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
十分に感じ ている	12	226	228	189	180	88	145	33	21	241
	5.0%	93.8%	94.6%	78.4%	74.7%	36.5%	60.2%	13.7%	8.7%	
多少は感じ ている	26	434	437	356	343	161	255	52	31	479
	5.4%	90.6%	91.2%	74.3%	71.6%	33.6%	53.2%	10.9%	6.5%	
あまり感じ ていない	13	130	132	96	91	41	65	9	7	148
	8.8%	87.8%	89.2%	64.9%	61.5%	27.7%	43.9%	6.1%	4.7%	
まったく感 じていない	3	10	10	4	4	3	2	0	0	13
	23.1%	76.9%	76.9%	30.8%	30.8%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	
わからない	4	27	26	18	16	8	12	1	0	33
	12.1%	81.8%	78.8%	54.5%	48.5%	24.2%	36.4%	3.0%	0.0%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

表14-3-18 これまでの人生の満足度と情報通信機器の操作能力（複数回答）

	すべて 操作で できない	電話受 信	電話発 信	メール 受信	メール 送信	ネットで 予約や商 品購入	ネット で情報 検索	ネット で銀行 取引	ネット で株式 投資	合計
かなり満足	5	94	94	78	75	37	61	14	6	101
	5.0%	93.1%	93.1%	77.2%	74.3%	36.6%	60.4%	13.9%	5.9%	
まあまあ満 足	38	531	538	428	411	194	316	66	46	589
	6.5%	90.2%	91.3%	72.7%	69.8%	32.9%	53.7%	11.2%	7.8%	
やや不満	7	108	107	86	82	37	54	11	4	118
	5.9%	91.5%	90.7%	72.9%	69.5%	31.4%	45.8%	9.3%	3.4%	
大いに不満	1	21	21	14	13	8	10	1	1	22
	4.5%	95.5%	95.5%	63.6%	59.1%	36.4%	45.5%	4.5%	4.5%	
どちらとも いえない	7	72	72	57	53	25	38	3	2	83
	8.4%	86.7%	86.7%	68.7%	63.9%	30.1%	45.8%	3.6%	2.4%	
合計	58	827	833	663	634	301	479	95	59	914
	6.3%	90.5%	91.1%	72.5%	69.4%	32.9%	52.4%	10.4%	6.5%	

前頁の表 14-3-17 は生きがいを感じる程度とのクロス集計結果である。普段の生活や仕事に生きがいを感じていない者では感じている者に比べて、いずれの項目でも操作ができる者が少ない。

表 14-3-18 はこれまでの人生の満足度とのクロス集計結果である。これまでの人生に「大いに不満」ではメールの送受信ができる者や予約や商品購入を除いてインターネットの活用ができる者がやや少ない。

★すべての方にお尋ねします。

問1. あなたは、ご自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのようにお考えですか。下の中から1つ選んでください。配偶者(ないしパートナー)と同居の方は、お二人の状況をお答えください。(○は1つ) なお以下では配偶者(ないしパートナー)を単に配偶者と表記します。

1. 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
2. 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている
3. 家計にゆとりがなく、多少心配である
4. 家計が苦しく、非常に心配である
5. その他(具体的に)

問2. ご自分の経済的な暮らし向きは、1年前と比べてどのように変わったとお考えですか。大体の感想で結構です。下の中から1つ選んでください。配偶者と同居の方は、お二人の状況についてお答えください。(○は1つ)

1. 良くなった
2. どちらかといえば良くなった
3. どちらかといえば悪くなった
4. 悪くなった
5. 変わらない

問3. ご自分の暮らし向きに、新型コロナウイルス感染拡大の影響はありますか。配偶者と同居の方は、お二人の状況についてお答えください。(○は1つ)

1. ある
2. ない
3. わからない

問4. コロナウイルスの問題は、ご自分の暮らしのどのような側面に影響があると思いますか。下の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。配偶者と同居の方は、お二人の状況についてお答えください。(○はいくつでも)

1. 収入面
2. 食生活
3. 外出行動
4. 人との接触・交流
5. 健康面
6. 精神面(気持ちのゆとりなど)
7. その他(具体的に)
8. 特に影響はない

問5. 日常の支出の中で、あなたが負担が大きいと感じているものはありますか。下の中から、あてはまるものに3つ○を付けてください。(○は3つ)

1. 食費、水道光熱費
2. 通信・放送受信費(携帯電話、インターネット等を含む)
3. 住宅の増改築、設備や建物の修繕の費用
4. 交通費、自動車等関係の費用
5. 医療費
6. 健康維持のための費用
7. 交際費
8. 子や孫のための支出
9. 趣味やレジャーの費用
10. 生命保険や損害保険などの保険料
11. 家具・家電の購入費
12. その他(具体的に)
13. 特にない

問6. あなたの1ヶ月の生活費は平均でどれくらいでしょうか。大体の金額で結構です。下の中から1つ選んでください。配偶者と同居の方は、お二人の生活費をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 10万円未満 | 2. 10万円～15万円未満 | 3. 15万円～20万円未満 |
| 4. 20万円～25万円未満 | 5. 25万円～30万円未満 | 6. 30万円～35万円未満 |
| 7. 35万円～40万円未満 | 8. 40万円以上 | |

問7. 現在、あなたの最大の収入源は何でしょうか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|---------------|------------------|
| 1. 仕事による収入 | 2. 公的年金 | 3. 家賃・地代などの不動産収入 |
| 4. 株式・債券の配当・利子・売却益 | 5. 家族・親族からの援助 | |
| 6. 生活扶助費 | 7. その他() | 8. 収入はない |

問8. あなた(配偶者と同居している場合はお二人)が貯蓄をしている場合、最も大きな目的は何でしょうか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 普段の生活を維持するため | 2. 旅行や大きな買い物をするため |
| 3. より豊かな生活や趣味にあった暮らしを送るため | |
| 4. 病気や介護が必要になったときなどに備えるため | |
| 5. 子や家族に財産を残すため | 6. その他(具体的に) |
| 7. わからない | 8. 貯蓄はしていない |

問9. 現在の貯蓄額を今後の生活の備えとしてみた場合、どのように思いますか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|--------------|---------------|
| 1. 十分だと思う | 2. 少し足りないと思う | 3. かなり足りないと思う |
| 4. わからない | 5. 貯蓄はしていない | |

問10. あなたは、今後の生活の備えとして、貯蓄はどれくらい必要だと思いますか。大体的見積もりで結構です。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|--------------------|--------------------|----------|
| 1. 100万円～500万円未満 | 2. 500万円～1000万円未満 | |
| 3. 1000万円～1500万円未満 | 4. 1500万円～2000万円未満 | |
| 5. 2000万円～3000万円未満 | 6. 3000万円～4000万円未満 | |
| 7. 4000万円～5000万円未満 | 8. 5000万円以上 | 9. わからない |

問11. あなたには、満18歳以上で学校を卒業した子や孫はいますか。

- | | |
|-------|-----------------------|
| 1. いる | 2. いない→次頁の問14へお進みください |
|-------|-----------------------|

問12. 前問で「いる」と回答した方にお尋ねします。あなたは、その子や孫の生活費をまかなっていますか。一部でもまかなっている場合には「まかなっている」とお答えください。

1. まかなっている
2. まかなっていない

問13. あなたが、満18歳以上で学校を卒業した子や孫の生活費をまかなっている主要な理由は何でしょうか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 進学し就学中で収入がない
2. 就学中ではないが無職で収入がない
3. 働いているが低収入で自活できない
4. 仕事ができない状態にある
5. その他(具体的に)

★すべての方にお尋ねします。

問14. 現在(部分的な受給を含めて)公的年金(基礎年金・厚生年金・共済年金)を受給していますか。

1. 受給している
2. 受給していない→次頁の問18へ

★問15から問17は、公的年金の受給者の方への質問です。公的年金の受給者でない方は次頁の問18にお進みください。

問15. 平均的に考えて毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえていますか。大体的見積もりで結構です。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 十分まかなえている
2. 何とかまかなえている
3. 多少足りない
4. かなり足りない

問16. 前問で「多少足りない」、「かなり足りない」と答えた方は、現在どのような収入源や対応策で不足を補っているかをお答えください。「十分まかなえている」、「何とかまかなえている」と答えた方は、もし公的年金で生活費をまかなえない状況が起こった場合に、どのような収入源や対応策で不足を補うことになるかをお答えください。回答は下の中から、あてはまるものにすべて○を付けてください。

1. 就労収入
2. 生活費の節約
3. 預貯金や証券など金融資産の取り崩し
4. 子からの援助
5. 企業年金・個人年金
6. 生活扶助費
7. 家賃・地代などの不動産収入
8. その他(具体的に)

問17. 上記の中で「最大」の収入源・対応策はどれでしょうか。1つ選んでください。(○は1つ)

1. 就労収入
2. 生活費の節約
3. 預貯金・証券など金融資産の取り崩し
4. 子からの援助
5. 企業年金・個人年金
6. 生活扶助費
7. 家賃・地代などの不動産収入
8. その他(具体的に)

★すべての方にお尋ねします。

問18. あなたは自分が要介護状態になったことを考えたことはありますか。

1. ある 2. ない 3. すでに要介護状態である

問19. あなたはこれまでに親や配偶者などの介護保険利用の世話(認定申請や介護サービスの申し込みなど)をしたことがありますか。

1. 過去にある 2. 現在している 3. 過去にもあり現在もしている 4. ない

問20. 介護サービスを利用した場合に介護保険から一定の給付があることをご存知ですか。

1. 大体は知っている 2. 少しは知っている 3. まったく知らない

問21. 介護保険の給付は要介護度に応じて月額に支給限度額があることをご存知ですか。

1. 大体は知っている 2. 少しは知っている 3. まったく知らない

問22. 自分が要介護状態になった場合、どのような介護形態を希望しますか。下の中から1つ選んでください。すでに要介護状態の方は今後の希望をお答えください。(○は1つ)

1. 最後まで在宅介護 2. 最初は在宅介護だが必要なら施設介護
3. 最初から施設介護 4. その他(具体的に)
5. わからない

◎2018年の厚生労働省の調査によると、訪問介護を利用する場合、月平均の自己負担の費用は7000円～2万9000円です。デイサービスの月平均の自己負担額は9000円～3万5000円、ショートステイの月平均の自己負担額は9000円～4万1000円です。施設に入居すると、特別養護老人ホームでは月平均の介護費用は2万8000円～10万8000円、食費や居住費、洗濯代は別料金です。以上は利用者が支払った自己負担額の平均値ですが、これを大体の目安として以下の質問にお答えください。

問23. 自分が要介護状態になった場合、自己負担の介護費用は、何でまかなうことになりそうですか。以下の項目から、あてはまるものをいくつでも選んでください。すでに要介護状態の方は現在の状況についてお答えください。(○はいくつでも)

1. 公的年金 2. 預貯金・証券など金融資産の取り崩し 3. 子からの援助
4. 家賃・地代などの不動産収入 5. 生活扶助費
6. 私的な介護保険 7. その他(具体的に) 8. わからない

問24. 自分が要介護状態になった場合、自己負担の介護費用は、上記の収入源でどの程度まかなえそうだと思いますか。大体的見通しで結構です。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 大体まかなえるだろう
2. 何とかまかなえるだろう
3. 多少足りないだろう
4. かなり足りないだろう
5. わからない

問25. もし自己負担の介護費用が不足した場合、どのような対策が考えられますか。大体的見通しで結構です。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 子に頼る
2. 子以外の家族・親族に頼る
3. 公的な援助に頼る
4. その他(具体的に)
5. わからない

問26. 自分が要介護状態になった場合、ケアマネージャーと相談し、介護サービスの利用計画(ケアプラン)を作成する人は主として誰になりそうですか。下の中から、あてはまるものを1つ選んでください。すでに介護サービスを利用されている方は、現在の状況についてお答えください。(○は1つ)

1. 自分自身
2. 配偶者
3. 子
4. その他の家族・親族
5. 家族・親族以外の人
6. 介護サービスは利用しない
7. わからない

問27. 自分が要介護状態になった場合に、日々の介護サービスの利用を世話する人は主として誰になりそうですか。下の中から1つ選んでください。すでに介護サービスを利用されている方は、現在の状況についてお答えください。(○は1つ)

1. 自分自身
2. 配偶者
3. 子
4. その他の家族・親族
5. 家族・親族以外の人
6. 介護サービスは利用しない
7. わからない

★すべての方にお尋ねします。

問28. 現在、あなたは「収入を伴う仕事」をしていますか。「仕事」には家業の手伝いや内職も含まれます。一時的に休職・休業している方は「仕事をしている」を選んでください。

1. 仕事をしている
2. 仕事をしていない→7頁の間38へ

★問29から問37は、前問で現在、「収入を伴う仕事をしている」と回答した方にお尋ねします。「収入を伴う仕事をしていない」と回答した方は7頁の間38へお進みください。

問29. その仕事の内容はどれにあたりますか。下の中から1つ○を付けてください。

1. 会社、団体などに雇われている被雇用者
2. 会社、団体などの役員
3. 商店、工場、農林漁業などの自営業主や自由業
4. 自営業の家族従業者
5. シルバー人材センターの仕事
6. 家庭で行う内職
7. 人から頼まれてその都度行う仕事
8. その他(具体的に)

問30. 被雇用者(前問で1を選択)の方は雇用形態をお答えください。(○は1つ) 被雇用者以外の方は次の問31にお進みください。

1. 常勤の被雇用者 2. 契約・嘱託・派遣・臨時 3. パート・アルバイト
4. その他(具体的に)

問31. あなたが仕事をしている理由は何でしょうか。下の中から、あてはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

1. 生活費の主要部分をまかなう 2. 生活費の足しにする 3. 生活水準を引き上げる
4. 将来に備え貯蓄を増やす 5. 小遣いを稼ぐ 6. 健康によい
7. 生きがいを感じる 8. 社会とのつながりを得る 9. 人から頼まれている
10. 時間に余裕がある 11. 何もしないと退屈 12. その他(具体的に)

問32. あなたが仕事をしている「最大の理由」は何でしょうか。下の中から、あてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)

1. 生活費の主要部分をまかなう 2. 生活費の足しにする 3. 生活水準を引き上げる
4. 将来に備え貯蓄を増やす 5. 小遣いを稼ぐ 6. 健康によい
7. 生きがいを感じる 8. 社会とのつながりを得る 9. 人から頼まれている
10. 時間に余裕がある 11. 何もしないと退屈 12. その他(具体的に)

問33. あなたは何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか。大体の予定で結構です。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 65歳くらいまで 2. 70歳くらいまで 3. 75歳くらいまで
4. 80歳くらいまで 5. 働けるうちはいつまでも 6. わからない

問34. 現在、就業による収入は平均で1か月にどれくらいですか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 5万円未満 2. 5万円～10万円未満 3. 10万円～15万円未満
4. 15万円～20万円未満 5. 20万円～25万円未満 6. 25万円～30万円未満
7. 30万円～35万円未満 8. 35万円～40万円未満 9. 40万円以上

問35. 将来、就業による収入が得られなくなった場合、毎月の生活費を公的年金でどの程度まかなえると思いますか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 十分まかなえると思う→8頁の間41へ 2. 何とかまかなえると思う→8頁の間41へ
3. 多少足りないと思う 4. かなり足りないと思う 5. わからない→8頁の間41へ

問36. 前問で「多少足りないと思う」、「かなり足りないと思う」と答えた方にお尋ねします。公的年金では足りない部分を補う主要な方法は何になりますか。下の中から、あてはまるものにいくつでも○を付けてください。前問で「十分まかなえる」、「何とかまかなえる」、「わからない」と答えた方は次頁の間41へお進みください。

1. 生活費の節約
2. 預貯金・証券など金融資産の取り崩し
3. 子からの援助
4. 家賃・地代などの不動産収入
5. 企業年金・個人年金
6. 生活扶助費
7. その他（具体的に)

問37. 公的年金では足りない部分を補う「最も主要な方法」は何になりそうですか。下の中から、1つ選んでください。(○は1つ)

1. 生活費の節約
2. 預貯金・証券など金融資産の取り崩し
3. 子からの援助
4. 家賃・地代などの不動産収入
5. 企業年金・個人年金
6. 生活扶助費
7. その他（具体的に)

★問38から問40は現在「収入を伴う仕事をしていない」方にお尋ねします。現在「収入を伴う仕事をしている」方は次頁の間41にお進みください。

問38. 現在、あなたが仕事をしていない理由は何ですか。下の中から、あてはまるものをいくつでも選んでください。(○はいくつでも)

1. 希望の条件に合う仕事がない
2. 年齢制限で仕事がない
3. 体力的に働くのはきつい
4. 健康状態がよくない
5. 収入を増やしたいと思わない
6. 仕事以外の活動に時間を使いたい
7. 家庭内での（介護以外の）仕事がある
8. 要介護の家族がいる
9. 特に理由はない
10. その他（具体的に)

問39. 現在、あなたが仕事をしていない「最大の理由」は何ですか。下の中から、あてはまるものを1つ選んでください。(○は1つ)

1. 希望の条件に合う仕事がない
2. 年齢制限で仕事がない
3. 体力的に働くのはきつい
4. 健康状態がよくない
5. 収入を増やしたいと思わない
6. 仕事以外に時間を使いたい
7. 家庭での（介護以外の）仕事がある
8. 要介護の家族がいる
9. 特に理由はない
10. その他（具体的に)

問40. 今後、機会があれば、あなたは収入を伴う仕事をしたいと思いませんか。(○は1つ)

1. したいと思う
2. したいと思わない
3. わからない

★以下はすべての方にお尋ねします。

問41. 高齢期の生活に備えて、あなたが若い頃から実際に準備していたことはありますか。下の中で、あてはまるものをいくつか選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 健康の維持・増進の心がけ | 2. 老後も楽しめる趣味をもつ |
| 3. 老後の生活のための預貯金 | 4. 高齢期も生かせる専門的な技術・技能の取得 |
| 5. 積極的な投資や資産運用 | 6. 困ったときに頼れる友人・知人をもつ |
| 7. 公的年金の受給額の確認 | 8. 老後の生活設計の立案 |
| 9. 円満な家庭・家族関係を築く | 10. 近隣・地域の人々と良好な関係を築く |

問42. 高齢期の生活に備えて、若い頃からやっておいた方がよいと、今あなたが思うことは何でしょうか。下の中で、あてはまるものをいくつか選んでください。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. 健康の維持・増進の心がけ | 2. 老後も楽しめる趣味をもつ |
| 3. 老後の生活のための預貯金 | 4. 高齢期も生かせる専門的な技術・技能の取得 |
| 5. 積極的な投資や資産運用 | 6. 困ったときに頼れる友人・知人をもつ |
| 7. 公的年金の受給額の確認 | 8. 老後の生活設計の立案 |
| 9. 円満な家庭・家族関係を築く | 10. 近隣・地域の人々と良好な関係を築く |

問43. あなたが現在に至るまでに最も長く経験・従事した仕事はどのような仕事ですか。下の中から1つ選んでください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------|-----------------------|----------------|
| 1. 農林漁業（家族従事者を含む） | 2. 自営業（商工サービス業・自由業など） | |
| 3. 常勤の被雇用者 | 4. 契約・派遣・臨時・パートの仕事 | |
| 5. 会社または団体の役員 | 6. 内職 | 7. 専業主婦・主夫 |
| 8. その他（具体的に | ） | 9. 仕事に就いたことはない |

問44. 現在、あなたは地域での社会的な活動に参加していますか。例：自治会、老人クラブ、高齢者サロンの活動、児童の登校や独居高齢者の見守り活動など。

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

問45. あなたは近隣の人とのつきあいはありますか。

- | | |
|-------|---------------|
| 1. ある | 2. ない→次頁の問47へ |
|-------|---------------|

問46. 前問で「ある」と回答した方にお尋ねします。近隣の人とのつきあいはどの程度のものでしょうか。下の中からあてはまるものに1つ○を付けてください。前問で「ない」と答えた方は次頁の問47に進んでください。

1. 互いに家を訪問しあう人がいる
2. こちらから訪問する人、またはこちらを訪ねてくれる人がいる
3. 行き来きはないが、会ったときに話をする人がいる
4. あいさつを交わす人がいるだけである

(再掲★以下はすべての方にお尋ねします。)

問47. 下の枠内で、あなたの性別に○を付け、生年月・年齢を記入してください。結婚している方は配偶者についても、西暦の生年月・年齢を記入してください。

あなたの性別	あなた生年月・年齢	配偶者の生年月・年齢
1. 男性 2. 女性	昭和 年 月・満 歳	昭和 年 月・満 歳

問48. あなたには現在、子がいますか。成人した子や別居の子も含めてお答えください。子がいる場合には人数をカッコ内に記入してください。

1. いる () 人 2. いない

問49. 現在、あなたが居住する世帯は、次のどれにあたりますか。

1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. その他の同居人あり

*「その他の同居人あり」の場合、その同居人について、次のうちからあてはまるものにすべて○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 親・義理の親 2. 子 3. 子の配偶者 4. 孫 5. その他の親族
6. 親族以外の者

問50. あなた自身の要介護認定の有無をお答えください。「要介護認定あり」の方は要介護度の番号に○を付けてください。

1. なし 2. あり (要介護度：要支援 1 2 要介護 1 2 3 4 5)

問51. 現在、医師から処方を受けて服用している薬がありますか。

1. はい 2. いいえ→次頁の問53へ

問52. 前問で「はい」と答えた方にお尋ねします。それはどのような薬ですか。いくつでも結構です。下記からあてはまるものにすべて○を付けてください。下記以外に医師の処方薬がありましたらその他の欄にお書きください。前問で「いいえ」と答えた方は次頁の問53にお進みください。

1. 血圧を下げる薬 (降圧薬) 2. 心臓病や不整脈の薬
3. インスリン注射または血糖を下げる薬
4. コレステロールや中性脂肪を下げる薬
5. 尿酸値を下げる薬 (尿酸降下薬) 6. 貧血を改善する薬
7. 骨粗しょう症の薬 8. 脚・ひざ・腰の痛みの治療薬
9. 肺や気管支の障害 (慢性閉塞性肺疾患)の薬
10. その他 () 11. その他 ()
12. その他 () 13. その他 ()

問53. あなたの健康状態をお尋ねします。最も近いものに1つ○を付けてください。

1. よい
2. まあよい
3. 普通(よくもわるくもない)
4. あまりよくない
5. よくない (わるい)

問54. 現在の住宅はどれにあたりますか。主要な住居に1つ○を付けてください。

1. 持ち家 (住宅ローン返済なし)
2. 持ち家 (住宅ローン返済中)
3. 賃貸住宅 (社宅・公務員住宅を含む)
4. 公営住宅
5. その他 ()

問55. あなたは現在、普段の生活や仕事にどの程度、生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか。大まかな感想で結構です。下の中から1つ○を付けてください。

1. 十分に感じている
2. 多少は感じている
3. あまり感じていない
4. まったく感じていない
5. わからない

問56. あなたは現在、どの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると何点ぐらいになると思いますか。下の中から1つ○を付けてください。

- (1) 10点
- (2) 9点
- (3) 8点
- (4) 7点
- (5) 6点
- (6) 5点
- (7) 4点
- (8) 3点
- (9) 2点
- (10) 1点
- (11) 0点

問57. これまでの人生を振り返ってみて、あなたは全体的にはどの程度満足していますか。大まかな感想で結構です。下の中から1つ○を付けてください。

1. かなり満足している
2. まあまあ満足している
3. やや不満である
4. 大いに不満である
5. どちらともいえない

問58. 携帯電話、スマートフォン、パソコン等の所有状況をお尋ねします。下の中から、個人でご所有のものにすべて○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 所有していない
2. 携帯電話
3. スマートフォン
4. パソコン
5. タブレット端末

問59. 携帯電話、スマートフォン、パソコンの操作能力をお尋ねします。あなたがご自身で操作できるものにすべて○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 所有していないため、いずれも操作できない
2. 電話を受信
3. 電話を発信
4. 電子メールを受信
5. 電子メールを送信
6. インターネットで予約や商品購入
7. インターネットで情報検索
8. インターネットで銀行取引
9. インターネットで株式投資

アンケートは以上で終わりです。記入もれがないかをご確認ください。長時間のご協力、誠に有り難うございました。

調査のメンバー

(「社会環境調査Ⅰ」・「社会環境調査Ⅱ」の授業と集計作業の参加者)

学生

染井大輔	広島大学大学院社会科学研究科 2年
施 展	広島大学大学院人間社会科学研究科 1年
劉 鈺	広島大学大学院人間社会科学研究科 1年
高 瑩	広島大学大学院人間社会科学研究科 研究生
張 訳月	広島大学大学院人間社会科学研究科 研究生
下山沙織	広島大学総合科学部総合科学科 3年
田原瑞稀	広島大学総合科学部総合科学科 3年
中野有晟	広島大学総合科学部総合科学科 3年
出張雄都	広島大学総合科学部総合科学科 3年
高橋琴音	広島大学総合科学部総合科学科 3年
赤木瑞宜	広島大学総合科学部総合科学科 3年
福本理乃	広島大学総合科学部総合科学科 3年
長野 葵	広島大学総合科学部総合科学科 3年

指導教員・報告書作成

材木和雄 広島大学大学院人間社会科学研究科教授・専門社会調査士

発行日	2021年4月30日
発行者	広島大学総合科学部社会探究プログラム
作成者	材木和雄
住所	739-0751 東広島市鏡山1-7-1 広島大学総合科学部